
名探偵コナン 非科学的ファイル・星の力

寿司デリバリー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

名探偵コナン 非科学的ファイル・星の力

【Nコード】

N9394V

【作者名】

寿司デリバリ

【あらすじ】

工藤新一、彼は数々の難事件を解決させた高校生探偵だ。黒の組織の作った毒薬のせいで体が幼児化し、今は江戸川コナンとして黒の組織を追いながら数々の難事件を解決している。そんな彼は超能力や魔法、ヒーロー物なんて全く信じない。

しかし彼はまだ知らない。これから推理力では決して解けない非科学的な事件が次々と起こるとは…。残酷な描写ありと書いていますが、これは事件の内容にもよるため全くそういうシーンが無い事もあります。ある場合にはそれをお知らせいたします。なお、この

作品はここ最近のアニメの事件の話をしています。ネタバレになりますのでご注意ください。

ファイル1-1（前書き）

この小説は設定は僕の分かる限りで書いていますので不足部分が出るかもしれませんがそれをご理解した上でお読みください。また名探偵コナンですので、残酷な描写があるかもしれませんがご了承ください。なお今回は残酷な描写はありません。

ファイル1-1

ナレーション（以後・ナ）：この世界は名探偵コナンの世界。
と言っても普通の世界だ。

工藤新一、彼は有名な高校生探偵だったが「ジェットコースター殺人事件」を解決させた後黒の組織の謎の取引現場を目撃した際、黒の組織にやられ、アポトキシン4869を飲まされ体が幼児化してしまった。

それ以降は「江戸川コナン」として幼なじみの毛利蘭の家に居候となり、黒の組織の手掛かりを掴みながら、難事件を数々と解決させていった。
そして今…。

コナン（以後・コ）：行つて来ます！

ナ：彼の名は江戸川コナン、本当の名前は工藤新一だ。彼は今、帝丹小学校に通っている。もうすぐ不思議な展開が待っているとも知らず…。

ファイル1-1（後書き）

次回は分かる限りで、ccさくらの世界の方を書く予定です。

名探偵コナンにじファン検定 第1問

アニメからの問題 9月25日現在のエンディング

「 Best Friend 。の中に入るのは？

Are「I Your「F This 「G「

「のなかがキーワードです。正解と思った答えのキーワードをメモしておいて下さい。

ファイル1 - 2 (前書き)

今回は出来る限りでcccさくらの世界を書いていきますが何度も言っているように分かる限りのためあいまいな設定になっているかもしれません。

ファイル1 - 2

「オープニング」 「Misty Mystery」
S o u g b y G A R N E T C R O W

ナ：ここは友枝町の私立友枝小学校。ここにもそんな出来事に直面する人物がいる。（何でオープニングが流れたかは聞くなよ。）

？：おはよー。

柳沢 奈緒子（以後・奈）：おはよー、さくらちゃん。

？↓木之本 さくら（以後・さ）：ねえ、今日の新聞見た？

佐々木 利佳（以後・利）：見た、見た。とある誘拐犯が逮捕された事件でしょ。まさか、阿笠博士が拉致・監禁されるなんてねー。

ナ：今は、2011年7月上旬、コナン達が「緊急事態252」の事件を解決させた頃である。逮捕された誘拐犯はビルにいた男二人である。

奈：そう言えばこの事件、少年探偵団がいたんだってね。

利：そうそう、偶然遊びに入ったら誘拐犯と出くわしたそうだから、それで捕まえられたんだから驚きだよねー。

山崎 貴史（以後・貴）：誘拐って言うのはね。

三原 千春（以後・千）：はいはい、嘘はいいから。

さ：ほえ？

ナ：こんなたわいもない会話を続けていられるのももうすぐ終わりだとも知らないでさくらは友達と会話をしていた…。その頃また別の場所で…。

？：ふふふ…。江戸川コナンと木之本さくら、面白いな…。今まで見てきた世界の中で一番素朴で面白い…。重ね合わせるには打ってつけたな…。よし、じゃあまずは…。

ファイル1 - 2（後書き）

イメージソングは

オープニング、エンディング共に現在アニメで放送されている曲と
言う事にさせていただきます。（コナンの曲です。）あと、登場人
物の詳細は書くのが大変なため、自分でお確かめください。それぞ
れのホームページにアクセスすればすぐに分かりますと思います。

ファイル 1 - 3 (前書き)

この先の小説は名探偵コナンのストーリー（原作・アニメ共に）が元になっています。

そのため、ネタバレになりかねませんのでちゃんと原作の漫画やアニメで真相を確認したい人はこの小説を読むのは避けてください。

ファイル1 - 3

ナ：再びコナンサイド帝丹小学校

コ：おはよう。

吉田 歩美（以後・歩）：おはよう、コナン君。この間は大変だったね。

コ：ああ、そうだな…。

円谷 光彦（以後・光）：ええ、コナン君と灰原さんが捕まった時はどうなるかと思いましたから。

小嶋 元太（以後・元）：俺たちが頑張って奴らを捕まえたからよかったけどな！

灰原 哀（以後・哀）：まあ、あの時は博士を誘拐するほどバカだったからよかったかもね。

ナ：「緊急事態252」ではコナンと灰原は捕まってしまっていた。しかし、捕まりながらもコナンと灰原は他の3人に東京消防庁の通話コード（現場待機、住所不定、寝たきり老人など）を伝え、犯人たちを誤誘導しながら救出に至った。阿笠博士が捕まっていた事は全員予想外だったが。

光：沖矢昴さんが助けに来てくれた事もびっくりしましたね。

哀…。

ナ：この事件の最後には現在新一宅に住んでいる、沖矢昂がコナンのメガネを使つて事件のあつた廃ビルにやつて来ている。灰原はこの人物を恐れているがコナンはホームズ好きだからといい人と思っている。（真相は不明）

コ：まあ、これからああ言う事にならない様につかつに知らない建物には入らないようにしないとな。

光：そうですね。今度からは気をつけましょう。

元：でも、もしこの間行つてなかったら博士どうなっていたか分かんなかったぜ。

コ：それを言うな！

元：え、何で？

小林先生（以後・小）：はい、みんな席についてー。

生徒A：起立！気を付け！礼！

生徒全員：おはようございます！

ナ：1年B組の教室にいつものように朝の号令がかかった。

ファイル1-3（後書き）

次回再びccさくらサイドです。あとどっちかって言うところの小説は名探偵コナンが中心です。

なおここまでの話に出てる「緊急事態252」は

原作：72巻File2～4

アニメ：622、623話（まだDVDは未登場です。）

に登場しています。気になる人はチェックして下さい。

ファイル1 - 4 (前書き)

少ない可能性でドラマスペシャル、連ドラの話も出てくるかもしれませんが。その場合もネタバレになりかねませんのでご注意ください。つて早速出て来ます。

ファイル1 - 4

ナ：再びccさくらサイド友枝小学校

寺田先生（以後・寺）：よし、みんな席に着け！

生徒A：起立、気を付け、礼！

生徒全員：おはようございます！

ナ：こちらでも同じように朝の号令が掛かった。その頃再び別の空間で…。

？：くつくつく…。よしじゃあまずは…。

ナ：しばらくして授業中の事。

さ：うん…。

大道寺 知世（以後・知）：どうしました、さくらちゃん？

さ：うん…。なんだか少しきつくなってきた…。でも大丈夫だよ…。

知：そうですか、あんまり無理しないで下さいね…。

さ：うん…。

李 小狼（以後・小狼）：…。

ナ：小狼は心配そうにさくらを見ていた。不安になりながら…。その不安が的中する事になるとも知らず…。

？：あの子だけって言うのもつまらないな。ほかの人にもしていいかな…。でも、もうしばらくしてからにするか…。江戸川コナン、いや、工藤新一君、ホワイトルームみたいには行かないぞ。

くつくつくつ…。

ナ：ホワイトルームとは工藤新一が江戸川コナンになる前に謎の人物に毛利蘭と毛利小五郎とともに閉じ込められた部屋の事である。（現在放送中のドラマの舞台）この人物は何故、江戸川コナンの正体を知っているのか…。いずれ明らかになるだろう。

ファイル1-4（後書き）

ご感想、レビューお待ちしております。あと、……。が多くてすいません。でもこれからもこうなりそうです。あと小狼に関しては「小狼」と書かせていただきます。理由は小林先生に「小」を使ってしまうからです。でも「狼」と書くのも何か嫌なので「小狼」とさせていただきます。ご理解お願いします。

ファイル1 - 5

ナ：さくらがきつくなつていく一方でコナンは…。

ピルルルル

コ：ん、メール？

小：こら、コナン君！授業中は携帯の電源は切っておく！

コ：あ、すいません…。何だ、こんな時間に…。

ナ：昼休み

コ：さっきのメール、見てみつか…。ん？

ナ：メールにはこう書かれていた。

江戸川コナン君、こんにちは。今日は君の考えをひっくり返す出来事が待っているよ…。

コ：何だよこれ…。イタズラか？

ナ：コナンはメールを消去しようとした。しかし…。

コ：ん？まだ続きが…。

このメールを消去したら君は一生後悔するよ。君と関わりのある人が取り返しのつかない闇に行くかも知れないからね…。

コ……どういつ意味だ…。

ファイル1 - 6

歩：どうしたの Conan 君？携帯なんか見て。

光：何かあつたんですか？

コ：いや、ただのイタズラメールだよ。

タッタッタ…。

ナ：Conan は急いで逃げて行つた。

元：何か怪しいな…。

光：追いますか！

哀：ダメよ。あなた達に言えないメールだから江戸川君は避けたのよ。追つたりしたら大変な事になるかもしれないわよ。

元：でっでもよ…。

ムッ！

ナ：灰原は元太を睨み付けた。

元：わっ分かつたよ…。

哀：「でも何なの工藤君、私達に言えないメールなんて…。まさか、組織に関わっているんじゃない？！」

ナ：組織とは当然、黒の組織の事である。しかし、あのメールは一体…？

ファイル 1 - 6 (後書き)

「」は心の声を指しています。

ファイル1-7

ナ：帝丹小学校屋上、灰原はコナンにさっきのメールについて聞いた。

哀：ちょっと工藤君、一体何だったのさっきのメール。黒の組織とのかかわりがあるんじゃないの！？

コ：いや、なんかそんな感じじゃない。

哀：と言うと…？

コ：奴らがオレ達の正体を見破って来たのなら「江戸川コナン君」なんて書かずに「工藤新一」って書いてくるはず。だが、そんな事は書いていないし「工藤新一」を暗示する言葉も無い。それに、灰原には手を出していない。

哀：じゃあなんで誰にも言わないのよ…。

コ：イタズラにしては何か威圧感を感じる。しかし、この感じ黒の組織とは違う…。でも、何かが起きそうな気がするんだ…。

哀：何かって何よ？

コ：分からない…。でも、とても嫌な予感がするのは確かだ…。

ナ：その時！

ピルルルル

コ：メールだ…。！？

ナ：コナンの表情が変わった。

コ：何だこれ、暗号か…？

哀：どうやら何か起きそうな気がするわね…。

ナ：暗号文の内容はこうだった。

れきざなけいめをほう

ファイル1-7（後書き）

上の暗号は意外と簡単ですよ。原作と同じパターンなので。

ナ：そしてそんな暗号を送りつけた張本人は…。

？：くつくつく…。私は君の事はすべて知っているんだ。さてそろそろ彼女にも…。

ファイル1 - 8 (後書き)

この暗号が登場事件「月と星と太陽の秘密」は

原作：12巻File1～3

アニメ：DVD PART7 - 1

に登場しています。気になる人はチェックして下さい。

ファイル1 - 9

ナ：コナン達が暗号を解いていた頃さくらは…。

さ：うん…。やっぱりキツイな。

ナ：徐々に気分が悪くなっていた。そんな時…。

ピリリリリ

さ：ほえ？

ナ：さくらの携帯がなった。

さ：はい…。

？：くくくくくく…。

さ：…！？あなた…、誰…？

ナ：声の主は変声機を使っていたため誰か分からなかった。

？：ああ、わたしか。それは言えないな木之本さくらさん。

さ：どうして私の名前を？

？：それとも言えない。私は君にとある場所に行ってもらおうように指示するだけだから。今からいう場所に一人で行ってもらおう。米花町の帝丹小学校に…。

さ：えっ、何ですか？

？：私はそれを伝えるだけだ。じゃあそつ言う事で…。

さ：あつ、ちょっと…！

プープープープー…。

ナ：電話は切れてしまった。

さ：一体なんなのよ…。米花町の帝丹小学校に一人で行けなんて…。

パサ…。

さ：え、手紙…？

ナ：手紙には…。

言いつけに背いたら君のその症状は取り返しがつかなくなるよ…。

さ：…！！

ファイル 1 - 10

ナ：友枝小学校放課後　4時30分頃　カラスの音がカーカー鳴り響いていた。

知：さくらちゃん、本当に大丈夫ですか。

さ：大丈夫だよ、知世ちゃん…。家に帰って眠っていればすぐに治るよ…。

小狼：本当にいいのか？

さ：いいよ、心配してくれてありがとう。

ナ：そう言つとさくらは一人、歩いて行つた。しかし家にはもう帰ってくる事はしばらく無くなるなどこの時は誰も思いはしなかつた…。その時、隣接する高校では…。

木之本　桃矢（以後・桃）：ん、さくら？

月城　雪兎（以後・雪）：どうしたの、桃矢。

桃：いや、別に。帰るぞ…。

ナ：さくらの兄の桃矢が何か不吉な予感がしながらも普通に帰つていった。そしてその頃コナンと灰原は…。

コ：元太達はもう帰つたな…。蘭にも連絡しておかないと…。よし終わった、校門に移動しよう。

哀……ええ。

ナ……コナンと灰原は校門の前に立ち待つ事にした。

ファイル1-10（後書き）

桃矢と雪兎の事に関しては自分で調べてください。すぐ分かると思います。またこれからこの二人が関わってくる確率は低いです。いません。

ファイル1 - 11

ナ：ここは友枝駅。今、さくらはおそらく米花町に行く環状線を待っているのだろう。そしてここにはさくらとこっそりついて来た知世、小狼、そして電話で呼び出されたケルベロスがいた。やはり心配なのである。

知：さくらちゃん、どうしてこんな所にいるんでしょう。

ケルベロス（以後・ケ）：分かん。しかしなんかめっちゃ強い魔力を感じるで。

小狼：ああ…。

ナ：その頃別の場所で謎の人物が…。

？：どうやら邪魔者が入ったようだな…。行かせはしない。

ナ：謎の人物は手をかざした。すると友枝駅では…。

ケ：…！！なんか人がたくさん来よったで！

小狼：魔力も強くなってきた！

知：通勤ラッシュにはまだ早い気が…。

ナ：今の時刻は4時50分、確かにまだ早かった。すると…。

アナウンス：1番線環状線 米花町方面行間もなく参ります。

小狼：まっまさか！

ケ：あかん！はよう行かんとヤバい気がするで！

ナ：駅に着いた環状線にさくらは乗って行つた。そして、駅にたくさんいた人達（サラリーマン達）もどんどん乗っていく。そして電車は行ってしまった。そして、知世、小狼、ケルベロスに駅に残された…。

知：あら、さくらちゃんは！？

小狼：くっ！

ケ：おらへん！魔力も消えたで！

？：くっくっくっ…。完了だ…。

ナ：どうやら、この謎の人物の仕業だったようだ…。

ファイル 1 - 1 1 (後書き)

環状線はどちらの作品にもたまたま出てる青いラインが入った電車の事です。

ファイル1 ラスト

ナ：3人（2人と1匹？）がついて来ていたとも知らずさくらは環状線に乗って米花町に向かった。そして今、彼女は米花駅前にいる。

さ：やっと着いたけど、どこが帝丹小学校なの…。

？：こうして伝えよう。

ナ：別の所にいる謎の人物はまた手を掲げる。

さ：…！！「何…この感じ…帝丹小学校までの道のりが見えてくる…」

ナ：そうして導かれてさくらは帝丹小学校に向かった。この時、駅にいた人達が彼女を不思議そうに見ていたらしい…。

さ：はあ、はあ…。なんだかどんどん体が熱くなってきたよ…。なんだか重いし…。あ！帝丹小学校だ…。

コ：誰か来たぞ！

哀：でもなんか様子が変わよ…。格好も…。

さ：はあ、はあ…。もうダメ…。

バタリ…。

コ：…！おい…。おい…！

エンディングテーマ ピルグリム s o n g b y B , z

エピソード

コ：おい！しっかりしろ！

哀：この感じ…、まさか！病院に行ってもダメだわ！博士の家に連れて行って調べなきゃ！工藤君、博士に電話を！

コ：ああ！

ナ：この時さくらは少しダボダボな友枝小学校の制服を着ていたらしい…。

ファイル1 完

ファイル1 ラスト（後書き）

ファイル1はこれで終わりです。

なお、それぞれの登場人物の学年は

コナン達… 小学1年生

さくら達… 小学6年生

桃矢達… 高校3年生

とさせていただきます。

つじつまが合わないかもしれませんがご理解お願いします。

ファイル2 - 1

オープニング Misty Mystery Song By
ARNET CROW

ナ：ここは阿笠博士の家

阿笠博士（以後・博）：で、彼女が幼児化している可能性があるというのは本当か、新一。

コ：ああ、だいぶ具合が悪かったみたいだし着ている服もダボダボだったからな…。

哀：でも彼女に似た人なんて組織で見た事なんて無いわ…。

博：え、そうなのか？じゃあ、あの子は一体何なのじゃ？

コ：分からない…。でもなんかあるのは確かだぜ。実は今日、こんなメールが…。

博：メール？

ナ：その頃、そのさくらは二階のとある部屋に寝かされていた。

さ：ん…。あれ、ここは…。確か私、帝丹小学校に行つてその時急に倒れちゃつて…。何か分かんないけどとにかくここから出なきゃ…。あれ、カバンが無い！鍵も！それに何で！？なんか手がとどかない…。

博：なるほどのう…。

コ：そう言えば、博士。灰原が彼女の服を着替えさせる時になんか変な物を見つけたみたいなんだが…。

博：変な物？

哀：ええ、何か鍵みたいなのなんだけど…。

ナ：灰原はさくらの服を着替えさせる時に鍵を見つけたみたいだ。もちろん、この鍵が何なのかはコナン達には分からない。幸い、カバンの中の物などはあさっていないみたいだ。（当たり前か。）そしてその頃さくらは…。

さ：何で届かないのよ…。こうなったら箱を重ねて…。あ、ああ、きやあー！
ドシーン！

ナ：さくらは箱から落ちてしまった。

コ：哀・博：！！

ファイル2-1（後書き）

さくらはまだ気が付いていないみたいですが、幼児化してしまったみたいですね！しかし何か状況がおかしいとみなさいと思いますか？

ファイル2 - 2

哀：まさかあの子、起きたんじゃない？

コ：よし、行ってみよう。博士はここで待ってる。

博：ああ、分かった。

さ：「あ！誰かくる！」

ガチャ

ナ：コナンが部屋のドアを開けた。

さ：ほええええ！

ナ：いきなりでビックリしてしまった。

コ：どうした！？

哀：いきなりで驚いただけみたいよ…。大丈夫よ。落ち着いて。

さ：あ…。うん…。

ナ：3人は博士のいる一階に戻った。とりあえず事情説明する事にした。

コ：君、帝丹小学校に来るまでに一体何があったの？

さ：授業中に急に具合が悪くなってその後、変な電話が来て…。

コ：変な電話？内容は？

さ：米花町の帝丹小学校に一人で行けって事だったよ…。しかもその後変な手紙があつて「言いつけに背けばその症状は取り返しがつかなくなる」と書いていたわ。

コ：途中、誰かと出会わなかったの？

さ：ううん、誰とも会ってないよ。

コ：哀：！？

コ：「何だと…！奴らが彼女に薬を飲ませたわけじゃないって事か！？」

哀：「と言う事は彼女は黒の組織とは関係なさそうね…。」

さ：所で何で二人ともそう言う事聞くの？何かあるの？

哀：あら、まだ気づいてないの？あなた、小学一年生の体になっているのよ。ほら、鏡を見てごらんさい。

ナ：さくらは近くにあつた鏡で自分の姿を見た。

さ：……ほええええ！？

コ：「今まで気づいてなかったのかよ！」

ナ：さくらはとても天然なのだ。

ファイル2 - 3

さ：どっ、どうして〜！？

コ：とにかく落ち着け！

さ：うん…。

ナ：状況からして黒の組織ではないと感じたコナンと灰原は調べるのをやめた。

コ：しゃーねーから今は普通に過ごせ。今はどうしてお前がそうなったか分かんねーからな。

さ：ええっ！？

コ：と言っても自分の学校に行けというのも無理だな…。なあ、帝丹小学校に行くか？

哀：いいの？江戸川君。

コ：ああ。って言うかそうした方がいいぞ。彼女がどうして幼児化したかとか手掛かりを掴むには彼女が自身がいけないといけないしな。それに違う町ならこの日と見た事があるとかなる可能性も低いしな。

哀：それもそうね…。あなた、どうする？

さ：そうするよ…。私だって知りたいもん！元に戻りたいし。

コ：よし！そうと決まれば早速入学手続きだ。博士、頼むぞ。

博：まあ、仕方ないのう。わしも協力するぞ！

さ：ありがとうございます。ところで、江戸川君だったかな。

コ：コナンでいいよ…。

さ：なんで、目上の人にその口調なの？君、どう見ても小学生じゃない…。

コ：ああ…。お前には本当の事を話したほうがよさそうだな…。俺、実は小学生じゃないんだ。

さ：え…？

哀：江戸川君！

コ：いいんだ、灰原。理由はどうあれ同じ幼児化した者同士だ。

ナ：そうしてコナンいや、工藤新一は自分の正体について話した。そしてやっぱりさくらからはあの発言が来る。

さ：ほええええ！

コ：一体、その発言何なんだ？さっきから…。

ファイル2 - 4

ナ：コナン達はとりあえず事情を説明した後、明日からの準備を始めるがその前に…。

コ：ところでさ、この鍵みたいなのは何だ？

さ：あ！

ナ：さくらはタジタジになった。

さ：それはお守りだよ。だから返してくれない？

コ：ああ…。「一瞬、焦ったぞ…。何かあるんじゃないのか？」

哀…。

ナ：コナンと哀は少し気になった。が、それ以上は聞かなかった。

コ：そう言えば、お前の家の方は大丈夫か？何か言っておかないとまずいんじゃないか？

さ：あ、そうだったね。電話しなきゃ！

ナ：その電話が疑問を呼ぶことになる。そして違う所では…。

？1（ここまでの「謎の人物」）：彼女が心配しないように君のカードを1枚使わせてもらったよ…。

まあ多分、何で自分がそうになっているのか彼女には分からないだろう

うけどね。くつくつくつ…。

ナ：さらに違う所では知世達は諦めて帰宅した。しかし…。

小狼：遅くなってきた、仕方ない。明日出直すか…。運よく明日は休みだし…。それに気になる事もあるし…。

知：気になる事？

ケ：そうや。駅で電車がやって来て、人がめっちゃ集まった時に何か強力な魔力を感じたんや。それもクロウとは違う、今まで感じた事がない強力な魔力をな…。

知：強力な魔力…、ですか？

ケ：こりゃあ、はようさくらを見つけへんとヤバい気がするで…。

ナ：そしてさらに違う所、さくらの家では…。

桃：さくらは一体どうしたんだよ！

？2：分かりません…。私もいつの間にかここにいたから…。

ファイル2 - 4 (後書き)

最後の?2の人物はいずれ分かります。と言うかさくらファンならもう分かったって言う人もいるんじゃないでしょうか。あと今回まで「?」は「謎の人物」でしたが「?」を多く使っても大丈夫なように次から、「謎」と表記させていただきます。

ファイル2 - 5

ナ：友枝町でいろいろ不可解な出来事が起きていた頃米花町では…。

さ：さて、電話を…。

コ：いや待て！

さ：ほえ？

コ：お前、幼児化した事で声も少し変わっているんじゃないか？

さ：あ、そうか…。

コ：だから、これ使えよ。

ナ：コナンはいつも使っている「蝶ネクタイ型変声機」を取り出した。

さ：これは？

コ：俺がいつも使ってる蝶ネクタイ型変声機さ。これを使えば声を変えられるぞ。

さ：へえ…。ありがとう…。

ナ：突然だったため驚いてしまったさくらだったが落ち着いて電話をした。

ブルルルル

さ：あ、もしもし……。えっ……。

コ：どうした？

さ：あ、いや何でもない……。あ、新一君、電話が終わるまで別の部屋で待っていてくれない？灰原ちゃんと博士も……。

コ：ああ……。分かった……。

ナ：さくらは3人が出て行ったら続きを始めた。

さ：で……。うん……。

コ：……。

ナ：さくらは電話を切った。

ナ：部屋に入ってきたコナンが言った。

コ：で、どうだった？

さ：うん、何とか……。

コ：そうか……。さて、そろそろ俺は家に帰るぜ。心配させる訳にはいかないしな。あ、そうだ。さくらは今日はここに居ろよ。

さ：うん……。

哀：「何か、いやな予感が…。」

ナ：翌日の朝、その予感は的中する。

ファイル2 ラスト

エンディング 「ピルグリム」

エピローグ

ナ：さくらは灰原と一緒に寝た。そしてその翌日…。

哀：う…うん…。！「やっぱり！」

ブルルル

コ：ん？こんな朝早くから誰だ…？もしもし？

哀：あ！工藤君！大変よ、さくらさん、居なくなってるのよ！荷物もないからおそらく自分で出て行ったと思うけど…。

コ：なに！「昨日の様子からして何か嫌な予感してたんだ！」よし、俺もそっちに行く！彼女がどこに行ったかはなんとなく予想がつくからな！

哀：そうね、おそらくあそこでしょうね…。

ナ：コナンは蘭達に置手紙で「心配しないよう」にと書いてスケボ―を走らせた。そしてその頃さくらは…。

さ：「ごめんね新一君、灰原ちゃん、博士…。」私、行かなきゃ！

ナ：さくらがどこに行ったか…。おそらく見当はつくだろう…。そしてまたあの人物が…。

謎（謎の人物・元「？」）：ほほう、もう動いたか…。まあいい。
むしろその方が次の行動をとりやすいからな…。くつくつくつ…。

ナ：謎の人物は何を企んでるのか…。次回、ファイル3、早くも急
展開！

ファイル2 完

ファイル2 ラスト（後書き）

ファイル1に比べ少なくてすいません。でもファイル3はとても大事な部分なので少なかつたとしても読んでくれると幸いです。あと今日、いくつかキーワードを変えておきました。新しいキーワードが何を指し示すのかは物語が進めば分かります。

ファイル3-1（前書き）

今回は一部残酷な描写があります。ご注意ください。

ファイル3 - 1

オープニング 「M i s t y M y s t e r y」

ナ：阿笠博士の家。

コ：博士、友枝町の場所は分かったか？

博：ああ、ここから30分くらいで行けるくらい近いぞ。

ナ：忘れていたが、一応これまでの間に全員自己紹介はしている。
その時に友枝町に住んでいた事はさくらは伝えている。ちなみに二つの町が近いのはアニメを見ていれば十分分かるだろう。

博：しかし、新一。さくらちゃんの家の場所は分かるのか？

コ：おそらく、友枝町の交番で聞けば分かると思うぜ。彼女、友枝町のお祭りとかでよく出てて有名みたいだから。よし、行くぞ！

博：分かった。

ナ：博士は車にコナンと灰原を乗せて友枝町に向かった。

コ：やっぱりあの鍵、ただの鍵じゃないな…。

哀：やっぱり、そう思うの。

コ：ああ、鍵を見た時の彼女の態度からしてとても普通な感じはしなかった。

哀：やっぱり、何かありそうね…。彼女。組織とは違う何かが…。

ナ：その頃、そんなふうに思われているとも知らないさくらは…。

さ：着いた…。私の家…。

ナ：さくらが向かった先は自分の家だった。そして自分の家に入ったさくらは早速、ある人物と再会する。

？：さくらさん…。

ナ：その人物と共にケルベロスもいた。そして、知世、小狼、事情を聴いてやって来た月^{ユヰ}がいた。

ケ：「鏡^{ミラー}」から話は聞いたで。さくら、何があったんや。その姿…。

さ：うん…。

ファイル3 - 1 (後書き)

桃矢と話していたのは「鏡」でした。あと、月の登場が遅くなつて
すいません。なお文中の二つの町が近いとはどちらの作品にも東京
タワー（コナンでは「東都タワー」）が出ているから近いと言えま
す。

ファイル3 - 2

ナ：…と言う訳でさくらはみんなにこれまでの経緯を話した。

ケ：なるほどな…。つまり、何故か体が幼児化してしもつて八方ふさがりな所をそのコナンとか言うガキに助けてもらったんか…。

小狼：じゃあ、何が原因か全く分からないって事か！？

さ：うん…。

知：辛かったでしょうね。でも、ご無事で何よりですわ。それに…。

さ：ほえ？

知：さくらちゃんの小学1年生の姿を撮影出来るなんて夢みたいですよわ。

ナ：オイオイ！

月（以後・本文の最初のみフリガナあり）：…それで…。

さ：…？

月：何故今ここに、^{ミラー}鏡が居るのか聞かなくていいのか？

さ：あ、そうでしたね…。で、何があったの？

^{ミラー}鏡（以後・本文の最初のみフリガナあり）：はい…。

ナ：その頃、コナン達到着。

コ：よし、この辺りに止めてくれ。

博：え、なぜじゃ？

コ：家の前に止めたらいつか見つかってしまう可能性がある。ここは俺が一人で行く。

博：分かった。

哀：気を付けて。

コ：ああ。

ナ：コナンはそう言ってさくらの家の中へ入って行った。

ファイル3 - 3

ナ：コナンはそっくとさくらの家の中へ入って行った。そんな中、コナンは話声がする部屋を見つけた。

コ：「声からしてさくら達のような。よし、じゃあ…。」

ナ：コナンはメガネに付いてる小型の盗聴器をドアの隙間からサツと投げ入れた。

鏡ミラー：私がカードとしてバックの中で寝ていた頃、突然辺りが光り出して、そしたらいつの間にかさくらさんの家の中でさくらさんの姿で倒れてました。そこを、さくらさんのお兄様が帰って来てわたしがさくらさんじゃないと気づいて、さくらさんはどうしたか聞かれました…。時間はもう夕方6時頃でした。

ケ：ちょっと待てや！あんた、さくらが使って発動したんちゃうんか！？

鏡：はい、そうです…。気づいたらここに…。

さ：それになんであなたが私じゃないってお兄ちゃんが分かったたの！？

鏡：あ…いえ…。

月コエ：待て、カードにだって言いたくない事はある。

ナ：鏡はその部分だけは言いたくなかった。何せ、さくらも知らな

い事だったから。

さ…ごめんね。

ナ…この時、月はひとつ不審な事があった。

月…「何故だ…。なぜ、桃矢はこいつの正体を見破る事が出来るんだ…。以前ならともかく今は桃矢の魔力はすべて私が譲っているのに…。」

ナ…そしてその頃コナンは…。

コ…さくらに似た声の人がいる…。なおかつ、他に人がたくさんいるみたいだ。

ファイル3・4（前書き）

先に言っておきますがそろそろ一人キャラ崩壊します。ごめんなさい。嫌な人は引き返してください。

ファイル3 - 4

ナ：コナンはこっそり移動して博士の車の中に戻った。

哀：どうだったの？

コ：さくらに似た声の人の声がした。ミラーとか言ってたけど。他にも丁寧な言葉づかいの人や、男の子、大阪弁の声に、静かな声でした…。

哀：ずいぶん大人数ね…。

博：で、これからどうするのじゃ？

コ：もう少し様子を見よう。

ナ：その頃別の場所で…。

謎：新一君が動き出したか…。さて、じゃあそろそろ…。闇のシルクハットよ、やつに新たな人格を与えよ…。

ナ：その時だった。さくら達の中で一人だけ異変がおきた。

小狼：！、またあの強力な魔力を感じる！

知：うつうつ…。

さ：知世ちゃん！？

知：何だか急に頭が痛くなって…。ううつ…。

ケ：知世！

月^{コエ}：どこから感じるんだ、この魔力は！

バタン…。

ナ：知世が倒れこんでしまった。しかしすぐに起き上った。

さ：知世ちゃん！よかった。心配したよ。

ナ：しかし、そのときの彼女の言葉に皆、啞然する。

知：…。ああ、アタイは大丈夫だ…。

さ：小狼・ケ・月・鏡^{ミラー}：！？

ナ：知世の口調が変わった。

ファイル3 - 4 (後書き)

今回のタイトル一部修正しておきます。そして、ついに謎の人物が本格的に動き出しました。

ファイル3 - 5

コ：！！？何だ！？

哀：どうしたの！？

コ：突然、さくら達が急に慌て出したんだ。何か嫌な予感がする…。それに何か突然一人口調が変わったみたいだ…。

哀：え！？

ボタン！

哀：あつ、ちよつと工藤君！

ナ：コナンは嫌な予感を感じて急いで、さくらの家へ向かった。そして、これがコナンが遭遇する非科学的な事件の本格的な幕開けである…。

ガチャ！

さ：！！？コナン君！？

ナ：コナンが駆け付けた。

コ：さくら、どうしたんだ！？

さ：何か知世ちゃんがおかしくなっちゃって…。

知：だから、何も無いってば！

コ：！「声からしてこの子のようだ…。口調が変わっている…。っ
て言うか何だこいつら！？」とにかく、病院に電話して見てもら
う。話はそれからだ。

さ：うん…。

ナ：コナンは異常な事かとも思い携帯で救急車を呼んだ。

コ：それにしても、何なんだ。変な奴がいるけど…。

さ：あ、こっこれは…。

ナ：コナンはケルベロスと月^{コエ}を指して聞いた。さくらも突然すぎて
慌ててる。

月^{コエ}：無理をするな…。

ケ：コエ！

ファイル3・5（後書き）

「!？」が多すぎました。すみません。

ファイル3 - 6

月：このまま黙っていると言っのか、ケルベロス。

ケ：…。さくらはどないする？

さ：あ、うん…。分かった。すべて話すよ。でも、まずは病院に…。

コ：そうだな。よしじゃあ、俺は博士達を連れて来るから先に行つて。あと、病院の場所を教えて。

さ：うん。

小狼：「こいつがコナン…。何だ、この頭が切れる感じは…。」

ナ：さくら達は救急車で病院に向かった。なお、月^{コエ}は仮の姿の雪鬼に戻った。ケルベロスはぬいぐるみのふりをしてついに行った。コナン達も続けて向った。鏡^{ミラー}はそのまま家で待機。と言う訳で友枝総合病院。

さ：で、知世ちゃんの容態はどうなんですか。

医者：特に、何も脳に異常は見つからなかったよ。しかし、このままほっておく訳にはいかない。とりあえず数日入院して経過観察しよう。

さ：はい、分かりました。

コ：で、とうだった。

さ：何も以上は無かったみたい。数日間、経過観察だって。

コ：そうか…。「なぜ、彼女は突然性格が豹変したんだ。状況的には考えられない…。」

さ：ところで、なんでコナン君がいたの？

コ：ああ、突然いなくなったからだ。と言っても納得できないだろう。ちゃんと話すぜ。

ナ：そしてコナンはこれまでの経緯を話した。

ファイル3・7（前書き）

先に言っておかなくてはいけない事があります。ファイル3・6の内容を一部分を変更しておきました。これからの展開に不都合が生じたためです。

変更点 鏡^{ミラー}はカードに戻った。 ↓ 鏡^{ミラー}は自宅待機

ご迷惑おかけしてすみません。
あと、今回よりキャラとナレーションの会話部分を1行開けさせていただきます。

（亀7さんの意見です。）一応これまでの話も今回の話を書き終わ
り次第、修正します。

ファイル3 - 7

ナ：コナンはこれまでの経緯を話した。

さ：そうだったんだ…。ごめんね。あんまりばらしたくなかったから。

コ：いいんだ。それで、さっきの事だけど…。

さ：うん、分かったよ…。

ナ：と言う訳でさくらもあの二人の事を話した。

コ：うん、俄かには信じがたいな。でも、ありがとうな。

さ：うん…。

コ：さて、そろそろ謎を解かないと…。

さ：うん、そうだね。

？：さくらちゃん！

さ：あ、知世ちゃんのお母さん！

コ：「この人が…。」

ナ：知世の一大事を聞き駆け付けた。

大道寺 園美（以後・園）：知世はどうだった？

さ：しばらく、入院で経過観察だそうです…。

園：そうなの…。とにかく中へ…。

さ：あ、そうだ。

園：何？

さ：知世ちゃんの様子を見ても驚かないように…。

園：え？

ナ：その忠告を気にしながら園美は知世の部屋に入った。（病院の）

園：知世！

知：母さん！どうしてここに…。

園：知世…？

ナ：当然ながら園美は驚く。いつもの知世と違うからだ。

さ：突然倒れて、気が付いて目を覚ましてからこの調子で…。

園：そんな…。

バタリ…。

ナ：園美はその場に倒れこんだ。

さ：コ：あ！

知：母さん！

ファイル3 - 8

ナ：それからしばらくして…。

小狼：結局、大道寺はあのままか…。

さ：うん…。

ケ：何か引つかかるの…。

コ：…。

月^{コエ}：どうした？

コ：…！

さ：月さん^{コエ}！こんな所で…。

月：今は誰もいない…。

さ：あ、そうですか…。

小狼：なあ、まさかとは思うけどあのメールの主が犯人なんてことないよな？

コ：…！？

小狼：だって、最近のおかしな事の時はいつも強力な魔力を感じ取っているじゃないか。

ケ：それや！なあ、さくら。電話を受けた時に何か感じ取ったか？

さ：そういえば何かとてつもない魔力を感じた気が…！

コ：魔力？

ケ：そのまんま魔法の力と考えりゃあいい。あんたは普通の人間やから分かんけど、魔力を持つ奴はその魔力を感じ取れるんや。

コ：なるほどな…。じゃあ、僕の携帯のメールも何かあるかも。

ナ：すると…。

さ：感じる…。同じ魔力を！

小狼：ああ。

ケ：これや。

月：間違いないな…。

ファイル3 - 8 (後書き)

名探偵コナンにじファン検定 第2問

ドラマ (名探偵コナン工藤新一の挑戦状 連ドラ) から問題

#2でホワイトルームで入れたパスワードは？

エスパ「N」 マジック「F」 ドッキリ「E」

「」の中がキーワードです。正解だと思った答えのキーワードをメモして下さい。

ファイル3 - 9 (前書き)

ファイル3では、残酷な描写はしないうつもりでしたが今回と次は少しそれに近いものがあるかもしれません。ごめんなさい。

ファイル3 - 9

ナ：一行は一回、知世の部屋に向かった。

小狼：なあ、大道寺。

知：ん？

小狼：何か、変な事は起きてないか？

知：いや、何も無いけど？

ケ：今、知世から魔力を感じるで。

知：え…？

コ：もしかして、性格が変わるときは魔力が出来るのか？

ケ：そうかもしれへんで。

さ：知世ちゃん、ホントに大丈夫？

知：大丈夫だって、心配なくていいんだ。

さ：…。

知：さくら…？

さ：お願いだよ…。いつもの知世ちゃんはどうしたの？

知：え…。

さ：いつもの元気な知世ちゃんはどうしたのよ…。私をたくさん撮って笑顔を見せてくれる知世ちゃんはどうしちゃったのよ！

知：あ、いや、そんなつもりじゃ…。

さ：わたし、もう耐えられないよ！お願いだから戻ってよ…。ううつ…。

タッタッタ…。

ナ：さくらはそう言っていると部屋から出てしまった。

知：あ！おい！

ナ：それを知世も追った。

タッタッタ…。

ファイル3・9（後書き）

あ、忘れてましたが園美は一回帰ってます。（ショックのあまり）

ファイル3 ラスト（前書き）

ほたるさんの意見で魔法を使ってほしいという意見が来てしまいました…。

皆さんすいません。もうそろそろで出せるようになりますのでもうちょっとお待ち下さい。

ファイル3 ラスト

コ：僕たちも行こう！

ナ：病院屋上。

さ：うつうつ…。

知：さくら…。なあ…。

さ：何？

知：ごめん…。

さ：…？

知：こつちだつてさくらを心配させたくなくてこう言っただ。だから、必ず戻って見せるから。

さ：知世ちゃん…。

コ：「そうか…。あの二人何とかなりそうだな…。」

ナ：コナンは安心した。しかし…。

謎：いい感じだな。しかし、まだ満足しないなあ…。だつたらそろそろ、魔法を使わせてやる！

ナ：そう言つと謎の人物はまた例の黒のシルクハットを取り出した。

謎：闇のシルクハットよ…。一つカードを奪って奴を捕えよ…。

ナ：すると、1枚カードが出て来た。

謎：「砂」^{サンド}か…。よしじゃあ、行け！

コ：ん、何だ！？

ナ：すると、突然砂が集まって来た。

さ：これって…！

知：これは…。

ケ：これまさか、砂^{サンド}のカードちゃうか！？

さ：えっ！？何で！？

月^{コエ}：馬鹿な、カードが勝手に発動する訳が…。

小狼：まさか、鏡^{ミラー}を発動させた奴が！？

ケ：かもしれへんな…。

エンディング 「ピルグリム」

ファイル3 完

ファイル3 ラスト（後書き）

ファイル4ではついに魔法が本格的に登場します。

ファイル4 - 1

オープニング 「Misty Mystery」

知：とにかく逃げないと…。あ！何をする…。

ナ：砂は知世を連れ去ろうとしている。
サンド

さ：ちよつと！何しているの！

ナ：砂はカードの持ち主であるさくらの言っ事を聞かない。さらに！

コ：ぐっ！何だこれ！砂がこっちに向かって来る！

ナ：砂はコナンまで襲って来た！

ケ：わいらもいかなあ！

ナ：やつと言っのも何だが、ケルベロスは真の姿に戻って炎を吐いた。しかし…。

ケ：何や！見えないバリアが貼ってるやん！

月：コエこのバリアからも同じ魔力が…。

小狼：くっ…。

哀：なんだかわけが分からないわね…。

博：とにかく、ここは避難を…。

ナ：阿笠博士は焦って避難した。しかし、他の4人は避難しなかった。この魔力やおかしな出来事が気にかかるのだ。コナンと知世とさくらはもうすでにバリアの中にいる。と言うよりもその状況でバリアが貼られている。

さ：「どうしよう…。このままじゃ二人が…。こうなったら…。」

ナ：さくらは星の鍵を取り出した。

コ…！

ケ：さくら！ばれてまうで！

さ：いいの！私は二人を救いたいの！

ナ：て言うかもうすでにほぼばれている。

さ：星の力を秘めし鍵よ、真の姿を我の前に示せ、契約の元、さくらが命じる…。

リリース
封印解除！

コ…こっつ、これは…！

ファイル4-1（後書き）

ちなみに砂サンドのカードはアニメのみの登場です。

さくらの呪文、間違っていたら感想の所でいいので指摘をお願いします。

ファイル4 - 2

さ：奴を凍らせ捕えよ！凍！
フリーズ

ナ：フリーズサンド凍は砂を氷づけにしていた。（以前にこれで封印した。）

哀：何これ…。

コ：これが魔法の力って言うのか…！信じられねーよ…。

ナ：コナンにとって魔法はこの世に存在しないものだった。超能力者さえ自分の推理で嘘だったと言う事にしてしまうのだから。（名探偵コナン 工藤新一への挑戦状 連ドラ #2より）そんな事をコナンが思っていくうちに砂は氷づけになったが完全にそうなる前に二人を掴みあげた。

知：コ…！

ナ：そして砂は二人を屋上から投げ落とした！

さ：知世ちゃん！コナン君！

ナ：さくらは急いでカードを出した。

さ：フライ ウィンディ翔！風！

ナ：さくらの背中に羽が生え、二人を追っていく。風は二人を包み込む。下は駐車場で慌てて避難した博士がいた。

博：ん？うわ！大変じゃ！

ナ：博士は慌てるがその心配は無用だった。

博：あれ…？

ナ：さくらがそつと降りてきた。二人は風に包まれてそつと地面に着いた。

ファイル4 - 2 (後書き)

すみません。ファイル4の章タイトル、少し変更します。

ファイル4 - 3

謎：もういいな…。砂、^{サンド}戻れ。でも彼女はちよつといじくつたままにしておくか…。

ナ：そう言う謎の人物はシルクハットを戻した。

さ：ふう…。良かった。あ！

ナ：カードが戻ってきた。（前回と今回出て来たカード4枚）

小狼：さくら！

さ：小狼君、みんなも…。

知：うつ…。何だかまた頭痛が…。

ボタン！

さ：知世ちゃん！

ナ：またすぐに起き上がった。

知：さくらちゃん…。

さ：知世ちゃん！戻ったんだ！良かったよ。（嬉し泣き）

知：心配させてすいません。

ケ：知世から魔力、消えとるで…。

コ：ま、戻ったからいいじゃないか。「でも、こんなにあっさり…。
やっぱり気にかかるな。」

ナ：とまあ、なんだかんだで事件解決である。

コ：ところで、さっきのは何だったんだ？

さ：あ、あれね…。あれが私の力なんだ…。詳しい事は病院に戻ってから話すよ…。

ナ：と言う訳で一行は病院に戻った。そしてさくらは自分の魔法の力について話した。さくらカードの事、どうして魔法が使えるようになったか、そんな事を…。

コ：ふん…。

さ：納得してるの？

コ：あ…。うん…。まだちょっと信じられないけど…。

哀：不思議ね…。そんな事が本当にあるなんて、おとぎ話だけだと思っていたわ…。

さ：ねえ？あの子、ホントに小学生？やけにクールだけど…。

コ：え？ま、まあね…。「黙っておこう…。」

ケ：ま、世の中いろんながやつがいるってこちなあ…。

「…お前もな…。」

ファイル4 - 3 (後書き)

ちなみにケルベロスは今回の最初に仮の姿に戻ってます。

ファイル4 - 4

ケ：しかし、なんで知世は戻ったんやろう…。

小狼：多分、あの人格は謎の人物が仕組んだんだろう。魔力が消えたって事はもう元に戻ったって事なんだと思うが…。

さ：知世ちゃん、本当に大丈夫だよな？

知：ええ、でも何で私あんな事を…。

コ：記憶はあるって事？

知：ええ、まあそうですが…。

コ：なるほど…。もしかすると、謎の人物は結構ヤバイかもな…。

さ：え？

コ：つまり、その謎の人物は人の感情を操ったり人のカードを簡単に使うことが出来る、厄介な野郎かもしれないねって事だよ…。

小狼：なあ、お前…。

コ：ん？

小狼：子供のくせに随分と頭が切れるなあ…。

コ：え？

知：確かに、すごいですわ…。

ケ：ホンマやのう…。アンタ、ほんまに小学生か？

コ：あ、うん…。本当に小学生だよ…。アハハハ…。

知：そうですよね。

ケ：ま、やっぱり世の中いろんな奴がおるんやなあ…。

小狼…。「気にかかる…。」

月^{コエ}：「こいつ、魔力はないがただ者ではないな…。」

コ：さてと、そろそろ帰るとするか…。

知：あの、そう言えば、さくらちゃんはこれからどうするんですか？

さ：ほえ？

ケ：そっぴや、さくらその体じゃこれまでの生活送るんわ無理やで。

ナ：さくらは謎の人物のせいで体が小学１年生になっていた。学校は帝丹小学校にしたが、家はどうするのか。

ケ：それや！

さ…？

ケ：謎の人物が鏡を^{ミラー}目覚めさせて、さくらの家に送ったんはそう言う事や！

さ：だから何なの？

コ：つまり、さくらの身代わりにするために目覚めさせたって事だよ。

さ：ええっ！？

ファイル4 - 4 (後書き)

次回、コナンのキャラ本格的に登場予定です。と言っ事は…。

ファイル4 - 5

ナ：ここは米花町の毛利探偵事務所

毛利 小五郎（以後・小五郎）：何、何、何っ！？新しい居候が来るだ！？

毛利 蘭（以後・蘭）：うん、コナン君と阿笠博士から電話があつて…。

ナ：数時間前…。

コ：よしじゃあ、名前は「井上 凜」でいいな？

さ↓凜：うん。いいよ。

ナ：「井上 凜」は居候時に使うさくらの偽名である。考えた理由はコナンと灰原と同じである。

コ：じゃあ、電話を…。

ブルルルル

蘭：はい、毛利探偵事務所です。

コ：もしもし、蘭姉ちゃん、コナンだよ。

蘭：あら、コナン君どうしたの？

コ：ちょっと、話があるんだけど…。

蘭：え？何。

コ：実はまた一人居候させてくれないかな。

蘭：え！？どう言う事？

コ：詳しいことは阿笠博士に聞いて。今、代わるから。

蘭：うん…。

博：ああ、もしもし蘭君か。実はコナン君の親戚をしばらくの間預かってもらってほしいんじやが…。

凜：ねえ、コナン君にはお姉さんがいるの？

蘭：あ、いや違うんだけど…。詳しい事はここでは話せないよ。

ナ：今はまだ病院の中。コナンの正体を知らない人達もいる状況ではまだ、話せない。必要以上に正体をばらしたくないのだ。

博：ああ、ありがとう、蘭君。ガチャン（電話を切った音）
O
Kじゃよ。

コ：ふう…。よしじゃあ、行くぞ！

凜：うん！

ケ：あ！待ってなあ！

ナ：ケルベロスもいつでも対応できるようにしていく事にした。

ファイル4 - 5（後書き）

さくらの偽名は頑張っと思っていました。結構すぐに浮かびました。なお、明日は用事があるため更新は無理と思います。ごめんなさい。

ファイル4 ラスト

ナ：と言う訳で毛利探偵事務所

コ：ここが毛利 探偵事務所だよ。

凜：まさか、ここに居候してたなんて…。

ナ：凜は正直びっくりである。

ケ：なんや、すごいのう。

コ：じゃあ、行くか。

凜：うん！

ナ：二階

蘭：もうすぐね。

ガチャ

蘭：あ、来たわ！コナン君おかえり。あ、あなたが凜ちゃんね。いらっしやい。

凜：あ、こんにちは。今日からお世話になります。井上 凜です。

小五郎：おっ！この子か！よく来たね。

凜：あ、よろしくお願いします。

コ：「このオヤジ…。俺の時と違うじゃないか…。（怒）」

ナ：そんなこんなでさくら、いや、凜の居候生活が始まった。その頃、さくらの家では…。

鏡^{ミラー}：はあ…。分かりました…。

ナ：鏡^{ミラー}はやつと自分の状況がつかめた。

鏡：これから大変になりそうです…。

ナ：しばらく、凜は戻れないので急遽、鏡はさくらの身代わりをしはらくやる事になってしまった。それも、数時間程度じゃなくいつ戻れるか分からない長い身代わりが…。

桃：どうやら、しばらくお前と一緒に暮らすのか…。

鏡：はい…。

桃：仕方ないか…。よろしくな。

鏡：はい…。よろしくお願いします…。

謎：フツ…。ひとまず両方、納まったか…。これから、どんどんおもしろくしてやる。彼女の二重人格も実はそのままにしているし…。さて、それまでの暇つぶしに、別の世界でもいじくっておくか…。

ナ：すると、謎の人物の目の前に映像が出てきた。

謎：闇のシルクハットよ、やつらの世界にモンスターを…。

ナ：すると、映像の世界にモンスターが現れた。それを映像の世界の人達（ヒーロー）が倒していく。

謎：なかなか面白いな…。くっくくっく…。

ナ：この人物は本当に何者なんだろうか…。

エンディング 「ピルグルム」

ファイル4 完

二重人格の知世の設定

作者の寿司デリバリーです。今日は最後に二重人格の時の知世の設定の説明をさせていただきます。

特徴 男みtainな口調になる。

声が低くなる。

自分の事を「アタイ」と言うようになる。

人格が変わるときは「カチッ」とスイッチみtainな音がする。

人格が変わっても好き嫌いや人との関係などは変わらない。

人格が変わっている間の記憶は残る。

性格 長所 本当の性格の時より、やる気に満ち溢れる。

短所 ちよつとした事でキレる事がある。

以上です。今後のネタバレになりますがまあ、問題はありません。それではまた。

二重人格の知世の設定（後書き）

ひとまず明日は休載します。ごめんなさい。

ファイル5 - 1 (前書き)

昨日、無理と言いましたが、少しばかり時間をいただけましたので、少しだけ書かせていただきます。ご無礼をおかけしてすいません。また、この先のストーリーは漫画・アニメの事件を元にしますのでそれをご理解したうえで読みください。(ただし、コラボ作品でするので、一部内容の変更はありますので大丈夫だと思います。)

ファイル5 - 1

オープニング 「Misty Mystery」

ナ：ここは毛利探偵事務所。今日は凧（さくら）の転校初日である。

蘭：ほら、凧ちゃん、起きて。朝だよ。

凧：うん…。うわっ！

蘭：え？どうしたの凧ちゃん？

凧：あ、すいません。

コ…。「やれやれだぜ…。」

ナ：今のはいつもと違う所で目が覚めて驚いているだけである。「ほえ」を失うくらい驚いた。

コ：さくらは初日だから後で来るんだったよな。じゃあ、また後でな。

凧：うん。

ナ：コナンは先に学校へ向かった。そして、所変わって帝丹小学校。

歩：コナン君、今日は転校生が来るんだよね。

コ：ああ。

元：楽しみだよな！

光：何でも、コナン君の親戚だそうですが…。

元：え？マジ？

小：はい、みんな席に着いて！今日は転校生を紹介します。さあ、入って来て！

凜：初めまして、「井上 凜」です！

生徒全員（コ・哀以外）：かわいい〜！

ナ：と言う訳で凜の帝丹小学校の学校生活が始まった。

ファイル5 - 2

凜：少年探偵団？

元：おう！

光：様々な事件を解決しているのが僕たち少年探偵団なんです！

歩：凜ちゃんも入らない？

凜：うん…。コナン君も入ってるの？

歩：うん。コナン君、意外と頼りになるんだ。

凜：わかった！入るよ！

歩：ホント？やったー！

元：「何だよ…。コナンに気を引かれたのかよ…。」

光：「憎いですね…。」

ナ：二人はコナンを睨んだ。

コ：「ゲッ…。」

ナ：その頃、職員室でこんなやり取りが…。

小：「こども防犯プロジェクト」ですか？

白鳥警部（以後・白）：はい、最近都内で子供の誘拐事件が多発していますから…。

小：でも、なんで警視庁の白鳥警部がわざわざ？

白：あ、いやたまたま近所で事件の聞き込みをしてたのでつい…。

千葉刑事（以後・千葉）：ついでに小林先生の顔が見たくなっただけですよ？

白：千葉君…。

小：「今朝、お弁当を渡した時にあったのに…。」

ナ：白鳥警部と小林先生は昔のとある仲なのだ。

白：だいたい、何で君まで付いて来るんだ？

千葉：いいじゃないですか。僕、ここの卒業生ですし。

小：え、そうなんですか？何期生ですか？

千葉：えーと、確か20期生だったかな。

小：だったら、私の2つ下ですね！

千葉：じゃあ、覚えてます？理科の先生の「ガイコツ国上」！

小：ええ！今も健在で「死神先生」って生徒達から恐れられています

すよ。

白：オホン！さあ、そろそろ僕達は帰ろうか…。

千葉：あ、でも久しぶりに来た母校ですし、ちょっと校舎の中見て回ってもイイっすか？

ファイル5・2（後書き）

二人の関係についてはコミックス66～68巻、DVD PART1
9・1、6、7に収録されています。なお、千春とかぶったので千
葉刑事は「千葉」と表記させていただきました。

ファイル5 - 3

ナ：放課後

コ：え？防犯のビデオを探してくれ？

小：そうなの、今日警察からこんなチラシをもらったから明日、道徳の時間に視聴覚室でみんなに見せようと思うのよ。私がこの生徒だったときに見せてもらったビデオの出来が良くて、みんなにも見せようと思って…。

元：へー。で、なんでそのビデオを俺たちが探さなきゃいけないんだ？

光：視聴覚室にあるなら自分で探せばいいじゃないですか。

小：あ、ほら…。先生これから職員会議があるし…。

コ：そう言えば、音楽の時間に見せてもらって言った昔の合唱コンクールのビデオもまだ見せてもらってないよね。

元：運動会のもまだだな。

哀：要するに…。探すのが下手なのよね…。

小：はい…。

凜：「ほえー。哀ちゃん単刀直入だなー。」

小：だって、倉庫にあるビデオの数がとんでもなく多くって、ラベルの字も消えかかったりラベルが重なって貼ってあるのもあってどれがどれだか…。

哀：だから、そーいうの探すのが得意そーな江戸川君に見つけさせてもらおうってハラね…。

コ：ハハハ…。

ナ：視聴覚室

凜：ほえ〜。

光：確かにすごい数ですね…。

歩：先生が言ってた通りラベルが消えかかってたり、ラベルが重なって貼ってたりするのもあるよ。

光：年度別に整理されてないですし、探すのは大変ですね〜。

元：もう、諦めようぜ。俺たちは少年探偵団だから防犯ビデオなんか見なくても平気だよ！

哀：油断大敵よ、いくら用心していても自分の命を狙っている得体の知れない人物がいるケースだってあるんだから…。

コ：それって昴さんの事か？何なら探偵事務所で寝泊まりするか？

哀：イ・ヤ。

光：このビデオを片っ端からビデオデッキで見て行けばいずれ見つかると思いますけど…。

歩：えゝ。これ全部！？

凜：そんなの絶対無理だよゝ。

光：そんなこと言われても…。

コ：その必要はねえよ！

凜：え？

ファイル5 - 3 (後書き)

話の内容はできるだけ原作、またはアニメに近いものにしていきますが、凜を入れるためにセリフまでとはいかないのですいません。次はコナンの推理です！

ファイル5 - 4

コ：俺たち頼むって事は先生はここを一度探しに来てこの棚をチェックしたけど見つからなかったって事。ラベルの字が消えかかってるって言うっても読めねえ訳じゃねえし、そんな大事なビデオを上から重ね録りして別のラベルを貼るとは考えにくい…。

歩：じゃあ、どうして見つからないの？

コ：つまりそのビデオテープは棚に並んでるVHSじゃなく、どこかにしまわれてる…β（ベータ）テープの可能性が高いつてわけさ！ほら、あった。防犯ビデオ！

歩：合唱コンクールのビデオもあるよ！

哀：なるほど…。小林先生の担任の先生がβのビデオを愛用していたのね…。

凜：コナン君、すごい…。（正直、ビックリ）

ケ：ほんま、なかなかやりおるで。

凜：！ケロちゃん！？いたの！？（小声）

ナ：なんとずっと、凜の服の中に隠れていたのだ。

歩：凜ちゃん、今何か言った？

凜：え？あ、いや何も言っていないよ…。ハハハ…。

歩：そう…。

凜：ハハハ…。

コ：「こいつ…。大丈夫か…？」

元：ところでよお、そのβって何だ？

光：昔、ビデオにはVHSとβがあって負けて消えてしまったのがβと聞きましたか…。

コ：まあ、そのVHSもDVDやブルーレイの登場で消えかかっているけどな…。

元：でもなんで、β消えちゃったんだよ？

光：さあ、性能が悪かったんじゃない…。

千葉：そんな事はないよ！その当時、βはVHSより画質が良くてカセットのサイズも小さくて、マニアの間では大人気だったんだから！まあ、録画時間が劣っていた事もあって販売戦略で負けたんだけどね…。

光：ち、千葉刑事！

凜：ええっ！？刑事さん！？

コ：ああ、警視庁の立派な刑事だよ。

ケ：こんな、太ったやつが？

コ：おい…。

千葉：あれ、コナン君、その子は？

コ：あ、今日転校してきた井上 凜ちゃんだよ。

凜：よろしくお願いします。

千葉：うん、こちらこそよろしく。

光：で、何でこんな所にいるんですか？

千葉：防犯プロジェクトのチラシを配ってたついでに校舎の中をブラブラと…。俺、この卒業生だから懐かしくて…。

哀：だからって、視聴覚室に潜んでいた理由にはならないんじゃない？

千葉：いや、実はね…。

ファイル5 - 5

歩：ええっ！？13年前のラブレターの返事を探してた！？ホ、ホントに！？

千葉：ああ、俺、放送委員会でさ…。お昼休みに学校のニュースやリクエストを放送してたんだけど、試しに委員達で録画したミニドラマを流したんだ。そしたら大ウケでさ…。今度は実写で特撮ドラマを撮って学芸会で流そうってダメモトで提案したんだよ。

歩：へ…。

元：ダメだったのかよ？

千葉：いや、同級生の委員の女の子が張り切っちゃって、最初は乗り気じゃなかったほかの委員達もその子に乘せられて特撮ドラマは完成したよ。だから、てつきりその子が特撮がファンだと思って色々コアな話を振ったんだけど、全然乗ってこなくて…。だから、「本当に特撮が好きなの？」って聞いたら…。

その女の子：私が好きなのは特撮じゃなくて…。そんなの言わせないでよ、バーカ！

千葉：って、赤い顔で言われちゃって次の日思わずその子にラブレターを…。って、やっぱり思い違いだったかな？

ナ：千葉刑事は顔を少し赤くして言った。

光：いや、脈ありまくりですよ！

元：イケてんじゃないか！

歩：その子も好きだよ、千葉刑事の事！

千葉：そ、そう…？

凜：間違いないですよ！きっとその子も気持ちを伝えたいんじゃないかと思います！

千葉：やっぱり、そう思う…？

コ：哀・ケ以外：うん、うん！

哀：それで？何でそのラブレターの返事がこの視聴覚室の倉庫にあるわけ？

コ：もらって返事をここで無くしたとか？

千葉：あ、いや…。い、一応返事はすぐ後に手紙で届いて今も持つてるよ…。

歩：送られて来たって、直接手渡しされたんじゃないの？

千葉：その子急に転校する事になって、送別会の日慌ててラブレターを渡したから…。

光：引越先から郵送したんですね…。

元：でも、その手紙に返事が書いてあったんじゃないのか？

千葉：俺もそう思ってドキドキしながら読んだんだけど…。

凜：けど？

千葉：手紙には「私の気持ちを手紙に書くのは簡単だけど、千葉君には伝わらないかも知れないから、いったん視聴覚室の倉庫に隠しておきます。この思いが直接千葉君に刻み込まれるように…。」って書いてあって…。

千葉以外全員：え？

ファイル5・6（前書き）

原作通りにするため更新が遅くなってしまうですがご理解をお願いします。

ファイル5 - 6

コ：なるほど、この倉庫の中の千葉刑事だけが目にしそうな場所にその返事を隠したって事か。

千葉：ああ、読んだ後すぐにここを全部隅から隅まで探したけど手紙みたいなのは見つからなかったけどね…。

光：じゃあ、それ以来その子とは…？

千葉：13年間、一度も会ってないよ…。その子、同窓会にも来なかったしね。

ケ：随分、図々しい子やのう…。（小声）

凜：ケロちゃん！（小声）そんなこと言っちゃダメ！

コ：「こいつ、見た目によらず毒舌…。」

哀：はあ…。（呆れ）

元：じゃあ、何で今頃そんなの探してんだよ！

千葉：その彼女から電話があっただよ。「来週の同窓会に来られる？」って。行くつもりだって答えたら彼女…。昔の事で忘れちゃったかもしれないけど私の返事のビデオを見たって聞いて来たんだ…。

コ：「ビデオ…？」

哀：で、何て答えたの？

千葉：そりゃあ、見てないって答えたよ。そしたら彼女、そう…。
って言って電話切っちゃったんだ…。

歩：千葉刑事、ヒドーイ！

凜：そうだよ！

ケ：見た目通り情けないのう…。（小声）

千葉：しょうがないだろ、本当に見てないんだから…。

光：でも、待ってください！ビデオって事はもしかして、ビデオレターにしてこの中のどれかにダビングして隠したんじゃないでしょうか？

千葉：ああ、俺もそう思って探しに来たんだよ。あの時、ビデオの中身まではチェックしなかったし。

哀：それで、見つかったの？そのビデオレター…。

千葉：いや、俺が見そうなのをピックアップして早送りで見えていたんだけど、量が多くて…。で、その最中に君たちが来たって訳さ。

歩：じゃあ、みんなで探そうよ！

光：でも、あれを全部チェックするのは大変ですよ…。

哀：最初から最後まで見る必要はないわ。そんなビデオレターを入れるとしたら、もともと録画した映像の後に入れて見つかりにくくしてるだろうし。

光：そうか！ビデオデッキの終わりだけをチェックすればいい訳ですわね！

凜：哀ちゃん、すごい！

ケ：「ホンマにこいつ小学生か？しかし、まだ長くかかりそうやで」。

ファイル5・7

ナ：コナン達がビデオレターを探していた頃、またあいつが…。

謎：ほほう。ビデオレター探しか…。だったら、このカードで…。

ナ：そしてコナン達は…。

歩・光・元・凜・ケ：ファゝ…。

コ：「疲れるな、この作業…。」

ナ：見つからないまま数時間が経過していた。

千葉：これも違うか…。

哀：あといくつあるの？

千葉：今のが最後だよ。

歩・光・元・凜：ええっ！？

光：千葉刑事が撮った特撮ビデオが無かったですよね？

千葉：あの、ビデオは国上先生に取り上げられちゃったよ…。

歩：そんな…。

コ：「そっいや、放送部の顧問の先生、国上先生だったな…。」

千葉：でも、大丈夫。あの特撮ドラマは彼女との思い出として俺の頭の中にしっかり刻み込まれてるから…。なーんてね…。

ケ：「何やそれ…。」

光：あの、さっきから気になってるんですけど…。

元：ビデオテープのふた、何で開けてんだ？

ナ：実はここまで、ビデオを見終わり取り出すと千葉刑事はビデオテープのふたをチェックしていたのだ。

千葉：ああ、これは癖だよ。俺の兄貴、レンタルビデオ店でバイトしてた事があつてさ。で、返却されたビデオが最初に巻き戻されてるか、ここを開けてチェックするように言われていたらいいんだけど、兄貴、それが癖になって家でも見終わったテープのふたを開けててね、その仕草がかつこ良くてマネしてたら俺にもその癖がうつっちゃったって訳さ。

コ：その癖っていつから？

千葉：小学校の3、4年の頃かな…。

コ：その特撮ドラマを撮ったのは？

千葉：6年生の夏だよ。その後、すぐに彼女が転校して…。

ナ：すると、コナンが棚に向かい始めた。

コ以外：！？

ファイル5 - 8 (前書き)

2011年9月3日現在、残酷な描写ありタグを解除しました。
理由はそれが事件次第によるからです。(ここまではほとんどなかったため)

ファイル5 - 8

コ：灰原は筆とコップに入れた水を、おめえらはラベルが重ねて貼ってある古いビデオを棚から抜き出してくれ。

歩・光・元・凜：え？

コ：国上先生、むかしから隠顕^{いんけん}でドケチで有名だったから、没収したビデオをすぐに重ね撮りして消しちまってるだろうからな。

光：昔からって、何で知ってるんですか？

歩：一年生なのに…。

ナ：コナンはすっかり新一のときの事を言ってしまった。

コ：ま、まあいいじゃねえか…。

ケ：「いや、良くは無いで…。何でこのガキが昔の先生の事を知ってるんや…。」

ナ：今の発言でケルベロスはコナンを少し怪しく思った。そして、4人はビデオを取り出していった。そしてその後…。

哀：結構あるわね…。

歩：またこの中身をチェックするの？

コ：いや、こうやって水で濡らした筆でラベルをなぞると下に書い

てあるラベルの文字が浮き出て…。あ、一発的中！これだな、千葉
刑事の特撮ビデオ。

光：でも、「仮面バイヤー」って…。

元：「仮面ヤイバー」のパクリじゃんか…。

歩：これにビデオレターが入ってるんでしょ？

コ：いや、千葉刑事がビデオテープのここを開ける癖をその子が知
っていたなら、おそらくメッセージはここを開けると露出するテー
プに…。

ナ：しかしテープには何も書かれてなかった…。

歩：あれ、何も書いてないよ？

凜：どう言う事？

コ：え…。マジ…？

ケ：「頭キレると思ってたけど、ただの思い違いだったか…。」

ファイル5・8（後書き）

用語解説 「仮面ヤイバー」…少年探偵団が見ているヒーロー物のアニメのキャラクター。声の出演は元太、高木刑事役の「高木 渉」さん。

ファイル5 - 9

元：なんだよ、コナン何も書いてねーじゃんか。

コ：「おつかしーな…。十中八九ここにメッセージが書いてると思っただのに…。」

歩：やっぱりこの中にビデオレターが入ってるんだよ。

光：そうですねとりあえず再生して見ましょう。

ナ：まあ、結局ビデオレターは見つからなかった。

哀：何も入ってなかったわね…。

光：もしかして、重ね撮りした時に消えてしまったんじゃない…。

千葉：それは無いよ、重ね撮りされた後に特撮ドラマの最後がちよっと残ってたけど、その後ろには何も入ってなかったから…。あ、そう言えば特撮ドラマのラストシーンにその子がちよっと映ってたよ。

ナ：画面にはその女の子が映った。

歩・光・元・凜：かわいい！

千葉：だろ？「三池 苗子」って言って、クラスの男子はみんな夢中だったよ。

歩：うん。でも…。

元：無いな…。

光：ええ、アイドルみたいな子が千葉刑事を好きになるなんて…。

凜：言えてる…。

ケ：「やろっの〜。」

千葉：おいおい…。

歩：本当にこの子に好かれてたの？

光：好意を持たれるような事、した覚えあるんですか？

千葉：そ、それがそんなことした覚えが全く無いんだよな…。一度泣かせちゃった事があつたくらいで…。

哀：いじめたの？

歩：ひど〜い。

凜：なんか、ちょっと怪しくなってきた…。

ケ：「せやのう…。」

千葉：あ、いやいじめたわけ訳じゃなくて…。

ファイル5 - 10

千葉：いや、いじめたわけじゃなくて突然泣き出したんだ。確かあの日は、放送委員の仕事で帰りが遅くなったんだけど、横断歩道の所で彼女が泣きだして…。

三池 苗子（以後・苗）：千葉君のばか！大嫌い！

千葉：って言うて走って帰っちゃって…。何かその日は早く帰りたいかったみたいだったけどね。

光：じゃあ、無理に引きとめて…。

元：チューしようとしたんじゃないのか？

歩・凜・千葉：えーっ！？

千葉：そ、そんな事する訳が無いだろ！

哀：となると、その子に何か言ったのね…。

コ：その時なんて言ったか、覚えてないの？

千葉：さあ、確かあの時…。走り去るその子を追いかけて転んで手の甲をざっくり切って怪我したことは覚えてる。

歩：そっか！じゃあその時にその子が千葉刑事の手当てをして…。

千葉：あ、いやその子転んだ俺に気付かずと言っちゃったから…。

歩：あ、そうなの？

千葉：あ、でもその時の傷後なら手のひらのここにまだ刻まれてるけどね。

コ：「刻まれる…？そう言えばその子の手紙にも書いてあるって言ったたな…。「この思いを直接千葉君に刻み込むために」って。直接刻み込むって事は体のどこかに…。あっ！なるほどそう言う事か！」

ナ：コナンはビデオデッキからさっきのビデオを撮りだした。

歩：もしかしてコナン君…。

哀：分かったみたいね…。

凜：え？そうなの？

コ：ああ、分かったよ！千葉刑事が子供の頃から汗っかきって事だね。

千葉：え？

光・元：はあ？

ケ：「こいつ、何言ってるねん…。」

ファイル5 - 11 (前書き)

今回は原作と違い、さくらカードが出て来て違う展開になります。
(ここが違う所です。)

ファイル5 - 11

謎：じゃあ、そろそろ…。闇のシルクハットよ、ビデオを動かせ…。
「移」^{ムーブ}…。

千葉：確かに汗っかきだったよ。元太君には負けるけど、メタボってたから。

元：えっ…。

光：それが、何か関係があるんですか？

コ：まあ、大有りだな。じゃあ教えなきゃな、そのメッセージの場所を…。

凜：「あっ！あの気配を感じる！」

ケ：「これは…！」

ナ：その時だった、そのビデオテープが突然消え去った。

コ：あれ！？

光：え！？ビデオが消えましたよ！？

歩：あ！棚の上に移動してる！

ナ：さっきのテープのラベルが貼ってあったので同じテープなのは間違いない。

哀：どついつ事！？

千葉：とにかく、取ろう。

ナ：と言う訳で取るわけだが…。凜がコナンに話しかけた。

コ：凜、どうした？

凜：あの強い魔力を感じるわ。

コ：何！？

ケ：間違いないで、あの感じは…。

ナ：すると、3人がビデオテープを撮ろうとした瞬間…。

シュン！

光：ええっ！？また消えましたよ！？

元：んな訳ねーだろ、棚の裏にでも落ちちゃったんじゃないのか？

千葉：いや、後ろには何もないよ…。

歩：あ！窓の所に！

ナ：テープは今にも落ちそうだ！

光：早く取らないと！

ナ：3人が窓に近寄る。しかし、

シュン！

歩：ウソ！？また消えちゃった！？

千葉：そ、そんな…。

ナ：千葉刑事、ショックでその場に倒れこむ。

歩：あ！千葉刑事！

コ：あ！よく見ると木に引っ掛かってるだけだぞ！

凜：急がないと…。

ファイル5-11（後書き）

思いつきし、違う展開ですが最後は大丈夫にしておきますので安心して下さい。

ファイル5 - 12

コ：よし行くぞ！

元：よし俺達も！少年探偵団出勤！

光・歩：おー！

ナ：6人はショックで立ち直れない千葉刑事を置いて、視聴覚室を出た。

コ：おい、あれは何なんだ！？

凜：その前にこのままじゃカード使えないよ！

ナ：どうやらカードの仕様らしいが元太達がいるためこのままではカードを使えず、どうしようもない。

ケ：あそこのトイレで使えばいいやん！

凜：あ、そうか！

ナ：この問題はすぐ解消された。久々にあの呪文の登場である。

凜：星の力を秘めし鍵よ、真の姿を我の前に示せ。契約の元、さくらが命じる、封印解除^{リリース}！

コ：あ！さくら！

凜：まずは…。彼の者を眠らせよ、「眠」！^{スリープ}

ナ：そう言っと、カードから妖精みたいなのが出て来て粉をまき散らした。

光：あれ、何だか…。

歩：眠くなってきた…。

元：あ…。

ナ：3人は倒れこんで寝てしまった。その後、眠はコナン達も眠らせようとした。だが凜が慌てて止めた。

凜：待って！この人たちはいいから！

ナ：そう言っと、眠はカードに戻った。

コ：スゲーな…。お前の魔法。「俺の時計型麻醉銃よりすごいぜ…。」

凜：いや、すごいのはクロウさんだよ。

コ：クロウ？

哀：もしかして、「クロウ・リード」の事？

コ：「クロウ・リード」！？あの、すごい魔術師のか？本当だったんだな…。

凜：まあ、とにかく今は急がないと！あのカードはイタズラ好きだから、早くしないとビデオ取り返せなくなっちゃう！

コ：ああ、そうだな、行くぞ！

ナ：そう言つて、コナン達は眠つてゐる3人を置いて、外に出た。

ファイル5 - 13

コ：で、あれはなんのカードなんだ？

ケ：あれは、「移^{ムーブ}」のカードや。

哀：じゃあ、どんどんビデオを持って行っちゃうんじゃ…。

ケ：それは無いで、移^{ムーブ}つてもあんまりいっぺんに遠くまで移動する事は出来へんし、動きも遅いねん。

コ：じゃあ、急げばまだ間に合うって事か！

ケ：そう言うこっちゃ！

凜：あった、ビデオ！

ナ：さっきまで木に引っ掛かってたビデオは校門の所にあった。

コ：よし、じゃあ伸縮サスペンダーだ！

ナ：コナンは伸縮サスペンダーを取り出し、ビデオの方向に飛ばした。しかし、すぐに消えてしまった。

コ：チッ！

凜：よし、だったら…。「跳^{ジャンプ}」！

ナ：凜の靴に羽根が付いて凜は今度は家の屋根についたビデオを追

いかけたが、また消えた。

凜：あ、そんな！

ファイル5 - 14 (前書き)

いつの間にかこれまでで一番長くなってる…。

ファイル5 - 14

ナ：その後二人はビデオを追いかけて続けたがなかなか追いつけなかった。そんなこんなで数時間後。

コ：はあ、はあ、あいつすばしっこいな…。

凜：ほえ…。もう限界…。

ケ：さくら！あんた、自分のカードを捕まえられなくてええんか！？

凜：それは…。

ケ：確かに、今さくらは体が縮んでもうてる。せやけど、自分のカードを捕まえないんじゃ、カードキャプター失格やで！

凜：そんな…。

ケ：今、さくらは何も出来ない訳や無い。謎の人物になんか負けたらアカンで！

凜：ケロちゃん…。うん！

ケ：よっしゃ！その意気や！

コ：なあ、お取込み中申し訳ないが…。

凜・ケ：ん？

コ：移^{ハイブ}はいいのか？いま、あそこにいるけど。

凜：ケ：あ。

哀：はあ…。もうすでに心配ね…。

ナ：コナンの指差す先は米花公園の噴水だった。

ケ：ん？そう言えば、移は確か消えてても魔力や気配を消すことは出来ひんかったの…。

凜：あ、そう言えばそうだったね…。

コ：…と言うと？

ケ：これはアイツを以前に捕まえた時の話なんやけどな…。

ナ：ケルベロスはその話をした。

哀：じゃあ、そうすればまた捕まえられるかも！

ケ：そうや。謎の人物に操られてるっちゅうても、意志までは動かす事はおそらく出来ひんで。

凜：よし！じゃあ、やって見るよ！

ファイル 5 - 1 4 (後書き)

そろそろ、原作のストーリー方面に戻します。

ファイル5 - 15

コ：じゃあ行くぞ。

凜：うん。

ナ：コナンはキック力増強シューズを起動させ、どこでもボール射出ベルトからボールを出し、そのボールを移^{ムーブ}に向けて蹴った。

コ：いつけー！

ナ：でもやっぱりよける。ボールは木にすごい勢いでぶつかった。かなりぶつかった跡がある。

凜：ほえ〜。すごい…。

ケ：何見とれてねん！はよう！

凜：あ、うん！

ナ：凜は目をつぶった。

凜：「ど」…。一体ど「」…。」

ナ：今、凜は移の気配を感じ取ろうとしている。そして今、凜の脳裏には道路の車の音、カラスの鳴き声、公園にいた子供たちの声などいろいろな物が過^{よぎ}っていく。

凜：「…」。あ！見えた！「風よ、戒めの鎖となれ。」「風^{ウインディ}」！

ナ：そして移は風に捕えられた。それでも抜けようとする移はビデオから抜け出した。

凜：だつたら……。「凍^{フリーズ}」！

ナ：凍の手により移は今度こそ捕えられた。そしてカードに戻った。

凜：やったー！

コ：ふう……。

哀：ビデオは……、無事みたいね……。

コ：よし、じゃあ戻るぞ！

凜：うん！

ケ：せやな。魔力も消えたし、もう大丈夫やろう。「しかし、何が目的やねんその謎の人物は……。」

謎：フツ……。まあ、そんなもんだらうな。次はどうしようかな……。くつくつくつ……。

ナ：そんなこんなで、4人（3人と1匹？）は帝丹小学校に戻って行った。

歩：あ、コナン君！

光：3人とも心配しましたよ…。僕達が目が覚めたらいなくなっていたんですから。

元：本当だぜ…。

コ：まあいいさ。さあ、千葉刑事に見せようぜ。

歩：光・元：うん！

ナ：そして、ショックを受けている、千葉刑事のいる視聴覚室に戻って行った。

ファイル5 - 15 (後書き)

次回から、原作に戻します。

名探偵コナンにじファン検定 第3問

アニメ・原作からの問題

「ホームズの黙示録」(原作71～72巻・アニメ616～621話)でコナン達が行った国は？

ロンドン「E」	イタリア「W」	ニューヨーク
「T」		

「」の中がキーワードです。正解と思った答えのキーワードをメモしておいて下さい。

ファイル5 - 16

千葉：はあ…。ん？コナン君達か。あ！それは！

コ：うん、ちゃんと取って来たよ！

千葉：あ、良かった…。

ナ：千葉はほっとした。

コ：じゃあ、ラブレターのありかを探ろうか。

凜：確かさつき、コナン君が千葉刑事が汗つかきつて言つて…。

光：僕がそれがどう関係してるのか聞いたんですよ。

コ：ああ、その通りだ。このふたを開ける時、必ずビデオテープの側面に手を添えるだろ？そこにその子が水性ペンでメッセージを書いていたんだよ。そのメッセージが汗つかきの千葉刑事の手のひらに刻み込まれるように。もちろんちゃんと読めるようにね文字を逆さに書いてね。ほら、ふたを開けた僕の手のひらに赤いインクが付いているのがその証拠！

凜：本当だ…。

哀：なるほど、黒い側面に赤い水性ペンで書いても見えないし、普通触らない場所だから他の人に読まれる恐れも無いって事ね…。

光：でも13年も経ってるから読めるかどうか…。

コ：大丈夫。こうやってちぎった紙を水に濡らして、ビデオテープの側面に張り付けてそいつを剥がすと13年前のその子のメッセージが蘇^{よみがえ}るって訳さ！

千葉：あ…。

「私も好き」

光：私も好きって書いてありますよ！

歩：両想いさんだ。

元：すげ〜！

凜：うん！うん！

ケ：ホンマやで！（小声）

哀：その子も来る同窓会っていつなの？

千葉：こ、今晚だけど…。

歩：じゃあ、行った方がいいんじゃない？

千葉：でもな…。今さらメッセージが分かったって言っても…。

小：いいえ、行くべきです！

全員：え？

ナ：なんと、小林先生が柵の後ろから姿を見せた。

小：13年前の思いがやっと届いたんですよ。嬉しくない訳無いじゃないですか！

千葉：こ、小林先生！

小：すみません、話聞いちゃいました…。

凜：ずいぶん言うわね、この先生…。

コ：まあ、この間いろいろあったから。

凜：え？

歩：うん、そうだよ！

凜：ほえ？

ケ：「しかし、やっぱりこいつただ者や無いのう…。」

ナ：ケルベロスはコナンも見てそう思った…。そして、千葉刑事は同窓会へ車で向かった。あの子の言葉を思い出しながら…。

苗：私が好きなのは特撮じゃなくて…。そんなの言わせないでよ、バーカ！

ファイル5 - 16 (後書き)

ごめんなさい！時間が来たので今日はここまでです…。でも、またすぐに書きますのでご信望を！

ファイル5 - 17

ナ：そして、千葉刑事は同窓会の会場に着いた。

千葉：えっ！？三池さん、来てないの！？

千葉の知り合いの女：ええ、急用が出来たって。念願かってやっ
と好きな人と一緒になれたってノリノリだったんだけどね。

千葉：い、一緒になれたって！？

女：さあ、結婚でもしたんじゃないの？

千葉：あ…。

ナ：その言葉は千葉刑事に大きなショックを与え、涙が出て来た。
そして、そのまま千葉刑事は車に戻って行った。

千葉：「子供たちになんて報告しよう…。」ん…？あっ！

ナ：何と車のそばに交通課の婦警がいた。写真を撮っている。おそ
らく、駐車禁止だ。

千葉：「あちゃー、駐禁か…。彼女の顔見たらすぐ泊め直しに行く
つもりだったけど、ショックでとぼとぼ歩いてたからな…。」

婦警A：あの…。

千葉：ん？

婦警A：いいですよ、まだデータ送ってないし、エンジン掛けっ放しだったからすぐ戻るつもりだたんでしょ？

千葉：ええ…。

婦警A：それに刑事さんなら、止む無く止める場合もありますし…。

千葉：ダ、ダメだよ！いくら刑事だからって、駐禁は駐禁！ちゃんと取り締まらないと！

婦警A：…。

千葉：まあ、捜査で泊めた訳じゃ無いしね、じゃあ違反金払って来るから放置車両確認書をくれる？

婦警A：あ、はい！

ナ：その後千葉刑事は違反金を払って車で帰って行った。

千葉：あんな事行っちゃったけど、痛いなあ違反金1万5000円…。でも、何でわかったんだ？俺が刑事だって…。

ナ：その頃さっきの場所で…。

婦警B：どうしたの、今の駐禁男にいちやもんでも付けられた？

婦警A：あ、いえ。

婦警B：それより本当にいいの、同窓会に行かなくて。

婦警A：ええ、私ずっと同窓会に出られなかったから、行っても気まずいかなって思っちゃって。それに、一番会いたい人には会えませんでしたから。まあ、向こうは私の事すっかり忘れちゃってたみたいですね。

婦警B：あ、それってもしかして本庁にいる幼なじみの刑事さん？

婦警A：はい、今度私、本庁に転属される事になって、やっと一緒に職場になれるから彼に会って私の事覚えてたら、告るつもりだったのに…。やっぱ、人生そんなに甘くないですね。

婦警B：ったく、こんなかわいい子を忘れちゃうなんて、そんな口でもない男ほつときなさいよ。

婦警A：口くでもない事無いですよ、相変わらず童顔でかわいいし…。

婦警B：ほ…。

婦警A：「それに、末っ子で親にとってもかわいがわれてて、怒られた事が一度も無い私に彼はあの時…。」

ナ：そのあの時とは、千葉刑事が説明したあの時である…。

ファイル5 ラスト

ナ：さっきの話の時…。

．．．．．

苗：じゃあ、私、先に帰るね。見たいテレビあるし。

ナ：その時千葉刑事は彼女の手を掴んだ。

千葉：だめだよ、渡っちゃ！

苗：え…。

千葉：信号、赤だぞ！

苗：いいじゃない、車一台も通って無いし、誰も見てないんだから…。

千葉：俺が見てるよ、それに自分だって見てる！一度自分を甘やかしてルールを破ると癖になっちゃうんだぞ！癖は止めようと思っても止められなんだぞ！お前、そんな事も分かんないのかよ！

苗：ううつ…。うえゝん…。

ナ：そして、苗子は泣いてしまった。

．．．．．

婦警A：「ホント、変わってないね、千葉君。」

エンディング「Your Best Friend」Song
by 倉木麻衣

エピソード

ナ：翌日。

歩・光・元・凜：えっ！？

歩：フラれたの？

千葉：え、まあそう言う事になるかな…。

元：マジかよ…。

光：やっぱり高嶺の花だったんですね…。

ケ：「やっぱり情けないのう」。

コ：おい。

白：何してんだい、聞き込みの続き行きますよ。

千葉：あ、はい！この事は内緒だからね…。

千葉以外：はい…。

ナ：すると、すぐそこをミニパトが通った。

宮本 由美（以後・由）：へへっ、いい事聞いちゃった…。美和子に教えちゃお。

婦警 A：あの、誰かにフラれたって事はフリーって事ですよね。

由：え、ええまあ…。えっと…貴方、名前は？

婦警 A：杯戸署から転属された、「三池 苗子」、よろしくです！

ナ：彼女は堂々を笑顔を見せたのであった。

ファイル5 完

ファイル5 ラスト（後書き）

いやゝよかった！今後、二人がどうなるか注目です！
なお今回の話は

原作：71巻・File 1、2

アニメ：624話「初恋のビデオレター」からの作品です。
次回ファイル6は友枝小学校サイドの予定です。それでは！

ファイル6 - 1 (前書き)

言い忘れてましたが、アニメのエンディングが変わったことに伴い、こちらの小説もエンディングを変えました。個人的にはなかなかいい曲です。

ファイル6 - 1

オープニング 「M i s t y M y s t e r y」

ナ：コナン達がファイル5の事件を解いていた頃、鏡はさくらの代理として学校に通った。そしてそれから数日後、知世が退院し学校に戻って来ていた。そして今回はそんな学校の様子をお送りする。

鏡：^{ミラー}これで3日目…。ふう…。

利：何が？

鏡：あ、いや何でも…。「危ない…。」

ナ：まだ、鏡は学校に慣れてなかった。以前にさくらの身代わりをしたとは言え、カードだった身ではいまいち現実には慣れない。

知：さくらちゃん…。あ、今は違いましたっけ…。

鏡：…。

知：さくらちゃんの身代わりご苦労様です。

鏡：いえ、いいんです。さくらさんがピンチだから今こうしているだけですから…。

小狼：…。「本当に大丈夫ならいいんだが、あの謎の人物が何もしないとは限らないな。ま、何かあったらすぐ電話すれば来てくれるって言ってたから何とかなると信じるしかないな…。」

寺：よし、みんな席に着け。

ナ：こうして、また友枝小学校でも学校生活が始まっている。まあ、すぐ後に何か起きそうな予感がするが…。

ファイル 6 - 2

謎：そろそろ、あの人格復活だな。

ナ：体育の時間、男子女子混合のドッジボール

生徒A：それ！

生徒B：なんの！おりゃあ！

生徒A：うわっ！

生徒C：パス！

鏡^{ミラー}：あ、はい！

生徒D：よし！今だ！

鏡：知世ちゃん！

知：あ！

ガン！

生徒D：あ、ヤバ…。

ナ：運悪く、知世の顔面にボールが当たってしまった。その時だった。

カチツ…。

鏡：え？「カチツ」…？

生徒D：ごめん、大道寺さん…。

知：おい…。

一同：…！？

知：よくも、アタイの顔面にボールぶつけたな…。

千：え、知世ちゃんどうしたの！？

知：ごめんで許すか…！…！…！

生徒D：うわっ！

生徒E：おい、ちょっと止める！

利：知世ちゃん！

鏡：知世ちゃん、やめて！

知：知るか！こいつ、許せねえんだよ！

生徒C：誰でもいいから止めてくれ…！…！…！

ナ：なんと、あの二重人格がまた動き出したのだ！さらに、ボールが当たった事でケンカになってしまった…。

小狼：一体どうなってんだよ…。伝えたいが、今伝えてもどうにもならないな…。

ナ：今は学校の時間、電話してもコナン達も授業中だから、駆け付けようがなかった。

小狼：とにかく、今は止めなきゃな…。

生徒D：だ、誰か助けて！

生徒B：先生、こっちです！

寺：大道寺、どうした！？やめるんだ！

知：うるせー！

ワーワー！

ナ：体育の時間はケンカを止めるだけで潰れた…。

ファイル 6 - 3

ナ：体育の時間から数時間後、保健室にて。

千：知世ちゃん、一体どうしちゃったんだろう…。

利：あんな知世ちゃん、見た事無いよ…。

奈：でも、突然人格が変わるなんて面白いよね。

利：そうかな…。

貴：二重人格って言うのはね。

千：こんなタイミングでやらないの。

鏡：…。

小狼：お前も、何か感じたのか？

鏡：お前もって、小狼さんも感じたんですか？

小狼：ああ、おそらく今の大道寺は…。

知：ん、ここは保健室か…。

ナ：知世が目を覚ました。まだ人格は戻っていない。

利：あ、知世ちゃんが起きたよ。

千：知世ちゃん、一体どうしちゃったの。

知：ああ…。それもあるけど、アタイと殴り合いになったアイツは？

貴：ああ、あの子（生徒D）なら負傷せずに済んで、さっき教室に戻って行ったよ。

知：そうか…。良かった。

ファイル 6 - 4 (前書き)

話短くてすみません。

ファイル6 - 4

ナ：さっきの会話からしばらくして…。

コ：で、知世おねえちゃんがまた、おかしくなったんだっけ？

小狼：ああ、そう言う事になる。

ナ：小狼の電話でコナンと哀と凜とケルベロスが駆け付けた。

凜：知世ちゃん大丈夫？

知：大丈夫、つて言っても間違いだな…。

ケ：どうなっとんねん…。

哀：で、これがその謎の人物のせいかもしれないっていうの？

小狼：その可能性もあるんだが…。もう一つの可能性があるかもしれない…。

コ：もう一つの可能性…？

ケ：なんや、この感じは…。

凜：うん、感じるよ…。

知：な、何を…。

哀：よく分かんないけど…。

鏡^{ミラー}：私も気づきました。

知：だから、何を！？

小狼：あくまで可能性でしかないから落ち着いて聞いてくれ。言う
とすれば…。

知：ゴクリ…。

小狼：お前、魔力が出来てるぞ…。

コ・哀・知：！

謎：その通りだ…。早速それを実感してもらおう…。闇のシルクハ
ット頼んだぞ…。

凜：あ！

ケ：この気配は…。

小狼：奴のだ！

知：何か感じる…。

コ…！

哀…どうやらそうらしいわね…。

ファイル 6 - 5

ナ：謎の人物の魔力を感じ、全員校庭に向かった。

コ：これは…。

ナ：校庭は嵐のようになっていた。砂は吹き荒れ、木の葉はたくさん落ちて行く。

ケ：これは、「嵐」^{ストーム}のカードだな。厄介なのを操りおったで…。

コ：え、それって…？

ケ：嵐は竜巻^{ストーム}の中心に攻撃して、弱らせんとカードに戻せへんのや。以前に小僧（小狼の事）が捕まえる時も封印は困難やったで。

小狼：とにかく倒すしかない！

凜：うん！

ナ：そう言って、凜は星の鍵を取り出した。

凜：星の力を秘めし鍵よ、真の姿を我の前に示せ。契約の元、さくらが命じる。封印^{リリース}解除！

謎：それでいいのだ…。行け！

ナ：その謎の人物の言葉で、嵐は動いた。まずは、凜に近づいた。

凜：「盾」^{シールド}！

ナ：嵐の攻撃は防がれた。そして、凜は反撃に出る。

凜：「凍」^{フリーズ}！

ナ：しかし、嵐は凍^{フリーズ}の攻撃を弾き飛ばした。それは凜に当たりそうになる。

凜：ほえ〜！「盾」！

ナ：ぎりぎり防いだ。

凜：ふう…。

コ：なら、これだ！

ナ：コナンはキック力増強シューズでサッカーボールを蹴った。でも、やはり弾き飛ばされた。

コ：やっぱりだめか…。

ナ：ケルベロスと小狼も攻撃したが、どちらも効かず…。その時だった！

凜：こっちに来る！

小狼：うわっ！

コ：しまっ…。

ケ……！

ナ……知世と哀以外、嵐の中に巻き込まれてしまった！

ファイル 6 - 5 (後書き)

今回の話は博士抜きです。あと、小狼の攻撃の名前が分からないので省略してます。ごめんなさい…。

ファイル 6 - 6

知：みんな！くっ…。

哀：あ、カードが…。

ナ：哀の指差す先にカードが一枚落ちていた。凜が嵐に巻き込まれる時に偶然落ちたのだらう。

知：矢…？

哀：「アロー」って読むんじゃない…。

知：確か、矢が出てくるカードだったな…。ん？

ナ：知世は嵐をよく見た。すると、下の中心部分が無防備になっている。

知：もしかしたら、このカードで攻撃すれば…。

哀：でも、貴方じゃ使えないんじゃない…。

知：そうだった…。

謎：くっくくく…。こんな感じがいいな…。

ナ：誰もがあきらめかけていた時だった。矢が光っている。

知：何だこれ…。

哀：一体何が…。

謎：これは…。はは、まさかな…。

ナ：何故か、謎の人物は動揺していた。そして、そんな事をして
いる間に矢は実体化した。

知：…！

哀：これが矢の姿…。

ナ：すると…。

？：…あんたが呼んだのか？

知：え…。

？：…だから、あんたが私を目覚めさせたのかって聞いてんの！

知：矢、お前…。喋れたの？

矢^{アロ}（以後・最初のみフリガナ付き）：何か知らないけどね…。

ナ：何故か、矢が目覚めた。

ファイル 6 - 6 (後書き)

そろそろ今回も解決です(予定)。

ファイル 6 - 7

知：なあ、お前なら嵐ストームに攻撃できるか？

矢アロー：まあ、出来なくはないけど…。なんで？

ナ：事情説明中。

矢：そうか…。さくらがヤバいんじゃない。なんで私が目覚めたかは知らないけど、カードの主を倒す奴は許さないよ…！

知：ありがとな！

ナ：そして、矢アローは嵐に攻撃を仕掛けた。嵐はそれに気づいたのか、逃げだした。

矢：もう一度！

ナ：さつきより多くなっているたくさんの矢やが嵐に襲い掛かった。無防備なわりにはまだしぶとい。

矢：なかなかうまくいかない…。

ナ：矢は心が折れそうになる。

知：これはヤバい…。何かいい手立ては…。あ！

哀：どうしたの！？

知：奴は矢に気を取られている。だったら、こつちも攻撃すれば…。

哀：あ、そうか！

ナ：と言う訳で二人とも実行に移る。

知：これでもくらえ！

ナ：知世は近くにあった石を投げた。しかし、嵐には全然効かない。それでも知世は攻撃を続けた。

知：よし…。哀！

哀：それっ！

ナ：哀はホースで水を放水した。嵐に直撃するがこちらも全然効かなかった。

矢：二人とも一体何を…。

知：「よし、これでいいんだよな…。」矢！今だ！

矢：あ！そう言う事ね！よし！

ナ：矢はその言葉を聞き、攻撃を仕掛けた。嵐はそれに気づくが二人に気を取られてたため反応が遅れた。そしてそのまま、矢の矢は嵐に命中した。

グオオオオオ！

ナ：嵐は弱体化し、コナン達を追い出した。嵐自身はカードに戻った。

知：やった！

哀：危なかったわ…。

矢：ふう…。

ファイル6 ラスト

ナ：しばらくして、嵐^{ストーム}から追い出された4人（3人と1匹？）は気が付いた。

凜：あれ、わたし達助かったんだ…。

コ：なんでだ…。

知：それは、アタイ達が助けたからさ。

凜：そうなんだ。ありがとう！

知：まあ、いいさ…。

ケ：ん？なんで、矢^{アロー}がおんねん？

矢^{アロー}：あ、何か知らないけど突然目覚めて…。この子達から、主^{あるじ}がピンチって聞いて…。

小狼：え、それってどういう事だ？

知：たまたま、矢のカードが落ちてて突然光り出して…。

矢：私的にはこの子が目覚めさせたのかと思うんだけど…。

ナ：矢は知世を指差して言った。さらにケルベロスがある可能性を述べた。

ケ：まさか、知世の魔力ちゃうか？

一同：！！？

ケ：知世の魔力は他人の物のハズのさくらカードを発動させるそう
いう特殊な力かもしれへんのや。

凜：それってすごい事だよ、知世ちゃん！

知：アタイにそんな力が…。うつ…。

凜：知世ちゃん！？

カチツ…。

凜：ほえ？

知：また頭痛がしてしまいましたわ…。

コ：元に戻ってる…。

知：まあ…。

小狼：魔力も消えてる…。

矢：あ、そろそろ戻らなきゃね。

ナ：矢は光ってた。そのままカードに戻った。

ケ：そういや、矢は確か少女ばい姿やったけど、喋れへんかった。

これも知世の力なんかいな？

小狼：今、カードに戻ったのも知世の性格が戻って魔力が消えたからなのかもしれないな。

凜：そっか…。

コ：謎の人物の目的がまだよく分かんないぜ…。

哀：ますます、気になるわね。その謎の人物…。

小狼：…。「こっちはこっちで気になるんだけどな…。」

謎：まさか、こうなるとはな…。

鏡^{ミラー}：みんな遅い…。

ナ：鏡は保健室で一人置いてけぼりにされていた…。（誰もいなくなっ
て問題にならによつにと言われて。）

エンディング 「Your Best Friend」

ファイル6 完

ファイル6 ラスト（後書き）

次回、ぜっきょオペルーム絶叫手術室の話を書いていく予定です。

重大発表（前書き）

毎度大好評のこの小説より、今回重大発表があります。

重大発表

凜：突然呼び出してなんだろう？

小狼：さあな。

知：気になりますね。

蘭：本当ね。

小五郎：全くだぜ…。

他：気になる。

重大発表？

何なんだ？

ナ：コナン入場。

コ：みなさん、本日はこの記者会見にお越しいただきありがとうございます。それでは早速重大発表と行きましょう。

小五郎：早くいえよ、コナン！

コ：まあまあ、落ち着いて。今回この小説は好評で週間アクセス数が650件を超えました。もうすぐ1000件行きそうです。

凜：で、それが？

コ：そこで、週間アクセス数が1000件に達した時に、ある企画を行おうと思っています。

小五郎：何？一体何をする気だよ？

コ：それはまだ言えません。実際にそうなってから発表いたします。それでは。

小五郎：おい！ちょっと待てよ！

ナ：コナンはこの場を立ち去ろうとした。

知：それってどういう事ですか？

凜：教えてよ！

小五郎：おーーーーーい！

重大発表（後書き）

「小」を小林先生に使ってたのを忘れて小五郎にも「小」を使ってしまった。これからは小五郎でいきます。ごめんなさい。なお、これまでの部分はその後、修正いたします。

なお、この企画は1000件を達成出来たらにやろうと思う事であり無理矢理なアクセスを頼むものではありません。ご理解お願いします。

ファイル7-1（前書き）

今回の話、あの人がショックだらけに！？

ケ：誰なんや！しかもさっきの重大発表はなんやったんや！？

作者（以後・作）：それはまだ教えられないな。まあそれも今回もどちらもちゃんと見なさい！

ケ：何やそれ！

今回は殺人事件ですので残酷描写アリです。苦手な方はご注意下さい。

ファイル7-1

ナ：7月下旬、コナン達は小五郎の母校の米花大学に来ていた。

司会の女性A：では、ご紹介いたしましょう。この米花大学のOBであり、名探偵でもある毛利小五郎さんです！

小五郎：どーも！

司会の女性B：どうですか、久々の母校は？

司会の女性A：やっぱり、懐かしいですか？

小五郎：ええまあ、相変わらず校舎はばろい。んが、美人は多いですね！あはははは！

凜：ほえ…。（注：ドン引き）

蘭：まったく、母校の学際で講演するっていうから覗きに来てみたら、やっぱり目当ては女子大生だったのね…。

鈴木 園子（以後・園子）：まあ、いいんじゃない？こつ言つ所でたまに羽を伸ばすとかさ。

コ：「伸びてるのは鼻の下だな…。」

園子：で、そう言えばこの子が新しい居候だっけ？

蘭：ええ。

凜：初めまして。「井上 凜」です。

園子：よろしく、まさかメガネのガキンチョと何かあるんじゃないの？

凜：あ、いえそんな事はないですよ！（赤面）

コ：「園子、テメー。」

園子：で、蘭の方はロンドンで羽を伸ばせたの？偶然、新一君と会ったってメールに書いてあったけど。

蘭：あ、うん。まあね…。

園子：まさか、あんたらアタシに言えないような事したんじゃないでしょうね？

蘭：な、何よそれ！

コ：口、ロンドンって言えばさ…。

園子：うつさいわね！口挟まないでくれる！？これはガキンチョには関係ない大人の話なんだから！（怒）

コ：「関係大有りなんだけど…。」

園子：ま、どうせあのホームズオタクの事だから、散々ホームズの話を読まわったんでしょうけど…。

蘭：いや、その…。実はね…。

ファイル7 - 2 (前書き)

恋愛タグ、付けるべきだったかもしれませんがよく分からないので付けられませんでした。付けた方がいいと思う人はコメントをお願いします。すいません。

ファイル7 - 2

オープニング 「Misty Mystery」

園子：えーっ！？新一君に告られた！？

ナ：園子の大声に観客がざわめいた。

蘭：しーっ！声が大きいよ、園子！

凜：ええっ！？こ、告白したの！？新一君！

コ：バーロオ！それは聞くな！

園子：ハハーン…。遂にあんにやろうも年貢を納めたか…。でも、その状況だと告られたって言うより…。

・・・・・・

ナ：その話はコナン達がつい先日ロンドンに行った時にさかのぼる。

蘭：分かんないの？アンタ探偵でしょ？探偵なら私の心ぐらい推理しなさいよ、バカ！（涙目）

新一（以後・新）：お、おい！待てよ、蘭！

ナ：とある橋を通り抜けたところで新一は蘭を捕まえた。

新：待てったら、おい！

蘭：いやだ、離して！

新：厄介なんだよ、オメエは！

蘭：はあ！？

新：オメエは厄介な難事件なんだよ！余計な感情が入りまくってたとえ俺がホームズでも解くのは無理だろうぜ！好きな女の心を正確に読み取るなんてことはな！

・・・・・・・・

園子：強引に告らせたって感じよね…。

蘭：だ、だよね…。

園子：んで、蘭もちゃんと答えたんでしょね？

蘭：答えたって何を…？

園子：「あゝん、うそうそマジ信じらんない！私もずっと愛してたゝ！」とか？

蘭：そんなこと言う訳無いでしょ！あ、もしかして私も言わなきゃダメかな？

園子：そりゃあそうよ、はっきり言わないと新一君、フラれたって思っんじゃないかな？

コ：「バーロオ…。あの時点で分かるっつーの…。」

園子：言うなら、今ここで電話しなさいよ、見ててあげるから！

蘭：ええ〜っ！？

コ：おいおい、今するのかよ！

凜：ほえ〜…。(すごすぎるよ…。)

ケ：やっぱり恋愛は図々しいで。

コ：「やっぱ、こいついたんだ…。」

小五郎：では、ここで探偵に欠かせない108つの袋の話をいたしましょう！まず1つ目、知恵袋…。

男：ったく…。これじゃあ、いつ話が終わるか分からないな。せっかく名探偵が来るっていうから見てもらいたかったのに…。

蘭・園子：えっ？

コ・凜：？

ナ：メガネをかけた男性が腕時計を見ながらそう言った。

蘭：あ、私毛利小五郎の娘ですけど、父に何か御用ですか？

園子：もしかして、事件の依頼とか？

男：いや、そうじゃないけど娘さんなら、父さんと一緒に事件現場に行ったりする？

蘭：あ、たまに…。

園子：ええ、それはもうしょっちゅう！

凜：そんなにあるの？

コ：まあな。

ケ：探偵の秩序ってやつなんか？

コ：それは知らねーよ…。

男：それじゃあ、見た事あるよね…。

蘭・園子：え？

ファイル7-2（後書き）

新一と蘭の話は、原作71巻File3～72巻File1、アニメ616～621話（DVD未登場）の作品です。

ファイル7-3（前書き）

この先、ホラー要素ありの展開です。苦手な人はご注意ください。
（注：原作ベースでやっています。）

ファイル7-3

蘭・園子：ええーっ！？

蘭：このお化け屋敷に入って、ゾンビの出来前を確認してくれ？

男↓辻栄 尊作（以後・このファイル中のみ「尊」）：ああ、やっぱり生で何度も殺人事件を被害者を見た事がある人の方がリアルな評価が出来ると思ってね。

園子：あ、いや…。

蘭：でも…。

凜：何かヤダ…。

ケ：さくら、だらしないの〜。

凜：だって…。

コ：はあ…。

蜂谷 貴市（以後・このファイル中のみ「貴市」）：実は俺ら、文学部の芸術学科で映像芸術を選考しててよ…。今、卒業制作でホラー映画を撮ってんだけどその映画の人の死ぬシーンがリアルじゃねえって名監督気取りのうるせえ女がいてよ…。だから、このお化け屋敷で見本見せてくれつつたら…。

唯見 安菜（以後・このファイル中のみ「安」）：その女って…。

私の事…？

ナ：その時、メイクで患者になっていたある女が出て来た。かなり、怖い顔である。

蘭・園子・凜：うわーっ！！

安：何なの子の子達、眠りの小五郎はいつ来るのよ？

尊：だから、その娘さんと友達を連れてきたんだよ。一応、殺人事件の遺体を見た事があるって言うから…。

安：んじゃ、見た感想をお父さんに伝えて。後で、ちゃんと連れて来なさいよ。

村主 睦すくりむつみ（以後・このファイル中のみ「睦」：安菜、そろそろあたし達交代の時間だよ。

安：ちよつと何よ、睦！まだメイクしてないじゃない！

睦：だって、自分やってもどうせ、安菜直すでしょ。だったら、最初から安菜にやってもらって方がいいと思って…。

安：もう、しょうがないわね…。

尊：じゃ、30分後にこの子ら入れるぞ。どうせなら、お前がゾンビやってる所見せたいだろ？

安：オーケー…。私の死様、とくとご覧あれ…。ふふふふ…。

蘭・園子・凜……。(言葉を失っている状態)

尊：だってさ…。

蘭：あ、いえ私は入りませんから…。

園子：大丈夫だって、所詮は作り物だから…。

蘭：で、でも…。園子だってさっき驚いたじゃない。

園子：あれは、ちょっと意表を突かれただけで…。

コ：「お化け屋敷ってそんなもんだろ？」

凜：やっぱり怖い…。

ケ：さくら！

ファイル7-3（後書き）

事件関係者解説 分かる所のみ解説いたします。

辻 栄 尊作 （22・男性）米花大学4年生 辻の字が原作と違います。（出せなかったため。）

蜂 谷 貴市 （22・男性）米花大学4年生

唯 見 安菜 （22・女性）米花大学4年生

村 主 睦 （21・女性）米花大学4年生

ファイル7 - 4

園子：蘭、そんなんじゃないつまで経っても新一君に好きって言えないよ！

蘭：えっ…。

園子：だから、ほら度胸付けるためにもこれをクリアできたらまた一つ強い女にステップアップ出来るからさ！

コ：「おいおい…。」

蘭：ホ、ホント？

客：うわーっ！！はあ、はあ…。

ナ：出口から客が出て来た。（多分カップル）

男：あ、あんなのアリかよ…。

女：マジ、ビビった…。

園子：ほら、超楽しそうじゃない…。

蘭：どこがよ！

貴市：そんなに怖いなら、俺らがエスコートしてやってもいいぜ。

尊：どこにどんな仕掛けがあるか知ってるしね。

園子：じゃあ、それお願いしまーす！そしたらその子も入りますから。

蘭：ちよつと、園子！

園子：大丈夫だって、怖いのは最初だけだから。

蘭：もう…。

凜：これなら行けそう…。

ケ：やれやれやのう…。

コ：はあ…。ん？

ナ：コナンは尊作と貴市がひそひそ話をしているのを見た。そして、お化け屋敷に入場。そして…。

蘭：うわーっ！

園子：ぎゃあーっ！

凜：ほえっ！

コ：…。（無表情）

ケ：はあ…。（呆れ）

貴市：おいおい、こんなのまだ序の口だぜ。

尊：ボウズ、はぐれるなよ。

コ：「はぐれる訳ねーだろ、ずっと抱っこされてるから。」

ファイル7-4（後書き）

ちよつとトラブルがあつたためここで一時中断します。ご迷惑おかけいたします。

ファイル7-5（前書き）

お持たせしました、再開致します！なお、今回一部内容の変更があります。

ファイル7-5

コ：「ま、学際のお化け屋敷にしては出来はいいな。悪趣味だけど…。」

貴市：でもこれ、橋口にも見せてやりたかったぜ…。

尊：ああ、このお化け屋敷も卒業制作のホラー映画も企画したのは橋口だったからな…。

コ：その人、学校やめちゃったの？

尊：いや、自殺したんだよ。毒を飲んで…。

貴市：つい1か月前にな…。

蘭・園子・凜：え！？

貴市：何か治らねえ病気であと半年の命って医者に言われたらしくてよ…。

尊：それを苦に自分で命を絶つて、遺書には書いてあったよ。

貴市：しかも、その遺体を見つけたのが俺ら二人と、さっきの睦と安菜の4人でよ、しばらく悪夢にうなされたぜ…。

コ：へえ…。

貴市：その後からだったな…。安菜が急に死んだ橋口に捧げるつつ

て映画作りを張り切り出したのは…。だよな、辻。え、辻？

ナ：尊作がいなくなつた。

園子：ちよつと…。

蘭：どこ行っちゃつたんですか？

貴市：あれ？さっきまでいたよな。俺、その辺、探してくるからお前らは出な。出口、そのまま真つ直ぐだからよ。

ナ：そう言つて貴市は行つてしまつた。

蘭・園子・凜：え、ええっー！？

ナ：その時だつた、たくさんお化けが出て来たのだ！

蘭・園子・凜：きゃあーっ！

ケ：「カードとあの魔力の気配や！」

ナ：全員ひとまず逃走。

蘭：はあ、はあ、何なのよいきなり…。

園子：いくらなんでもね…。

凜：こ、怖かつた…。

ケ：ちよつとさくら。（小声）

凜：どうしたの、ケロちゃん？

ケ：魔力感じたで。

凜：え、でも今は感じないよ？

ケ：そうなんや、今は魔力が消えてんねん。おそらく、カードを使
うんをやめたんや。

凜：じゃあ、どうすれば…。

コ：ここは、ひとまず進んで後でもう一回来てみないか？

ケ：せやな…。

凜：うん…。

園子：ちよつと、アンタ達！

コ：凜・ケ：うわっ！

ナ：驚いた。ケルベロスはぬいぐるみのフリをして隠れた。

園子：こんな時に何こそそしてんのよ！

コ：ご、ごめんなさい…。

凜：じゃあ、とにかく進もう…。ハハハ…。

ナ…しばらく進むと…。

コ…あ、手術室があるみたいだよ。

ファイル7 - 6

ナ：園子が手術室の扉を開けた。

園子：お、お邪魔しまーす…。ハッ！

ナ：目の前に本物みたいな手術室があった。

園子：すご…。

蘭：本当にオペしてるみたい…。

凜：ほえ…。

コ：患者はさっきの安菜さんだ。手術しているお医者さんはマネキンだね。

ナ：手術室のベッドのすぐそこに出口の表示がある。

蘭：あ、出口だって…。

園子：うん…。ベッドの枕元を通り抜けないと外に出られないみたい…。

凜：怖いな…。

ナ：全員が通り抜けようとしたその時、ベッドが突然揺れ出した。

ガタガタガタ

蘭：え！？

園子：ひっ！

ナ：その揺れはどんどん激しくなっていく。ベッドのシーツから彼女の足が出てくるくらいすごい揺れだ。

蘭・園子・凜：あ…。

ナ：すると、ベッドの揺れが突然止まった。そして…。

プシュー！

ナ：ベッドの安菜の体の真ん中（作り物のお腹の部分）から血のような液体が出てきた。

蘭・園子・凜：あ、あ、あ…。キヤー！

ナ：すると…。

？：おいおい、そんなに驚く事はねーだろ、お嬢ちゃん達…。へへへ…。

蘭・園子・凜：キヤー！

ナ：そう話しかけてきたのは貴市だった。貴市の体は体内むき出しになっている。さらに…。

？：そうそう…。こんなの、ただの作り物さ…。

ナ：今度は尊作だ。頭にはさみやら、注射などが刺さってる。

蘭・園子・凜：うわー！

ファイル7-6（後書き）

からくりは分かりますよね？

ファイル7-7（前書き）

作：今回ついに…。

ケ：何が起きるんや？

作：コナンなら当たり前の事だよ。

ケ：え？

ファイル7-7

ナ：さっき二人に驚いてしまった蘭達だったが…。

尊：ほらね。

貴市：ビビりすぎだっつーの。へへっ。

ナ：二人のは作り物であつた。

蘭・園子・凜：はあ…。

貴市：でも、変だな安菜。

尊：ああ、いつもは血を噴き出した後にむくつと起き出して目を見開いて笑うのに…。

貴市：おい、安菜！手抜いてんじゃねーよ！ヤバイ死様見せてくれるんじゃないのか？

ナ：貴市は彼女のマスクを取って話しかけた。だが、彼女は何も言わない。

貴市：ってなんとか言えよ安菜！

尊：お、おい…。息してないんじゃないか…？

貴市：おい安菜！しっかりしろ安菜！

尊：安菜！

ケ：「まさか…。」

凜：え…。

睦：何？どうかした？

ナ：隣の部屋から睦が出て来た。（メイク済み）

コ：「口の中からアーモンド臭が…。」

貴市：おい安菜！返事しろ安菜！

尊：どけ！

コ：あ！

尊：僕が安菜を病院に…。

ナ：尊作が安菜を抱きかかえた。その時だった。

コ：彼女に触るな！

尊・貴市：え？

凜：「新一君…？」

コ：彼女の口の中からアーモンド臭がする。青酸系の毒物を飲んだかもしれないよ…。

園子：え？

蘭：毒？

凜：それってどう言う事…？

貴市：アーモンドの臭い？^{にお}ホントかよ？

コ：素人が嗅ぐな！アーモンド臭は飲んだ毒物が胃酸とかの酸と化合して発酵した青酸ガスの臭い、下手に吸い込むと死んじまうぞ！

コ以外全員：あ…。

ナ：そのコナンの言葉に誰もが啞然とした。それにコナンは…。

コ：って刑事ドラマでやってたよ…。ア、アーモンド臭って言うても僕たちがよく食べる甘くて香ばしいナッツの臭いじゃなく収穫前の実や葉の甘酸っぱいに臭いだってね…。

蘭：そ、そうなの…。

園子：でも、今の感じだと…、安菜さん、自殺…？

凜：えええええっ！？

ファイル7-7（後書き）

ケ：これが当たり前なんか！？

作：うん。

ケ：うんや無いで…。

ファイル7・8（前書き）

ついにあの人達登場！

ファイル7 - 8

ナ：その後、警察が到着。お化け屋敷は封鎖された。

目暮警部（以後・目）：自殺？彼女は君たちの前で自分だ毒を飲んだと言うのかね？

蘭：あ、はい、多分…。

目：えーっと、彼女の名前は…。

高木刑事（以後・高）：米花大学文学部芸術学科の4年生、唯見安菜さんで、合ってますよね？

尊・貴市：ああ。

目：ん？

高：あ、いや…。お化けメイクのせいで彼女の学生バックにあった写真とあまりにも違うので…。

目：で、その唯見 安菜さんが自殺したと言っ根拠は？

園子：急に苦しみだしたのよ、私達がこの案内板に従って…。

蘭：ベットの案内板を背中を寄せ付けて通っていたら…。

園子：急に体を痙攣けいれんさせて、足をバタバタしながらもがいてたから…。

蘭：ベットがガタガタ揺れるぐらいで…。

園子：その後、血がドバーっと噴き出して…。

目：血？おい、死因は毒じゃなかったのか？

高：あ、はいまだ検視官が到着してないのではっきりした事は言えません。口の中からアーモンド臭がしますし、歯の間のカプセルのような物もありましたのでおそらく服毒死かと…。

ファイル7 - 8 (後書き)

うっかりしてました…。貴市は貴史とかぶってました…。あとで修正いたします。(2011年9月10日現在)
以後は貴市でいきます。

ファイル7-9

尊：噴き出す血は仕掛けっすよ。

目：仕掛け…。

尊：ベットの中にスイッチがあって、コイツを押すと…。

プシュー！

ナ：血が噴き出た。その時、目暮警部と高木刑事に血が掛かった。

目：高：うわっ！

目：オイオイ…。

尊：あ、掛かっちゃったすか？よくその辺に飛ぶんすよ。まあ水性なんですぐに落ちますが。

高：じゃあ、ベットが揺れるのも仕掛けですか？

尊：ええ、仕掛けって言ってもこのベット右上の足と対角線上にある左下の足が少し短くなってる、ベットで寝てる患者役の奴が体を揺するところやって体がガタガタと揺れるって訳っす。

目：だったら、足をバタつかせるのも仕掛けかね？

貴市：いや、それは…。ベットで寝てるこの本人がやるっきゃないっすよ。

ナ：貴市はベットの布をはぎ取った。

高：あ、ちょっと！

貴市：ほらこの通り、血が噴き出す仕掛け以外何もねえからよ。

高：現場の物にかつてに触れないで下さい…。

園子：そうそう、あの赤いペディキュアを塗った足！足をバタつかせた時に見えたよね。

蘭：うん、上に掛かった布がめくれて、右足が…。

凜：うんうん。

目：おや、この子は？

蘭：家で預かってるコナン君の親戚の凜ちゃんです。

凜：こんにちは。

目：ほほう…。

高：「コナン君に親戚がいるのか…。本当かな？」

ナ：たまに子供から出ない発言があるため少し不思議に思った。

目：その様子からすると、蘭君達が枕元を通った時に毒を飲んだのは確かだよつだ。

高：その時、君達の他に誰もいなかったたんだよね？特に彼女の顔の傍には…。

園子：ええ、暗かったけど私達だけだったと思うよ。

蘭：毒を飲ませた人がいれば見えたと思います。

目：ちなみに、彼女が苦しみだした時君らはどこに？

ナ：尊作と貴市に聞いた。

貴市：あ…。

尊：僕達ですか？

貴市：その子らにこっそり忍び寄ってた所だよ。こいつ（さっきの作り物）を胸に付けて。

尊：このお化け屋敷の案内役としてずっとその子らの傍にいたんですが途中ではぐれたフリをして簡単なアイテムを付けてこの手術室でその子らを驚かそうと蜂谷と示し合わせていたんで…。

貴市：ま、はぐれた後は辻栄とは別行動だったすけどね。

目：じゃあ君は？

ナ：今度は睦に聞く。

睦：わ、私は隣のレントゲン室で、お、お客さんが来るのをずっと

待ってました…。

高…そ、そうですか…。

睦…でも、悲鳴が聞こえるのに誰も来なくて不安になって…。

目…ふ、不安とは…？

ファイル7-9（後書き）

名探偵コナンにじファン検定 第4問

原作からの問題

次の3人の中で原作の中で一番最初に出て来ているのは？（名前が出て来ていないのはノーカウント）

高木刑事「Y」

佐藤刑事「D」

千葉刑事「H」

「」の中がキーワードです。正解と思った答えのキーワードをメモしておいて下さい。

ファイル7 - 10

睦：だって、この手術室の次はあのレントゲン室を抜けないと出られないのにどうしたんだろうつて様子を見に来たら、安菜が、安菜が…。

貴市：おい、睦！何て顔してんだよ。

尊：涙でメイクがぐちゃぐちゃだ。

睦：だって、安菜が死んじゃったんだよ！よく平気でいられるわね！

貴市：平気な訳ねーだろ…。

尊：橋口が自殺した時と同じ気分だよ…。

高：自殺？

貴市：刑事さんなら知ってたんだろ、1か月前に米花大学の4年生が自宅のマンションで服毒死して自殺した事件。

高：ああ確か、偶然彼の部屋を訪れた同級生が彼の遺体を発見した事件ですね。

貴市：その、俺と辻栄と睦とこの安菜だったんですよ…。橋口のやつ、卒業制作の映画にすげえ力^{りき}入れてたのによ…。

尊：まるまる1週間、大学に来なくてね…。

睦：心配だから、帰りに様子を見に行こつて事になったんです。

ファイル7-10（後書き）

ここで今日は終わりにします。

ファイル7 - 11

睦：でも、呼び鈴を押しても返事が無くてきつと寝てるか外出してるからまた今度出なおそうと思ったんですけど、急に安菜が…。

・・・・・

安：何か嫌な予感がする、管理人に頼んで部屋開けてもらおう。

・・・・・

睦：って言いだして中に入ったら…。

高：服毒自殺した橋口さんを発見したと言う訳ですね。

尊：ええ、部屋にあった遺書には直筆でこう書いてありました。

「最近、体が悪くて医者に診てもらったら悪性の腫瘍しゅようがかなり進行してて半年の命らしい、後は君らに任せるから僕は一足先に死の世界を見に行くよ」

尊：って…。

睦：あ、あとで刑事さんに聞いたらその日のアタシ達が講義を受けてた頃だって…。

貴市：あれからだよな、安菜が変わったのは…。

尊：ああ、急に橋口に捧げるって卒業制作の映画やこのお化け屋敷

を張り切り出して…。

目：だが、亡くなった友達のために頑張るのは普通なんじゃ…。

貴市：にしても、尋常^{じょうじょう}じゃなかったんすよ！睡眠薬を飲み過ぎて病院に担ぎ込まれた事もあったんすから…。理由は生と死の狭間^{はくま}を体感し、リアルな死様の参考にしなかった…。だったよな？

尊：ああ、どうも無口だと思ったら釘を一日中入れてた事もあったよな。

高：く、釘を！？

凜：ほええええ…。（怖すぎてあ然）

睦：もしかした安菜、カプセルに入った毒を口の中に入れてたんじや…。

貴市：そうか、釘と一緒にだ！

尊：そいつを何かの拍子に嚙んでしまつて…。

目：それで、生と死の狭間を体感する前に本当に死んでしまったと言つ訳か。

高：やはり、自殺と言う事になるんでしょうか…。

コ：本当にそうなのかなあ？

目・高：え？

ナ：コナンがベットの下から出て来た。

高：コ、コナン君！？

ケ：「こいつ、何しとんねん！？」

コ：だって見てよ、このお姉さんの頬の所。メイクじゃなく本当に引つ掻いたような血も滲^{にじ}んでるみたいだよ。これって誰かに無理やり口を塞^{ふさ}がれたからそれはずそうとした自分の爪の跡なんじゃない？

目：な、何だと！？

高：警部！彼女の爪の跡に皮膚と血が！

目：ええっ！？

蘭・園子・凜：え！？

ケ：「何やと！？」

コ：「これは自殺に見せかけた殺人事件…。暗闇の中で安菜さんを毒殺したのは、一体誰だ…。」

ファイル7-11（後書き）

アニメ前編部分終了です。なお、ただいま事件の話はつい最近の物を使っています。（緊急事態252の後と言う事になっているので）

ファイル7 - 12（前書き）

今回からアニメ後編部分に入ります。あと、ファイル7 - 11の後書きを変更しました。さらに大事な部分を書き忘れていたのでファイル7 - 7をほんのちよつとだけ訂正いたします。必要な部分ですので申し訳ありませんが今回のを読んだ後、読み直しておいて下さい。いつもすいません。

ファイル7 - 12

アニメの最初の部分省略（同じ内容のため）

凜：殺人事件……。ほえ。

ケ：「びっくりやで。でも、このガキようそんな事が分かったで……」

目：つまり、誰かに毒のカプセルを口に突っ込まれてそれを飲み込むまで口と鼻を塞がれていたと言う事か……。だが、そうなると蘭君たちが来た時にはもう死亡していた事になるが……。

高：彼女は本当に足をバタつかせてもがいていたんだよね。

蘭：あ、はい。

凜：間違いないです。

園子：なるほど、そう言う事だったのね。

蘭：園子？

凜：どうしたんですか？

ケ：「なんやなんや？」

園子：犯人は私達が来る前に安菜さんに毒を飲ませて殺害し、ベットの中に潜んでいたのよ。そして、自分でベットを揺らし足をバタ

つかせて上に掛かったシーツをめくり安菜さんの足を見せて、するとベットから抜け出しあたか恰も安菜さんがまだ生きているかのように見せかけたんだわ。つまり、それが可能なのは…。睦さん！あなたしかないわよね！

睦：わ、私！？

園子：だって、あなたぐらい小柄な方が気付かれずにベットからするつと抜けられるし、それにこの中であなただけサンダル履きじゃない！サンダルならベットから出てもすぐ履けるじゃない。

貴市：あのな、どうせ自分の足が見えないなら靴も脱ぐ必要ねーんじゃないねーか？

園子：じゃあ、次に小柄なあんたが犯人ね！睦さんよりすばしっこそうだし。

貴市：バカ、俺は足首を捻挫ねんそくしてんだよ！何とか普通には歩けるが足をバタつかせるマネなんて痛くて出来ねーよ。そら見る！ちゃんと湿布貼って包帯で固定してるだろうが！

ナ：貴市は自分の靴を脱いで見せた。

園子：じゃあ、さっきからもじもじしてるあなた！

尊：え？

園子：疾やましい事があるからきよどってんじゃない？

尊：これは持病の水虫がかゆくて…。

貴市：おい、お前の靴真っ赤だぞ！

尊：あ、ああ、足で踏んでかゆみを抑えてただけだ…。

ナ：実はここまで尊作は足をもじもじさせていた。彼の靴は真っ赤なインクみたいなのが滲^{にじ}んでいるある。

貴市：これ、血糊^{ちのり}だぜ。

睦：どこかで踏んだのね。

貴市：じゃあさつきベットの揺らした時じゃねーか？あの右上足の下辺りに噴き出した血糊がたまっちまうからな。

目：とにかく、この近辺にいた君達3人なら彼女を毒殺した後、ベットに潜んだ後彼女が生きている様に偽装し、ベットから抜け出して何食わぬ顔で現れる事は出来そうだな。

睦：そ、そんな！

尊：出来ませんよ…。見ての通りベットの周りは医者のマネキンが立っていて、ベットのわきから抜け出そうとしてもマネキンにぶつかってすぐばれるし、障害物が無い足元から抜けようとすれば枕元にいたこの子ら（蘭達）に丸見え…。

貴市：それによ、このベット手作りだから大人二人なんて乗れないっすよ。

ナ：貴市はベットの下を見せた。そこには段ボールがいくつか積ん

である。

高：て、手作りですか？

貴市：ああ、この方がもがいた時にギシギシ音がして迫力が出るからって安菜が言うからよう…。

尊：まあ、寝心地が悪すぎてこの役をやる他の奴らには不評だったけどね…。

睦：ひよつとしたら安菜の頬の傷も安菜が自分でつけたのかも。本当の血を出してもっと迫力を出す為に…。

貴市：安菜なら有り得るな。

尊：ああ。

高：やはり、自殺でしょうか…？

目：うーん…。

コ：「いや、あの傷は位置的に彼女が犯人に抵抗して跡だ…。でも、分からねえ。一体犯人はどうやって彼女が生きている様に偽装したんだ…。ん…？上にかける布の足元の部分の裏側に数本の赤い筋…。これは赤い水性絵の具、血糊か？待てよ、確かベツトの下には…！」

凜：「あ！新一君！？」

ナ：コナンはベツトの下に入って行った。

ファイル7 - 13

ナ：コナンはベットの中に入り、腕時計のライトをつけた。

コ：「段ボール箱とシートに切れ端に付いたこのガムテープ！間違いない…。犯人はこの空間を利用したんだ…。安菜さんの死様を^{まこと}実しやかに演出する為に…。」

凜：コナン君。

コ：あ、凜か…。どうした？

凜：一体どうしたの、ベットの下なんか調べて。

ケ：ガキが何やってんねん。

凜：ケロちゃん！

コ：分かったんだよ、この事件の真相が。

凜：ケ：え！？

コ：今から推理ショーをするから、高木刑事を呼んできて。

凜：いいけどコナン君は？

コ：俺はこうするのさ。ここからの事はみんなには黙ってて。

ピシュ！

ナ：コナンは時計型麻醉銃で園子を眠らせた。そのまま、園子は壁に倒れこむ。

園子：ふにゃ…。

蘭：園子！？いつものが来たの！？

凜：ええっ！？

ケ：あんた、何やっとなねん！

コ：蘭、外にいる目暮警部と辻栄さん達を連れて来て。

ナ：蝶ネクタイ型変声機で園子の声に変えて蘭にそう言った。一方、お化け屋敷の外では…。

睦：安菜！安菜！安菜！ううっ…。

ナ：安菜の遺体が搬送された。

目：それで、どうかね検視官。

検視官：死斑がピンク色、死因は間違いなく青酸系の毒物による中毒だな…。

目：そうか…。

検視官：一応、仏さんの死亡した時に付けていたと言うマスクやそれに繋がっていた管も調^{くだ}べたが、中毒死の原因はあれじゃない…。

目：口の中にあつたカプセルか…。

検視官：ああ、高濃度の青酸反応が出た。頬に残つた爪痕が少々気になるが、仏さんが急にもがきだした所を見たと言ふ目撃者がいるのなら口の中に入つた毒入りのカプセルを自分で嚙んだとしか考えられねえよ…。仏さんはマスクをしていて誰もカプセルを口の中に入れないんだから…。たたく生と死の狭間を感じたくてそんな物を口にくわえていたと言ふ話が本当なら世も末だな…。

ナ：検視官は帰つて行つた。

貴市：俺らはもう帰つていいですか？

尊：自殺いや、事故死だと分かつたんですし…。

目：ああ、一応高木君に署に行つて事情聴取を受けたら帰つても…。あれ、高木君は？

尊：もう一人の刑事さんなら、小さな女の子に呼び止められてましたよ。

目：え、何で？

尊：さあ…。

蘭：あの…。

目・尊：うわっ！

蘭：急に園子が推理ショーを始めるから現場の手術室に集まってくれって…。

目：はあ？

ファイル7 - 13 (後書き)

検視官、警部に向かってタメ口ですが原作・アニメ通りです。ご理解をお願いします。なお、高木刑事が呼び止められる部分は原作・アニメとは変えました。また、一部分加えています。

ファイル7 - 14

ナ：現場の手術室にて。

コ：「よし、麻酔針も打ち込んだし小型スピーカーも襟の裏に取り付けた。高木刑事もさくらがちょっと遅れたけど読んできてくれたし、後は変声機で園子の声を…。」

ナ：その時、蘭達が戻って来た。コナンはベットの裏側に隠れた。ちなみに手術室の道具はすべて壁に除けてある。

目：どういう事かね、園子君！？

ナ：園子が例のポーズ（いつもの姿勢）で寝ていて目暮警部も驚いた。

目：安菜さんは、毒のカプセルを誤って嚙んでしまった事故死としか考えられんだろう。なのに、何をどう推理すると言うのかね？

ナ：コナンが園子の声で推理を始めた。

コ：いえ、安菜さんの爪の痕で分かるようにこれは誰かが安菜さんの口に毒のカプセルを無理やり入れた殺人…。つまり、私や蘭がこの手術室に入って来る前に安菜さんはもう毒殺されていたのよ。隣のレントゲン室にいたって言う睦さんか私達の後に入って来たって言う辻栄さんか、蜂谷さんの3人の中の一人にね…。

目：おいおい、君らは見たんだろ？安菜さんが苦しみもがいていた所を？

蘭：あ、はい。体を痙攣させて、足をバタつかせてました。

目：だったら…。

コ：痙攣はベットがガタガタ揺れていたからそう見えただけよ。

目：あ…。じゃあ、足をバタつかせていたのはどうなんだ？布がめくれて彼女の足が見えたんだろ？

蘭：え、ええ…。

凜：はい…。

コ：分からないの？ベットは手作りで骨組みは格子状で隙間だらけなのよ。ベットの下に入れば何かできると思わない？

目：え、ベットの下…？

蘭：そっか、死んだ安菜さんの足をベットの下からシーツごと掴んでばたばたさせてもがいてる様に見せ掛けたんじゃない？

凜：そっか。

コ：こういう風に？

蘭・凜：え？

ナ：するとベットのシーツが動き出した。事件当時の揺れよりはかなり小さい。

ガサガサガサ…。

目：おいおい！ベツトの下に誰がいるのか！

コ：僕だよ。

目：へ？

蘭：コナン君…。

ナ：コナンがベツトの下から出て来た。

コ：園子姉ちゃんに言われてベツトの下から両手を突き上げてみたんだけど、どうだった？

蘭：どうって、私達が見た足のバタつきはもっと速かったし今のだと下のシーツもめくれちゃうから、ちょっと違うかも…。

目：それにもし、上に掛かった布がめくれ過ぎて足をシーツごと掴んでいるのが見えてしまったらバレバレだな…。

コ：じゃあ、これならどうかしら？

コ以外全員：え？

ナ：再び園子の声で推理を始めた。すると…。

ガタガタガタガタ…。

蘭：え？

凜：ほえ？

目：あ！

ナ：再びベットが揺れ始めた。それもさっきよりも大きく、事件当時と同じくらいだ。

目：高木君だな？高木君がコナン君の様にベットの下から両手を…。

蘭：でも、さっきよりはバタつきが速いし、下のシートもめくれない…。

凜：どうなってるの？

ナ：すると、突然誰かの足が出て来た。

蘭：嘘！

凜：ほええ！

蘭：ベットには誰もいないのにどうして足だけ？

目：そんな馬鹿な。あ！

ナ：目暮警部がシートをめくるとベットの下から足だけが出ていた。

目：足はシートの切れ目から…。一体何がどうなってる…。た、高木君！

高：あ、はい…。

ナ：ベットの下には段ボール箱二つに背中を寄せた高木刑事がいた。

ファイル7 - 15

コ：仕掛けは簡単。

蘭・凜・目：え？

コ：まずシーツを膝の位置までめくり、シーツの端が膝の位置になる様に折りたたみ、ベットの下にあったシーツの切れ端をむき出しになったベットの木枠を覆うようにガムテープで留めてつないで、血が噴き出す仕掛けのスイッチをシーツのつなぎ目に引きこめば準備は完了。後はシーツのつなぎ目から自分の両足を出し、さっき高木刑事がやった様に足をバタつかせて上の布をめくり、自分の足を見せればベットに横たわっている安菜さんがまだ生きていてもがいてる様に見えるって訳。そして、すぐにスイッチを押して血を噴き出させ私達がそれに驚いてる隙にそっと自分の両足をシーツのつなぎ目から抜いて、靴を履き、付け足したシーツをベットの中に引き入れ、ガムテープを外し、私達の死角になるベットの足元から抜け出した。つまり犯人は、私達が手術室に来る前に来て安菜さんに毒を飲ませて殺害し、シーツに仕掛けをして私達が安菜さんのベットの枕元に来た時に両手でベットを揺らし、安菜さんがもがいている様に見せ掛けた後、ベットから抜け出して何食わぬ顔で私達の前に現れたって訳よ。つまり、それが可能なのはあの後すぐ私たちの元に現れた…。

目：なるほど、君達3人（尊作達）なら犯行が可能と言う事か…。

ナ：3人は動揺した。

貴市：お、おい、俺じゃねーぞ！

尊：それにそれだと、足をバタつかせた時に上にかけた布がめくれ過ぎたら、安菜の足も見えちゃうんじゃないか？

睦：そ、そうよ！安菜の足が見えたらそんなトリック、バレバレじゃない！

コ：そうならない様に犯人はあらかじめ、安菜さんの足を外側に折り曲げていたのよ。

貴市：バカ言っな、そんなごまかし掛かった布をめくられたらすぐに…。

コ：だから犯人は先手を打った。

貴市：え？

コ：そうよね…？安菜さんを病院に連れて行くと言ってベットに手を入れ、抱え上げた…。

．．．．．

僕が安菜を病院に…。

．．．．．

コ：辻栄 尊作さん！

尊：あ…。

蘭：そつか、抱え上げたらベットの途中で足を折り曲げていても分
らなくなっちゃう…。

凜：なるほど…。

尊：ち、違う！僕は安菜が本当に何かの病気だと思って…。

コ：ところであなた…。

尊：う…。

コ：水虫はもういいの？

尊：あ…。

コ：ベットに横たわっている安菜さんの口に毒のカプセルを放り込
みそれを飲み込むまで口と鼻を塞ぐには、ベットががたついてちや
押さえ切れない…。ベットの右上の足の隙間に自分の靴をかませて
がたつかない様にしたんでしょ？そこに血糊がたまってるのを忘れ
てね…。おかげで靴にベットの四角い脚の跡が残ってしまった。運
悪くそれに気づいたのは警察が来た後。だからあなたは、水虫を装
って血糊を踏んだ靴をもう片方の靴にこすり付けたのよ。真っ赤に
してその四角い跡をごまかす為にね！

貴市：でも、このお化け屋敷で俺達が君達の案内役をしなきゃこの
トリックは出来ねーんじゃねーのか？

尊：そうだよな、君達をここに連れて来たのはたまたま毛利さんが
来られなかっただけで…。

園子：たまたまじゃないわ！最初から狙いは毛利小五郎に付いて来るであろ？娘の蘭。わざと私達の横で毛利探偵の話をし、ここに連れて来て目撃者に仕立て上げたんでしょ。女の子なら恐がるから、エスコートの話も出るだろうし、はぐれたフリをして中で脅かすイタズラするのも持ち掛けやすいし……。あらかじめドッキリのアイテムをあらかじめ用意して付けておけば、すぐに現れる事も出来るしね。

ファイル7-15（後書き）

ちょっと時間ですのでここで中断します。

ファイル7-16（前書き）

中途半端ですいませんでした。やっと続きが書けます。

ファイル7 - 16

ナ：犯人の尊作は追い詰められていく。

尊：デタラメだ！何の証拠が…。

コ：じゃあ、見せてみなさいよ。アンタの水虫つてやつを！

尊：そ、それは…。

コ：上にかける布の裏側に数本の赤い筋があつたわ。あれは、あなたが足をベットに滑り込ませた時に付いた爪の跡。安菜さんを殺害して足を外側に曲げた時に初めて気が付いたんでしょ。彼女が足の爪に赤いペディキュアを塗っている事に。だから、まだあなたの足に付いているはずよ。困ったあなたが
とつさに自分の爪に塗った…。赤い血糊がね！

高：ちよつと失礼。

尊：あ…。

ナ：尊作の左足の爪に血糊が塗つてあつた。

目：なるほど、それがまだ乾ききっていない内に足をベットに滑り込ませたから上にかける布に爪の血糊がついてしまったと言う事か。

コ：まあ、睦さんはサンダル履きだし、蜂谷さんもつま先を見せてくれたから残る容疑者はアンタしかいなかったんだけどね。

尊：あ、あ…。

貴市：おい、嘘だろ！

睦：何であなたが安菜を…。

尊：僕と安菜が死ぬ演技の事で良くぶつかってたのは知ってるよな。あんまりうるさいから言ってやったんだよ、「じゃあ、お前は人が死ぬ所を見た事があるのか」って。そしたら安菜のやつ…。

．．．．．

安：私はあるわよ、何百回も繰り返し見たから夢にまで出てくるわよ。

尊：ど、どういう事だよそれ…。

安：橋口君に、頼んだのよ…。「どうせ自殺するなら、その様子をビデオに撮ってくれない」ってね…。

．．．．．

睦：そ、そんな…。

貴市：マジかよ…。

尊：橋口の部屋で遺体を見つけた時安菜の様子、変だったろ…。妙に興奮して、警察を呼べたのどこかに遺書があるかもしれないから探せたの…。

貴市：じゃあ、まさかその時に…。

尊：ああ、隠し撮りしていた本棚の中のビデオカメラからテープを抜き取ったって言ってたよ…。だから、安菜も橋口と同じ目に合わせてやったんだ！歯に塗ったお歯黒が剥けているから直してやるって言って、口元で毒のカプセルを割り、そのカプセルを口の中に放り込んでやったんだよ…。

ナ：その、尊作の言葉に貴市と睦は言葉を失った。

尊：自殺を止める所か薦めやがって、病気であと半年の命だったとしてもあと半年あれば僕達の卒業制作の映画も完成し、アイツに見せる事が出来たかもしれないのに…。なのに、それなのによ…。
う…う…。

ナ：その時、尊作は涙を流していた。

ケ：人って言うのは分からんもんやの…。

凜：うん、そうだね…。

コ：で、カードはどうするんだ。

凜：あ、そうだった！

ファイル7-16（後書き）

今更ですが「・・・・・・・・・・・・・・・・」は過去の回想を表しています。

ファイル7 - 17

ナ：尊作が警察に連行され、他の二人も事情聴取で警視庁に連れて行かれた後、コナン達は誰もいなかった通路にいた。

コ：ここで急にお化けがたくさん出てきたんだよな。

凜：うん、ここだったよ。怖かったけど、あの気配は…。

ケ：ああ、間違いないで。これは…。

ナ：すると再び、お化けがたくさん出て来た。

凜：ほええええ！

コ：落ち着け！このお化け達はさっきと奴らだ！

凜：う、うん…。

ナ：凜は落ち着いて呪文を唱えた。

凜：星の力を秘めし鍵よ、真の姿を我の前に示せ。契約の元、さくらが命じる。封印解除！天秤よ、彼の者の真の姿を見せよ。「秤」！

ナ：するとお化け達が模様と化した。

コ：これは…。

ケ：やつぱり、「幻」のカードや！

凜・風よ、戒めの鎖となれ、「ウインディ風」！

ナ・幻イリュージョンは風に包まれカードに戻った。

ファイル7 ラスト（前書き）

今回謎の人物の、性格がちよつとだけ分かります。

ファイル7 ラスト

凜：あれ、カードと一緒に手紙が…。

「暑中お見舞い申し上げます。ヒヤッとしましたか？くっくくっく…。
by 謎の人物」

コ：こ、こいつ…。

ナ：ずいぶん変わり者な謎の人物であった。

エンディング 「Your Best Friend」

エピソード

園子：ふああ…。

ナ：園子が目を覚ました。

コ：「にしても、小五郎のおっちゃん、結局来なかったな…。」

ナ：そんな事を気にしながら、外に出ると…。

小五郎：じゃあ、108つ目の袋は誰もが持つてる堪忍袋！こいつが切れると探偵企業はやって行けない訳で…。

蘭：うそ…。

園子：まだ、講演やってる…。

凜：ほえ…。

ケ：「とんだアホやで。」

コ：「長すぎだろ…。」

ファイル7 完

ファイル7 ラスト（後書き）

間を中途半端にあけすぎてすみませんでした。なお、少しばかりまた重大発表をいたしたいと思います。また、この後の「怪盗キツドの忙しいデート」、「王女様はマジックが好き」はコナンが説明と隠れキャラとしてしか出てないため書くのは中止します。御了承下さい。しかし、ファイル8はキザなアイツが…。

絶叫手術室（オペルーム）の作品は原作72巻File5、7、アニメ625、626話（DVD未登場）の作品です。

重大発表2回目

小五郎：また呼び出されたぞ。

蘭：今度は何？

ナ：また、コナン入場。

コ：みなさん、再びお集まりいただきありがとうございます。

小五郎：って、おまえが呼んだんだろうが！

コ：まあまあ、落ち着いて。以前に週間アクセス数が1000件を超えたらある企画をやると決めましたね。ですが、今のペースではなかなか上手いかない状況です。そこで…。

一同：え？

コ：総合PVアクセス数が25000件に達した時も、この企画をやるうと言っ条件に追加いたします。ではまた。

一同：ええー！！！！！っ！それだけかよ！

作：はい、作者の寿司デリバリーです。本来、この企画は週間アクセス数が1000件に達した時にする予定でしたが今週の状況を見

てもそれを達成するのは到底無理と感じました。そこで、総合解析の中の「総合PVアクセス数」が25000件に達した時もやる事に致しました。なかなかこの小説読んでいる人が多いのでこうした方がいいと考えました。なお、これもアクセスを強制するものではありません。ご理解お願いします。それでは！

ファイル 8 - 1 (前書き)

今回はキザなあいつの登場編、事実上の3キャラの競演に注目して下さい！

なお、今週はあんまり時間が取れず、いつもより少なめになるかもしれませんがのでご了承ください。(そう言って、今日はこれだけです。ごめんなさい…。)

ファイル 8 - 1

ナ：夏休みが明け、9月に突入したある日。

凜：大変だったよ、夏休みの宿題。

コ：だから早くやるときゃよかったんだよ。俺まで頼みやがって…。

凜：ごめん…。

コ：来年は気を付けろよ。

凜：うん…。

ケ：やれやれ、もう来年の様子が見えてきたで。

凜：何よそれ！

コ：はあ…。

園子：日本を今一度、洗濯^{せんたく}いたし申候^{まうしうけ}。

蘭：え？

園子：さーて、これは誰の言葉でしょう？

蘭：あれ、どこかで聞いた事ある言葉だけど…。どこだっけ…。

コ：坂本龍馬だよ。

蘭・園子：ん…。

コ：文久3年、1863年の6月29日に龍馬が姉のおとめに宛てた手紙にそう書いてあったって。

蘭：へー、良く知ってるのね、コナン君。

コ：テ、テレビでやってたよ…。ハハハ…。

凜：文久3年って…？

ケ：さくら…。

蘭：でも、何で園子が龍馬の言葉を？

園子：先週から、次郎吉伯父様じょうきちの鈴木大博物館で、龍馬展つてのをやってんだけどさ、そこに参上するって予告状を出したのが我が愛しの…、怪盗キッド様ってわけぜよ！

ナ：一瞬、静寂せいじやくが訪れた。

蘭：ぜ、ぜよって園子、土佐弁になってる…。

園子：そうなのよ！龍馬の事調べてたら、すっかりハマっちゃって…。

凜：あの怪盗キッドが狙ってるの！？

コ：そう言う事さ。でも、キッドが龍馬展で盗みたい物なんてない

と思うけど？

園子：あるのよ！龍馬が高杉晋作から、ピストルといっしょにもらったって言うガンベルトが！

コ：ガ、ガンベルト！？

園子：そうよ、バックルの所に大きなルビーが埋め込まれてる高価なベルトよ。

コ：それ、本物なの？

園子：そのベルトの事を書いた龍馬の手紙もあつて、有名な鑑定家の御墨付きももらつてんだから。

蘭：まあ、本物なんじゃない？あの次郎吉さんが手に入れたんだから…。

凜：でも、そうなるのかなりすごい…。

園子：それが、手に入れられなかったらしいんだ。そのベルトを玉にして、展覧会を開こうとしてた人がなかなか売ってくれなくて…。仕方なく伯父様が、龍馬展をやるならウチでやれって、場所だけ貸したみたい。

コ：へへっ…。(苦笑)

凜：園子お姉さんの伯父様って、お金持ちなんだね。

コ：いや、鈴木財閥自体がお金持ちで、園子もその一人さ。

凜：ええっ、そうなの！？

ケ：たいそう、ご立派やのう…。

蘭：ふん…。でもほら、キッドが狙ってるんだし…。

園子：あ、いや…。実はそうじゃなくって…。

凜：え？

コ：オイオイ…。

ファイル 8 - 1 (後書き)

おとめがあつてなかったら誰でもいいのでご報告をお願いします。
(漢字かどうかわからないので。)

ファイル 8 - 2 (前書き)

お詫び 昨日送信した、ファイル 8 - 1 の内容が一部ミス記載がありました。

皆様にご迷惑をおかけいたしまして申し訳ございません。なお、現在には修正済みです。

最後に、ファイル 7 - 2 とラストに、どの話を入れたか追加していきます。

ファイル 8 - 2

オープニング 「M i s t y M y s t e r y」

ナ：コナン達が、キッドの話をしていた同時刻より少し後、友枝小学校にて。

ミラー
鏡：怪盗キッド？

奈：うん、怪盗キッドがまた予告状を出したんだ。

利：なんでも龍馬展の目玉のガンベルトだって。

鏡：その怪盗キッドってどういう人？

貴：怪盗キッドは…。

千：さくらちゃん、知らないの？（割り込み）

鏡：うん…。

ナ：説明すると、鏡はさくらカードの身だから知るわけが無い。

千：簡単に説明すれば、世界各国を駆け巡っているんなお宝を盗もうとする大泥棒かな。別名怪盗1412号。

鏡：ええっ、泥棒！？

千：そうだけど、そんなに驚くの？

鏡：だって泥棒だもん、犯罪に何でそんなに話になるのかなって…。

知：「この人、真面目なんですネ。」

小狼：だけど、その怪盗キッドの話が何で出てくるんだ？

千：その話なんだけどこの友枝町の隣の米花町なんだって、そのキッドが予告状を出した龍馬展があるのが。

知：じゃあ、もしかして…。

奈：その龍馬展に行こうと思うんだ。みんなで。

ファイル 8 - 2 (後書き)

ちなみに怪盗 1412 号を刑事が走書きしたのを工藤優作が K I D^{キッド}と呼んだのが怪盗キッドの始まりです。これを知っているのはコナンの中では少人数です。

詳しくは原作 55 巻 File 6 - 9、DVD PART 16 - 3 を参照して下さい。

ファイル 8 - 3

ナ：さらに同日、警視庁。

中森警部（以後・中）：ええっ！？盗んだものを返しに来る！？本当にキッドの予告状にそう書いてあったんですか？

茶木警視（以後・茶）：ああ。

「現在開催されている龍馬展にて3つの品を返却すべく近日参上いたします　怪盗キッド」

中：み、3つの品って…。

茶：その龍馬展を主催している、樽見^{たるみ}猪彦^{ししひこ}さんが、20年前にも龍馬展をやったらしくてな、その時に盗難にあった品だよ。坂本龍馬が暗殺される前夜に妻のおりょうに宛てた手紙と暗殺された時に龍馬の血痕が付着したと言う大宮の杯^{さかずき}、そしてその時に龍馬^{ふたしろ}が懷に忍ばせていたピストル「スミスアンドウエッソン第1型」の三点だ。

中：し、しかしその3品を盗んだのはキッドじゃなくて、確か…。

茶：ああ、昭和の女二十面相とうたわれた怪盗淑女^{かいとうしゅくじょ}・ファントムレディー。キッドとレディーがどういう関係だったかは分らんが、その3点を盗んだ後レディーは犯行を止め、その2年後にキッドが現れた所を見ると、師匠と弟子の関係だったのかもしれないな。

中：それで、奴はいつ来るんですか！

茶：さあ、予告状には近日としか書いてないし…。

中：じゃあ、すぐに龍馬展を中止して客を追いましょう！日時が不明なら警備側は不利で奴の思う壺！返すだけなら客に紛れて簡単に出来ますからな！

ナ：だが、茶木警視は…。

茶：だがね、中森君。せっかく返しに来ると言ってるんだぞ。拒んでどうする？

中：あ、いや、しかし警視…。

茶：それにキッドを確保するには、まずは招き入れねばならん。予告状を受け取った受け取った鈴木次郎吉もいつていたよ。「入口は大きく、出口は狭く、これがネズミ取りの基本」だとな。

ナ：結局、そのまま中森警部は茶木警視に反論できなかった。

ファイル 8 - 3 (後書き)

龍馬の品や妻の名前、間違っていたら指摘お願いします。

ファイル 8 - 4

ナ：休日、鈴木大博物館。

園子：伯父様！久しぶり！

鈴木 次郎吉（以後・次）：おお、鉄狸の時以来じゃのう。

蘭：こんにちは。

次：うむ。

蘭：結構並んでますねお客さん。

次：ああ、龍馬人気に加えキッドの予告状が届いたからな。ま、ワシが主催しておったら新聞報告やテレビCMをバンバン撃ちまくって客をこの数倍は集めたんじゃないのう。ハッハッハッ！

コ：…。（呆れ）

凜：アハハハハ…。

園子：でも、珍しくない？伯父様が人の展覧会のために博物館のスペースを貸すなんて…。

次：最初はそんな気は無かったんじゃないが、キッドが盗ると分かっているのに素人に任せる訳にはいかんと思おてな。

園子：素人？

次：ああ、龍馬展を主催している樽見と言う者はこれまでもに義経展とか信長展とかブームが起こるたびに展覧会を開いておるんじやが、警備が杜撰で悉く盗賊に何かを盗まれておる停滞でな。

凜：えゝ…。

園子：じゃあ、買っちゃえばよかったのに龍馬のガンベルト、値段吹っ掛けられたの？

次：いや、逆にかなり値切ったんじゃ。

コ・凜：え？

次：買う前に家の鑑定家に見せてもくれんから、本物がどうかも定かではないし。

蘭：でも有名な鑑定家の御墨付きももらってるんですね。

コ：…。

ナ：コナンは少し気にかかった。

次：そうなんじやが、あれでキッドが本当に釣れるか、不安じゃったしのう…。

？：でも釣れましたよね、キッド。

次以外全員：ん？

ファイル 8 - 4 (後書き)

鉄狸の話は原作 64 巻 File 11、65 巻 File 2、DVD P
ART 18 - 4 巻参照です。

ファイル 8 - 5

樽見^{たるみ} 猪彦^{ししひこ}（以後・このファイル中のみ「猪」）：でも釣れましたよね、キッド。最も彼の狙いはガンベルトじゃなかったようですが、あのガンベルトは真正正銘^{はなむら}、龍馬が高杉晋作から、授かった本物ですよ。ですよね、華村先生^{はなむら}。

華村^{はなむら} 政之輔^{まさのすけ}（以後・このファイル中のみ「華」）：いかにも。あの牛革の具合からしてかなりの年代物。バックルのルビーも素晴らしい。しかも、龍馬が手紙でそのベルト図解までしています。本物と言わざるを得ないでしょう。

凜^{はなむら}：ほえ〜…。

コ：「華村 政之輔、その目利きの力は確かだが、鑑定料は芳崖^{ほうがい}でめったに仕事を受けない鑑定家だったな…。」

猪：なんなら、お嬢様方にも実物をその目で見てもらってはどうか。まだ、開場前ですが特別に…。

ナ：その頃、知世達。電車の中にて。

千：楽しみだね。

利：うん。

知：今回ももしかしたらコナン君が来るかもしれませんね。

小狼：それってどういう事だ？

知：李君、御存知なかったんですね。実は今まで、怪盗キッドはコナン君と何度も対決してるんですよ。

小狼：そうなのか…。「やっぱりアイツ、何かあるな…。もしかしたら今回のキッドの予告状に目をつけて、来るかもしれないな…。」

ファイル 8 - 5 (後書き)

事件関係者解説

樽見 猪彦 (58・男性) 龍馬展主催者

華村 政之輔 (63・男性) 鑑定家

コナンとキッドの対決は多すぎるため解説省略。

ファイル 8 - 6 (前書き)

祝・週間総合PVアクセス25000件達成いたしました！企画内容がまとまり次第こちらの小説内で発表いたします。なお、今週は先週ほど更新できるか分かりません。御了承下さい。

ファイル 8 - 6

ナ：再び、鈴木大博物館。展示室。

園子：へへ。これが龍馬のガンベルト。

蘭：なんか、雰囲気出てるね。ホントに、手紙にベルトの事が書いてあるし。

園子：でも、字は読めないな…。

蘭：そうだね…。

華：それは昔、男達が腰に携えていたガンベルトなる物。ピストルとその弾を収納する、いわば刀の鞘（さや）が付いた帯（おビ）に候（さう）。こんな面白い便利な物、今の人達は誰も着けとらんちゅうのは、義真（ぎまこと）不思議なりでしたかな。

蘭：龍馬なら言いそうだね。

園子：へへっ、ぜよぜよ。

凜：すごいなあ…。

コ：ん？ねえねえ、何あの大きな壺。

猪：ああ、あれは龍馬が子供の頃かくれんぼをした時に入って出られなくなったと言つ壺だよ。

コ：へえ〜。

猪：他にも龍馬が見て褒めた仏像とか、龍馬が欲しがったけん玉とかもあるが。

コ：「ハハハ…。何でもありって訳ね…。」

園子：あ、この掛け軸はもしかして…。

華：幕府の腐敗を嘆いて思わず書いてしまった掛け軸ですよ。

園子：やっぱり！

次：ま、それも本物かどうか疑わしいがの。

凜：え、そうなの？

ケ：さくら、将来詐欺に遭うんちゃうか。

コ：「どつちも確かに…。」

華：そこまで私の目を信用なさらないならこの龍馬展の終了後、貴方の鑑定家にもお見せしましょう。

次：ああ、望むところじゃ。

華：もちろん、ここの品々があの月下の奇術師から、逃れられたら話ですがね。

猪：では、館内の警備よろしく願いしますよ。鈴木相談役。

次：ああ。

ナ：猪彦と華村の二人は出て行った。

次：胡散臭い連中じゃ。
うさんくさ

コ：ねえ、もしかしてここの展示物にすごい保険金を賭けてたりするんじゃないの？

次：ワシもそう思って調べてみたんじゃが、スズメの涙ほどしか賭けておらんかったわい。入場料も安いし、アレじゃ取られたら大損のハズじゃが…。

園子：それで伯父様、どんな手でいくの？

次：ん？

園子：なんか用意してるんでしょ？キッド対策。

次：いや、それがのう…。

園子：うそ！？ほとんど何もしてないの！？

次：ああ。

園子：ああ、って…。

次：何かを盗みに来るのならそれを阻む手立てを考えるんじゃが、返しに來ると言うのは止めようが無くてのう。3品とも懐に忍ばせ
ふくじゅう

やすい小さな物じゃしな。あのスペースを作るだけで精一杯じゃない。

ナ：そこには、「怪盗キッドお宝返却予想地」と書いて看板のあるスペースが…。

コ：「ハハッ、「怪盗キッドお宝返却予想地」って…。」

ケ：「なんか、アホらしくなってきたのう…。」

次：せめて、やって来る日時が分かれば手の打ちようもあるんじゃないのう。

コ・蘭・園子・凜・ケ：え？

園子：予告状にいつ来るか書いてなかったの？

中：ああそうだ。キッドの予告状に日時、もしくはそれを匂わす文章が書いてなかった事は一度も無いのにな。

蘭：な、中森警部…。

凜：あの人は？

コ：ああ、キッドを捕まえる事を目標にしている中森警部だよ。

凜：へっ…。

ケ：世の中、いろいろやのう…。

ファイル 8 - 7 (前書き)

ついにあのキザな怪盗が…。

ファイル 8 - 7

次：じゃあ、まさかキッドの仕業に見せた模倣犯か？

中：いや、あの予告状は間違いなく奴がだしたものだよ。

園子：きつと、機会を見て改めて日時を書いた予告状を出すつもりなんじゃない？ほら、今はスケジュールがいつぱいで都合がいい日を待ってるとか。

コ：「もしそのつもりなら、キッドは何を待ってるって言うんだ…。」

ナ：そして、ついに開館時間になった。開館と同時に一斉に客が入って来た。

園子：さすがに大盛況ね。

蘭：うん。

コ：「でも一番人気が、キッドのお宝返却予想地とは龍馬が泣いてるぜ…。」

凜：あはは…。

ケ：「この龍馬展が龍馬展でなくなってるないやろうか？」

ナ：その言葉の通り、「怪盗キッドお宝返却予想地」の所は客が大勢いた。（笑）

利：キッドのお宝予想地だって。

奈：面白そう。

千：そう？

鏡^{ミライ}：泥棒、しないのかな…？

凜：「千春ちゃん達が来てる…。」

ナ：すると、一人の男性客がペットボトルと返却予想地の中に放り込んだ。

ビービービー！

千：何？

利：警報？

ナ：すると、さっきの客は潜んでいた私服警官に取り押さえられた。そのまま会場外に連れ去られる。

男性客：あ、ちょっと待って！

コ：「なるほど、あのスペースだけにセンサーを取り付け客の中に変装した警官を紛れ込ませておいて…。」

男性客：す、すみません。ちょっと悪ふざけしただけで…。

コ：「一応、不審な行動をした奴はすぐに捕まえられるようにしてあるわけか…。」

ナ：その時、次郎吉の使用人が一人やってきた。

使用人：相談役！大変です相談役！

次：何じゃ、騒々しい。

使用人：たった今、ご自宅のポストにこんな物が…。

次：ん…。こ、これは、キッドの予告状！

ナ：手紙にはキッドのマークがある。

中：な、何！？

コ：！

ナ：その時、猪彦と華村がじっと見ていた。そして、予告状の内容は…。

「明日20時、閉館間際に例のピストルなどを持参し 幕末の志士 坂本龍馬の名の下に今一度洗濯いたし申候

怪盗キッド」

客：ワー！キッド、キッド、キッド、キッド！

ナ：予告状が来て、客達のテンションは急上昇。その時、猪彦と華

村は不敵な笑みを浮かべていた。

コ：「どういう意味だ…。洗濯、水…。あつ、まさか！」

ナ：コナンは博物館の外に走って出た。外は曇っていて雷も鳴っている。

コ：「雨…。キッドはこれ wait していたのか…！」

ナ：そんな時、とあるビルの屋上で…。

怪盗キッド（以後・キ）：「今一度、洗濯いたし申候」ってな…。

ファイル 8 - 8

ナ：さっきの部分から数時間経過。外ではテレビ局のヘリが飛んでいる。

アナウンサー：ご覧ください、この長蛇の列！怪盗キッドの予告時間が明日20時と聞きつけ、閉館直後にもかかわらず、続々と客が鈴木大博物館に押し寄せています！果たしてキッドは予告通り20年前に盗難にあった坂本龍馬の手紙と杯とピストルを返すことが出来るのか、はたまたその駄賃として龍馬のガンベルトを盗む気なのか、そして突然日時を出してきたその真偽は、全ては明日、明らかにされるのでしょうか！

ナ：博物館の外は客でいっぱい。寝泊まりのためトランプをしている人、キッドのコスプレをしている子供、とにかくたくさんいる。その頃、コナン達は…。

中：何、雨だと？キッドは雨をなるのを待つて予告日時を決めたって言うのか？

コ：うん。外は今にも降りだしそうだし、明日の天気予報は雨みただしね。

次：しかしキャッツ（キッドの事）は雨をどう利用する気なんじゃ？

中：龍馬展をやっているこの部屋の天井でもぶち抜く気か？

凜：えっ…。

次：いや、毎日開館前にワシのスタッフがチェックしておるが、爆発物なんか仕掛けられてはおらんぞ。

園子：もしかして、お客さんの服じゃない？

中：次：ん？

園子：だってほら、雨ならカッパやレインコートを着てる人多いから…。

蘭：あ、そつか！その服を着ていれば、お客さんに紛れ込みやすいつて訳ね。

凜：なるほど！

園子：ぜよせよ。

中：フン！キッドがそんなちんけな理由で雨を待っていたとは思えんが、とにかく明日は龍馬展を中止し、客を入れるのを避けるべきだな。そうすれば、奴は我々だけがガードするこの展示室に例の3つの品を一人でノコノコ返しに来る羽目になり、奴を確保するのに絶好のシチュエーションになる…。

次：じゃが、キャッツはいつもその状況でうぬやうぬの部下に変装したり、睡眠ガスで皆を眠らせたりしたスキに…。

中：いや、今回は全員ガスマスクを装着し、絶えず合言葉を返しあうように徹底すれば大丈夫。邪魔な客さえいなければ、確実に奴をお縄にすることが出来る！

華：その案には賛同しかねますな。

ナ：華村と猪彦が入って来た。

猪：せっかく、坂本龍馬にまつわる品々を集め、みなさんに見てもらおうとこの龍馬展を模様したと言っのに…。

華：その展示会をたつた一人の盗賊の為に、丸一日封鎖するのは如^いかなモノでしょうか。

中：あ、いや、しかし…。

華：それに瞬間移動の事件の時、客を締め出したために彼は犯行を中止しようとしたそうですし。

猪：せっかく20年前に、私が盗まれた例の3品を返しに来るんですよ。中止されちゃあ困るんですよ。

中：ぐ…。

猪：とにかく、明日はいつも通りにお客さんを入れて下さいよ。

華：キッドを捕まえられるかどうかは、貴^{あなたがた}方方の技量次第。それに、ちゃんと守っていただきたいですな。

中：ん？

華：キッドは3品を返却後、その見返りとして今回の龍馬展の目玉であるその龍馬のガンベルトを狙ってるという噂もありますしね。ま、信用してますよ。

猪：貴方方警察をね。

ナ：そうして、二人は出て行った。

ファイル 8 - 8 (後書き)

瞬間移動の事件は原作 6 1 巻 F i l e 1 } 4 ・ P A R T 1 7 - 7 参照です。

あと、今日は休みなのに 1 話しか更新できなくてすいません。

ファイル 8 - 9 (最後の後書き要チェック) (前書き)

タイトルの通りです。

ファイル 8 - 9 (最後の後書き要チェック)

中：クソッ！信用してんなら協力しろっつーの！

次：しかし、困ったのう。客がたくさん集まれば、容易く例の3品たやすを返されてしまうし…。

コ：そうされない方法なら一つあるよ。

次：ん？

コ：ほら、さっき届いた予告状にも書いてあったじゃない。

次：「明日20時閉館間際に例のピストルなどを持参し幕末の志士坂本龍馬の名の下に今一度洗濯いたし申候。」これのどこが？

コ：だって、キッドはいつもと違って盗むんじゃなくて返しに来るんだよ。しかもそのうち1つはピストル。だったら飛行場みたいに、金属ゲートを置いてチェックすればすぐに分かるよ。ピストル持っている人がキッドだもん。

園子：確かにそうね。

蘭：コナン君、頭いい！

凜：それならいけるよ！

コ：えへへへ…。

ケ：「やつぱ、頭が切れとるで…。」

中：フン！そんな事ならワシら警察もやろつとしていたが上からストップがかかったんだよ。

園子：え、どうして？

中：何かを守るなら博物館の入口に設置するんだが、博物館に入る前にそんなものが見えたら返しに来るのを止めちまうってな…。

コ：だったら入口じゃなくて、博物館の中の龍馬展の前に置いたらどう？お客さんが足止め出来るように、いっぱい！

中：あんな…。

次：ん、そりゃあ名案じゃ！

中：え！？

次：ついでに手荷物の中身をスキャンするX線装置も置けば完璧じゃ！

中：おいおい、キッドが来るのは明日だぞ。今からんなもん用意出来るわけが…。

次：なあに、わが鈴木財閥の力をもってすれば、造作ない。そのゲートでキャッツをひっ捕らえるもよし、そのゲートに恐れおのいて引き返す輩やからがおればそやつがキッドじゃ。よし、直ちにゲートの設置に取り掛かれ！一晩でこの博物館を対キッド用の強大なネズミ取りにしてくれようぞ！

使用人達：ハッ！

中：「さすが金持ちはやる事が派手だねえ。」よし、お前ら！あらはじめキッドがピストルを館内に持ち込んでいる可能性もある。金属探知機を使って、館内をチェックしておけ！

部下の刑事達：ハイ！

コ…。

ナ：そしてまたあいつは…。

謎の人物：怪盗キッド、ちゃんと使うよな…。

ナ：翌日、天気は予報通り雨になった。中森警部は捜査員達と、トランシーバーで通信を取っている。

中（通信機）：博物館の外を警備している捜査員、どうだ様子は。

捜査員A：はい、ゲートに気付いて慌てて帰る客は誰もいません。

中（通信機）：金属探知ゲートは問題ないか？

捜査員B：ええ、例のピストルを所持している客は誰も…。

中（通信機）：展示室の中は？

捜査員C：今の所、キッドらしき客はいませんが、本当にキッドは来るのでしょうか。

中：バカヤロー！キッドが来なかった試しは一度も無いんだよ！

捜査員C（通信機）：す、すみません…。

ナ：ちなみに中森警部は今、監視室にいる。

中：「さあ来い、キッド。今度こそ必ずお前を捕まえてやる…。」

ナ：一方、コナン達到着。

蘭：わあ、すごい！本当に空港の搭乗口みたいになってる。しかも、3つもゲートがあるし…。

園子：さすが伯父様、やるー！

凜：これはいけるかも！

ケ：「すごすぎやで…。」

ナ：だが、コナンは…。

コ：「やっぱり引つ掛かる…。わざわざ予告状に「ピストルなどを持参して」なんて書けば、こうなる事もある程度予想できるはずなのに…。それに奴が雨をどう利用するかもまだ読み切れてねえし、予告状の最後の一行、「今一度洗濯いたし申候」の意味も分からねえ…。ただ単に、シャレで龍馬の言葉を使っただけなのか、もしくは本当に何かを洗濯しようとしているのか…。クソッ、キッドの狙いは一体なんだ…。」

ファイル 8 - 9 (最後の後書き要チェック) (後書き)

アニメ前編部分終了です。25000件を超えてやる事が決まった今回の企画について先に言っておきたいことが一つあります。コナンの事をいろいろ勉強しておいて下さい。(原作、アニメ、映画、ドラマ全般　ゲームは除きます、持っていないため。)

なお、一部小説のキーワードを変更、削除をいたします。

ファイル 8 - 10

アニメ後編部分スタート

蘭：さあ、私達も入ろう！

コ：うん。「龍馬展の入口の向こうを壁で塞いで、ゲートを通らないとは入れない様になっている。間にあるのはトイレだけど、そのトイレの中は…」

ナ：コナンはトイレの中に入った。

コ：「窓が一つだけ。鉄格子があつて外部からの侵入は不可能。これじゃ、ピストルを持ち込むのは不可能なはずだけど…」

ナ：コナンはトイレから出た。

蘭：コナン君。

コ：え？

蘭：中に入っちゃうよ。

コ：はい。

園子：うわ！何この人の数！

凜：ほえ…。

ケ：「いくらなんでも、コソ泥一人に大げさちゃうか？」

ナ：龍馬展の中は人が昨日以上にたくさんいる。そのため時間制限が設けられた。スタッフはメガホンを使っている。

スタッフ：お客様に申しあげます。場内が大変混み合ってきました。誠に申し訳ありませんが龍馬展の観覧は10分間とさせていただきます。繰り返し申し上げます。場内が大変込み合ってきました。…。

園子：って言っても、ほとんど人は出て行ってないみたいね。

蘭：うん…。

園子：そうだ！まだ予告の時間まで2時間あるけど、ひょっとしたらもうこの中にキッド様、いるかも。

蘭：でもあのゲート、ピストル持って抜けられないんじゃない？。

園子：うっ…。

蘭：それに、ほら。今日返しに来る物って別の泥棒が盗んだ品だって言うし、止めにしちゃうかもよ。

コ：「！？」ねえ、別の泥棒って？

園子：今回キッドが返す3品は龍馬の最後の手紙と血の付いた杯と暗殺されていた時に懷に持っていたピストル。全部20年前に怪盗淑女・ファントム・レディが盗んだ物なの。

コ：ファントム・レディって？

園子：「昭和の女二十面相」って言われた大盗賊よ。ホラーチックな手口と悪どい稼ぎをしている大金持ちばかりを狙っていたから。大人気だったらしいよ。ま、私のキッド様には負けるけどね！（キラキラ）

凜：へえ〜…。

ケ：「この女、気色悪。」

コ：でもさ、何でその女盗賊が盗んだ物をキッドが返しに来るの？

園子：知らないわよ！知り合いだったんじゃないの？

蘭：同じ泥棒だしね。

コ：ふ〜ん…。あ、僕またトイレに行きたくなっちゃたから、先に入ってて。

蘭：あ、うん…。

園子：ったく…。

凜：ハハハ…。あ、あれは…。「知世ちゃん達、また来てる。」

蘭：凜ちゃん、どうしたの？

凜：あ、いえ…。何でもありません。

蘭：そう…。

ナ：ここでちよつと場面変更。

知：これは…。

利：空港とかにある金属探知機と、スキャナー？

奈：よっぽどキッドを捕まえたいんだね。

鏡^{ミラー}：金属探知機…？（注：分かってない）

貴：金属…。

千：とにかく入りましょ。

小狼：そうだな。

ナ：知世達も龍馬展に再びやって来た。理由はもちろんキッドの予告状が来たから。んで、会場に入ると…。

鏡：何この大人数！？

利：きつい…。

小狼：いくらなんでも多すぎじゃないか！？

奈：でも、さすがって感じだよな。

千：どこが？

貴：とにかく、行こうよ。

知：「初めて普通のセリフじゃ…。」「あっ！

ゴン！カチッ…。

ナ：客に押され知世は壁に激突。で、案の定…。

知：この野郎…。ふざかやがって…。（もう変わってる）

小狼：またか…。

ファイル 8 - 10 (後書き)

貴史の扱い酷いと感じたらすいません。

ファイル 8 - 11

ナ：再びコナンサイド。

蘭：でも、すごい混みようだね。

園子：まるでバーゲンセール…。うわっ！

ナ：園子も客に押されて、ガンベルトの表示板に腕をこすってしまった。（知世みたいにはならないからあしからず。）

知：それってどういう事だ？

作：出てくるな。

知：チツ…。

作：何故舌打ち！？

蘭：あ、園子、大丈夫？

園子：いたたた…。誰よ押したの。

ナ：その頃、コナンはトイレの一室で携帯でファントム・レディーを調べていた。

コ：ファントム・レディー、ファントム・レディー…。あつた。「確かに20年前に例の3品を盗んだのファントム・レディーみていだな。でも、もうそれを最後にピタリと犯行を止めて…。いや、そ

の後も一応犯行予告をしたり押し入ったりした形跡はあったりしたが、盗られた物は何もなしか…。」

ナ：コナンは次に龍馬のピストルを調べた。

コ：「えーと、最後に盗まれた龍馬のピストルは32口径で5連式、長さは約17cm。」17cmつーと大体…。

ナ：コナンは自分の手と腕で17cmを出そうとした。すると…。

？：これくらいじゃねーか？

コ：…！

？：慶応3年・6月24日。龍馬が姉のおとめに書いた手紙の中にも出てくるピストルだ。長さ6寸ばかり、5発込み、外見は小さけれども、人を撃つのに50間^{けん}くらい隔^{へだ}てれば打ち殺す事出来申候…。
つてな。

コ：キッド！

ナ：コナンはドアを開けようとしたが…。

コ：「ドアが開かねえ！？くそ、ストップパー掛けてやがる！」お前、どうやってその銃を！ゲートを通れたのか！？

キ：ああ、グリップに入ってた鉛を抜けば素通りだぜ。超軽くなるし。まあ、数が数だけに運ぶのは骨だったけどよ…。

コ：「グリップの鉛？数が数だけに？何言ってるんだ？」

ナ：意味不明な言葉にコナンは混乱する。

キ：言つとくが、今回俺は盗まれた品を返しに來ただけだ。邪魔すんじゃないぜ、名探偵。じゃあな。

コ：あ、ちよっ……。待て！

ナ：コナンはトイレを飛び越えていった。しかしもうキッドはいなかった。

コ：「クソ！」

ナ：急いで追いかけようとしたが…。

猪：おい、本当に大丈夫なのか？

コ：「！？」

ナ：コナンは猪彦と華村が会話しているのを見つけた。

ファイル 8 - 12

猪：おい、本当に大丈夫なのか？もしもキッドが警察に捕まったりしたら…。

華：大丈夫、神出鬼没の彼を信じましょう。見事逃げとおすことが出来たら、我々はまた大儲け。

猪：し、しかし、奴は例の3品を返しに来るんだぞ。

華：心配無用。ちゃんと策は練っていますよ。

コ：ねえ、おじさん。

華：ん？

猪：あ！

コ：どうしたの、その指？

ナ：華村の右手の親指が包帯が巻かれている。少し、血も滲^{にじ}んでいる。

華：ああ…。今朝、日本刀の鑑定中に指を切ってしまっ…。

コ：ふん…。

ナ：二人は少し険しい表情になった。そんな二人を気にしながら、コナンはトイレを出た。

コ：「クソ、奴はもう展示場の中か！」

ナ：コナンは龍馬展の中に入った。客の隙間を潜り抜け、キッドを探す。

コ：「どこだ、奴はどこに…。」

ナ：その時、誰かに腕を掴まれた。

コ：「あ！ちよつと！」ら、蘭姉ちゃん！

蘭：ごめんね。この人ごみじゃコナン君、潰されると思って…。

凜：コナン君大丈夫？

コ：うん、まあね…。

園子：しかし、こりゃあ予告時間になったらもつとすごい事に…。

蘭：あれ、園子。右の袖の所、なんか付いてる。

園子：え？

蘭：字が書いてあるみたいだけど。

コ：！

ナ：そこにはこう書かれていた。

蘭：「てつの一つ」？

園子：てつの一つ？

蘭：何かの暗号？

コ：ねえ、園子姉ちゃん。展示場の中で何かにぶつからなかった？

園子：うーん…。あ、そうそう！誰かに押されて、ガンベルトの展示ケースに…。

コ：「ガンベルトの展示ケース…。まさかあいつ、本当に雨を降らせる気なんじゃ…。汚れたこの展示会を洗濯する為に…。」

凜：ねえ…。

コ：ん？

凜：感じたんだけど、カードの気配。

コ：何！？なんで、ここで!？

ケ：まだ発動はしてへん。しかし、この博物館のどこかにおるで。

コ：「どういう事だ…。ここで、カードの気配だと…。まさか!」
なあ…。

凜：何…？

ナ：その頃中森警部のいる監視ルーム。

中：クソッ、キッドめ、どこから潜り込むつもりだ…。

次：中森警部。

中：あ？

次：いかな神出鬼没のキッドでも、ピストルを持ったまま、あの金
属探知ゲートを潜る事は出来はせんよ。

中：ああ、そうだとは思うが…。奴なら…。

華：もしもゲートを突破で出来たとしたら、そのピストルは彼の作
った模造品、と言う事になりますな。

猪：もちろん、例の3品が返却され次第、先生に鑑定してもらいま
すが…。

華：ええ、本物であることを願いたいですな。

猪：それより、龍馬のガンベルトは大丈夫ですか？

華：一応、開館前に我々で展示ケースの最終チェックはしましたが。

中：なんなら、現場に行ってみるか？

猪：ええ、もし返されて3品が偽物で、その上見す見すガンベルト
まで盗られたとなれば、たまったもんじゃないですからな。

ナ：中森警部と次郎吉は二人を睨んでいた。ここで、ちょっと再び

場面変更。

知：チツ…。酷い目にあったぜ…。

利：大丈夫？性格もまた…。

知：気にしねえよ…。

奈：やっぱり、面白いね。

千：いや、ダメでしょ…。

知：さて、展示場に戻るか…。ん？

貴：どうしたの、大道寺さん。

小狼：「やっぱり感じたか、カードの気配。」

知：ちょっと、トイレに行ってくる。みんな、先に行っていてくれ。

利：うん…。

小狼：俺も。

ファイル 8 - 13 (前書き)

諸事情により、今日も1件しか更新できません。申し訳ございません。

ファイル 8 - 13

コ：雨を降らせるカードってないか？

凜：雨を降らせる…？あ、「雨」^{レイン}のカードがあるけど、それがどうしたの？

コ：いや、キッドの目的がおそらく雨を降らせるのが目的じゃないかと思ってな。

知：やっぱりいたか…。

コ：！

ナ：知世と小狼と遭遇。

凜：知世ちゃん、小狼君！何でここに…。

小狼：怪盗キッドが来るってこっちでも話題になって皆で行くことになったんだ。

知：んで、雨^{レイン}のカードがどうしたんだ。キッドが雨を降らせるのとは関係が…。まさかお前…。

コ：そのまさかだよ…。

ナ：何を話したかは後に説明するとして、しばらく後…。

蘭：ずいぶん混んできたね。

園子：キッド様の予告時間まであと4分。そろそろ中に入っておく？

蘭：でも、人が多すぎてキッドが現れても見えないかもよ？あ、中
森警部。

園子：次郎吉伯父様もいるわ。

中：警察です。道を開けて下さい。

園子：ほら、私達も入ろう。

蘭：うん。

コ：止めといた方がいいと思うよ。

蘭・園子：え？

ナ：コナンが人ごみの中から出て来た。

ファイル 8 - 14 (前書き)

今日より行明けを2行にします。

そして、今回ついにアイツが…。

CCさくらとのクロスオーバー作品なので今回から一部内容の変更があります。ですが、話に支障がない程度にとどめます。

ファイル 8 - 14

蘭：コ、コナン君？

園子：どうして入らない方がいいのよ！

コ：だって、濡れるの嫌でしょ。

蘭・園子：え？

コ：キッドはここで本当に洗濯するつもりだからさ。

中：くそ、客が多すぎる。これじゃ警備にならんぞ。

千：知世ちゃんと李君、来ないね。

利：一体どうしたんだろう…。

貴：もう予告時間が…。

ナ：その時だった、客の一人が白のシルクハットを投げ飛ばした。
そう、例のあのシルクハットを…。

客A：ん？

客B：何？

ミラー
鏡：え？

奈：もしかして！

中：あ、あれは！

ナ：そのシルクハットはどんどん飛んで行き、ガンベルトの展示ケースの所で落ちた。と思ったら…。

中：ん！か、怪盗キッド！

ナ：そのシルクハットから怪盗キッドが出現した。

客：うわー！（テンション最高潮）

蘭：ガンベルトのケースの上に立ってる！

園子：キッド様、素敵〜！

知：キッドが出て来た…。

小狼：感心するな、おそろく出してくるぞ。

知：そうだったな…。

凜：ほえ〜…。（キッドに見惚^{みと}れてる。）

ケ：さくらも早^{はや}せんか！

中：やつは金属探知ゲートを通ってまるうちだ、確保しろ！

部下の刑事達：ハッ！

中：おのれ、キッドめ…。

次：何が洗濯じゃ！

キ：ん？

次：うぬの方こそひっ捕らえて骨の髄^{ずい}まで洗濯してくれるわ！

キ：そう、洗濯…。洗濯するためにはまず、雨が必要。それでは、
今からこの空間に…。

ナ：キッドが取り出したのはカードだった。

キ：雨を降らせて御覧に入れましょう。

中：雨だと？

次：キャッツは何をする気じゃ？

ナ：カードが発動した。すると、雲に乗った少女みたいなのが出て
来て雨を降らせ始めた。

客：うわっ！

利：嘘！？

千：急に雨が！

奈：すごい！

鏡：あ、貴方は…！

中：なんだ！なぜ、雨が…。

次：あの、変な奴の仕業じゃな！

雨^{レイン}（以後・最初のみフリガナ付き）：ミユ。 （鳴き声）

ケ：やっぱり、「雨^{レイン}」のカードや！

キ：では、私はこれで…。

中：お、おい待て！例の3つの品を返すんじゃないのか！？

キ：それは、この雨がすべて明らかにしてくれますよ。雨が泥水を洗い流してくれるように…。

ナ：雨は^{レイン}どんどん雨を強くしていく。そのせいで水煙が立ちキッドはどんどん見えなくなる。さらに、雨が強くなった事で客も展示室を出て行く。

貴：ここは一回出よう。

千：うん。

利：さくらちゃん！

鏡：あ、うん…。「一体どうなってるんでしょう…」。」

中：み、水煙で奴の姿が…。

次：クソ…。

ファイル 8 - 14 (後書き)

キッドのトリックを変更しました。やる事は変わってません。

変わった点：雨を降らせる方法

原作：マッチで火をつけてスプリンクラーを起動させ、水を出す。

↓この小説：「^{レイ}雨」のカードで雨を降らす。

ファイル 8 - 15 (前書き)

今回、衝撃の事実が…。

ファイル 8 - 15

ナ：雨が止んだ。雨は展示室^{レイン}を出て行った。

中：き、消えた…。キッドめ、客に紛れて逃げる気だな。

ナ：中森警部はトランシーバーで通信を取る。

中：おい、たった今ゲートを抜けた客は！

捜査員 B：あ、はい。2、3人いましたけど…。

中：そいつらだ！そいつらの内、ずぶ濡れのやつを確保、そいつがキッドだ！あの雨の中着替えたのなら、ずぶ濡れのはずだからな！

捜査員 B：あの、しかし…。外もどしゃ降りなのでほとんどの客が濡れてますけど…。

中：じゃあ、足跡だ！ゲートから出た濡れた足跡を追え！

捜査員 B：で、ですが当然の如く床も濡れた足跡だらけでして…。

中：な、なんだと！

次：なるほど、じゃからキャッツは雨の日を待っていたと言っ訳か。

中：じゃあ、返すって言つてた例の3品は…。

華：ここですよ。このガンベルトの展示ケースの上に置いてあります。

ナ：猪彦と華村がいた。

華：おっと、いけない。杯に私の血がついてしまった。でも、3つとも模造品のようにですし問題は無いでしょう。

猪：問題と言えばこのガンベルトだが…。

ナ：猪彦はガンベルトの展示ケースを開けて調べた。

猪：ん！な、中の防犯装置が壊されてる！じゃあ、中のガンベルトはキッドがすり替えた偽物か！くそっ！

華：まんまとしてやられましたな…。

猪・華：ふふふ…。

ナ：なぜか二人は笑みを浮かべた。しかし…。

中：おや？

華：ど、どうかしましたかな？

中：そのケースの説明プレート、何か垂れてるぞ。

猪：えっ！？

中：絵の具か？なんだ、二重になってるぞ。

ナ：説明文のプレートは字がグッシヨリしている。しかも、説明プレートは二重に重ねられていた。

中：そうか、水彩画で同じ説明文を書いたプレートを上から貼り付けて、水で濡れたら下に書いてある文章が見えるようにしてあったんだな。

園子：そっか！これって雨で袖が濡れてたから…。

蘭：うん、ガンベルトの説明の文字が裏返しに付いちゃったのね。

園子：うん！

次：で、書いてある文章は？

中：「このガンベルトは真っ赤な偽物、何故なら…。」

コ：「何故なら、盗まれることを想定して大量に造ったものだから。」、なんですよ。

男：え？

凜：ええっ！？

知：何だと…。

ナ：コナンは今、男子トイレの中。そこにいる男性に話しかけている。一方凜達は、外で待機中。（盗聴器を借りて真相を聞いている。）

コ：重要な事は盗まれる事がニュースになり、世間に知られる事。そして、あらかじめ大量に作っておいた模造品を第三者の手で龍馬ファンに売りさばく…。

「これは先日盗まれた3品」って言っただけ…。

この手口の利点は、この後偽物と気付いても事件にならない事。盗品をこっそり買っちゃったって言う負い目があるから、訴えるに訴えねえからな。だから、あの3品を盗まれたあとのファントム・レディーの犯行は明るみにならなかったんだ。その3つの品を買わされた人ばかりを狙ってたからな。そして、しこたま集めたその模造品を、お前に託した。あの、二人を突き止めてくれてレディーに頼まれたんだろ。この犯行は、模造品と知ってやる主催者と、その模造品を本物とお墨付きの鑑定家が組まないと出来ねーってな…。

そうだよな、龍馬気取りの怪盗さんよう。

凜・知・小狼・ケ……!?

男……フツ……。

ナ・男は笑みを浮かべた。もうこれが誰かは分かるだろう。

ファイル 8 - 16

ナ：その頃、中森警部達は猪彦と華村を問い詰める。外に逃げた客達も戻って来た。

中：おい、このプレートに書いてある事は本当なのか！

猪：ち、違う！デタラメだ！

華：第一、どこにあるんですか、その大量の模造品は。ここにあるのはプラスチック製のピストルと回い物の杯と手紙の3品だけで…。

部下の刑事A：け、警部！

中：ん？

部下の刑事A：い、いつの間にか腰にガンベルトとピストルが…。

部下の刑事B：わ、私の腰にも…。

部下の刑事C：うんうん！

中：何〜！

ナ：中森警部は自分のベルトも確かめた。やっぱりガンベルトとピストルに変わっている。さらに、ガンベルトにはメッセージの書いてあるカードがついていた。

中：「樽見氏の倉庫より拝借 怪盗キッド」だと〜？クソ、キッドめ！あの人ごみを利用して、ワシらの腰にベルトを巻きやがったな！

次：なるほど、あらかじめ防犯装置を壊しておき、盗まれたと見せかけ、今度はガンベルトを売りさばく散弾さんだんだった訳か。

猪：い、いや…。

部下の刑事B：警部！

中：今度はなんだ！

部下の刑事B：他の展示品の説明プレートも、絵の具が取れて文字が…。

中：何！？

部下の刑事B：この品のどこがどう偽物なのか、事細かに書いてあります。それに、文の最後に英語で…。

中：英語だと？

「PULL 怪盗キッド」

中：「PULL」、引け…。この掛け軸（龍馬の掛け軸）を引けて事が…。

ナ：掛け軸を引っ張ってみると…。

中：うわっ！何だ！

ナ：掛け軸から、たくさんの紙が出て来た。

蘭・園子：あ…。

次：ん？

猪・華：う…。

中：こ、これは龍馬の手紙！しかも、同じものが何枚も！

ナ：掛け軸から、たくさんの龍馬の手紙が出て来た。（コピー）

次：どうやら、ガンベルトのケースに置いていた手紙と全く同じ物の様じゃのう。

猪：わ、畏だ！これはキッドが仕組んだ畏だ！

華：さよう！その3品を我々が作ったという証拠はどこにも…。

ガシャーン！

猪・華：ん！？

ナ：園子が龍馬の壺を壊した！

蘭：ちよつと園子！

園子：だって、キッド様のプレートに書いてあるんだもん。C R A S H（壊せ）って。

中：おいおい、何だこりゃ。壺の中に大量の杯が入ってるじゃねーか！

次：しかも、一つ一つに血がついているようじゃ。この血をDNA鑑定すれば誰が血をつけたか一目瞭然じゃが…。さっきの様に血がついた手で触って誤魔化すか？このすべての杯に自分の血をつけてま、うぬらの倉庫を調べれば出て来るじゃろう。今までに売れ残った模造品の山がのう…。

猪・華：あ、あ…。

ナ：のちに倉庫を調べて、大量の模造品が見つかり、二人は逮捕される。模造品を買った人達も調べがつき次第、いずれ逮捕されるだらう…。

エンディング 「Your Best Friend」

ファイル8 ラスト

エピソード

凜：捕まえた！

雨^{レイン}：みゅゝ…。

ナ^{レイン ウィンディ}：雨は風にあつという間に捕まえられた。そして、カードに戻る。
誰もいない所で捕まえている。

小狼：そう言えば、アイツは…。

男↓キ：よく俺がキッドだと分かったな。どこにでもいそうなおっさんだろ？

コ：簡単さ。いくらプラスチック製のピストルでも、数を運ぶにはかなり嵩張^{かさば}るだろ。手紙や杯も大量に持っているならなおさらな。だから、あの人ごみの中で、体系の割には足が細い奴を探していたんだよ。懷に大量の品々を忍ばせる為に、太ったふりをしているおめえをな。

キ：ふ…。

コ：もちろん、変装してるから汗もかかねーしな。んで、その細い奴の足首に、このボタン型発信機を貼り付けて、この追跡メガネでおめえに声をかけたって訳さ。

キ：ほう…。で、俺を警察に突き出す気か？

コ：いや…。今回は龍馬に免じて許してやるよ。

キ：え？お前、龍馬ファンか？

コ：俺の母さんだよ。龍馬の姉のおとめ役をやった事もあって、龍馬にぞっこんだよ…。

キ：なるゝ。↑（なるほど）

コ：「まあ、おとめ役にしては可愛過ぎるって評判になって、人気に火が付いたらしいけどな…。」
あ、そうだ。

キ：なんだ？

コ：さつき雨を降らせた時にいた、アイツ（^{レイン}雨の事）はどうしたんだよ。

キ：ああ、予告状を出そうとした時に突然手紙といっしょに降って来てよ…。「どうせ雨を降らせるならこれを使って下さい」ってな…。雨を降らせた後アイツ、逃げちまったけどよ…。お前、何かあるのか？

コ：いや…。「こいつに行っても意見ねえな…。」

キ：そうか。まあ、お互い母親には頭が上がらないって事で。

コ：え？

キ：じゃあな。

ナ：キッドはトイレを出て行った。

コ：「お互いって…。おい、まさかファントム・レディーって…。」

謎：ご苦労様でした、怪盗キッド…。

ファイル 8 完

ファイル8 ラスト（後書き）

そろそろ企画内容発表予定です。

今回のストーリーは原作：70巻File2～4

アニメ：627～628話（DVD未登場）の作品です。

名探偵コナンにじファン検定 第5問

映画からの問題

劇場版名探偵コナン第13弾「漆黒の追跡者^{チェイサー}」で警部昇進が発覚したのは次のうち誰？

横溝参悟警部「T」	山村警部「R」	中森警部
「Y」		

「」の中がキーワードです。正解と思った答えのキーワードをメモしておいて下さい。

遂に企画発表！

作：みなさん！お待たせいたしました！ついに企画発表および、スタートでございます！ここからの説明はコナン君、凜ちゃん、よろしく！

コ：はい！今回の企画内容、それは…。

「第一回 名探偵コナンにじファン検定」

コ：…です！

凜：これって一体どんな企画？

コ：簡単に言えばクイズだよ。この小説のどれかのお話の中に、コナンに関するクイズを書いておく、そのクイズに挑戦して得たキーワードを集め、それを並び替えて送ってもらうんだ。

凜：へえ…。

コ：あ、そうそう。キーワードはさくらカードのどれかの名前になっているんだ。

凜：え、そうなの？「いつの間に…。」

コ：んで、このクイズに正解してキーワードを送って抽選で5名様に…。

凜：5名様に…？

コ：リクエスト権を差し上げるのだ〜！

凜：えええええ！？随分、すごい事をしたね…。

コ：まあな。リクエスト権は「この話を出してほしい」「このキャラと共演させてほしい」「私のネタを小説にしてほしい」などなど！

凜：お〜。

コ：じゃあ、まずこれから注意事項と応募方法を見てから、挑戦してくれ。でもその前に問題を解くとどのさくらカードの名前になるか候補をあげるぜ。

カード候補

FIREY

WINDY

FIGHT

コ：正解だけを選んでいれば以上の3つのうちどれかになるぜ。ただし、答えを間違えると違うパスワードになってしまうから気をつけろよ。それと、今回挑戦してくれた人全員に作者から何かあるらしいぜ。

凜：何かって？

コ：それは応募してからのおたのしみ。それじゃあ…。

凜：？

コ：真実はいつも一つ！

凜：ほえ…。

応募方法

1、まずこの小説の中から、問題を探す。

2、問題を解いて、キーワードを集める。（これまでの小説の話のどれかにあります。）

3、そのキーワードを並び替える。

4、出来た言葉を寿司デリバリーのユーザーページから「メッセージ送信」へ。（先にログインをしてから入って下さい。）

注意事項

1、いつも使っているユーザーネームで応募する事。（確認できないと当選メールを送れないからです。）

2、ひとり1通まで！（2通以上の応募は無効となります。）

3、感想・レビューに答えを書かない！（見つけ次第、こちらから削除します。）

4、締め切りは10月10日・午後5時まで！（それ以降の応募は無効となります。）

5、リクエストは当選してから書くように！（当選する前に書いてしまうと内容により抽選から外さなくてはならない事があるためです。）

遂に企画発表！（後書き）

問題のアップは現在完了しています。（9月27日現在）
分からない事は質問を感想の所でいいので送って下さい。

ファイル9 - 1 (前書き)

問題アップ完了しました。あと、問題はこれまでの小説のどれかの話に隠されています。(企画発表の回を一部修正しましたので再度チェックしておいて下さい。)

ファイル 9 - 1

ナ：この小説を読んでいる人は知っているかもしれないが、江戸川コナンは工藤新一の仮の姿だ。その事を知っている人は数少ない。しかし今、その事実を知ろうとしている人物達がいた…。

友枝小学校にて。

小狼：怪盗キッドにあんなに立ち向かえるなんて、やっぱりあいつ、何かある…。

知：そうなんですか？

小狼：だって、たくさんの人の中からキッドを見つけたりキッドの目的を見抜く何て普通の人間じゃ出来ないぞ。

ナ：前回の事件の怪盗キッドの事に関しているんなことが気にかかっていたようだ。

知：でもただすごいだけなのでは？

小狼：いや、今回だけならともかく今までも怪盗キッドとも対決していて宝石とか守っているんだろ？ただの子供にしてはうまくいき過ぎている。

知：はあ…。

鏡^{ミラー}：何を話しているんですか？

小狼：あ、いや何でもない…。

知：「言わないんですか…。」

鏡：？

オープニング「M i s t y M y s t e r y」

ナ：時間は一気に進んで放課後。

小狼：こうなったら、ケルベロスにでも聞いてみるか…。

知：え、何ですか？

小狼：あいつも、あいつの事を気に留めていたからな。何か知って

いるかもしれない。

知：じゃあ、行くんですか？

小狼：ああ。

知：じゃあ、私も。

小狼：そうか、構わないが…。

知：新しいコスチュームも考えましたし、さくらちゃんのついでに。

小狼：オイオイ…。

ナ：二人はお互い自宅に帰りが遅くなると連絡し米花町に向かった。

ファイル 9 - 2

凜：え？知世ちゃん達が？

鏡^{ミラー}：はい、そう言っていました。なんでも、あのコナン君とか言っ子が気になっているようで…。

凜：コナン君が？

ナ^{ミラー}：鏡は二人の会話を聞いていたのだ。

蘭：凜ちゃん、誰と電話してるの？

凜：あ、いえ、友達とです！今度のテストどこが範囲だったって…。

蘭：そうなの。そろそろご飯だから。

凜：はい。じゃあ、そういう事だから。でも、明日出かけるからそれは二人に伝えといて。

鏡：はい、分かりました。

コ…。

ナ：コナンは気にかけていた。すぐにその答えは出る事になるが…。

毛利探偵事務所の下、喫茶ポアロ

知：なんで、すぐには行かないんですか？

小狼：いや、まだ気にかかる事があってな。

知：と言つと？

小狼：いくらなんでも、普通の子が毛利探偵事務所にいるなんてどういう事だと思つてな。

榎本 梓（以後・梓）：お待たせしました、コーヒーです。

知：あ、どうも…。

梓：コナン君の話？

知：はい。

小狼：なんで、あの子は毛利探偵事務所にいるのになって、何か知ってますか？

梓：ええ、あの子は阿笠博士の話だと、工藤新一君の遠い親戚だそうよ。

知：「工藤…。」

小狼：「新一！？」どうやら、まだ調べなきゃいけない事があるみたいだな…。

知：え？

小狼：あの、この近くに図書館はありますか？

梓：ええ、米花図書館があるわよ。

小狼：ありがとございます。お金はここに置いておきます。行くぞ！

知：は、はい！

梓：あ…。

ナ：その頃毛利探偵事務所の食卓。

蘭：明日の休暇の旅行楽しみだね。

凜：はい。

小五郎：いいな、俺も行きたいぜ。

蘭：お父さんは浮気調査があるんでしょ。

小五郎：わかってるよ、ちえっ…。

コ：ハハハ…。

ファイル 9 - 2 (後書き)

この先はこの間のあの事件に入ります。

ファイル 9 - 3

米花図書館

ナ：小狼はパソコンである人物の事を調べている。

小狼：工藤新一、工藤新一……。あつた。「ここ数年事件を解決させてきた全国でも有名な高校生探偵。警察の救世主とも言われている。だが、ある日を境にパツタリ姿を見せなくなり今のところ音沙汰なし。」……。

知：まあ……。

小狼：同じく、江戸川コナンは……。「ある日を境に現れた小学生。怪盗キッドと何度も対決しており、今はキッド・キラと称されている」……。

知：コナン君は分かりますが何故工藤新一さんを調べているんですか？

小狼：いや、とんでもない事が分かってな。

知：とんでもない事？

小狼：工藤新一が消えた日と江戸川コナンが現れた月日がほんの数か月しかないんだ。それに、こんな事も書かれている。

知：え？

小狼：「1月某日少年探偵団と言う少年の集団が現れイタリアの強盗団の逮捕に至った。その少年探偵団の中には江戸川コナンもいた。」

知：え！？

小狼：他にも、高山みなみのコンサート中に脅迫にあっていた高山さんを助けたり、強盗を捕まえたりしたこともあるんだ。いくらなんでもうまくいき過ぎだろ？

知：言われてみれば…。

小狼：これは工藤新一と江戸川コナンは何かある…。そろそろ帰るか…。

知：え、帰るんですか？

小狼：仕方ないだろ、もう遅くなっている。一回帰って明日来てみよう。

知：はい。

ピリリリリ

小狼：電話？もしもし？

ミライ
鏡：小狼さんですか？

小狼：さくらじゃなくて、お前か…。なんだ？

鏡：明日さくらさん達旅行に行くんですよ。お二人に言っておくようにさくらさんに言われて…。

小狼：おい、それってどこだ？

鏡：確か…。

ファイル9 - 3 (後書き)

小狼の言っている事件は

原作4巻 File7～10・アニメPART1 - 1「大都会暗号
マップ事件」

原作15巻 File4～6・アニメPART3 - 7「人気アーテ
イスト誘拐事件(前後編)」

原作16巻 File6～9・アニメPART3 - 6「コナンVS
怪盗キッド」

アニメオリジナルストーリー アニメPART5 - 1「探偵団大追
跡事件」

の作品です。

ファイル9 - 4 (前書き)

先に行っておきますが今回はアニメオリジナルストーリーになっています。なお、今回から殺人事件編に入りますので、残酷描写アリです。ご注意ください。

なお、現在開催中の名探偵コナンにじファン検定の事で分からない事とか何かありましたら、感想の所に質問を送っていただいて構いません。

ファイル 9 - 4

ナ：小狼達がコナンの事に付いて調べた翌日、コナン達は船で沖縄のとある島に行こうとしていた。

蘭：風が気持ちいいね。

園子：ホント！これから行く離島の近くはね超綺麗なお魚がいっぱいいるのよ。

光：なんかワクワクしますね！

凜：うん！

ケ：「面白くなりそうや！」

歩：哀ちゃんも来ればよかったのにね。

元：日に焼けるのが嫌なんだってよう。

歩：あ、コナン君、カモメ！

ナ：海の上をカモメたちが飛んでいる。

凜：うわー。

コ：うん。

歩：カモメはあっちだよ。

ナ：コナンはカモメとは別方向を見ていた。

コ：て言うかさ、何か雲行怪しくねーか？

歩：え？

ナ：目的地の島の空は曇っていた。その頃、小狼達は

小狼：よりによって沖縄とはな…。仕方ない。またしばらくしたら…。

知：その心配はありませんわよ。

小狼：え？

知：うちの方で、船を用意してすればすぐにも行けますわ。さあ、早速準備しましょう！

小狼：すごいな…。

ナ：と言う訳で、小狼達も沖縄の島へ向かう事になった。これから起きる事件が様々な出来事を左右する事になるとも知らず…。

ファイル 9 - 5 (前書き)

、そろそろテストが近い^{なにとぞ}ためしばらく更新数が少なくなるかお休み
するかもしれませんが何卒ご理解お願いします。

ファイル 9 - 5

ナ：コナン達は島に着いた。ただ、雲行が悪く雨がいつ降ってもおかしくなかった。

園子：倉橋さん、またお世話になります。

倉橋 治（以後・このファイル中のみ・治）：園子さん、いつもいきにしていたいてありがとうございます。

元：よし、早いとこ部屋に荷物置いて潜りに行こうぜ！

治：ああ、実は今、嵐が近づいていてね、せつかく来てもらってのに申し訳ないが、危険だから海には入らない方がいい。

園子：え？

蘭：そうなんですか…。

元：ブクブク…。

光：がっかりですね。

歩：きれいなお魚さん、見たかったのにね。

凜：はあ…。

コ：「ま、そんな事になると思ってたけどな。」

倉橋 恵子（以後・このファイル中のみ・恵）：さあ、みなさん、
お部屋にご案内しますね。

ナ：部屋に荷物を置いた後、コナン達はペンションを出て近くの森
を散策する事にした。

元：マジかよ…。

歩：楽しみにしていたのにね…。

光：言われてみれば、今は台風シーズンですもんね。

凜：そうだよねえ…。はあ…。

コ：ん？

蘭：どうしたの Conan 君？

コ：何かあそこで撮影したるみたいだよ。

園子：撮影？

ナ：Conan 達は何かの撮影現場を目撃した。その頃、小狼達は。

知：あの島ですわ。

小狼：随分、雲行が悪いな…。

知：確かにそうですね…。

小狼：「なんか、いやな予感がする…。」

ファイル 9 - 5 (後書き)

事件関係者解説 1

倉橋 治 (男性・43) ペンションオーナー

倉橋 恵子 (女性・38) 治の妻

ファイル 9 - 6 (前書き)

ややこしくなったのでファイル 9 の続きに変更しました。タイトルも変更しました。すみません。

ファイル9 - 6

コナン達が目撃した、撮影現場の様子

宮坂 裕弥^{みやさか ゆうや}（以後・このファイル中のみ・裕）：おい、しっかり光を当てろよ。

スタッフA：は、はい。

裕：そうそう、それでいい。

園子：ねえねえ、ちょっとあれって宮坂 裕弥じゃない？

蘭：誰？有名人？

園子：俳優よ。ほら、去年傷害事件を起こしてニュースになったでしょ。

光：思い出しました。確かそれで主演してたドラマが打ち切りになったんですよね。

歩：歩美もあのドラマ好きだったから覚えてる。

凜：ちよつと残念だったよね。

園子：それ以来、さっぱりテレビで姿を見せなくなっちゃったけど、こんな所で何撮ってるのかしら？

元：なんか面白そうだな。ちよつと行ってみよつと。

光：はい！

歩：あはは。

凜：あ、待って！

コ：おいおい。

園子：あ、女優あきもとの秋本 冴子さえこもいるじゃない！

元：女優？どこ？つてあ…。

喜多川^{きたがわ} 美紀^{みき}（以後・このファイル中のみ・美）：しーっ…。

ナ：元太は止められた。

スタッフB：カット！

裕：よし！OK！

元：あ、ごめんなさい。

美：いいのよ。

蘭：すいません。この近くのペンションで宿泊してるものなんですけど、撮影してるのが見えてちよっと見学に…。

美：じゃあ、きっと私達と同じペンションですね。

コ：これ、何の撮影？

美：これ、宮坂 裕弥さんのプロモーションビデオなの。

コ：どんな内容なの？

美：冴子さんと二人で流れ着いた無人島で宮坂さんは、優れたサバイバル能力で彼女を守るって話よ。

園子：無人島ね…。

ナ：実はすぐ傍は道路になっている。

凜：アハハハハ…。

ケ：「よくこんな所でやろうと思うのう。」

裕：それじゃ、頼んだぞ。

スタッフB：分かりましたよ。

裕：おい、美紀。

美：呼ばれちゃた、じゃあね。

裕：何だアイツら。

美：同じペンションの宿泊客だつて。

園子：あら、あの大女優さん、自分でメイクしてる。

コ：ねえ、さっきのあの人メイクさんじゃないの…。つてえ！？

凜：あ！

ナ：なんと、裕弥は美紀とキスしようとしていた。しかも、みんながいる前で。

美：やめて、冴子さんが見てる。

秋本 冴子（以後・このファイル中のみ・冴）…！

裕：構いやしねえよ。

ナ：美紀は裕弥をメイクで止めた。

美：撮影を続けましょうね。

凜：ほえ……。↑（ア然状態）

園子：ふむふむ、そういう事が…。

蘭：どういう事？

園子：宮坂 裕弥と秋本 冴子って一時、噂になってたのよ。

蘭：え？

園子：そこに別の女が現れたって事。

冴：ぐっ…。

ナ：園子は睨まれた。当然だが。

園子：あ、あはは…。

コ：聞こえてるっつーの。

ケ：「アホやで。」

ファイル9 - 6 (後書き)

事件関係者解説2

宮坂 裕弥 (男性・30) 俳優

秋本 冴子 (女性・25) 女優 名前が今流行の人に酷似して
ますがアニメ通りの名前です。ご了承ください。

喜多川 美紀 (女性・22) メイク係

ファイル 9 - 7

ナ：コナン達が撮影を見学していた同時刻。

治：ああ、さっきまでいた子供達ならこの近くの森の方に行ったけど…。

小狼：ありがとうございます。

恵：外は雨が降りそうだから気をつけて下さいね。

知：はい。

ナ：再びコナンサイド。今度は崖を下るシーンの撮影。

裕：次はシーン14。俺が崖下の冴子を助けようと、崖を滑り降りるシーンだ。おい、山本。そっちは準備いいか？

山本 英司^{やまもと えいじ}（以後・このファイル中のみ・英）：はい、準備オツケーです。

スタッフA↓沖田^{おきた} 光夫^{みつお}（以後・このファイル中のみ・光夫）：ちよっと待ってって！宮坂さん、何すかこれ！俺がスタントやるなんて聞いてないっすよ！

ナ：崖の所で光夫が裕弥の格好をさせられていた。

裕：けどお前、元体操部で運動神経だけはいいんだろ？じやなきや、お前なんかカメラに雇わねーよ。ま、やめてもいいんだぜ。その代り、ギヤラは一銭も払わないからな。

光夫：ぐっ……。人の足元見やがって……。

英：もう覚悟決めた方がいいっすよ。宮坂さん、言い出したら聞かないっすから。

光夫：分かってるって！他人事^{ひとじ}だからって簡単に言ってんじゃねーよ！

元：おい、ホントにあの上から滑り降りるのか？

光：いくらなんでも無茶ですよ。

歩：怖い…。

凜：危険すぎるよ…。

蘭：運動神経が良くったって…。

園子：これはちょっと…。

ナ：誰もがこの崖は危険と感じていた。そんな時、小狼達がやって来た。

凜：あれ？

コ：どうした？

凜：小狼君と知世ちゃんだ。

コ：え？

小狼：この辺りか…。

知：あ、あれは！

小狼：！

裕：レディー、アクション！

光夫：でいや！うわっ！

コ：！

光夫：ぐああああ！

コ：あ！

ナ：光夫は崖を転がり落ちてしまう。

蘭・園子：あ！

元・光・歩・凜：ああ！

知・小狼：あ！

ナ：光夫は途中でとがった岩でかすり傷をおおい、引きずられるように落ちた。

裕：カット！

スタッフB ↓ 鷹山^{たかやま} 慎吾^{しんご}（以後・このファイル中のみ・慎）：おい、
沖田！大丈夫か！？

光夫：イテテ…。

ナ：本来なら誰もが気に留める所だが…。

裕：何か落ち方に迫力がねーな。沖田、もう一回だ！

光夫：え！？ぐっ…。

ナ：当然、光夫は裕弥を睨んだ。

裕：なんだ、その目つきは？

蘭：もうやめた方がいいと思います！

園子：そうよ、そうよ！

裕：なんだと？

蘭：宮坂さんは見てなかったんですか？今、もうちょっとで大変な怪我^{けが}になるところだったんですよ！

元：そうだぞ！

光：そうです！

凜：うん！

裕：お前らが口をはさむ話じゃない！

蘭・園子：……。

知：これは…。

小狼：何かの撮影のようだが、ヤバい状況みたいだな…。

ナ：その時、英司が崖を別の所から降りてきた。

英：うわっ！

コ：あ！

ナ：英司は偶然落ちていた空き缶に足を滑らせ、小道具のナイフを汚してしまった。

英：いつて…。誰だ、こんな所にコーラ捨てたのは！

元：あ、いけね…。

光：また、元太君ですか…。

英：あ！コーラが付いてシミになっちゃった。まずい…。あ！

裕：バカヤロ！

英：ガッ！

知：あ！

小狼：！

ナ：英司は裕弥に殴られた。その時、小道具のナイフを落としてしまった。

裕：大事な小道具汚しやがって！

慎：まあまあ、落ち着いて。

美：大丈夫ですか、山本さん！

英：ぐ…。

裕：くそ、どいつもこいつも！

ナ：その時、ついに雨が降って来た。

小狼：あ…。

知：雨が…。

慎：チツ…。降ってきやがった…。

冴：宮坂君、ついに天にまで見放されたみたいね。ここまでくるともうギャグだね。

裕：うるせー！

園子：みんな、ペンションに戻るよ！さあ、アンタ達も！

知：あ、はい！

ナ：その時、誰かが小道具のナイフを拾った。それが誰かはまだ分からない…。そんな事が起きてるとも知らず一行はペンションに戻る。

つ
た。

ファイル9・7（後書き）

事件関係者解説3

山本 英司（男性・21）アシスタントディレクター

沖田 光夫（男性・23）カメラ助手

鷹山 慎吾（男性・28）カメラマン

ファイル 9 - 8

ナ：一行はペンションに戻った。

治：さあ、これで体を拭いてください。

ナ：タオルを差し出し、みんな体を拭いた。

恵：お風呂の準備も出来てますから、よろしかったらどうぞ。

治：どうです皆さん、食事の準備が出来るまでの間、みなさんでちよっとしたレクレーションをして親睦しんぼくを深めませんか？

歩：賛成！

光：なんか楽しそうですね！

元：ああ！

凜：やろつよ！

ナ：だが…。

裕：冗談だろ？

冴：修学旅行じゃあるまいし、勘弁してよ。

慎：ペンションのオヤジってのは、何かって言うつとすぐ親睦を深め
たがるんだよな。

光夫：僕らも機械の点検とかあるもんで…。

英：失礼します。

ナ：美紀以外はスタッフたちは自分の部屋に戻ってしまった。ただ
それに、治はあ然とするだけだった。

治：…。

ナ：元太達は七並べを始めた。

元：じゃあ、俺から行くぜ！スピードの8！

治：えーっと、私はダイヤの8。

歩：歩美は、あつた！ダイヤの6！

ナ：その頃隣で、蘭と園子は美紀に話を聞いた。

蘭：宮坂さんって、いつもあんな感じなんですか？なんか、前にも事件を犯した^{おか}って聞きましたけど…。

美：宮坂さんはその事件で落ちた人気を取り戻そうと必死なんです。今回のプロモーションビデオも、彼の自費制作なんです。この作品に賭けてるんです！だから、ナーバスになって…。いろいろと、迷惑をかけてしまってますみません。

蘭：いいえ…。

ナ：ちなみにその頃、その部屋の近くの部屋。

知：とてもお似合いですわ、さくらちゃん。

ナ：知世は凜に自分が作ったコスチュームを着せていた。

凜：ちょっと知世ちゃん、わざわざこんなところまで……。って言うか、何でここに二人がいるのかまだ聞いてないんだけど……。

知：私はこれが目的です。李君は違うみたいですが。

凜：ほえ？

ナ：そんな小狼は、部屋にいるコナンを静かに見ていた。

小狼：「あいつ、普通にトランプしてる。ん？」

元：パス1だけ……。

治：私もだ。

歩：私もパス……。

小狼：「なんだ、急にみんな詰まって来たぞ。」

ナ：さらに別の部屋。まずは宮坂の部屋。

トントン

裕：誰だ。

冴：私。

裕：あ？

ナ：扉の外には冴子がいた。シャンパンを持って。

冴：あら、何？まだ着替えてないの？

裕：どうでもいいだろ。一体何の用だ。

冴：食事の前に一緒に飲まない？この天気じゃ、今日の撮影はもう無いんですよ？

裕……。

ナ：さらに別の部屋。英司の部屋。

英：「また、殴られた…。」

ナ：英司はさっきの事を根に持っていた。どうやら、1回目では無かったようだ。さらに別の部屋、光夫の部屋。

光夫：クソッ、宮坂のやつ！ふざけやがって！

ナ：光夫はゴミ箱を壁に蹴りつけた。

トントン

慎：おい、沖田。

光夫：あ、はい。

ナ：扉の外には慎吾がいた。

光夫：あ、何すか、鷹山さん。

慎：宮坂の奴がメイキング撮るから、カメラ回してくれってよ。

光夫：え、俺が回すんすか？鷹山さんじゃなくて。

慎：ああ、宮坂のご指名だ。さっきの詫びのつもりじゃねーか？ほらよ。

ナ：慎吾は光夫にカメラを渡して去って行った。んで、コナン達は…。

光：僕はパス2です！

元：ぐっ…、パス3！もうパス出来ねーじゃんか！

治：私もパス3…。

歩：もう、コナン君全部止めちゃうなんてずるーい！

コ：「ずるって、そういうゲームだろ。七並べって。」

小狼：「なんだ、あいつ（コナン）以外が全員詰まっちゃったぞ…。」

ナ：その時、突然光夫がコナン達がいる部屋にカメラを持って入って来た。

光夫：大変だ！宮坂さんが…、死んでる！

蘭・園子・美：え！？

コ：「！？」

小狼：「何！？」

ファイル 9 - 8 (後書き)

今回長かったかも。

ファイル 9 - 9

治：宮坂さんが死んでるって、どういふ事ですか！

光夫：メイキングを取るから、カメラ回して宮坂さんの所に行けって言われて、そ。そしたら…。

．．．．．

ナ：事件当時、光夫が裕弥の部屋に入ると…。

光夫：うわーっ！

慎：どうした！？

ナ：慎吾がすぐ駆けつけた。

光夫：あ、鷹山さん！宮坂さんが…。

慎：宮坂…。おい、嘘だろ！？おい、沖田！すぐにみんなを呼んで来い！

光夫：あ、はい！

・
・
・
・
・
・
・

治：本当ですか？

光夫：ええ。

美：そ、そんな…。

コ：とにかく行ってみよう！

小狼：「予感が当たった…。」俺は二人を呼んでくる！

ナ：宮坂の部屋。

治：君達は外で待ってるんだ。

コ：…。

ナ：そう言って治は部屋に入った。

治：鷹山さん、宮坂さんは本当に…。

慎：脈が無い。もう手遅れだ…。

美：宮坂さん…。そんな…。いやーっ！うつつ…。

ナ：美紀はその場に泣き崩れた。そして、冴子と英司が来た。

冴：どうしたの。何があったの…！宮坂君！？

英：…！？

コ：「ナイフで心臓を一突きか…。」

ナ：宮坂の遺体には汚れの付いていないさっきのナイフが刺さっていた。だが、コナンはその遺体に違和感を感じた。

コ：「何が…。」

蘭：コナン君！入っちゃダメ！

コ：ご、ごめんなさい…。ん？

ナ：コナンは何かを見つけた。

コ：「これは…。」

冴：あら？それ、私のリキッドファンデーションじゃない。なんでこんな所に…。

治：触らない方がいい！

冴：！

治：現場保存です。ここは封鎖しておきましょう。警察が来たら私がマスターキーで開ける。

慎：警察って…。

治：人が死んだんです！警察を呼ばない訳にはいかないでしょう。

慎：それはそうだが…。

ナ：慎吾はなぜか、まだ泣いている美紀を見た。

蘭：美紀さん、部屋で休んでた方が…。

園子：そうですよ。

美：はい。すいません…。

ナ：美紀は自分の部屋へ戻った。残りの人達は全員、コナン達がい
た部屋（さっきまでトランプをしていた部屋）に向かった。

治：警察に連絡したのですが、この嵐が収まらない事には船は出せ
ないそうです…。

凜：え…。

知：さくらちゃん…。御心配なさらないでください。（ばれないように小声）

英：この中に犯人がいるって事ですよね…。

一同：！？

英：だってそうじゃないですか！外は警察も来られないくらいの大嵐ですよ。外部の人間とは考えられないでしょ。

治：認めたくはないが、私もそう思う…。

蘭：そ、そんな…。

小狼：「まさかこうなるとはな…。もしかしたら、アイツ…。」

ナ：小狼はコナンを気に留めた。

恵：あの、お食事はどうしましょう？

治：申し訳ないが、警察が来るまで待つてもらうしかないな…。

冴：構わないわ。私も殺人犯と一緒にご飯なんて食べたくないわ。

英：まるで、自分は犯人じゃないような口ぶりですね。

冴：なによ！あなた、私を疑ってるの！？

治：まあまあ、ここは落ち着いて状況を整理しましょう。

ナ：その時、美紀が自分の部屋から戻って来た。

蘭：あ、美紀さん。もう大丈夫なんですか？

美：ええ、もう…。ご心配かけてすいませんでした。

光夫：これで全員っすね…。

蘭：美紀さん、いっくどござ。

美・ありがとう。

ファイル9 - 10 (前書き)

コナン検定、誰か送って来てください…。分からない事は感想の所で聞いていいので…。

ファイル 9 - 10

治：ではまず犯行があった時間ですが、宮坂さんがロビーを出てから、沖田さんに発見されるまでの間って事になりますね。その間、私達はずっとロビーにいた。

園子：つまり、蘭と私と美紀さん。倉橋（治）さん、そしてガキンチョ4人にはアリバイがあるって訳ね。

治：となると、アリバイが無いのは女優の冴子さん、カメラマンの鷹山さん、A Dの山本さん、アシスタントの沖田さん、そして私の妻とお嬢ちゃん達（凜と知世）の7人と言う事になる。

凜：え、そんな！

恵：私はずっと、食事の準備をしていたわ。

治：ああ、君が犯人って事は絶対にありえない。宮坂さんとは今日、初めて会ったんだ。動機が無い。

恵：ほっ…。

治：それに、お嬢ちゃん達も同じ理由だし、まだ子供だから大丈夫。

凜：良かった…。

知：はらはらしました…。

慎：って事は、俺たちの誰かが犯人って事か。

ナ：慎吾はカメラの録画ボタンを押した。

慎：ここからは証言記録として録画させてもらうぜ。さあ、誰から話すんだい？

コ：あのさ、一つ聞いてもいい？

蘭：ちよつとコナン君！

コ：質問するだけだから。沖田さんに質問なんだけど、宮坂さんの部屋ってオートロックでしょ。どうやって部屋に入っただの？ドア開いてたのかな。

慎：つまり、部屋に入つて時、宮坂はまだ生きていた。それで宮坂を何してから、第一発見者のようにふるまった。お前、スタントの事で宮坂にイラついてたからな。あり得る話だな。

光夫：ちよ、ちよと待つて下さいよ！俺が行つた時、ドアに化粧品のビンが挟まっていて隙間が空いていたつす。あれつて冴子さんの物だつたんすよね。それつて、宮坂さんの部屋に行つたつて事じゃないですか？

冴：ちよつと、あなたも私を疑うの！？そもそも、何で私があんな事しなきゃならない訳？

美：動機ならあるじゃないですか！

冴：！？

美：冴子さんは私と宮坂さんの関係を疑つて、嫉妬しました。

慎：愛情のもつれてやつか。

冴：そこまで言うなら正直に話すわ。確かに宮坂君の部屋に行つたわ。美紀との関係を問いただす為にね。でも、部屋を追い返されて中には入れなかったのよ。でも、ファンデーションなんて持つてつ

てないわ。なのになんで、宮坂君の部屋にあったのか、私も分からないのよ。

光夫：実は俺も鷹山さんに聞きたい事があるんすけど。

慎：な、何だよ…。

光夫：俺が宮坂さんの遺体を発見した時、やけに早く現れたっすよね。まるで俺が部屋から出くわすのを待ち構えていたかのよう…。
宮坂さんが呼んでたつてのは嘘で、本当は鷹山さんが犯人で、俺に罪を擦り付けようとしてんじゃないっすか？

慎：な、何だと！

光夫：俺知ってるっすよ。鷹山さんが賭け麻雀^{マーじゃん}で宮坂さんにスゲー借金があるって事。

慎：バ、バカヤロー！俺はお前が撮影できるか心配で見に行ってたんだよ！借金とか関係ねーっての！

光夫：どうだか…。

冴：あなたはどうなのよ、山本君。

英：え！？

冴：凶器に使われたのはあなたが使ってた小道具のナイフだったわよね。
↑（先程の撮影で使われたナイフ）

英：グッ…。

冴：宮坂君に殴られて、かつとなつてやつちやつたんじゃないの？
今までだつて扱こ使こわれてたじゃない。その恨みが積もり積もつて…。

英：ち、違います！僕じゃない！あのナイフは宮坂さんに殴られた時に失くしてしまつたんです！すぐに探したんですけど、雨がひどくなつてきて、どうしても見つけれなかったんですよ。

冴：そう…。

コ：「何だつたんだ…。宮坂さんの遺体を見た時に感じた違和感は何かが、何かがおかしい…。」あつ！ねえ、沖田さん。確か宮坂さんの部屋に行った時、ビデオカメラ回していたよね。

光夫：ああ、宮坂さんの部屋に行った時からずっと回しっぱなしだったけど。

コ：って言う事は宮坂さんの遺体を発見した様子が全部撮影されてるって事でしょ。

ナ：その時、犯人がその事に気が付いたらしい…。

コ：それを見たら、何か手がかりがつかめるんじゃないかと思って。

美：ごめんなさい、私はとても無理…。宮坂さんの遺体のビデオなんて…。

蘭：コナン君、美紀さんは宮坂さんの遺体を見て、すごくショックを受けているんだから、ね…。

コ：う、うん…。ごめんなさい…。「宮坂さんを殺害した犯人は一体誰なのか…。」

ファイル 9 - 10 (後書き)

時間が来たので中途半端ですがここで終わります。近いうちになんか書きます。申し訳ありません。

ファイル9 - 11 (前書き)

今回の話は先程書ききれなかった部分を書いているため、短いですが、ごめんなさい。なお、今回はコナンのセリフが長続きするので分かりやすく分けました。

ファイル 9 - 1 1

コ：「宮坂さんを殺害した犯人は一体誰なのか…。」

ナ：ふとコナンは思う。

コ：「鷹山さんは宮坂さんに、多額の借金があった。宮坂さんを殺害した後沖田さんを部屋へ行かせ、罪をきせようとしたとも考えられる。」

「沖田さんは無茶なスタントをさせられ怒っていた。宮坂さんを殺害して、第一発見者のふりをしているのか…。」

「冴子さんは宮坂さんと美紀さんの関係に嫉妬していた。現場には彼女の化粧品が残されていた。」

「山本さんは殴られたことを恨んでいた。ナイフを紛失していたと言うのは嘘かもしれない…。」

「とにかく犯人は、このペンションの中にいる誰かに、間違いない…。」

ナ：コナンはいつも通りに確信している。ただそれを小狼は…。

小狼：「何か怪しいな、アイツ…。ま、まさか…！いや、そんなはずは…。」

ケ：「小僧もそう思ってるみたいやな…。」

ファイル9-11（後書き）

アニメ前編部分終了です。

ファイル9 - 12 (前書き)

ただ今実施中の名探偵コナン検定がなかなかうまくいかないので、問題のあるところを教えたいと思います。

問題のある所 ファイル1 - 1、ファイル3 - 8、ファイル5 - 15、ファイル7 - 9、ファイル8 ラストの5つです。

これからはこうならない様、企画を行う場合は検討します。御迷惑をおかけしました。

それでは、今回からアニメ部分後編を始めます。

ファイル 9 - 12

慎：なあ、いつまで俺達はこの部屋に居なきゃならねーんだ！

ナ：慎吾はイラついている。

治：警察が来るまでです。全員が同じ部屋にいれば犯人も逃げられない。

冴：逃げるって、この嵐の孤島で一体どこに逃げるって言うのよ。

英：僕は犯人じゃないから、逃げる必要なんてありませんよ。

美：…。

冴：私、部屋に帰らせてもらっわ。犯人だと疑いたいなら、どうぞご勝手に。

ナ：そう言っ冴子は自分の部屋に戻って行った。

慎：て言うか、本当に警察は来るのかよ！

光夫：鷹山さん、やたら警察を気にしてるっすよね。

慎：…。

園子：え、まさか…！

歩：は、犯人！？

元・光・凜：えーっ！？

知：あ…。

コ：「…！」

慎：な、何だよ！俺はただ警察が来るのが遅いから聞いたただけだろ
うが！ふざけんな！証言記録は終わりだ！俺も帰らせてもらっぜ！

ナ：慎吾はカメラを止め、部屋に戻った。

園子：ムキになるところがますます怪しいわね。

小狼：…。

光夫：俺も帰っていいっすか？

英：じゃあ、俺も。

ナ：光夫と英司も戻って行った。

美：アリの無い4人がみんないなくなったら、私達がここに居る必要もありませんよね。失礼します。

ナ：美紀も戻って行った。

蘭・園子：…。

光：みんな、行ってしまいましたね…。

グウ…。

光：ん？

元：アハハハハ、なんか腹減っちゃって…。（さっきのはお腹のな
った音）

恵：お腹もすくわよね。こんな時間なもの。すぐに出来るもの、こ
こに持って来るわね。

元：やったー！

歩：やっぱり、あの鷹山さんって人が犯人なのかな。

光：さあ、どうでしょうね。確かに警察に怯^{おび}えていたように見えま
したけど…。

コ：「宮坂さんの遺体を見た時に違和感、あれがどうしても気にな
る…。しょうがねえ、撮影したビデオが見られないなら、もう一度
現場に行つて確認するしかないか…。」

ナ：と言つ訳で…。

コ：あれ〜？お財布が無いや。さっき宮坂さんの部屋に行った時に落としちゃったのかも。

小狼：？

蘭：え？なんで他の部屋じゃなくて、宮坂さんの部屋って分かるの？

コ：え…。うん…。何となく…。アハハハ…。「そこは突っ込むなって！」

治：分かった。じゃあ私が取って来よう。

コ：あ、僕も行くよ！

蘭・園子……。

小狼：「もしかしたら…。」「ちょっとトイレに出て来る。」

知：あ、はい…。

ケ：「小僧のやつ、あのガキの所に行く気やな。」

ナ：その頃、宮坂の部屋。治がマスターキーで部屋を開けた。

治：君はここで待ってるんだ。

コ：うん。

小狼：「いたぞ。そつと見てみよう…。」

ナ：小狼は近くに隠れた。

治：気の毒に…。こんなにナイフが深々と…。

ナ：治はシミの付いたナイフが刺さった宮坂の遺体を見てそう言った。その時コナンはちよつとだけ入る。

小狼：「入った!？」

ナ：治はベットのシートで宮坂の遺体を隠した。

治：すっかり冷たくなって…。

コ：あ、こんな所にお財布あった。

治：ああ、あったかい？

小狼：「あれ、あいつポケットから財布出さなかったか？」

コ：「おかしい、さっき来た時の違和感が無くなっていた…。あれは一体…。俺の気のせいだったのか…？」

小狼：「まさか、まさか…！おい、そんな事があるのか！」

ケ：小僧。

知：李君。

小狼：ケルベロス、知世！

知：急にケロちゃんが言い出して…。

ケ：決まっ たかもしれ へんで。

小狼：何！？

知：？

ケ：実は のう…。

ナ：ケルベロスは小狼に今までのコナンの出来事を話した。ビデオレターの事件の事、手術室オペルームの事件の事、キッドの事件で金属探知機を置いていたりなどの対策を取ったのがコナンだった事などを…。

小狼：そうか…。

知：そんな事が今まで あっ たんですか…。

小狼：決まっ かもな…。

ケ：せやな…。

ナ：その頃ロビーでは…。

元：うめえ！

光：おいしいですね！

恵：良かった。

歩：コナン君、お財布見つかったかな。

歩：あ、美紀お姉さん！

ナ：美紀が戻って来た。

美：やっぱり、一人じゃ落ち着かなくて…。ここに居ていいですか？

恵：どうぞ。お食事もありますから。

蘭：ここ、どうぞ。

美：どうも。あ！

蘭：美紀さん、どうしたんですか？

美：今、鷹山さんが窓の外を走って…！

蘭：え！？こんな嵐の中を！？

美：まさか！

園子：やっぱり、あの鷹山さんが犯人だったのね。

光：そうか！警察が来るのを恐れて逃げ出したんですね！

ナ：蘭達は外に出ようとした。その時、治とコナンが降りてくる。
しばらくして、小狼達も降りてきた。

治：おい、君達！

蘭：あ、倉橋さん！

治：どうしたんだい？

コ：何かあったの？

元：犯人が逃げ出したんだよ。

治：え、犯人！？

光：鷹山さんですよ！リビングで美紀さんが鷹山さんが逃げ出しているのを目撃したんです！

コ：「え？…。」

ナ：少しその言葉を気にしながらコナン達は車で移動した。

治：本当にこの方角に間違いないかい？

美：はい、東の方角に逃げるのを見ましたから。

治：だが、この先は断崖で行き止まりだ。

ナ：車は断崖に到着した。

治：おーい、鷹山さん！おーい！

美：鷹山さん！あ！

治：こ、これは…！

ナ：崖下で鷹山が倒れていた。血を流しながら…。

コ：「鷹山さん…。」

ファイル 9 - 13

ナ：結局、一行はペンションに戻った。

元：光・歩・凜：ZZZ…。

恵：みんな、疲れて寝ちゃったわね。

蘭：宮坂さんに続いて、鷹山さんまで…。

美：多分、逃げる途中で暗闇に気付かず、崖から落ちたんでしょうね。

冴：馬鹿な男…。

コ…。

ナ：コナンはふと目を覚ます。

冴：でも、犯人が分かって良かったじゃない。これで事件は解決ね。

治：しかし、本当に鷹山さんが犯人だったのか？

英：そりゃあ、間違いないでしょう！他にこんな嵐の中、飛び出していく理由があるんですか！

治：だが、逃げ出したところで、島から出られない事くらいわかったはずだろう。

英：それは…。

コ：「仮に鷹山さんが犯人として、偶然の事故で命を落とすなんて出来過ぎてる…。もしかしたら、鷹山さんも…。」

冴：つまり、まだ私たちの容疑は晴れてないってわけね。鷹山さんが消えたから、私と沖田君と山本君の3人の誰かが犯人って言いにくいけどしょ！

光夫：俺は犯人じゃない！それを今から証明する！

ナ：光夫はビデオカメラを用意した。

光夫：俺が宮坂さんの部屋に行った時に撮影したビデオつす。これを見れば、俺が宮坂さんを殺したんじゃないって事が分かるはずだ！

コ：「あのビデオを再生するのか！？」

美：すいません、前にも言いましたけどそのビデオは…。

光夫：ああ、宮坂さんの遺体が映ってる。でも、俺の無実を証明するためだ。悪いけど、嫌なら目をつぶっていてくれよ！

美：あ…。

ナ：美紀は目をつぶった。

光夫：じゃあ、再生するぞ。

ナ：コナンもそつとビデオを見た。二人が気付いてるのも知らず…。

小狼：！「アイツ…。小1なのに見る気だ。」

ケ：「決まったのう…。」

ここから先はカメラの映像のセリフになります。

・・・・・・・・・・

光夫：えー、メイキング班の沖田です。これから宮坂さんの部屋に突撃したいと思います。ここが宮坂さんの部屋です。

さあ、宮坂さんは今、何をしているでしょう。あれ、ドアが少し開いてますね。あ、何か挟まってます。えーっと、何か化粧品（冴子のリキッドファンデーション）のようですね。

ナ：ドアにはリキッドファンデーションがさかさまで挟まっていた。

光夫：では、入って見ます。

え……。うわーっ！

ナ：汚れないナイフが刺さっていた、裕也の遺体を見て光夫は驚いた。

慎：ど、どうした！？

光夫：あ、鷹山さん！み、宮坂さんが…！

慎：み、宮坂…。嘘だろ！？おい、沖田！すぐにみんなを呼んで来い！

光夫：はい！

・・・・・・・・・・

それでは会話を戻します。

コ：あ！

ナ：コナンは何かに気付いた。美紀は少し顔をうつむいていた。

美：…。

光夫：どうつすか！俺が宮坂さんの部屋に行った時にはもう死んでいたんだ！俺がやったんじゃないって事分かったもらえたっすか！

治…と言う事は、冴子さんか山本さんのどちらかが…。

冴…ちょっと、変な事言わないでよ！

英…そうだ！僕はやってない！

コ…「違和感の正体がやっとわかったぜ！」

ナ…ふとコナンは起き上がる。

コ…ふぁあゝ…。

蘭…あ、コナン君。

コ…おトイレ、ふぁあゝ。

ナ…と見せかけて、麻醉銃を園子に撃った。

小狼…！

知：え！？

園子：ふひはらは…。

蘭：園子！まさか…！

ナ：園子はソファアに座った。眠ったが。

治：いきなりどうしたんだい！

蘭：園子がこの踊りを踊った時は、推理クイーンと呼ばれる名探偵になるんです！

治：推理クイーン？

知：…どういう事なんでしょう。

ケ：まあ、見といてや。

ナ：コナンはソファアの後ろに隠れ、園子の声で話す。

コ：もしかしたら私達は、大きな勘違いをしてたかもしれません。
沖田さん、すみませんが今のビデオ、もう一度見せてもらえませんか。

光夫：え、ああ。

ナ：光夫は再びビデオを再生した。

コ：宮坂さんの遺体が映っているところを見せて下さい。

ファイル 9 - 13 (後書き)

次に行く前に、一か所の矛盾点を見つけてみて下さい。その矛盾点
が真相を解くカギになります。

ファイル 9 - 14

コ：宮坂さんの遺体が映っているところを見せて下さい。

光夫：あ、この辺りだな。

ナ：光夫はビデオを裕弥の遺体が映っているところで止めた。

コ：山本さん。このナイフは小道具で使っていたナイフに間違いないかしら？

英：ええ、間違いないと思うけど。

コ：よく見て下さい。何か違和感を感じませんか？

英：違和感って…。あ！コーラのシミが無い！

光夫：あ、本当だ！ナイフの柄にシミが無い！

治：ん、ちょっと待ってくれ。私がさっき、コナン君の財布を探しに行った時、改めて遺体を見たんだが…、ナイフの柄にはコーラの

シミが付いていた！

コ：ええ。と言う事はつまり、ナイフは2本あったと言う事よ。

蘭：え！？

光夫：なんだって！？

英：ナイフが2本！？

知：そんな…。

小狼：そうか…。「間違いないか？」

冴：ちょっと待って、じゃあ何？一度刺した後、もう一度別のナイフで刺し直したと言うの？何の意味があつてそんな事するのよ！

治：それに、そもそもいつナイフを刺し直したと言うんだ。部屋はオートロックで私のマスター気が無ければ入れないはずだ。

コ：でも、部屋の中からならドアを開けられるわ。

蘭：部屋の中からって、部屋の中には宮坂さんの遺体しか…。

コ：その時まだ、宮坂さんが死んでいなかったとしたら？

光夫：何を根拠にそんな事を！

コ：根拠はあの、リキッドファンデーションよ。宮坂さんの部屋のドアに挟まっていた、リキッドファンデーションの瓶。さかさまの状態^{いと}でドアに挟まっていたなんて、あまりに不自然よね。なんらかの意図を感じない？

冴：意図って…。

蘭：さかさまになったリキッドファンデーション…。

コ：リキッドがさかさま…。

蘭：あ、「ドッキリ」！

知：まあ…。

コ：その通り。死んだふりをして、みんなを驚かせるドッキリビデオ。恐らく、最初に刺さったコーラのシミの無いナイフは刃が途中でしかない偽物。血は撮影用の血糊ちのりね。それを使って遺体ふんに扮し、それを見て慌てふためくみんなを撮影して、ドッキリビデオを作るつもりだった。

冴：宮坂君なら考えそうな事だわ…。

コ：いえ。この計画は、犯人が宮坂さんに持ちかけたもの。それを利用して、彼を殺害する為に。しかし、宮坂さんは犯人の計画にはない行動をとったのよ。まさか、本当に殺されるとも知らない宮坂さんが、ほんの遊び心でリキッドファンデーションを仕掛けた。それが図らずともダイイングメッセージとなった。

ファイル 9 - 14 (後書き)

初めて裕弥の遺体が出て来た時は汚れの付いていないナイフ、財布を探しに行った時にはシミの付いたナイフと書きました。これが矛盾点です。実はミスではなく、事件の鍵だったんです。

うつかりしてましたが、リキッドファンデーションがさかさまに挟まっていた事、書き忘れしました。あとで修正します。(2011年10月3日現在)

ファイル 9 - 15 (前書き)

これからは一人が長ゼリフを言う場合は少し分けます。

ファイル 9 - 15

コ：ところで、このドッキリには協力者が必要なのよ。

治：協力者？ そう言えば、あの時宮坂さんの死亡を確認したのは鷹山さんだった。つまり、鷹山さんがドッキリビデオの協力者だったのか！

光夫：タイミングよく現れたのも偶然じゃなかったんですね。俺を宮坂さんに近づけさせないためだったんですね。

英：じゃあ、やっぱり鷹山さんが犯人！？

コ：いえ、鷹山さんには宮坂さんを殺害する事は出来ないわ。

一同：え？

コ：だって、犯行が行われたのは私達がペンションに帰って来てから。宮坂さんが死んでいると聞き、部屋へ駆けつけた間ではなく、私達が宮坂さんの部屋を出てから、倉橋さんが二度目に部屋に入るまでの間。そして、その間^{かん}みんなはこのロビー^{ロビー}にいた。たった一人を除いて…。

蘭：あ…。

コ：そう。その時間に犯行が可能なのは…。

・
・
・
・
・
・
・

蘭：美紀さん、部屋で休んでた方が…。

美：はい。すみません…。

・
・
・
・
・
・
・

コ：美紀さん、あなたしかいないわ。

美：あ…。

コ：今回のドッキリを二人に持ちかけたら、宮坂さんも鷹山さんも喜んでOKした。そしてあなたの計画通り、宮坂さんが殺害されたと信じた私達は、宮坂さんの部屋を封鎖した。

みんなが立ち去った後、あなたは再び宮坂さんの部屋に戻り、そしてまだ生きている宮坂さんがドアを開けて美紀さんを招き入れた。恐らく計画では、一緒にみんなの前に現れてネタばらしをするつもりだったんでしょ。

しかし今度は本物のナイフで心臓を一突きにされてしまった。遺体をドッキリと同じ姿勢に寝かすと、美紀さんは部屋を出た。ドアは元通り鍵がかかる。こうしてあなたは、一人だけ確固^{かっこ}たるアリバイを手に入れた。

光夫：じゃ、じゃあ鷹山さんは…。

コ：鷹山さんは宮坂さんがいつまで経ってもネタばらしに來ない事を不審に思っていたんでしょ。何か落ち着かずソワソワしていたのは皆さんも気づいていたわよね。宮坂さんが本当に殺害されたと鷹山さんが知ったら、ドッキリのアルバイトリックがばれてしまう。

そこで美紀さんは、鷹山さんを崖に呼び出し突き落とした。そして何食わぬ顔でロビーに戻ると、鷹山さんが逃げたと嘘をついて、犯人に仕立て上げようとしたのよ。

美：嘘じゃないわ！私は本当に見たのよ！

コ：見える訳ないわ。だってこの明るいロビーから暗い外を見たと

しても、窓には室内が反射して映って、外は見えないんだから！

蘭：え！？

美：あ…。

ナ：コナンの言う通り、窓に映ったのは室内だけだった…。それからしばらく美紀は黙り込んだ。

美：…。

冴：黙ってないで何か言いなさいよ！

美：私がやりました…。

蘭：美紀さん…。

恵：そんな…。

知：あ…。

小狼・ケ……。

美：私は以前、名も無い女優でした。ある時、初めて大きな仕事をいただきました。宮坂が主演のドラマのゲストでした。私はたった一人の身内の祖母に、早速報告に行きました。病床の祖母はとっても喜んで放送日が来るのを楽しみにしていました。ですが……。

宮坂と鷹山が傷害事件を起こし、ドラマは打ち切り……。私の出演した回は放送されず、祖母は他界しました……。あの二人があんな事件を起こさなければ、私の晴れ舞台を見せる事が出来たのに……。

結局その後、大きな役をもらう事も無いまま、私は役者の道を諦めました……。それが全部、宮坂たちのせいだと思うと、あの二人が許せなかった。なのに、アイツらは……。

……

裕：あんなくだらねえ事件で、役者人生を見捨ててたまるかよ！俺はもう一度、スターに返り咲いて見せるぜ！ハッハッハッハッハッ！

……

美：そんな反省の色の無いアイツが、のうのと役者を続けられて、私は役者をあきらめなきゃいけないなんて、絶対におかしい！だから…。

ナ：美紀は涙ながらに話す。しかし…。

冴：甘ったれてんじゃないわよ！

美：ハッ！

冴：役者の世界なんてうまくいかない事ばかり、それでもみんな齒を食いしばって頑張っているの！いい役がもらえないのは努力が足りないだけ、止める止めないは本人の意思、それを他人のせいにして、命まで奪うなんて、甘えてんじゃないわよ！

美：うつ、ああああ…。

ナ：その言葉に美紀はずっと泣き続けるだけだった…。そして、それからしばらくして嵐が止み到着した沖縄県警の調べで、美紀の部屋から、刃の折れた偽物のナイフが発見された…。

ファイル9 ラスト

エンディング 「Your Best Friend」

エピソード

ナ：コナン達は帰る準備をしていた。コナンと凜だけがいる時…。

コ：これでよし…。

小狼：おい。

コ：なに？

小狼：お前、工藤新一だろ。

コ：え！？

凜：何言ってるのよ、小狼君。そんな事ある訳無いじゃない。

小狼：さくらが小さくなってる時点で、否定できないだろ。

凜：あ、そっか。

小狼：はあ…。さっき、お前がああ茶髪の人を眠らせて、推理を話したのを見たぞ。

知：私も見ましたわ。

ケ：わいが教えたんや。

コ：えええっ！？

小狼：あの推理は間違ってたみたいだし、これまでもいろんな事件を解決してるようだし、工藤新一がいなくなった時期とお前が米花町に現れた頃は同じ頃だ。これはどう見ても同一人物としか言えない。どういう事が説明してくれないか？

コ：…。

凜：「新一君…。」

コ：分かった…。

凜：！

コ：認めようじゃないか。そうだ、俺が工藤新一だ。

知・ケ・小狼：！

凜：新一君！

知：本当だったんですか…。

ケ：そう言う事やったんか…。

小狼：なあ、改めて聞くが一体何でそんな姿になったんだ？

コ：詳しい事は今度、話そう。今は帰らないといけない。今度阿笠博士の家で…。

小狼：あ、いや。もう一人、お前の事を気にしている奴がいるから、

友枝町に来てくれないか？

コ：あ、そうなのか…。分かった…。

ナ：こうして二人は和解した。

知：あ、そう言えば今日は何も起きませんでしたよね。

コ：小狼…！

凜：そう言えば！

ケ：引っ掛かるの…。

コ：確かに…。いつも出る訳じゃないのか…？

ナ：誰もがそれを疑問に思った。だがそれはこういう事だった…。

謎：おい、例の物は順調か？

？…はい。順調でございます、×××様。

謎…そうか、そろそろ手を出すか…。くっくっくっ…。

ファイル9 完

ファイル9 ラスト（後書き）

今回のストーリーのベース作品はアニメオリジナルストーリー・629〜630話「プロモビデオ撮影事件」でした。なお、話の関係で今回のストーリーのオチの部分はカットさせていただきました。ご了承ください。

ファイル10-1（前書き）

最近週間アクセス数が減ってて悩んでいます…。何か意見があったら送って下さい。

クレームは受け付けません。

なお、現在開催中の企画、失敗した気がします…。ごめんなさい…。

ファイル10-1

オープニング 「Misty Mystery」

ナ：ここは友枝町のさくらの家。前回、小狼と和解したコナンは、これまでの出来事を話すため凜と向かった。なお、これを話す事は灰原には承諾済み。

コ：お邪魔します。

凜：久しぶりって感じ…。

ケ：ほんまや。

鏡^{ミラー}：さくらさん、お久しぶりです。李さん達なら、リビングにいます。

凜：あ、うん。

ナ：リビングにて。

小狼：来たか。

コ：ああ。

小狼：じゃあ、早速だが…。

コ：そうだな。でもその前に、忠告しておかなきゃいけない事がある。

小狼：？

コ：この話は本当だったら、誰にも話してはならないんだ。だから、誰にも話すなよ。あと、この実態がばれたりしたら、そっちも危険な目に合う。覚悟してくれ。

小狼：ああ、分かった。

月^{コエ}：それがどうしたのだ。

コ：！

ナ：コナンの事を気に留めていたのは月^{コエ}だった。

月：実際、お前と関わっている人間はたくさんいるのだ。少し覚悟を取らせたくらいじゃ、意味は無いはずだ…。

コ…。

小狼：まあいいじゃないか。とにかく話してくれないか。

コ：そうだな…。じゃあ…。

ナ：そしてついにコナンは、自分が小さくなった経緯^{いきりつ}を話し始めた。ジェットコースター殺人事件を解決した後、黒の組織の取引現場を目撃した事、その最中^{なごちゆう}に毒薬を飲まされ、小さくされてしまった事、それで毛利探偵事務所に居候した事を…。

小狼：そんな事が…。

知：正直、怖いと言っか…。

ケ：ずいぶん、大変やったんやなあ…。

凜：辛かったんだ…。

コ：辛いのはこれからさ…。

ナ：コナンの話はまだ終わらない。それからしばらくして灰原が現れた事、黒の組織で彼女の姉が殺された事、灰原自身も小さくなっている事、黒の組織に追われている事などを…。そしてそれ以降の組織の情報も…。

知：あ…。

小狼：…。

月：哀れだな…。
あわ

凜：そんな…。

コ：確かにな。だから、俺は黙っていたんだ。

小狼：やっぱり聞くべきじゃなかったか…？

コ：いや、いずれこうなるとは分かっていた。だから、気にするな。

凜：ねえ。

コ：ん？

凜：新一君は灰原ちゃんがその毒薬を作った人だと言ってたけど、治す薬は出来てないの？

コ：ああ、今までも何度か作った事はある。しかし、薬のデータが無い事には上手く出来ないから、元に戻る時間は限られてるんだ。

小狼：え、あの事件以降もいたのか？

コ：まあな、だけど組織に見つかるとヤバいからそこにいた人達には口止めしていたんだ。

小狼：そうか…。

ケ：世の中変な事が多いのう…。

コ：お前もな。

ケ：何やてゝ！

ファイル10-1（後書き）

最初の事件は原作1巻File1、アニメDVDPART1-1に入っています。

灰原の事件の初登場の話は原作18巻File6～19巻File1、アニメDVDPART5-8に登場しています。

ファイル10-2（前書き）

先程までファイル10を章分けするのを忘れていました。現在は修正しました。ご迷惑おかけしました。

ファイル10-2

知：ところで、新一さんがコナン君だって事は誰か御存知なんですか。

凜：私だけじゃないの？

コ：いや、薬を作った張本人の灰原と博士、俺の両親と服部、あと本堂くらいかな。

凜：え、両親と服部と本堂…？

コ：俺の両親は工藤優作と工藤有希子って言って有名な小説家と女優さ。

小狼：あの、小説家かよ…。

知：李君はご存知でしたか。

小狼：確か、闇の男爵（ナイトバロン）だったよな。あの小説家の作品は世界各国でも有名だ。

ケ：ずいぶんすごい奴やで。小僧と違って。

小狼：何だと！

凜：まあまあ落ち着いて。ところで、服部と本堂って誰？

コ：はは、まさか知らない地域があったとは…。服部平次は父親が大阪県警本部長の別名、浪花の高校生探偵だ。

ケ：そんな奴がいたとか？わいは大阪にいた時には見た事、無いで。

凜：それって単純に、何十年も前だったからじゃ…。

ケ：お、そうやったで。

コ：ハハハ…。

小狼：んで、最後の本堂って奴は…。

コ：ああ、あの元有名なアナウンサー、水無怜奈の弟だよ。そして、

その水無怜奈は黒の組織の「キール」と呼ばれていた…。

凜：えええええ！？↑いろいろなパニック状態。

小狼：そんな身近な所にまで、組織の人物はいたのか…。って言うか、弟にばれて大丈夫なのか！？

コ：問題は無い。そもそも、本堂自身は黒の組織じゃないし、黒の組織の事を突き止めようとしているだけなのさ。

小狼：そうか…。

コ：まあ、本堂はかなりドジだから不安だけだな…。

凜：え、そうなの？

ケ：さくら似の奴がいたで。

凜：ケロちゃん！

コ：はあ…。

ファイル10-2（後書き）

ただ今中間テストのため、明日より数日間休載します。御了承下さい。

ファイル10 ラスト（前書き）

お待たせしました。たった一日でしたが、再開致します。
なお、ファイル10は説明だけで終わる予定のため、今回で終わり
です。ご了承ください。

ファイル10 ラスト

凜：そう言えば、新一君はその体で大丈夫なの？

コ：？

知：確かに言われてみれば…。

コ：それなら大丈夫だ。博士に作ってもらったメカがあるから。

小狼：メカ？

ケ：あの、何かサッカーボールとか、伸びた奴とかか？

コ：まあな。

ナ：と言う訳で、ここからは博士のメカ解説に至る。

キック力増強シューズ

コ：足のツボを刺激して筋力を極限まで高めて、いろんなものを蹴れる！それっ！

ナ：コナンが近くにあった、缶を蹴った。そして…。

知…！

ナ：近くの木に大きな痕をつけた…。

小狼：危険すぎないか？

コ：大丈夫、犯人にしか使わないから。

小狼：…。

蝶ネクタイ型変声機

コ：いろんな人の声が出せる。

小狼：この間使ってたやつか。

コ：ま、そんなところね。 ↑（園子の声）

小狼：ホントに喋った…。

腕時計型麻醉銃

コ：麻醉針が取り出して、人を一瞬で眠らせることができる。

知：そう言えば、この間の事件で…。

コ：ああ、まず人を眠らせてそれから変声機で声を変えて推理するんだ。一発しか打てないんで、ここでは使わないぜ。

凜：へえ…。

犯人追跡メガネ

凜：これで犯人が追跡できるんだね。

コ：ああ、ただバッテリー切れになりやすいのが弱点だな。

弁当型携帯FAX

コ：これ、全然使わねえ…。

ケ：でも、何かうまそうやか。

コ：ハハハ…。

イヤリング型携帯電話

コ：これも今は使わなくなったな。

凜：なんで？

コ：自分の携帯があるから。

凜：あ、そっか。

どこでもボール射出ベルト

コ：これでボールを出して蹴るんだ。

知：あら、しぼんでしまいましたか？

コ：あくまで蹴る用だから、10秒しか持たないんだ。

ケ：なんやつまんないのう。

探偵団バッチ

凜：あ、私も持つてるやつ。

コ：ああ、少年探偵団専用アイテムだ。

凜：すごい…。

コ：て言うか、使い方わかってるよな？

凜：え、えーっと…。

コ…。

小狼：はあ…。

ターボエンジン付きスケートボード

コ：ソーラーパワーで動くぜ。

凜：うわっ！速い！

知：すごいですわね！

小狼：なんかすごすぎな…。「本来の姿よりりやりやすくなっているか？」

月^{コエ}：出番必要だったのか…？

作：いらなかったかもね。

ミラー
鏡：ハハハ…。

エンディング 「Your Best Friend」

ナ：なんだかんで、ひとまず終わる事になるが…。

謎：そろそろ完成だな。今度は久々にアイツらの様子でも見るか…。

？：おやおや…。

ファイル10 早くも完

ファイル10 ラスト（後書き）

弁当型携帯FAX、実は原作では一回しか出てません。（7巻File 9）

次からはいつもの事件に戻します。

ファイル11-1（前書き）

ファイル10-2で本堂の設定を誤って書いていました。お詫びして訂正いたします。なお、現在は修正済みです。

そして今回もアニメオ리지ナルストーリーです。

ファイル11-1

米花公園 早朝5時35分

コ：「ヤベー、遅刻だ…。」

凜：はあはあ…。

ナ：コナンと凜、猛ダッシュ。他の少年探偵団はすでに来ている。
歩美はバトンを音楽に合わせて回している。

哀：遅いわよ。

コ：わりい…。

凜：ごめん…。

コ：元太と光彦は？

ナ：二人はベンチで爆睡状態。

コ：しょうがねえな…。

歩：あ！

ナ：歩美が誤って手を滑らせた。バトンが飛んで行く。そして案の定…。

コ：がつ！

凜：イタッ！

元：ぐわっ！

光：つつ！

ナ：四人にぶつかって落ちた。

歩：ごめん、手が滑ったの…。

コ：力任せに振り回すからだよ。

歩：あと二日だもん、力が入っちゃって。

ナ：長くかかった修繕工事が完了し、そのお披露目の式典が開かれることになった。その式典でバトントアラをする小学生の一人に歩美が選ばれこうして毎日練習しているのだ。

歩：あ！

コ：？

ナ：その時だった、公園に謎の黒コートの人物が現れたのだ。帽子を深くかぶっており、顔がはっきり分らない。しかし、何故かフラついている。

歩：あの人よ。

コ：…。

黒コートの人物：ニヤリ…。

オープニング

「Misty
Mystery」

ファイル11-2

コ：アイツがストーカーなんだな…。

歩：うん、昨日も一昨日おとといも来たの。

凜：ほえ…。

元：俺達が用心棒に来てよかったぜ！任しとけ！

光：…！

ナ：元太はストーカーの所に向かった！

元：おいおいおいおい！いい加減にしろよ！歩美が怖がつてるだろ！

ナ：コナンが元太をくい止める。

コ：気をつけろ！相手がどんな奴か分からないのに…。

ナ：すると突然、ストーカーがコナン達に…。

ストーカー：ハア…。

元：げっ！

コ：うわっ！酒臭え！

ストーカー：ヒヒヒヒ…。

ナ：歩美達がコナン達に駆け寄る。

歩：どうしたの！？

光：大丈夫ですか！？

ナ：するとストーカーが式典の看板の上に行って行った。

コ：酔っぱらってあんな所に上ったら…。

光：酔っぱらってるんですか？

元：ああ。もう、すげー酒臭かったぜ！

ナ：ストーカーが看板のてっぺんに上った。当然ながらまだフラついている。

コ：あの高さから落ちたら、ただの怪我じゃ済まねえぞ！

ナ：その時、ストーカーが足を踏み外した！

歩：…！

ナ：歩美は思わず目を手で隠した。だが…。

歩：あ！

ナ：歩美が手を戻した。そしてそこには、ストーカーは看板に足を引っ掛けて、ぶら下がっていた…。

ストーカー：ニヤリ…。

コ…。

あれから数日後　帝丹小学校

歩：ごめんね、早起させちゃって…。

哀：いいのよ。みんなで言いだした事だから。それに、あんな男が
出没する所に、吉田さんを一人で居させる訳にはいかないから。

凜：だから気にしないでいいよ。

歩：ありがとう。哀ちゃん、凜ちゃん。

元：どっかで見た事あるんだよね、あの帽子とコート…。

光：知ってる人ですか？

元：はつきりしねえんだな…。顔見りゃ分かんと思うけど…。

哀：息吹きかけられた時に見えなかったの？

コ：帽子を深くかぶってたからな…。

翌日 米花公園

光：今日も来るでしょうか？

元：来たら今日こそ正体を暴いてやる！

ナ：一同が、花時計の前に来た。

歩：あ！

元：あの男じゃねーか！？

ナ：そこには先程のストーカーと同じ服装の男が血を出して倒れていた。帽子は取れてて、頬には傷がある。

哀：死んでいるの？

コ：ああ…。

歩：…。

凜：ほえ…。

ケ：「また事件かいな…。」

コ：「頬の傷、あの針（花時計の長針）の先端で切られたのか…。」

光：ずいぶん痩せた人だったんですね…。

ナ：コナンは遺体を見渡した。

コ：「ペンキ…？」

ナ：遺体の近くに酒がウイスキーが落ちていた。遺体の右手にはいろいろな色のペンキが付いている。手のひらには紫や茶色のペンキ、指先には黄色いペンキが付いていた。

ファイル11-2（後書き）

看板の形は分度器みたいな形です。

なお、ストーカーが看板にぶら下がった後どうなったかは、アニメで描かれていないため、こちらでも書きません。ご了承ください。

ファイル11-3

ナ：しばらくして警察が到着した。コナン達は警察に事情を話した。

元：アイツ、ストーカーだったんだ。朝早くから練習している歩美を狙って…。

光：昨日も来ました！かなり酔っぱらってたようです。

コ：それでこのアーチ（看板）に上って…。

目：酔っぱらって、このアーチに？

哀：危うく落っこちるところだったわ…。

目：遺体もかなり酒臭かったな。

高：警部。

目：ん？

高：昨夜、この公園を巡回していた警備の方です。

目：ご苦労様です。この花時計の辺りを巡回していたのは、何時頃ですか？

警備の人（以後・このファイル中のみ・警備）：巡回は午前3時から行います。この花時計の周りは3時50分頃まわりました。

目：その時、遺体は？

警備：ありませんでしたよ。花が荒らされた様子もありませんでした。

目：うん…。

小五郎：これは事故ですな。

目：！？毛利君！？来とったのか！

小五郎：コナンと凜の帰りが遅いって言うんで、蘭が迎えに行けって…。

コ：あ…。

凜：えへへ…。

ナ：二人はちよつと気にした。

小五郎：文字盤の「6」の石は、このアーチの真下にあります。つまり酔っぱらってアーチに上り、転落死。この石に頭を打ち付けた、つてとこでしょう。

ナ：「6」の石には血が少し付着していた。

目：その様だな。

小五郎：そして、男が死亡したのは3時50分から4時半の間。男の頬に長針で傷付けた痕がありましたから、男が転落死した後、針が30分を指したと言う事です…。

目：君達がここに来たのは？

光：え〜つと…、5時20分頃でした。

小五郎：つまり、男の頬に傷がついたのは午前4時半って事です。

コ：…。

ナ：コナンは不審に思った。

ケ：「やっぱり、変やと思うんやな…。さすが工藤とか言う奴やで」
↑前々回で正体を明かしている。

目：それじゃあ毛利君、子供達を家まで送ってくれるか？

小五郎：え、私ですか？

目：迎えに来たんだろ。本件は事故、後は男の身元を確認するだけ。それもだいたい見当はつく。

小五郎：え、と言うと？

コ：ペンキ職人さんじゃない？あの人の手にペンキの跡があったか

ら。

小五郎：フン、そんなもんどこかで付いただけかもしれないじゃねーか。

コ：でも、手のシワまでこびり付いてた古いペンキもあつたから、きつといつもペンキを使っている人だと思うよ。

目：コナン君の言うとおりだな。まあ、そついう事だから、今回は眠りの小五郎の出番はないぞ。

小五郎：その様ですな。よし、お前ら帰るぞ。

歩・光：はい！

元：あーっ！

凜：え！？

小五郎：なんだよ、いきなり…。

元・思い出したんだよ！あのおっちゃんどこで会ったか。前に一度、家で酒を買ったんだ！

ファイル11-3（後書き）

事件関係者解説1

警備の人（男性・―） 名前・年齢は出て来てません。

ファイル11-4

ナ：元太の父親の証言により、ストーカーは近所の看板職人と分かった。その看板工場にて、高木刑事が工場主に写真を見せて確認する。

工場主：間違いない、うちの与田昌作よだしやうさくですよ。酔っぱらって死んだんですか…。アイツらしいな…。

高：元々、酒癖が良くなかったんですか？

工場主：ええ、飲むと気が高くなって暴れやがる。

元：かけーなー！

ナ：元太が近くにあった幕をめくって、看板を見つけた。すでに完成している。

工場主：ああ、それは与田の最後の仕事だ。

光：あれ、壊れてますよ。

凜：ほんと…。

ナ：よく見ると看板の左下が壊れていた。

工場主：先月、与田が酔っぱらって上って、看板ごと落っこちたんだよ。与田の奴、それ以来、高所恐怖症になっちまって、仕事も休んで酒浸りだよ。

哀：…！

コ：高所恐怖症！？

哀：でも、あの人…。

ナ：二人は不審に思った。何故なら、公園に現れた与田は看板をよじ上って、落ちそうになったからだ。

高：詳しい話を聞かせてくれませんか？

ナ：この事実には警察も気に留めた。この事実の発覚により、事件はまだ終わらない事になる…。

ファイル11-4（後書き）

事件関係者解説2

工場主 （男性・こ） 名前・年齢は出ませんでした。

与田昌作 （男性・ー） ストーカー・看板職人 年齢は出ませんでした。名前に関しては別サイト「毛利小五郎探偵事務所」サイトより引用いたしました。（必要だったため。）

ファイル11-5（前書き）

コナン検定、今日の午後5時が締切だけど、上手くいかなかったみたい…。

これから見て楽しめる企画にしてみます。

今回の検定、どこがいけなかったか教えていただけると幸いです。

ファイル11-5

ナ：さらに翌日、帝丹小学校にて。

コ：俺達は犯人に一杯食わされたんだ…。

元：どついう事だよ、コナン…。

哀：与田さんは高所恐怖症だったのよ。そんな人がアーチに上った
りできるかしら？

光：じゃあ、僕達の前に現れた男は誰だったんでしょうか？

コ：おそらく、犯人だろう。与田さんが高所恐怖症になった事を知
らずに、与田さんのフリをして奇行を繰り返し、殺人を事故死に見
せかけようとしたんだ。

歩：そんな…。

コ：きつと歩美ちゃんの練習を利用したんだ…。証人に仕立てるた
めに。

歩：ひどい…。

凜：最低！

光：歩美ちゃんの練習を利用するなんて許せません！

元：そうだ！犯人は絶対俺達で捕まえようぜ！

光：はい！

ナ：…んで…。

光：現場百辺、捜査の基本です！

コ：「ハハ、そうさ…。」 ↑（シャレ？）

ナ：コナン達は再び米花公園に来た。もう何度目だろう…？

コ：隠れる！

ナ：コナンはベンチに座っているある男に話しかけている目暮警部達を発見。ばれないように、近くの草むらに隠れて聞く事にした。

高：川口恭一郎さんですね。かわぐちきょういちさん新潟の高校で体育教師をされてる…。

川口恭一郎（以後・このファイル中のみ・川）：ええ、そうです。

高：与田昌作さんをご存知ですね。

川：もちろんよく知ってますよ。アイツの事はどんなに恨んでも、恨み足りない…。

目：3年前、同じ高校で美術教師をしていた与田さんは、やはり同じ高校で英語教師をしていた貴方の恋人だけに横恋慕よこれんぼした。

高：ある日、彼女を強引にドライブに連れ出した与田さんは途中で事故を起こし、貴方の恋人だけが亡くなった…。

川：あれは事故じゃありませんよ。与田が事故に見せかけて、僕の彼女を殺したんだ。

目：貴方は一週間前から、杯戸駅前のビジネスホテルに滞在してますな。

川：与田がこの近くにいると言う噂を聞き、探しに来たんですよ。

高：ところで、昨日の午前3時50分から4時半の間、どこにいらっしやいましたか？

川：アリバイですか…。僕は運がいい…。

高：どういう事です？

川：119番に確認して下さい。僕がいつ救急車を呼んだか。

目：救急車？

川：そそっかしいんです、僕。薬のタブレットと一緒に、ボタン電池を飲んでしまっ。それで救急車を呼んだんです。まあ。病院で調べたら、ただのボタンだったので安心しました。

ナ：川口がベンチから立ち上がった。

川：病院に担ぎ込まれたのが、確か午前3時半頃…。出たのは4時半過ぎでしたよ。あの病院からここまで来るには、どんなに急いでも20分はかかるでしょうね。病院にも確認して下さい。そうすれば、僕には犯行が不可能と分かるはずですよ。しっかり調べて下さいよ…。

ナ：川口はその場を去って行った。コナンは川口を不審に思った。

ファイル11-5（後書き）

事件関係者説明3

川口恭一郎（男性・30）体育教師

ちょっと話の調節のため、しばらくは短く行きます。ご理解をお願いします。

謝罪会見

本日はファイル11を進めずに、昨日で受付を終了した「名探偵コナンにじファン検定」に関しまして、謝罪をいたしたいと思います。

今回の検定は個人的にはいい企画のつもりだったのですが、問題が難しすぎたとか、応募が厄介だったとか、いろいろミスが多かったと個人的にも思います。

今回の応募に関しましては、あまりにも良くなかったと言う事もありますので、この企画は取り止めといたします。

本日は皆様にお詫びいたします。

これからは、皆様が読んで楽しめる企画か、あるいは感想の所で大丈夫な物、あるいは企画はもうやらないと言う風に考えさせていただきます。何かやって欲しい企画がありましたら、送っていただいても結構です。

なお今回、応募すれば作者から何かがあると言いました事に関しまして、お詫びの意味を込めまして、次のページで掲載させてもらおうと思います。

改めてみなさま、心からお詫びいたします。

お詫びによる掲載・今後の情報！

?1：イヒヒヒヒ、私は謎のリポーター…。本日は謎の人物のアジトと思われる場所に来ています…。

え、私が誰ですかっ？それを知ったらあなたは…。イヒヒヒヒ…。

とにかく、潜入いたします…。

?2：×××様、例の物の準備はいつでも整っております。

謎：ご苦労。今、コナン達が行っている事件を解決したら送るつもりだ。それまで、大事に扱えよ。

?2：かしこまりました。

?1：なるほどそうですか…。

?3：×××様、これが成功したら他の空間の準備も？

謎：まあな、まだそれには時間がかかるがな。

?1：なんと、まだ何かやらかす気ですね……。イヒヒヒヒ……。

?2：そこ！誰がいるのか！

?1：おやおや、見つかってしまいましたか。ですが、私は神出鬼没。そう簡単には行きませんよ……。

それではみなさま、また会いましょう、謎のリポーターでした……。

ファイル11-6（前書き）

今日からとりあえず戻します。また、原作の所に「????」がありますがこれに関しては今は内緒とさせていただきます。（2011年10月12日現在）

ケ：昨日のアレ、なんや？

作：それはまだ…。

ケ：なんやそれ…。

ファイル 11 - 6

光：さっきの人には、3時半から4時半まで病院にいたという、アリバイがあるんですよね。

哀：被害者を薬で眠らせて、先に時計の針で頬を傷つけておいて、病院を出た後、あの時計の石に頭を打ち付ける方法もあるわよ。

凜：そっか、それなら…。

コ：いや。死亡推定時刻は午前4時から5時過ぎだから、時間的には可能だが、頬の傷は被害者が死んだ後に付いたものみたいだから無理だな…。

哀：そう…。

凜：あ…。

コ：それに、傷口には時計の石の細かい破片が付いてたそうだから、犯行現場はここに間違いなさそうだ。

歩：へえ…。

光：詳しいですね。

コ：あ、いや、おっちゃんが警察から聞いて来たんだよ…。

哀：「また、毛利探偵の声で警察から聞き出したのね…。」

ケ：「どこまで知りたがるんや？」

ナ：ちょっと移動して、時計の裏側に向かう。

哀：被害者の手についていたペンキは？何か特徴とか無かったの？

コ：ああ、どこにでもある普通のペンキだったってさ。

光：看板職人だったんですから、手にペンキが付いていたのは当たり前なのでは？

凜：うん、そうだよな。

哀：最近は仕事を休んでたそうだが。それなのに、新しいペンキの跡があつたのが気になるのよ。

光：なるほど。

凜：確かに…。

元：このドアなんだ？

ナ：時計の裏の所にドアがあつた。

コ：時計の機械室だろ。ん？

歩：どうしたの、コナン君。

コ：ドアを封鎖している鎖が壊されてる。

ナ：よく見ると、ドアを封鎖しているチェーンの一部が壊れてた。

哀：…どういつ事？

凜：自然と壊れたんじゃないの？

ケ：さくらはそれしか無いんか？

凜：ケロちゃん…。↑（みんながいるため素直に反論できない）

警備：こらこら、そこで何をしてるんだい？

ナ：警備の人が来た。

コ：この鎖が壊されてるんだ。

警備：何だって！？本当だ、誰がこんな事を！

コ：この中って、時計の機械室だよな。

警備：そうだよ。だけど花時計を修理した際に、「ムーブレスドラ
イブ」と言って、針の中に小道具を組み込むタイプにしたから、今
じゃがらんどつ、物置になってるよ。

ナ：警備の人がドアを開けると、中はいくつか箱が置いていた。

コ：「床にペンキがこぼれてる。被害者の手についていたのと同じ色だ…。」

ナ：コナンは床のペンキを触ってみた。

コ：「乾いてるな。ここで付いたんじゃないのか…。」

元：なあ、中どうなってんだ？うわっ！

歩：光・凜：あっ！

ナ：元太がすっかりドアを閉めてしまった。

コ：「おいおい！あっ！これは…。」

ナ：コナンが何かを見つけた。

光・元：いててて…。

警備：大丈夫かい、君達。

歩：コナン君？

凜：大丈夫？

警備：ボウヤ、もう出るよ。

コ：フッ…。

ナ：コナンは確信した…。

ファイル11-7（前書き）

今回のファイルまで、魔法は無しです。期待している皆さんはごめんなさい。

ファイル11-7

ナ：元太達は公園で遊んでいる。その一角では…。

哀：何か分かったの？

コ：ああ。犯人はあの川口って人で間違いないようだ。

凜：え、そうなの！？

ケ：さくら、状況見て分からなかったんか？

凜：ケロちゃん！

コ：ハア…。

哀：でも、彼にはアリバイがあるのよね。

コ：文字盤の石はガッチリ固定されてるみたいだから、犯行現場はあの花時計で間違いない。そして、文字盤の花を荒らすことなく、長針で頬を傷つける事が出来るのは、30分頃しかない。しかし…。

哀：唯一可能な4時半は彼は病院を出たばかり…。

元：今度はブランコやろうぜ！

歩：光：え？

元：うわっ！

ナ：その時、元太がシーソーを伝って行こうとしたが、ズッコケてしまった。

歩：元太君！

光：大丈夫ですか！？

元：イテテ、頭ぶつけた…。

凜：気をつけなきゃだめだよ。あれ、元太君…。

哀：頬擦りむいてるじゃない。

コ：そうか！その手があったぞ！

ナ：コナンが花時計の元に向かった。どうやら、トリックが分かったみたいだ。

歩：コナン君！

光：とにかく追いましょう！

ナ：コナンは花時計の元に着いた。コナンは追跡メガネの右レンズの望遠鏡機能を使って、「12」の文字盤の近くの石を見た。何やら、シミが付いている。

コ：「やはりそうか…。」

歩：コナン君、どうしたの！？

元：何か分かったのかよ。

コ：ああ。

小五郎：コラ！お前達、ここで何やってる！

ナ：小五郎と目暮警部、それに高木刑事がやって来た。

コ：「おっちゃん、いいところに来たな。」

小五郎：さつさと帰って宿題しろ！

目：で、毛利君。我々に話とはなんだね？

小五郎：私の飲み仲間に与田さんを知っている人がいましてね、意外な事実を教えてくれたんです。

目：意外な事実！？

小五郎：実は与田さんは先月、看板の取り付け中に転落して以来、高所恐怖症になってしまったんです。

ナ：もうすでに、コナン達が手に入れた情報だった。

目：そんな事なら、とっくに知っておるわ…。

小五郎：え！それじゃあ、故郷で交通事故を起こして、女性を死なせてしまった事は？

目：それも調べがついている。

川：その女性は、僕の恋人だったんです。

ナ：川口がショルダーバックを持って、やって来た。

小五郎：あ、あなたは…。

川：川口と言います。目下^{もっか}の最重要人物です。そうですね。

目：…。

コ：「役者が全員そろったな…。」

高：川口さん、ここにはどうして…？

川：新潟に帰る前に、与田が死んだ場所を見ておこうと思ひまして…。

高：あ、いや、まだ帰られては…。

川：でも、病院に確認してもらえたんでしょう。それなら、僕が犯人じゃないって分かったでしょう。

高：…。

ケ：「まずい事になってきおるがな…。」

ナ：警察は川口が怪しいと思っていたが、アリバイが完璧でどうしようもなかった。

川：では、僕はこれで…。

小五郎（ ）：ちょっと待った！

川：ん？

目・高：！？

ナ：皆^{みな}が小五郎を見た。

小五郎：いや、私は何も…。

ナ：その時、小五郎に麻醉針が命中した。

小五郎：うつ、回る回るよ、くくるくる…。

ナ：小五郎がベンチに座って眠ってしまった。

凜：眠りの小五郎！ってあれ…。

ナ：コナンがベンチの裏に隠れた。そして、変声機の小五郎の声で話し始めた。

コ：川口さん、まだ話は終わってませんよ。

川：あなたが有名な毛利小五郎さんですね。まだ何の話があるんです？↑（少し動揺した。）

凜：「え、コナン君！？」

ケ：「こいつやったんか！」

ファイル11-7（後書き）

の所の小五郎のセリフはコナンが変声機で喋ったセリフです。
そして事実上、この小説初めての眠りの小五郎です。

ファイル 11 - 8

コ：警部殿、川口さんのアリバイと言うのを聞かせてくれますか。

目：ああ、彼は午前3時半から4時半までの間、病院にいた。その病院からここまでは20分かかる。

川：僕には犯行は不可能なんです。

コ：それじゃあ、5時にはここに来れますね。

川：5時に来たってなにも出来ませんよ…。

ナ：コナンのその予想外の言葉に川口はちょっと慌てた様子だった。

コ：いいや、あなたは与田さんを時計の裏の倉庫に監禁しておき、5時にここにきて殺害したんです。

目：なんだって!?

川：ば、ばかばかしい…。

高：それでは、遺体の頬に傷はつきませんよ。

コ：今ちょうど5時ですな。この12時間前、川口さんはこの花時計の「6」の石に与田さんの頭を打ち付けて殺害した。そして、「12」を指している長針で頬に傷をつけ、「6」の所に遺体を横たえたのです。

川：花を荒らさずにどうやって「12」の所まで行くんです？

コ：文字盤の「5」の石なら、花を荒らさずにまたいで上がる事が出来るでしょう。そして、与田さんの遺体を抱えたあなたは、「12」を指している針の先端まで行き、与田さんの頬に傷をつけた。その後、もう一度遺体を抱えて戻った。

川：しょ、証拠はあるんですか！証拠は！

ナ：川口はどんどん焦っていく。

コ：強がっても無駄ですよ。あなたの犯行は全てあの花時計が見ていた。そして、私に教えてくれたんですよ。

川：何！？

コ：「12」の所にある石に、わずかな血痕があります。

目：ええっ！？

ナ：コナンの言うとおり、石には血痕が少しあった。警察も気付いていなかった。

コ：本来、あの石と針は接触していませんが、あなたが与田さんを抱えて乗ったため、針がゆがんで石と接触したんです。そして、与田さんを傷つけた時についた血が針を伝って流れ、あの石に付着した。調べれば、与田さんの血液と一致するでしょう。

川：だからって、僕がやったとは言えないでしょう…。

コ：針の跡を調べれば、あなたの靴の跡が見つかるはずです。短針ならともかく、長針があの石に支えられ、上に乗って耐えられるのはわずか1分。そんな短時間で与田さんの頬を傷つけ往復し、さらに靴跡を消すなんて不可能でしょう。

川：そ、それは…。

コ：川口さん。あなたは気付いていないでしょうが、与田さんはあなたが犯人だと言うメッセージを残しているんですよ。

川：そ、そんな馬鹿な…！

コ：コナン！警部殿をご案内しろ。

ナ：コナンがベンチの裏から出て来た。（当然だが声を戻して）

コ：はい。僕について来て。あ、川口さんも一緒にね。

ファイル11 ラスト（前書き）

今回はコナンの事件だったのにいつもより早く終わります。

ファイル11 ラスト

ナ：一行は花時計の裏に着いた。目暮警部と高木刑事、川口とコナンは物置の中へ入る。

目：ここに与田さんのメッセージが残されているのかね？

高：何もありませんね。

川：そ、そうですよ！

ナ：その時、ドアが閉まった。

川：！？

目：な、何を！？

ナ：すると部屋の真ん中にあつたペンキが光った。いや、ペンキではない。

目：こ、これは…！

コ：床にこぼれていたのは蛍光塗料だったんだよ。真っ暗になったから、光り出したんだ。

目：な、なんだって！？

コ：小五郎のおじさんが言ってたよ。蛍光塗料は光を当てた後じゃないと暗くなっても光らない。ここはずっと真っ暗だったから川口さんが与田さんを監禁していた間は光らなかったね。

川：ぐっ…。

高：そうか！人目につかないように、出入りは夜にしていたから扉を当てても光らなかった！

目：だが、ここどこにメッセージが…。

コ：そこだよ。

ナ：コナンの指差す先には…。

目：これは…！

高：「ハンニンハカワグチ」！？

川：う…。

ナ：蛍光塗料の一部の所にカタカナで書いてあった。

コ：ここに監禁されていた与田さんは、ペンキが汚れている事に気づき、最後のメッセージを残した。だけどそれは偶然、床にこぼれていた蛍光塗料と同じ色のペンキだった。そのために、与田さんのメッセージは明るい所では見えなくなってしまっていたんだよ。

ナ：そして、この事実の発覚により…。

目：この部屋を徹底的に調べます！与田さんが監禁されていた証拠や、あなたが入り出した痕跡を必ず見つけます！

川：クソッ！完璧な計画だと思っていたのに…。そんな、そんな！
ぐっ…。

ナ：その後、様々な証拠が見つかり、川口は逮捕。事件は解決した。

エンディング 「Your Best Friend」

エピソード

ナ：予定より一週間遅れて、花時計のお披露目式が開催された。ただ…。

凜：ねえ。

コ：ん？

凜：今回の事件でも、何も起きなかったけど、どうなってるのかな？

コ：そうだな…。謎の人物がもう何も知らないだけならいいんだけどな…。

ケ：そうだろうか…。

ナ：当然そんな訳は無かった。そして、運命の日はすぐにやって来るのだった。

謎：さあ、始めようか。×××よ、頼んだぞ。

？：かしこまりました。

ファイル11 完

ファイル11 ラスト（後書き）

ファイル12はこの運命の日の話です。怪盗キッドスペシャル「魔女は涙をこぼさない」は書きません。ご了承ください。

理由：コナンや凜が出ないから。魔法が関係なくなるから。

今回のストーリーはアニメオリジナルストーリー・631話「花時計は知っていた」です。

ファイル12-1（前書き）

今回のファイルは最近似たネタがあるのですが、最初から決めていた事なのでご理解ください。

ファイル12-1

日曜日・コナンと凜の部屋にて。

凜：ふああ…。よく寝た…。

ナ：凜が目を覚ました。しかし、何か違和感がある。

凜：あれ？

ケ：どないしたん、さくら？

凜：ケロちゃん、新一君がいないんだけど…。

ケ：トイレに行ったんちゃうか？

凜：そっか、それだけかもね。

蘭：コナン君、凜ちゃん、御飯だよ。

凜：はい！

食卓

蘭：あれ、凜ちゃん。コナン君は？

凜：え、いませんけど？

小五郎：どうせトイレにでも行ってんじゃないか？

凜：私もそう思ったんですけど、いなかったんです。

小五郎：どうせ、他の所にいるんだろ。

蘭：そうだと思う。すぐに来るよ。

凜：そうですね。

ナ：しかし10分経ったが、コナンはやって来ない。

凜：おかしくないですか？

蘭：確かに…。

ナ：さらに30分経過したが、やっぱり来ない。

蘭：私、コナン君を探してくる。

凜：私も行きます！

蘭：ほら、お父さんも。

小五郎：ちえっ、分かったよ…。

ナ：3人は事務所の2階と3階のいろんな部屋を探し回った。押入れの中、ベランダ、風呂場、リビングと片っ端から。だが…。

蘭：こっちにはいないよ！

凜：こっちもです。

小五郎：そんな馬鹿な…。

凜：「新一君、どこに行ったの？」

ナ：その日、コナンが突然消え失せたのだった…。

オープニング「Misty Mystery」

ファイル12-1（後書き）

キーワード近日変更予定です。内容はこのままです。コナンがどうなったかはいろいろ予想して待ってて下さい。

ファイル12-2

ナ：凜とケルベロスは少年探偵団と一緒にコナンを探す事にした。
小五郎と蘭は警察に搜索願を出し別の場所を探しに行った。

光：まずは米花公園から探してみよう。

他：うん。

ナ：少年探偵団は米花公園のいろんな所を探した。噴水の前、シーソー、水道、ブランコの前、木がたくさんある所、すべり台。

凜：メガネをかけた男の子、見ませんでしたか？

男の人：いや、見てないけど。

凜：そうですか…。ありがとうございました。

元：コナン見なかったか？

偶然いた同級生：ううん。見てないよ。

ナ：聞き込みも行ったが、いい手掛かりは掴めなかった。

光：手がかりゼロでしたね…。

歩：うん…。

哀：まあ、そもそもなぜ彼は探偵事務所からいなくなったかも分からない状態じゃ、見つけるのも一苦労ね。

元：あーもう、全然分かんねえよ！

凜：他にも探すところはあるよ。まだ、諦めちゃだめだよ！

光：そうですね！まだ、諦めなきゃいいんですよ！

歩：うん！

元：よし、次は米花駅だ！

一同：おーっ！

ナ：まだ容量があるため、このまま続き。

米花駅

ナ：米花公園の時と同じように、聞き込みをする。もちろん、搜索もする。そんな中…。

謎：いい感じじゃないか。

?1：彼もパニック状態のようですね。ウッフ…。

ナ：と謎の人物とその仲間と思われる人物は笑っていた。

コナンの搜索をしていると、少年探偵団は…。

凜：え、それらしき子を見たんですか！？

駅員：ああ、切符を買って改札口を出て行ったよ。

凜：改札口ですか！？じゃあここにはもういないんですか！？

駅員：いや、まだこの駅にいますよ。

凜：え？

駅員：近くのうどん屋さんへ行っただよ。でも、子供一人でよくここまで行こうとするもんだ。

凜：ありがとうございます！

凜：みんな、聞こえる？コナン君の手掛かりが見つかったよ！

ナ：探偵団バッチでみんなに伝え、そのうどん屋へ向かった。ちなみにうどん屋は駅などにあったりするような感じの店である。

元：ここか……。うまそうな店だな。

光：元太君、ここに来た目的はそれじゃありませんよ。

元：分かってるぜ…。

哀：まあ、入って見ましょ。

歩：うん。

凜：そうだね。

ナ：全員が店の中に入っていった。中は昼食の時間帯だったためか、サラリーマンがたくさんいる。

歩：人がいっぱい…。

光：落ち着きましょう。店の人に聞けば、分かるかもしれません。

ナ：と言う訳で、店の人に聞く事にした。

店員：ああ、それならフードかぶってるあの子だね。あの、窓際の席にいるよ。

光：ありがとうございます。

ナ：全員がその席に向かう。しかし、「フードをかぶっている」と言うのが気にかかった。

光：あの席ですね。

歩：あれがコナン君？

凜：でも、いつもと感じが違う…。

ナ：そこにはフードをかぶった子供が一人、座ってうどんを食べていた。

元：とにかく聞いてみようぜ。おい！

？2：！

ナ：コナンらしき子は一同に気が付いたのか、席を立った。そして、突然逃げるかのように店を去った。

元：あ！

歩：元太君！

光：ダメですよ、突然話しかけちゃ！

凜：とにかく追いかけなきゃ！

哀：でも、なんで逃げるのかしら？

一同：！

ナ：確かにそうだ。突然話しかけられたとはいえ、少年探偵団なら逃げる理由は無い。怒られるからか？いや、コナンはそこまでは考えない。

光：気になりますけど、追いかけるしかないですね。

歩：うん！

元：よし、少年探偵団、出動！

一同：おーっ！

ナ：再び号令が掛かり、追跡劇が始まった。

ファイル12・3（前書き）

最近毎日1件更新ですいません。まだしばらくはこうなりそうです。
…。

ファイル12-3

ナ：コナンらしき子はスケートボードで逃げた。

歩：あ、コナン君のスケボーだわ！

光：じゃあやつぱりコナン君なんですか？

哀：そう考えた方がよさそうね。

元：よし、追うぞ！

凜：でも、追いつくの？

他：あ…。

ナ：走って追いかけても、ターボエンジン付きスケートボードでは追いつけないのは目に見えていた。

光：どうしましょうか…。

歩：うん…。

元：ムムム…。

凜：えっーと…。

哀：そうだね、彼が逃げそうな所を先回りすればいいのよ！

歩：行きそうな場所？

光：なるほど、それなら追いつけるかもしれませんね！

凜：でも、どんな所があるの？

光：そうですね…。あ、近くの本屋とかはどうでしょうか。コナン君はミステリー小説が好きですから。

元：よし、まずはそこから行ってみようぜ！

ナ：…と言う訳で、直線的には追わず、行きそうな所を先回する事に

した。

近所の本屋

光：まずはここから…。

歩：あ！

凜：いた！

哀：シッ！気づかれちゃまずいわ。

元：おう…。

ナ：コナンらしき子を早くも発見した。先程の失敗が無いように、そつと近づいた…。しかし…。

コナン？（この先、この表記でいく事にする。）…！

光：あ、今こっちを見ましたよ！

ナ：コナン？は逃走。

歩：あ！

凜：逃げちゃった…。

元：クソッ！

哀：仕方ないわ。他に彼が行きそうな所を探してみましよう。

ナ：その頃、謎の人物たちは…。

謎：クックックッ…。かなり面白くなってきたな…。

？：…ところで、×××様。『これ』はどうしますか？

謎：ああ、それか。とりあえず今はここに残しておこう。ちょうどいいタイミングを狙って送る。

？：…かしこまりました。

ファイル12-4

凜…次は…。

光…阿笠博士の家です。よく来てますから。

ナ…と言う訳で…。

一同…お邪魔しまーす。

博…おお、君達か。今日はどうしたんじゃ。

ナ…経緯を説明するが…。

博…なるほど…。じゃが、ここには来ておらんよ。

光…そうですか…。

元…絶対来てると思ったのによう！

歩：コナン君…。

哀：仕方無いわ。他をあたりました。

凜：うん…。

ケ：…。「気付いとるか？さくら。」

光：ありがとうございます。じゃあ、今日はこれで…。

博：ああ。気をつけて帰るんじゃぞ。

ナ：少年探偵団は帰った。が…。

博：…。これでいいのか。新一。

コ（表記を戻す。）：うん、ありがとうございます。博士。

ナ：コナンはいた…。

博：しかし大丈夫か？それで。

コ：いいよ。今はこうしてじっとしておくのが出来る事だから…。

ナ：その時だった！

ガチャ！

博・コ：！

凜：いた！

ケ：やっぱりや！

博：えっ！？

コ：！「ヤバイ…。」

ケ：さっき感じ取ったで！あの工藤とか言う奴の気配！

光…あの、凜さん。どうかしまし…、あ！コナン君！？

ナ…ケルベロスは隠れる。光彦たちが入って来た。

博…新一、早く！

コ…うん！じゃあ、またね！

ナ…コナン逃亡再開。

凜…とにかく追わなきゃ！

光…はい、そうしましょう！

元…よし！行くぞ！

歩…分かった！

哀…。「工藤君…。」

ケ：さくら。

凜：何？

ケ：さっきの工藤、おかしゅうなかったか？

凜：え？

・
・
・
・
・
・
・

コ：うん！じゃあ、またね！

・
・
・
・
・
・
・

凜：あ！何かいつもと違う！

ナ：コナンの口調がいつもと違った。そんな事を気にしながら、コナン追跡は続く。

ファイル12-4（後書き）

徐々にわかってきましたよね。て言うか、タイトルから分かるかも。

ファイル12-5

光：他にコナン君が行きそうな所ってどこでしょう？

凜：うん…。

元：腹減ってウナギ屋言ってんじゃねーか？

歩：元太君！

光：そんな訳ないじゃないですか！

元：何だよ…。俺も頑張って考えてるのによう！

哀：落ち着いて。他に彼が行きそうな場所はもう少なくなってきたわ。それに、博士が何を黙っているかも後でじっくり聞かなきゃいけないし。

光：そうですね。ここは落ち着きましょう。

哀：あと彼が行きそうな場所は東都タワー、トロピカルランド、警

視庁、学校……。でも、一人で行くにはトロピカルランドと警視庁は荷が重いわね。

歩：うん。

凜：て言うか、警視庁に行けるなんてびっくりなんだけど…。

元：まあな。俺達は少年探偵団だからな！

ケ：「それだけ事件多いんか！」

作：もろ多い。数えきれないくらい多い。（笑）

凜：作者出ちゃったよ…。

ナ：まあ、それは置いといて…。

光：東都タワーじゃないですか？ほら、人も多いし外を見渡せますし。

哀：その可能性はあるけど、実際逃げている人には、もはや自分か

ら捕まるかのように入っていただけだね。

凜：それって？

哀：つまり、人が多くていいけど逃げるのが大変なのよ。

凜：そうなんだ…。

元：じゃあ、学校で決まりか？

哀：それも難しいのよね。学校は基本閉まってるし、居座る理由は無いわ。図書室の推理小説の本は彼は読み切っているから暇つぶしにもならないし…。

歩：そんな！じゃあ、どこかわからないの！？

哀：そうなっちゃうわね…。

一同：…。

ナ：もう打つ手なし…。と思われたが…。

哀…！そう言えば…。

歩…どうしたの哀ちゃん？

哀…今日はまず最初に米花公園に行つて聞き込みをしたわよね。

光…そうですね？

元…それがどうしたんだよ？

哀…もし彼がいきなり米花駅に行こうとして逃亡を図^はろうとしていたなら、まだ彼は米花公園には行ってないって事になるわ。

凜…あ！

歩…そっか！

光…じゃあ、もしかしてコナン君は…！

哀：行ってみるしかないわ…。

米花公園

光：来てみましたけど…。

歩：コナン君、いないね。

元：やっぱり的外れだったんじゃないか？

哀：…。「やっぱり工藤君みたいにはいかないのかしらね…。」

凜：あれ？

光：どうしました？

凜：あそこにいるの、コナン君じゃない！？

歩：え…。あ！

ナ：コナンがいた。ベンチに座ってペットボトルのお茶を飲んでいる。

コ：！「ウソ！？」

ナ：再びコナンは逃走を図った。

歩：あ！

光：今度は逃がしませんよ！

元：コナン、待て！

凜：あーっ！

光：急になんですか！

凜：あ、ごめん…。

光：脅かさないでくださいよ！とにかく追いしょう！

凜：うん…。

ナ：光彦たちはコナンを追いかけたが、凜と哀はその場に止まった。

哀：…どうしたの？

凜：私、いい方法を考えたんだけど…。

ケ：おっ！何か思いついたんか？しかしさくら、大丈夫か？

凜：ケロちゃん！

哀：まあいいでしょ。その方法って？

ナ：凜が考えた方法とは何なのか？

ファイル12・5（後書き）

東都タワーはコナンの中で言う東京タワーの事です。警視庁にはコナン達はよく行っています。

ファイル12 ラスト（前書き）

お待たせしました。魔法が復活します。とりあえずファイル12は今回で終わりですが今回の事件はまだ続きます。

ファイル12 ラスト

光：あれ、凜さんと灰原さんは？

元：んなこと気にしてられないぞ！ほら、コナンを追わなきゃいけないんだろ！

歩：あ、あれってコナン君！？

ナ：フードをかぶっているコナンがいた。でも、やはりスケボーには追いつけない。

歩：やっぱり無理！

元：やっぱり駄目じゃねーか！

光：僕もそう思います…。

ナ：その頃凜と哀とケルベロスは近くの木の下に隠れていた。

哀：来たわ！

ケ：今や！久々にカードキャプターの出番や！

凜：うん！

ナ：凜は星の鍵を取り出した。

凜：星の力を秘めし鍵よ、真の姿を我の前に示せ。契約の元、さくらが命じる。封印解除！

彼^かの者^{とど}を留めさせよ。「輪^{ループ}」！

ナ：すると、コナンが消えた！

光：あれ、コナン君は？

歩：あれ、後ろから来てる！？

コ：…！？「あれ…。」

ナ：コナンは光彦たちから離れるが…。また消えた。

元：お！今度はこっちから来るぞ！

コ：！？「そんな！あ！」

ナ：コナンは凜達に気が付くがもう時すでに遅しかった。解説すると道の空間が「輪^{ルン}」の手により繋がっているのだ。簡単に言えば、道がいくら通っても同じ場所に戻ってくるようになっていたのだ。

コ：はあはあ…。「もうだめかも…。」

バタン！

光：あ！コナン君！

歩：大丈夫！？

元：しっかりしろ！

哀：私達も戻りましょ。

凜…うん！

エンディング 「Your Best Friend」

エピソード

哀…大丈夫、気を失ってるだけだわ。博士を呼んでおいたからしばらくすればすぐ来るわ。

光…しかし何故、コナン君はフードなんかを…。

歩…とにかくとってみようよ。

元…おう。

凜…うん…。

ナ…しかし、フードを取ったコナンの姿は予想外の物だった。

歩：え！？

光：どういう事ですか！？

元：誰だこいつ！？

凜：コナン君のような、でもコナン君じゃないような…。「あ！何か感じる…！」

哀：何が起きているのかしら…。

ケ：「気付いとるか？さくら。こいつ、謎の人物にやられとるで…。おそろく工藤や…。」

ナ：コナンは髪の毛が首の下くらいまで伸びていて特徴だったピョコン毛も無くなっている。服も半袖の赤いワンピースと、まるで、女の子の样だった…。唯一コナンの样だったのは、メガネだけだった…。

謎：大成功だ！いい感じだ！クツクツクツ…。

ファイル12 完

ファイル12 ラスト（後書き）

性転換ネタでした。最近性転換ネタは多いみたいですが、あらかじめ決めていた事ですのでご理解お願いします。

ファイル13・1（前書き）

あらかじめファイル12を見ておかないと今回の内容は掴めませんのでご注意ください。

ファイル13 - 1

オープニング「Misty Mystery」

阿笠博士の家

ナ：気を失ったコナン（女の姿になっている）を別の部屋に寝かせて他の人達はリビングで話をしていた。

元：なあ、アイツは本当にコナンなのか？

博：そうかもしれないしそうじゃないかもしれないのう。メガネはコナン君の物じゃったし。

光：でも、もしそうなら何でコナン君は、女の子みたいになってるんでしょうか？「でも、かわいいかも…。」

哀：まあ、彼に聞いてみればいいじゃない。

凜：でも、話してくれるのかな？

哀：それは分からないわ…。

光：あの…。

他：？

光：さっきのあの現象は一体なんだったんでしょうか？

ナ：「^ル輪」の事だ。

元：そうだな。なんでコナンは行ったり来たりしてたんだろうな？

歩：そうそう。あり得ないよね…。

凜：「まずかったかな…？」

ケ：「／／／」

ナ：その頃…。

コ：うん…。あ、ここは…。博士の家…。

ナ：コナンがふと目を覚ました。

コ：「見つかったよ…。こんな姿、晒ひしたくなかったな…。」

ナ：コナンの口調はもう、女口調だった…。さらに別の所では…。

謎：クッククク…。さて、次はどうしようかな…。

？：×××様。このカードなんかいかがですか？

謎：おお、これが。まあ、彼女の能力を試さなきゃいけないし、いいだろう…。

ファイル13-2

コ：「でもどうなってるの？朝起きたらいつの間にか女になるなんて…？まさかこれも謎の人物の仕業！？うつつ…。悔しい…。ただでさえ辛いのに…。」

ナ：コナンはもはや悔しさでいっぱいだった。

ガチャ

コ：！

ナ：凜が部屋に入ってきた。

凜：話を聞かせて…。やっぱり誰かに話したいんじゃないかと思って…。

コ：うん…。

ナ：このまま黙っておく訳にもいかないと思い、コナンは全てを話した。ここからは一回、朝の様子を回想する。

.....

コ：ふぁゝ…。

ナ：コナン、凜より早く起床。

コ：ん？何か変…？

ナ：コナンが異変に気付く。この時の自分の声がいつもより高いのだ。

コ：えっと…。気のせいかな？トイレにでも行こう…。

ナ：んで…。

コ：え、服が変わってる！？女物じゃん！えーっと…。あわわわわ！

ナ：コナンは服が変わってる事に気付いた。その後は詳しくは説明しないが、まあそう言う事だ。

コ：ええと、鏡、鏡…。

ナ：コナンが洗面台の鏡に映った自分の姿を見て、驚愕した。

コ：えー！ー！ー！っ！？>#%&’*^！\$%\$&’&>”…！
↑（混乱状態で何を言ってるか分からない）

ナ：コナンはショックが多すぎて、ダンスの中のフードを取り出し出て行ってしまった。あとはファイル12の経緯である。

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

凜：そうだったんだ…。

コ：私はどうなってるの？一体何なの？もうどうしたらいいかわからなかった…。自分が女になってしまった事、謎の人物の手によってこうなっちゃった事、もう何もかもが…。もうだめだね私…。

ケ：工藤。

凜：ほえ！？

コ：いたんだ…。

ケ：いたんだ、やないで！

コ：何よ…。

ケ：まだ決まった訳やないで。

コ：？

ケ：知世の二重人格が勝手に戻どおてしまうようにな、もしかしたら、何か元に戻る方法があるかもしれないで。

凜：そうなの？

コ：本当？

ケ：可能性に過ぎへんけどな…。

謎：さすがケルベロス、正解を導き出すのは早いな…。

凜：でもその前に、これからどうしようか？

コ：何を？

凜：ほら、少年探偵団のみんなには見つかったけど、蘭さん達とかはいきなりそんな姿じゃビクリするし、信じてもらえないかもしれないよ。

コ：うん…。

ケ：ちょっと聞いてええか？

コ：何？

ケ：あんさんが工藤が本名なら「江戸川コナン」ちゅうのは偽名やろ？

コ：うん。

ケ：せやったら、また違う偽名考えりゃあ、ええやないか！

コ…そっか。ひとまずそうしてみようかな…。

ファイル13-3

ナ：コナンはとりあえずここまでの経緯を説明した。

コ：…と言う訳なんだけど…。

光：よく分かりました。

歩：ごめんね、コナン君。追いかけて…。言えなかったんだよね。

元：気に留めてんなら俺達にすぐに言えよ！

コ：うん…。

哀：まあ、仕方ないわ。ショックも大きいのよ。「幼児化した上に女体化してしまったんですもの。」

博：そうじゃな。さて、これからどうするのじゃ？

凜：コナン君は名前を考える事にしたんだけど…。

光：名前ですか？

凜：うん。出来るだけコナン君だつてばれないように偽名を。

コ：だからちよつと博士、パソコン貸して。

博：ああ、構わんよ。

凜：パソコンで何を調べるの？

コ：まあいいからいいから。しばらくかかりそうだから、みんなは他の事して待っててよ。

凜：うん。

ナ：と言う訳で光彦達は博士のゲームをやって時間をつぶした。

ケ：わいもやりたいで、さくら。

凜：がまんして！

歩：何か言った？凜ちゃん。

凜：いや、何も…。

ナ：そして30分後。

コ：これにしようかな。

光：へえ、「江戸川 ロイ」ですか…。

歩：なんでロイなの？

ここからは女体化しているときはとロイからロと表記する。

コ↓ロイ（以後・ロ）：とあるイギリスのミステリー作家の名前よ。

哀：なるほど。今、あなたは少女探偵だからピッタリって事かしら？

口：まあ、そんなところ。さて、そろそろ蘭姉ちゃん達に連絡しないと…。

凜：でも、その格好じゃ…。

口：仕方ないわよ。行くしかないわ。何とか理由はつけてみる。

光：大丈夫ですか？

口：保証はないわ。

ナ：仕方なく毛利探偵事務所に凜とロイは向かった。

謎：やれやれ、仕方ない。お前の力を試す為に、ちょっと手荒にさせてもらうぞ…。あのアイテムも与えなきゃな。

？：え、いいんですか？

謎：構わん。準備に取り掛かれ。

？：かしこまりました。

ファイル13-3（後書き）

解説 ロイ・ヴィカーズ

イギリスの作家ミステリー作品 作家。

当初は怪盗ものを書いていたがのちにミステリー物を書くようになる。

一部 A g a - s e a r c h . c o mより引用。

色々選んだ結果です。ご理解お願いします。

ファイル13・4（前書き）

のろのろペースで地道にやっています。
そろそろ謎の人物もやる事戻します。

ファイル13 - 4

ナ：と言つ訳で二人は家に帰宅する事にした。その途中の道での出来事。

凜：ねえ。

口：何？

凜：今回の事件も謎の人物の仕業なんだよね。

口：ええ。そう思うわ。

凜：でも、ここ最近は何も起こらなかったのになんで急に…。

口：多分その謎の人物の仕業で間違いないわ。これは私の勝手な推理だけど、この体を生み出すのに時間が掛かったって事なんじゃないかしら？

ケ：多分そうやないか？その魔力を感じるようやし。

凜：言われてみれば…。じゃあ、知世ちゃんみたいに使えるのかな？

ケ：いや、それは無理や。この魔力はどうやらこの体を生みだした事で出来てもうただけの魔力や。すぐに消えてしまうで。

口：そう…。あれ、ちょっと待って！

凜：どうしたの？

口：この体を生み出すだけに時間を費やただけなら、そろそろ謎の人物もまた行動を続けるんじゃない？。

凜・ケ：！

凜：あ！

ケ：早速や！

口：来たのね…！

謎：その通りだ。お前の能力、試させてもらうぞ。さあ、行け！

凜：出て来た！

ケ：あれは……。「ファイト闘」のカードや！

ナ：拳法着の女性みたいなのが出て来た。これがファイト闘の本体だ。

凜：星の力を秘めし鍵よ、真の姿を我の前に示せ。契約の元、さくらが命じる。封印リリース解除！

ファイル13-5（前書き）

活動報告始めました。先にチェックしていただけるとそれなりに楽しめそうです！（2011年10月25日現在）

ファイル13-5

ナ：戦闘（？）開始。闘^{ファイト}が早速とび蹴りをして来た。

凜：ほええ！

ナ：凜は何かかわした。が、すぐに闘はとび蹴りを喰らわそうとする。

ケ：さくら、落ち着くんや！

凜：で、でも…。

ロ：じゃあ、これなら！

ナ：キック力増強シューズを使った。ロイの体になっても、メカは残っていた。いくつかは除く。

ロ：それっ！

ナ：しかし闘はなんなくかわす。それどころか、ロイに向かってき

た！

口：え！？

凜：危ない！「^{パワー}力」！

ナ：星の杖に強力な力が入った。（見た目は変わらない）

凜：えいっ！

ナ：やっぱり闘はかわした。しかし、今回はそれだけでは無かった。

ドカーン！

口：ちょ、ちょっと！何これ！

ナ：攻撃を外した星の杖はコンクリートに激突。ただ、^{パワー}力の効果がはたらいてる為、突き破ってしまった。

ケ：さくら！狙いを定めるんや！

凜：速くて出来ない。(若干涙)

ナ：実は以前に闘のカードを封印した時は力のカードを使うまでは良かったが、闘の速さについて行けず、上手くいかなかった。そんな中、偶然杖が当たって倒せたのだ。

ロ：コワッ…。

ナ：しかし、そんな事があっても闘は再び攻撃を続ける。

凜：ほええ！

ナ：怖いのか凜は杖を振り回す。

ロ：大丈夫！？
↑不安

ゴン！

凜：あ…。

ナ：以前と同じように杖が闘に当たった。

凜：やったの…？

ナ：これで終わりかと思ったら…。

ケ：…！さくら！

凜：え！？わっ！

ナ：闘はなんと再び攻撃を始めた。

凜：そんな！杖は当たったのに！

ケ：謎の人物が闘を強くさせてるんや！もっと、叩き込まんと勝てへんで！

凜：そんな！

ナ：闘が蹴りを喰らわせようとした。なんとか凜はかわすが…。

凜：あっ！

口：杖が！

ナ：蹴られた事で星の杖が飛ばされてしまった！

ケ：さくら！

凜：もうだめ…。（戦意喪失）

ナ：やられると思い、凜はその場に立ち尽くしてしまった…。

口：そんな！何とかしなきゃ！

謎：どうする、コナン。今のお前ならできるはずだ…。

？…：どういう事ですか？

謎：まあ見てろ。

ロ：こうなったら…。どりゃー！

凜：えっ！？

ケ：何する気や！

ナ：なんと、ロイは鬨に向かった！鬨は一緒にやってしまおうと、蹴りを喰らわせようとした。

凜：新一君！

ナ：誰もがロイがやられると思った。しかし！

バシッ！

凜：ほえ？

ケ：何やと…？

ナ：ロイは鬨の蹴りを、止めた…。

ファイル13-5（後書き）

次回、大反撃。

ファイル13・6

凜：どうなってるのかな…？

ケ：闘ファイトの蹴りを食い止めてまうなんて、あり得へんで…！

ロ：もっ見てられない…。今度はこっちから！そりゃ！

ナ：そう言っってロイは闘に反撃。闘もそれに答えるかのように、攻撃する。

ロ：ハッ！それっ！ヤア！

凜：すごい！

ケ：あの闘と互角、いや、それ以上や！力パワーでもないのに、押してきとる！

ナ：その通りだった。ロイは闘の攻撃をよけては反撃、よけては反撃を繰り返して戦っているのだ。

謎：これが本当の能力さ…。

？：あの、×××様。

謎：何だ？

？：ロイがやってる事が、毛利蘭と似てませんか？

謎：そう見えるか…。だが、よく見ろ。

？：？

ナ：やがてロイは決めの攻撃を喰らわせた。

ロ：これで…。おりゃー！

凜：ケ：！

？：あ！

ナ：ロイは投げ技を繰り出し、闘を大きく投げつけた。

？：あれは「一本背負投」…？

謎：そう。毛利蘭がやっているのは「空手」。ロイがやっているのは「柔道」だ。違いが分かったか？

？：／／／

謎：さて、そろそろあれを渡すか…。おい、すぐに送れ。

？：あ、はい！

凜：すごい…。

ロ：よし！

ナ：闘がカードに戻った。

ケ：やったやないか！

凜：良かった。

口：あ…。これは一体…。

ケ：落ち着きや。これはあんさんが女体化した時に出来た力や。多分、謎の人物がそうしたんやろう。

口：そう言えば、さっきボールを蹴った時、痛かった…。無理に堪えちゃったから…。

凜：大丈夫？

口：大丈夫。さっきよりは良くなってるから。

ナ：その時だった。

ピュー

凜：ほえ？

口：？

ケ：何や？

ナ：何やら、空から小さな水晶が落ちて来たのだ。

口：何かしら？あら、何か水晶に貼つてある。

ナ：水晶に小さな紙が貼つてあつた。

ファイル13 ラスト（前書き）

今回は大注目！

ファイル13 ラスト

ナ：水晶の紙にはこう書かれていた。

よくぞ、私の戦いに勝利されました。おめでとございます。さて、江戸川様。いや、新一様。

ロ：！？なんで私の正体を…？

ナ：まだ続きがある。

ただ今お渡しした水晶を自分の額ひたいに当てて下さい。そしてあなたはずっとその能力を喜んで使えるでしょう。ではまた…。 by 謎の人物

凜：やっぱり謎の人物だったんだ…。

ロ：でも、この水晶を額につて？あと、ずっとその能力を喜んで使えるでしょうって？

ケ：まあ、やってみりゃあええやんか。

ロ：そうね。じゃあ…。

ナ：謎の人物が送って来た物だったため、ドキドキした。しかし、このままなのもまずいので、勇気を出してロイは自分の額にその水晶を当てた。

パアア

凜：新一君！

ケ：何や！？

ナ：突然激しい光がロイを包み込む。その光が消えると…。

凜：あれ、コナン君の姿に戻ってる？

コ：あれ…。どうなってるんだ？

ナ：ロイはコナンの姿に戻った。口調も男口調に戻った。

凜：良かった〜！

コ：でも、何でだ？

ケ：もしかして、この水晶もう一つの体でも封印してるんじゃないか？

コ：なるほどな…。あ。

凜：あ！

ナ：よく見ると、水晶の色が変わっている。説明し忘れたが、先程まで青だったのが、赤に変わっている。

コ：つまり、封印されてる体の性別が色に反応してるんだ。

凜：でもさ…。

コ：？

凜：これ、何したかったの？

コ…。

ナ：確かに意味なし。だけど…。

コ：まあいいじゃないか！多分使える時が来るはずだ！ハハハハハハ…。ハア…。

凜：アハハ…。

ナ：コナン、苦笑。なんだかんだで、コナン女体化騒動はとりあえずひと段落した。

エンディング「Your Best Friend」

ファイル13 完

ファイル13 ラスト（後書き）

次回から久々に普通の事件に戻ります。

ロイの解説（前書き）

今日は時間があんまり取れないため、ロイの設定だけ書こうと思います。

ごめんなさい。

ロイの解説

特徴 髪型が変わる。大体首の下くらい。知世よりは短い。

口調が女になる。

柔道が得意。 蘭がやっているのは空手

サッカーの腕前が落ちる。

声が高くなる。

服装が赤のワンピース。

メガネは掛けたまま。

博士のメカは所持。 一部変更あり。変更点は登場時にそれぞれ発表。

謎の人物が送った水晶でコナンに戻る。

コナンからロイにもなれる。

魔力は持たない。

ロイの時はみんなからはロイと呼んでほしい。

推理力はそのまんま。

お化けは平気のまま。

音痴もそのまま。

ロイの解説（後書き）

以上です。明日からはいつも通りに書きますのでよろしくお願いします。

ファイル14-1（前書き）

何度も言ってますが、久々にコナンの事件です。

ファイル14-1

毛利探偵事務所

小五郎：「我は時の番人。時の流れを冒流^{ぼうりゅう}する愚かな女よ、その罰として、お前が生を受けたその時刻に、姿ない剣^{つるぎ}で、時間を止めてやろう。時の番人より」ってこりゃあ、殺人予告の脅迫文じゃないですか！

青梅^{おうめ} 岳道^{がくみち}（以後・このファイル中のみ・岳）：はい。2年前から、奥様の誕生日が近づく^{ちかづく}と送られて来るんです。差出人不明のその手紙が…。

蘭：でも、2年前からって事は去年も一昨年^{おとし}も奥さんはご無事だったんですね。

岳：ええ。何事も無く、誕生日を終えることが出来ました。ですが、その手紙の事を奥様がお客様にお話しされるものですから、年々誕生日会に来られるお客様の数が減っておりまして…。

小五郎：で、この毛利小五郎に、この手紙の送り主を突き止めてほしいって訳っすな！

岳：はい。出来れば奥様の50回目の誕生日会に来てもらってボディガードのような事もしていただきたいのですが…。

小五郎：「50のおばさんかよ…。」いや、ボディガードの方はちよつと…。

岳：依頼料はこれくらいを予定していたのですが…。

ナ：岳道が小切手を見せる。そこには300万円の文字が…。

小五郎：「うおーっ！」お引き受けします！

岳：あ、ありがとうございます…。

ケ：「金に引かれとる…。」

コ：ねえ。この手紙の「時の流れを冒読する」ってどういう意味？

凜：私も気になるんですけど…。

小五郎：さあな。時間に背いて怪我してるって事じゃないか？

凜…なるほど…。

コ…だったらその奥様って、すっごく時間にルーズな人なの？

岳…いや、その全く逆でして…。

コ…え？

凜…ほえ？

オープニング「Misty Mystery」

ファイル14-1（後書き）

事件関係者解説1

青梅 岳道（男性・42）保科家執事^{ほしな}

ファイル14-2

ナ：屋敷に到着。屋敷の中は時計だらけだ。

保科^{ほしな} 瑠華子^{るかこ}（以後・このファイル中のみ・瑠）： 2分17秒の遅刻。 2時30分に来られる約束でしたよね。毛利探偵。

小五郎：いやあ、ガレージからここまでかなりありましたし、雨も降ってましたので…。

瑠：限りある人生、私は^{わたくし}1秒たりとも無駄にしたくありませんのよ。それと青梅さん。

岳：はい。

瑠：書斎の時計が1秒近く遅れていたわよ。

岳：は、はい！すぐに直させます！

コ：「なるほど、まるで神様の様に時間を支配している訳ね…。」

ケ：「訳分からんで…。」

ナ：その時、二人やって来た。

軽^{かる}辺^へ 定^{てい}悟^い（以後・このファイル中のみ・軽）：まあまあ、奥様。
人には休暇が必要なように、時計にはたまに息抜きさせてやるぐらいの心のゆとりが必要じゃないかな。

周^す防^お 知^ち秋^{あき}（以後・このファイル中のみ・周）：あら、時計には血が通ってないんだから、人間の様に休む必要なんてないんじゃないやありません？

ナ：その時、さらに一人やって来た。

古^{ふる}垣^{がき} 倫^{りん}作^{さく}（以後・このファイル中のみ・古）：いや、人間と同じじゃよ。人間ドックの様にたまに検査して油をさしてやらんと、時計^じに錆^さびついてガタが来る。

時計は人間たちが寝ている間も、時を刻むために歯車を間^ま遠^とし、バネも徐々に弱って来てるのじゃからな。

小五郎：あの、この方たちは？

瑠：この館を設計された軽辺さんと内装を任せた周防さんと、この屋敷にある大時計を作っていただいた、古垣さん。みんな今夜の誕生日パーティーのお客様ですわ。

古：わしはあの大時計の様子を見に來ただけじゃ。あんたの誕生日はそのついでじゃ。すまんが勝手に上がらせてもらうぞ。あの大時計の調子はわしが一生みると、古い友人と約束したんでな。

コ：古い友人って？

瑠：以前雇ってた、時計技師ですわ。とても優秀な方で、4年前に事故で亡くなるまで、この館の時計はほとんど彼がやっていました。

凜：へー。

瑠：確か、あなたのお兄様だったかしら？

周：はい。ここの内装も兄の口ぞいで、まかせていただいて。そうそう、奥様。とても素適な絨毯じゅうたんを見つけたんですけど、サンプルをご覧くださいます？

瑠：じゃあ、後で。

周：はい。

瑠：まあ、みなさん。立ち話も何ですから、中にお入りください。

岳：では、みなさま。傘をお預かりいたします。

ナ：皆が傘を渡す。

蘭：お願いします。

岳：はい、確かに。

小五郎：よろしく。

岳：はい。

軽：あ、私は結構。折りたたみだから。

岳：さようですか。

周：はい。

岳：確かにお願いいたします。

小五郎：しかし、すごい数の時計ですな。

蘭：本当。これ全部、奥様が買われたんですか？

ナ：先ほども説明したが、中は壁時計だらけ。それも一つや二つじゃない。

瑠：ええ。去年病死した夫に愚痴をこぼされました。自分は時計と結婚したようだって。まあ、私が時計に魅せられているのは本当ですわ。このチクタクする可愛い音と、長針が真上を向いた時に奏でられるこの音に…。

ナ：時計がすべて3時になった。一斉に様々な音が鳴り出す。

ポーンポーン、ぽっぽぽっぽ…。

小五郎：確かに、一斉になり出すとは相関ですな。

蘭：すごい。まるで遊園地にいるみたい。

凜：いい音色…。

ナ：だが…。

瑠：青梅さん…。

岳：は、はい！

瑠：時計が一つ、0・5秒遅れてるじゃない！どうなってるの！

ナ：瑠華子が突然怒鳴り出した！

岳：も、申し訳ありません！すぐ直させます！

瑠：だったら、念を押しておきなさい！私が生まれた時間、午後6時にすべての時計の鐘が鳴らなければ、クビにするってね！

岳：か、かしこまりました！

瑠：やはり時計の調整はあなたのお兄様じゃなきゃだめね。

周：え…。

瑠：彼が亡くなった穴埋めに、3人も時計技師を雇ったのに、遅れる時計が週に一つや二つは出て来る。でも、この館についているあの大時計だけは別。

この十年間で遅れたのは数えるほど。まあ、作った本人が毎年来るから当然ですけど。

凜：「怖い…。」

ケ：「時間にこだわり過ぎちゃうか？」

ファイル14-2（後書き）

事件関係者解説2

保科 瑠華子（女性・50）保科家当主

軽辺 定悟（男性・45）建築家

周防 知秋（女性・39）内装デザイナー

古垣 倫作（男性・64）時計職人

ファイル14-3（前書き）

久々に2件更新出来ました。

ファイル14-3

ナ：全員は大時計の機械室に来た。

蘭：うわーっ。すごい！

小五郎：これはなかなか迫力がありますな。

凜：ほえ〜。

蘭：なんだろう、この扉？

ナ：扉を開けると、時計の文字盤の所に出た。（裏庭の方）

蘭：うわーっ、この大時計の文字盤って、裏庭側にもあるんですね。

コ：ん？あれってさっきの…。

ナ：裏庭に古垣がいた。すぐそばに古い井戸があり、古垣は拝んでいる。

コ：井戸に向かって何で拝んでるの？

周：あそこに落ちて死んだからよ。

蘭：え？

コ：え…。

凜：あ…。

周：時計技師の私の兄は、この時計の文字盤の修理中に風にあおられ…。

瑠：ここを建て替える前からある井戸でね。危ないから、来週には業者に頼んで埋めてもらう予定ですの。

軽：じゃあ、私も後でお参りしておこう。亡くなった彼とは幼なじみだったんでね…。

周：じゃ、私の分の拝んでおいて下さい。

ナ：何故か周防は戻る。

小五郎：あなたはお参りしないんですか？妹なのに。

周：墓参りは今朝済ませましたから。今日がその兄の命日なので…。

凜：え？

小五郎：今日が命日って、奥様の誕生日に事故で？

周：ええ。

瑠：まあ、詳しい話は私の部屋で。わたくし毛利探偵には、例の脅迫文の差出人を見つけていたみたいです…。

小五郎：え、ええ…。

蘭・コ・凜・ケ：…？

ナ：ごく普通に話す瑠華子の様子に気がかった。

ファイル14-4（前書き）

風邪でしばらく休載していましたが本日、復活いたします！

ファイル14-4

ナ：あれから数時間後の6時少し前、パーティ会場にて。

蘭：結局、事件の事は何も教えてくれなかったの？

小五郎：ああ。仕事上で自分を恨んでるやつのは、詳しく話してくれただけ。

コ：ねえ、あの手紙の送り主の名前って、「時の番人」だったよね。

凜：？

小五郎：あ？それがどうした？

コ：だったらさ、時計技師も「時の番人」だよな。

小五郎：じゃあ、今雇っている3人の時計技師が手紙の主だっていうのか？

コ：た、たとえばの話だよ。

蘭：でも、それを言うなら、時間につるさい奥様のほうが「時の番人」ぽいけど…。

凜：「確かに…。」

ナ：一方、ちょっと離れたところの会話。

瑠：青梅さん、そろそろ…。

岳：かしこまりました。

軽：さつきから気になってたんだが、その金時計、拝見してもよろしいかな？

瑠：ええ、どうぞ。

ナ：金時計を軽辺に渡した。

軽：ほう。これは…。

周：まあ！以前の銀の懷中時計も素敵でしたけど、これも奥様に似合ってらっしゃいます！

瑠：おほほ。スイスの職人に特注してもらった、一品ですの。

古：フン！主人の気まぐれで買い換えられて、引き出しの中で泣いている前の時計が可哀そうじゃわい…。

瑠：その心配には及びませんわ。その時計はもう、手元にはありませんので。

古：ん？

軽・周：え？

瑠：壊れたから、捨てたんですよ。

ナ：その時、パーティ会場の電気が消され、真っ暗になった。

凜：え、何！？

蘭：うそ！

小五郎：停電！？

コ：「ヤベエ！」

ナ：一瞬、皆が戸惑った。^{みな}だが、その直後に、岳道が誕生日ケーキを運んできた。それと分かって、皆は拍手をした。

小五郎：「なんだよ、誕生日ケーキのろうそく消しかよ…。」

凜：「ホッ…。」

ケ：「おどろきすぎやで。」

瑠：フウ…。

ナ：瑠華子がろうそくの火を消した。だが…。

瑠：ちょっと、どついう事！？

小五郎：何だ！？どうかしたか！？

ザクッ

溜：うわーっ！

ナ：溜華子が叫んだ。その時、大時計が6時を指し、ベランダの窓が勢いよく、開いた。

蘭：窓から、誰か逃げた！？

凜：えええっ！？

ケ：さくら、落ち着くんや！

コ：「何だ、今の…？」

小五郎：明かりだ！誰か、明かりをつけろ！

ナ：慌ててパーティ客の一人が、明かりをつけた。そして、そこには…。

蘭・凜：あーーーーーっ！

ナ：瑠華子が血まみれで倒れていた…。

ファイル14-5

ナ：あれから数時間後、警察が到着した。

目：なるほど。誕生日ケーキのろうそくを吹き消し、部屋が真っ暗になった直後、何者かがこの館の主人である、保科瑠華子の胸を凶器で一突きにし、再び明かりがつく数秒間で、その凶器を持ったまま、あの裏庭に面した窓から逃げたと言う事か。

小五郎：ええ、見て下さい。奥様が殺されて床に飛び散ったこの血を。

目・高：ん？

ナ：血は遺体の両足から少し先まで飛び散っていた。

小五郎：ちょうど、この辺りだけ血がこぼれているでしょう。これは刺した刃物を抜いた時に、誰かがここに居て返り血を浴びた証拠。なのに、この部屋にいた人達は、多少血が付いた方がいるものの、そんなに大量に返り血を浴びた人は一人もいません。

しかも、バルコニーの手すりにはこすれたような血の跡があります。返り血を浴びた犯人が、あの窓から逃げたのは間違いありませんよ。

警部殿。

目：だがねえ、毛利君。だとしたら、あるはずの物が無いんだよ。

小五郎：え？

目：ここは2階。夕方まで雨が降っていてぬかるんでいるのなら、くつきり残っているはずだろ。このバルコニーから逃げた犯人の足跡が。

小五郎：そ、そんな馬鹿な！

ナ：裏庭は警官が搜索中。すると、また雨が降ってきた。

目：また降ってきたか。

蘭：あ、あの…。犯人の足跡が無いつて本当ですか…？

目：あ、ああ。

蘭：じゃあ、もしかしたら、あの脅迫状を送ってきた人って、4年

前に亡くなっただけで言う、時計技師なんじゃ…。

凜：えええっ！？

小五郎：ばーか！死んだ人間が手紙なんか送れるか！

蘭：で、でも…。差出人は時の番人だったじゃない！時計技師も時の番人でしょ？

凜：あわわわわ…。

ケ：「まじになつとらんか？」

ファイル14 - 6

目：なんだね、その脅迫状と言うのは。

小五郎：2年前から、被害者の奥様宛に届いてたらしいです。「お前がこの世で生を受けたその時刻に姿ない剣でお前の息の根を止めてやろう」って言う…。

目：この世に生を受けた時刻って？

高：先程の午後6時が被害者が生まれた時刻で、ろうそくの火を消すのも毎年6時ジャストだったそうです。

目：うーん…。それで、4年前に亡くなったその時計技師は被害者を恨んでたのかね？

蘭：く、詳しくは知りませんがちょうど誕生日パーティーの時に事故で亡くなったみたいで…。

古：フン！亡くなったんじゃない。殺されたんじゃない。神様気取りで、時間を支配していた、冷血なその女にな。

目・高：え？

古：その日はひどい嵐じゃった。命綱をつけ、文字盤の修復をしていた、その時計技師は風に襲われて下にあった井戸に落ちてしまうくらいのな。

小五郎：でも、それって事故なんじゃ…。

古：ああ。ただの間抜けな事故じゃったろう。その女主人が誕生日パーティを時間通りに始めずに時計技師を探していたら…。

高：じゃあ、人が一人いなくなったのにパーティを？

軽：ええ。おかげで彼の遺体が見つかったのは、翌朝。警察の話だと、パーティの最中に轢死^{れきし}したそうです。井戸には水があつたので…。

周：まあ、他の誰かが彼を探していれば助かったかもしれないけど。
↑（岳道を見ながら言う。）

岳：いったんパーティが始まると、とても忙しく、誰かを探す余裕なんて…。

高：け、警部。どうやら被害者を最も恨んでいるのは、その時計技師って事になりますね…。

凜：「刑事さんまで…。」

目：あの…。

蘭：やっぱり！犯人はその人の幽霊なのよ…。だから足跡も無いんだわ…。

コ：だったらすごく目が悪いお化けさんだね。

蘭：え？

他：ん？

ファイル14・7

コ：だったらすごく目が悪い幽霊さんだね。

蘭：え？

他：ん？

コ：だって見てよ。この奥さんのネックレス。暗くすると光る。

ナ：コナンが手をかざすとネックレスの宝石が光った。

コ：きつと蛍光塗料が塗ってあるんだよ。暗くなっても奥さんの場所が分かるようにね。

小五郎：おい！ネックレスに触ったやつは誰だ！↑岳道に聞く。

岳：パ、パーティ中に色々な方に触らせていました。この誕生パーティは奥様が新しく買われたネックレスのお披露目会でもありますので…。

小五郎：そう言えば、金の懐中時計も自慢げに触らせていたな…。

高：じゃあ、指に蛍光塗料を取り付けている人が犯人なのでは？

目：まあ、ワシが犯人ならもうとくにトイレで洗い流しているだろうがな…。

小五郎：せめて、ネックレスについている数名の指紋で人数を絞ればいいが…。

岳：かなり大勢の方が触られていたかと…。

コ：バカだなあ、おじさん。幽霊は何かを触っても指紋なんか付かないよ。だって、空気みたいに誰にも見られずに、浮いて逃げちゃえるんだからさ。

小五郎：バカはお前だ。幽霊がわざわざ蛍光塗料をつけて暗闇で人なんか刺さねえっつの！

コ：でもさあ、逃げた足跡が無かったんでしょ？幽霊が犯人じゃないなら、逃げたフリをしてまだここに居るって事になるよね。

目：そ、そうか！前もってバルコニーや足場に血をつけておき…。

高：窓を開け、逃げたかのように見せかけた！

目：うん、しかも、犯人が外に逃げてないと言う事は、被害者を突き刺した、アイスピックのような長くてとがった凶器をまだ隠し持っている可能性が高い！

凜：ホッ…。

ケ：「やっと落ち着いたで…。」

目：では一人ずつ別室で、事情聴取と身体検査をさせてもらいましょうか。

客達：えっ！

ナ：その言葉に客達は騒ぎ出すが…。

古：ちょっと待て！

目：え？

古：返り血の問題はどうなったんじゃ？お前さんの話では、犯人はかなりの血を浴びてるんじゃないわ？

周：そうね。その疑問が解けないと、事情聴取も身体検査も受ける気にならないわ。

客A：だよな。

客B：怪しくないのに身体検査をされるなんて。

客C：失礼じゃないかね？

高：まあまあ、一応念のためです…。

ナ：客達が不満の声を上げる。さらに…。

古：すまんがワシはようがあるから、帰らせてもらつぞ。

目：え！

周：じゃあ、私も。

客D：俺も。

高：あ、ちよつとちよつと！

ナ：客達が帰ろうとした、その時。

軽：ちよつとみなさん、待って下さい。

客達：え？

軽：分かっていますか、人が一人、亡くなっただんですよ。今日は皆さん、奥様の誕生日を祝うためにこのパーティに来ている訳ですし、その奥様を殺めた犯人がこの中にいるかもしれないのなら、警察の方に協力するのが、道理でしょう。

客達：うーん…。

軽：このままじゃ、私の幼なじみの時計技師の幽霊が犯人にされか

ねないですしね。

コ…。

ナ：何とか、客達を一人ずつ事情聴取を身体検査が出来た。

ファイル14-8（前書き）

今回と次回は事件関係者達の持ち物や服装、血がどう付着しているかなどがよく分かります。

ファイル14 - 8

ナ：一人ずつそれぞれ別室で証言を聞く事になった。ここからはそれぞれの証言を順に伝える事にする。

軽辺の証言

目：えー、あなたは建築家の…。

軽：軽辺です。この館を設計した…。

目：あなたの手や袖口に血が付着してますな。

軽：倒れた奥様に駆け寄った時に付いてしまったんでしょう。でも、それ以外の所には血は付いてませんよね。

高：ええ。

目：それで、犯行時に何か気付いた事はありませんか？

軽：そういえば、布がこすれる様な音が近づいてきていましたから、犯人はもしかすると、ドレスを着た女性かも…。

目：ところで、あなたが持っているパイプの吸い口も長くて尖^{とが}っているようですが、調べさせてもらっても…。

軽：もちろん。

周防の証言

周：ちょっと、いい加減にしてよ！確かに4年前に死んだ時計技師は私の兄で、一番動機がありそうなのは私でしょうけど、あれは不運な事故。奥様の事は恨んじやいないわよ。

目：だがねえ、この館の内装を任されていた周防さん、あなたならいろんな細工が出来るんじゃない？。

周：それを言うなら、建築家の軽辺さんや、あの大時計を作った古垣さんも同じ！でもまあ、年を取った古垣さんは違うかな…。

コ：え、どうして？

周：犯人は奥様を刺した後、かなり素早い動きでわたしの左脇をすり抜けて行ったのよ。だからほら、血の跡も付いているでしょ。

ナ：左腕に逆V字型に血が付いていた。

高：ちなみに、髪に刺しているのは…。

周：ああ、昔、兄に買ってもらった簪^{かんざし}よ。

高：調べさせてもらっても、よろしいですか？

周：好きなだけ調べなさいよ！

高：ヒイツ！

ナ：簪を向けられて、驚いてしまった。

周：でも、後でちゃんと返してよ。

高：は、はい…。

古垣の証言

目：うゝむ…。

ナ：目暮警部は古垣の杖に目をやる。

古：時代劇じゃあるまいし、刃物なんか仕込んでおらんよ。

目：のようですな。あなたでしたよね、あの大時計を作ったと言っ
時計職人は。

古：ああ、古垣じゃ。

目：あなたの右肩、少々血が付いてますな。

古：ん、あの女は、ワシの右側で刺された様じゃならな。

蘭：ずいぶん年季が入った杖ですけど、ずっと使われてるんですか？

古：ああ。さっき話した時計技師が10年前に贈った杖じゃからな。

凜：へえ……。

古：どうでもいいが、犯人はとても太った奴じゃと思つぞ。

目：小五郎：え？

古：あの女が悲鳴を上げる直前に、押されたんじゃよ。弾力のある、やわらかい体でな。

ナ：様々な証言に、皆は戸惑った。

コ：「犯人はあの時、大広間に居た誰かに間違いないはずだ。時の番人を名乗る犯人は、一体誰だ……。」

ファイル14-8（後書き）

アニメ前編部分終了です。後編は岳道の証言が他の3人証言の後に続きます。

ファイル14-9（前書き）

アニメ後編部分スタートです。

ファイル14-9

岳道の証言

岳：確かに私は78キロぐらいで小柄ですけど、それが事件と何か関係があるんでしょうか…？

目：あ、いや…。ちょっと参考までに…。

岳：…。

目：ところで青梅さん。ケーキの横にあったこのナイフですが、あなたの指紋が検出されました。

ナ：目暮警部が出したのは、ケーキカット用のナイフだ。誕生ケーキを切る時に使う予定だった物。

岳：そりやそうですよ！ケーキを切るのは執事である私の役目だったんですから。

コ：ねえ、ろうそくが消えた後、すぐに明かりがつかなかったけど、なんで？

岳：奥様の合図が無かったからだよ。いつもはろうそくの火が消えた後、午後6時の鐘が鳴り響き、それが鳴り終わったら、奥様が明かりをつけると指を鳴らしておられたから…。

蘭：でもあの時、時計の鐘もすぐには鳴りませんでしたよね？

凜：そう言えば…。

岳：ええ。遅れそうな時計に張り付いていた3人の時計技師は、全部時間通りに鳴っていたと言ってたんですけどね…。

小五郎：それよりアンタ、奥様の傍にいたはずなのに、全く返り血を浴びてませんよね？ んん？

岳：は、犯人は大柄だったからじゃないですか？ だから、私に返り血がとどかなかったんですよ。

小五郎：フム…。

ナ：こんな感じで、全員の事情聴取と身体検査が終わった。それから先程の部屋での目暮警部と高木刑事の会話。

目：ドレスを着ていて、素早く動くが、太っていて大柄。そんな人物、客の中にいたかね？

高：いえ。パーティに来ている客65人、全て調べましたけどいませんでしたね。

目：それに凶器らしき物を所持していた人もいなかったな。

高：ええ。あの4人（ここまで事情聴取した4人）の持ち物からはルミノール反応は出なかったそうですし…。

目：つまり、例の脅迫状の通り、姿なき剣で殺人を決行されてしまったと言う事か。

高：そ、そうなりますね…。

本当は二人とも納得してない。

コ：ねえ、手すりや窓枠についた血って、奥様のだったんだよね。

小五郎：ああ。犯行前にどうやって奥さんの血を手に入れたかは知らないが、窓から逃げたように見せかけたんなら、あらかじめここに血を塗っていたのは確かだな。

コ：でも、変じゃない？

小五郎：あ？

蘭・凜：え？

コ：ここから逃げるように見せかけるなら、こんなこすれたような血なんかより、はっきり血の靴跡を付けた方がそう見えるのに。

小五郎：フン、さあな。あんまりはつきりつけると、犯行前にバレルと思っただんじゃないか？

ナ：その時ちょうど午前0時をむかえ、大時計が鳴る。

ボンボン…。

小五郎：おいおい、もう0時だよ。

蘭：「そっか、ここって大時計の真下なのね。」

ナ：「その時だった！」

凜：「！」

コ：「何だ、どうした？」

凜：「感じる……。カードの気配……。」

コ：「何！」

？：「気付け……。」

コ：「！？何だ、頭の中に何かが過って来る……。」

凜：「私も何か感じる……！」

？：「……」「わしがこよなく愛する時計で悪事を行った奴を仕留めるのだ……。」

コ：「誰だ…。」

？：「大時計を見よ…。」

コ：「大時計…。あ！」

ナ：コナンはふと謎の声に導かれ、大時計を見た。そして…。

コ：「いや違う、あらかじめつけられていた血じゃねえ！犯行時、本当にここを通ったんだ、時の番人の思惑通りに…。」

？：「後は頼んだぞ…。少年と、主よ…。かたがついたらワシを封印しに來い、いつでも待っている…。」

凜：消えちゃった…。新一君…？

コ：分かったぜ、この事件の真相。

凜：え！？

ファイル14-10（前書き）

昨日のに書き忘れていました。目暮警部達とコナン達がいる所は違う所です。

ファイル14-10

パーティ会場

高：えー、皆さんを調べた結果、凶器を隠し持っていた人はいませんでした。それに、返り血を大量に浴びた方もいないようですので、今日の所は引き取っていただいて、詳しい事情聴取はまた後日と言う事で…。

客A：良かった〜。

客B：これで帰れる。

ナ：その言葉にパーティ客達はホッとした。

目：で、異論は無いな、毛利君。

小五郎：ええ。どうやら、凶器が消えた謎よりも、このバルコニーから血の足跡を付けた方がトリックだと考えた方がよさそうです。

ナ：その時、コナンが麻酔針を放った。

小五郎：ふにゃあゝ…。

蘭：お父さん！？

目・高：え！？

小五郎：またまた、回るゝ。ぐるぐると…。

凜：あ！

ナ：その時、小五郎がバルコニーから落ちそうになる。

蘭：危ない！

コ：「ヤベッ…！」

ナ：何とか、3人で落ちるのを阻止した。

蘭：もう、何やってるのよ！落ちちゃうよ！

ナ：コナンが落ち着いて、小五郎のネクタイの裏にボタン型スピーカーを取り付ける。そして、小五郎の声で推理を始める。

コ：そう。危うく落ちるところだったよ。

蘭：え？

コ：この部屋でほくそ笑んでいる、犯人の策略にな！

客達：えっ！？

ナ：再び客達が騒ぎ出す。

高：じゃあ、やっぱりこの中に犯人が！？

目：あのな、毛利君。バルコニーの下に足跡が無いのは気になるが、犯人がこの中にいるとはとても考えられんよ。

コ：では、これからそれを実証してみましょう。

目：え、実証？

コ：ええ。少々準備に時間がかかりますので、警部殿とお客さんはいったん部屋の外へ…。

ナ：と言う訳で、客達と目暮警部は部屋の外に出た。

古：一体いつまで待たせるつもりじゃ。

軽：さつきから、若い刑事（高木刑事）と執事が部屋を出入りしますが…。

周：本当に証明できるのかしら？ 返り血を浴びずに人を刺し、その凶器まで消すなんて事…。

目：「まったく、ワシまで部屋の外に追い出しおって…。下らん推理だったらたたじゃおかんぞ。」

ナ：高木刑事が部屋から出て来た。

高：お待たせしました。準備が出来ましたので、みなさん部屋の中に入って下さい。

ナ：客達が部屋の中へ入って行く。

高：あ、警部殿はこれを首にかけてもらいます。

ナ：高木刑事が差し出したのはコナンの時計に首にかけられるようにひもがついた物だ。

目：え？これはいつもコナン君がしている、ライト付きの腕時計が…。

高：ええ。警部殿には殺害された被害者の役をやってもらいますので、蛍光塗料が塗られたネックレスの代わりにそれを…。

再び部屋の中

古：別段、変わった所は無さそうじゃが。

軽：ええ。変わったと言えば、閉まった窓の所にメガネの少年と少女がいる事ぐらいですね。

凜：本当に証明できる？

コ：大丈夫だ。さくら達は一回別の所に行つててくれ。

凜：分かった。

周：何をする気が知らなけど、さつさと始めてちょうだい。

ナ：その時、部屋の電気がすべて消される。

周：ちょっと何？

高：事件当時の再現をしているんです。まずは部屋の明かりが消え、ケーキが運ばれて来たんですね。

岳：はい。

ナ：岳道があ那时的様にケーキを運んできた。

高：さ、警部殿。私が合図をしたら、被害者の様にロウソクを消してください。

3、2、1……。ハイ！

目：フウ……。

ナ：目暮警部がロウソクの火を消した。

ガン！

ナ：何者かが目暮警部を殴った。

目：な！誰だ、今ワシの頭を棒で殴ったのは！

ナ：その時、再びバルコニーの窓が開き、大時計が鳴る。

目：おいおい、何だねこの実験は。

ナ：部屋の明かりがつく。

目：窓を開けて外に逃げたフリをしても無駄だよ。見えたからな、

ワシの頭を棒で殴ったのが。だから、今も棒を持っている奴が犯人に決まって…。

コ：ごめんね。↑声を戻して話しかける。

目：え？

コ：今、警部さんを殴ったの、僕なんだ。

目：馬鹿を言っちゃいかんよ、コナン君。第一、君は棒を持ってないじゃないか。

コ：持つてる訳無いよ。だって殴った棒は吹っ飛んで、窓の外に消えちゃったもん。

目：何？

客達：え？

ファイル14-11（前書き）

昨日出した話のタイトルが誤ってファイル14-9としてしまい、
一昨日出したものとタイトルがかぶってしまいました。お詫びして
訂正いたします。

ファイル14-11

目：本当かね、棒が吹っ飛んできたと言っのは。

蘭：はい、でも引っ張られて来たのは棒じゃなくてヒモをつけていた傘ですけど…。

目：傘？

ナ：目暮警部はバルコニーの下の庭にいる警官に話しかける。

目：おい、本当か！

警官：はい、この傘です。

ナ：再びコナンが小五郎の声で言う。

コ：いやあ、準備に手間取りました。執事さんにヒモを用意してもらい、時計技師に頼んであの大時計を犯行時刻の6時になるように、進めてもらいましたからね。

目：時計を？どういう事だね？

コ：仕掛けはこうですよ。まず、ヒモを用意し、その途中におもりを結び付け、ヒモの片方に滑りやすいリングを取り付ける。

そのリングを短針の先の飾りの切れ目から通して引っ掛け、おもりが付いた先はバルコニーを乗り越える様にぶら下げる。

そして、ヒモのもう片方先を、窓の隙間から部屋の中に入れておき、ケーキの火を消す為に部屋が暗くなるのを待ち、部屋に引き入れたヒモを傘に取り付けておけば準備は完了。

後は6時になる数秒前に、コナンが警部殿の頭を傘で殴れば、その数秒後、大時計の短針が真下の向き、飾りの切れ目から、ヒモのついたリングが滑り落ち、ぶら下がっていたおもりが落下し、引っ張られた傘が窓を押しつけ、バルコニーの下へ落下。部屋から消えたと言っ事ですよ。

目：あのな、毛利君。地面には凶器もおもりも落ちてなかったし、第一そんなヒモが垂れていたら、誰かが気付くんじゃないかね？

コ：では、ヒモが細くて長い釣り糸で、その糸の途中につけたおもりが、あの大時計の真下の井戸の格子の中にあっただとしたらどうですか？

蘭：そつか！おもりで引つ張られた凶器はそのまま井戸に吸い込まれるって訳ね！

コ：ああ。あの井戸は来週には取り壊される予定だから、凶器は永遠に見つからない散弾だったんだろうな。

目：じゃあ、犯人は何で返り血を浴びていないんだね？

コ：そういえば、犯人像についていろんな証言がありましたよね。
「犯人は大柄で太っていて、動きが速いドレスを着た女性」実はこれ、みんな凶器の事を指していたんですよ。

目：凶器だと？

コ：動きが速いと感じたのは、今のトリックで血の付いた凶器が窓の外に吹っ飛んだせいで、大柄だと思ったのは、その凶器を広げると、かなりの面積をカバーできると言う事。

そして、太っていたと言うのは、その凶器を押し付けられると、弾力性があったからで、その凶器が布で覆われていたため、ドレスの布がこすれる様な音がしたんですよ。

目：一体何なんだね、その凶器とは？

ナ：コナンが声を戻して…。

コ：警部さんを殴ったのと同じ。これだよ。

目：傘！？

コ：ほら、この先つちよ（傘の先端）に尖ったものをネジとかで取り付けねばさ、犯人が奥さんを刺して抜いても、ほとんど返り血を浴びないでしょ。だよね、おじさん。

目：だが、パーティをやっていたんだぞ。傘なんか持ちこんだら、目立つだろ。

ナ：再び小五郎の声でコナンが言う。

コ：いや、こっそり懐^{ふし}に忍^{しの}ばせておけますよ。

目：え！？

コ：軽辺さん、あなたの折り畳み傘ならね！

古：なっ！

周：え！？

客：あの人が…。

ナ：それを別の場所で聞いている凜も…。

凜：そんな…。

？……。

ファイル14-11（後書き）

凜のいる場所と？の正体は次回書きます。

ファイル14-12（前書き）

都合により凜の居場所と？の正体は明日以降の掲載とします。

ファイル14-12

目：しかし毛利君、確かに傘なら返り血を浴びないで済むだろうが…。

古：その後、傘をたたむのに手間取るんじゃないかのう？

周：そうね。奥様が悲鳴を上げた後、大時計の鐘が聞こえるまで、そんなにヒマは無かったわよ。

コ：たたむなんて、一瞬で事足りますよ。

目：え？

コ：手に血が付くことを気にせず、傘をたたんで、手首につけてる輪ゴムかなんかでたためば…。

高：なるほど、だから軽辺さんの手には血がかなりついてるんですね。

コ：そう。大時計の文字盤を最後に閉めたあなたなら、トリックの糸を短針に掛けられますし、その後井戸にお参りすると言っていた

あなたなら、地面にたらしめた糸を井戸まで持って行き、拝むふりをしておもりを付けられる。

そしてこの館を設計したあなたなら、糸の長さをどれくらいにすればいいか見当がつき、犯行前に奥さんの金時計に触ったあなたなら、時間を数秒進めて、奥さんがロウソクの火を消してから大時計が鳴るまでの数秒間を犯行に使えると言う事ですよ。

蘭：でも、軽辺さん、布がこすれる様な音を聞いたって言ってたよね。犯人ならわざわざ傘を連想させるような事言っかな？

コ：あえて言っただよ。

蘭：え…。

コ：あえて本当の事を交えてミスリードしたんだ。犯人はドレスを着た女性って。まるっきり違う事を言えば、他の客と違う事を言っている事になり、疑われてしまうからな。

蘭：でも、でも軽辺さん、他のお客さん達が捜査に協力せずに帰ろうとした時に止めてたじゃない。亡くなった奥さんの為に警察に協力しようって。犯人ならそのまま帰ると思うけど…。

古：そうじゃな。

コ：帰りたくても帰れなかったんだよ。

一同：え？

コ：急にまた、雨が降ってきたから。ここに来た時に使った傘は凶器に使ってしまい、今は井戸の中。あのまま帰ろうとすると、持っていたはずの傘が持っていない事がばれてしまうからな。

迂闊^{うかつ}でしたね。こうなる事を想定して、予備の傘を持っていれば…。

軽：いや、ちゃんと予備の傘は用意してたんだ。

コ：！？

軽：どうやら妻が勝手にカバンから傘を抜いてしまったようだ。「カサは一本でいいでしょ」と言うメモがあったからね。」

まあ、私も待ちに待った雨だったから、逸る気持ちを抑えきれず、確認を怠ったのもミスの原因だが…。

高：待ちに待った雨だったって事は、2年前の脅迫状の時からこの殺人を計画していたんですか？

軽：ええ。雨なら犯人の足跡が無いのも誤魔化せますし、あの屋根のないバルコニーに出る客もいないでしょうから、仕掛けがばれる恐れありませんからね。

まあ、実際犯行直前に、雨が止んでしまった時は少々焦りましたけど。

目：では、犯行を認めるんですな。

軽：ええ。井戸に落とした傘には、奥様の返り血も私の指紋もベツトリついてるでしょうからね。

古：だがなぜじゃ。なぜアンタがあんな女主人を？

軽：あの奥様のせいで死んでしまった時計技師の恨みを晴らしたかったから、ではだめですか？

古：え…。

周：でもあなた、兄の葬儀の時に言ってたじゃない。あれは不運な事故だったって。

軽：ええ。私もそう思おうとしましたよ。その葬儀の時の彼女の声が耳に届くまではね…。

．．．．．

ナ：その葬儀の日…。

瑠：ちょっと、どういう事。なんでまだ代わりの時計技師を見つけていないんですの！

岳：申し訳ございません。亡くなった時計技師さんの事を思うと、まだ探す気にはならなくて…。

ナ：しかし瑠華子は…。

瑠：言っただけですよ！壊れた時計は捨てるしかないって！時計技師

だって同じでしょ！

.....

蘭：そんな…。

軽：誰よりも時計を愛した男だったよ…。

.....

ナ：その時計技師と軽辺の会話。

軽：へえ、お前ここで時計技師をやってるのか。

時計技師：ああ！

軽：でも、大丈夫か？ココの奥さん、時間にかなり厳しいだろ。

時計技師：大丈夫、大丈夫！それぐらいの方がやりがいがあるし、俺が来てから捨てられた時計はひとつもねえからな！

だってこの時計達は俺の魂が詰まった家族のようなもんだからな
！気合入りまくりだぜ！

・・・・・・・・

周：兄さん…。

古：ウム…。

コ…。

軽：もしかしたら、私は彼の仇を取ったというより、助けたかった
のかもしれない…。時の支配者から、彼の家族を…。

ナ：そう涙がらに話していた軽辺は警察に連行された…。

エンディング 「Your Best Friend」

ファイル14-13（前書き）

今回は凜の場面です。

ファイル14-13

ナ：事件の真相を大時計の機械室で聞いていた凜とケルベロス。

凜：はあ…。

ケ：どないしたんや？やっぱ事件が痛かったんか？

凜：うん…。いろいろ悲しい事ばかりだったからね…。

ケ：せやな…。さて…。何であんたがここにおるんや？「時」^{タイム}。

？^{タイム} ↓時：ああ…。ワシは変な奴に操られてここまで来たのじゃ。しかし、奴はワシの魔力に耐えられなかったのか、ここでワシを手放したのじゃ。

ケ：…。「やっぱ、謎の人物やな…。」

凜：じゃあ、何で戻ってこなかったの？そこでもう操られから解放されたんでしょ？

時：気に入ったんじゃ。ここをな…。

凜：え？

時：よく見てみるのじゃ。この大時計はたくさんの歯車があつて、ひとつひとつがちゃんと動く。何度も遅れても、時計技師がちゃんと手堅く直してまた動かしているのがよく分かる。

主がいたあの学校の大時計と同じような居心地じゃ。

凜：…。

時：しかし悲しいわい。時計に対して事件を犯しおつて…。まあ、時間を支配しているあの女がワシには納得いかんわい…。

凜：え？

時：いいか。時間は確かに限りがある。時計で確認をするのは自由じゃ。しかしそれを支配して、他人の時間まで操ろうとするのは許される事じゃない。

あの女もそうじゃ。この大時計を修理していた時計技師を時間に囚

われずに助ければよかったのじゃ。

主よ…。

凜…？

時：限りある時間はいつ終わるか分からない。しかし、それがいいのじゃ。時間にとられ過ぎると、余計に限りある人生を無駄にするぞい…。

凜…？？？

時：おぬしには分からんか…。まあええわい。さあ、もうワシもここに別れを告げよう。いつかワシも終わるかもしれんからのう。

ナ：そう言つて、時はカードに戻った。

ケ：「わいは分かるで、時…。いくら封印の獣のわいでも、いつかは終わるとわな…。」

ファイル14-13（後書き）

時がなぜ喋れるかは次回。

ファイル14 ラスト

謎：ハア…。ハア…。

？：×××様、「時」^{タイム}のカードは魔力の消費が高いんですよ！ここ最近、コナンを女体化させたり、水晶を作ったりであなた様の魔力はほとんどないのに…。しかも、なぜ今回はコナンを助けたりしたんですか！

謎：それは言えん…。とにかくしばらく休まさせてもらおう…。かなり消費したから、3週間ほど休む…。

？：×××様…。

ナ：そんな会話をどこかでしていたのを誰かが知る訳は無かった…。

ナ：それからしばらくしての事だが、今回の事件でコナンはこう思っていたようだ。

コ：「時計」それは、人の生活に必要な切っても切れないパートナー。たまに遅れたりするけれど。」

歩：あ！元太君遅い！

元：悪いな、目覚まし時計の調子が悪くてよう…。

ナ：今、コナン達はキャンプに行く準備に阿笠博士の家の前にいる。

光：もしかして、あの古い時計まだ使ってるんですか？

元：ああ。死んだおばあちゃんにもらった時計だから、捨てたら崇たたられそうじゃなか。

コ：「それが大切な時計ならば大目に見てやろう。時計は俺達が寝ている間も、休まずにチクタク働いているんだから。」

哀：それより、江戸川君達遅いわね。

博：そろそろ出発せんと、キャンプ場に着くのが夜になってしまうのう。

歩：まだ寝てたりして！

他：え？

コ：「チクタク、チクタク、チクタク…」

ナ：その通りだった。

コ：zzzz…。

凜：ムニャムニャ…。

ケ：二人ともはよう起きなアカンで！

ファイル14 完

ファイル14 ラスト（後書き）

最後のコナンのメッセージはやっぱり必要だと思ってのので使わさせていただきました。

今回の作品は原作・72巻File 11～73巻File 2、アニメ632・633話「時の番人の刃（前後編）」です。

次のファイルは謎の人物達は休みます。

ファイル15-1（前書き）

アニメでプロローグが無いため、いきなりオープニングから始まります。

ファイル15-1

オープニング「Misty Mystery」

ナ：ここは米花町のある居酒屋。

中村 進なかむらすすむ（以後・このファイル中のみ・進）：たく…。メインレースはとんでもない番狂わせだったな。

扇 千尋おうちん（以後・このファイル中のみ・扇）あゝ外した。あげな大穴がきつよたら当てようがないわ…。

小五郎：もしかして、みなさんも東都ダービー？

三島 さつきみじま（以後・このファイル中のみ・三）…土曜は馬好きの常連が良く集まるのよ。

小五郎：ほう。

扇：レースが終わったら、直で来て…。

進：勝ったの負けたのだったな。

小五郎：なるほど、そうですか。何をかくそう、私もなんですよ。

篠原 真雄^{しのはら まこと}（以後・このファイル中のみ・篠）あれ、ちょっと見せて下さい。

小五郎：どうぞ。

篠：1、2、3の3連単って、これ今日出た万馬券じゃないですか！

進：何だって！？

扇：何やって！？

同時に言う。

小五郎：えへへへへ、そうなんですよ。

三：あら、お客さん、素敵ねえ。

小五郎：そんな訳ですから、今夜は超ラッキーな私^{わたくし}が皆^{みな}さんに奢^{おご}りましょう！

篠：あ、でもこの馬券…。

小五郎：女将！とりあえず皆さんに一杯ずつお出しして！

三：あらあら、お客さん、太っ腹だねえ。

小五郎：いやあ、それほどでも。

くるくるくる…。

小五郎：あの、今のは何ですか？

三：あ、これ？ちよつとした工夫。

ナ：回転するいすだ。

三：この店狭いから、これがあると動きやすくて、ね？

小五郎：ほう、なるほど。

進：何か俺にも、景気がいい話が来ねえかな…。

扇：もう少しで退職金が出るんやなかった？

三：退職金？

進：あ、いや、大した金額じゃないよ。

扇：なあなあ、そのお金でうちをワイハに連れっけて〜な〜。

進：オイオイ…。

三：あらあら、結構派手な遊びしてるのね。このお金持ち。なんでしたらそんな安酒じゃなくもっというお酒をお出ししましょうか？

ナ：棚の上の高いお酒を見せながら言う。

進：あ、ああ、いや結構。お前は湘南ハワイアンセンターにでも行って来い。

扇：せやな。うちはあそこで毎年、発表会やつとるさかい、それもええなあ。

篠：よっ！待ってました！

小五郎：発表会って？

ナ：扇が扇子を広げ…。

扇：うちは日舞の講師やねん。

ナ：どうと舞を見せたが、狭い店だったため、画びょうが取れ、ポスターに当たった。

進：ハハハハハ…。

三：まったく、酔っぱらうといつも動向しますな。お金があるんだろつから、教室の方もさぞかし繁盛してるんでしょうね。

扇：ム…。

ナ：怒りを抑えつつも、ポスターを戻した。

進：だめだめ、発表会でこいつ足滑らせて、大技開きですっ転んだのさ。そんな教師のいる教室が流行る訳ないよな。

パン！

扇：下らんことばっか覚えとるやないわ。

ナ：扇子でたたいた。

ファイル15・1（後書き）

事件関係者解説

中村 進（男性・64）競馬ファンの会社員

扇 千尋（女性・35）日本舞踊の師匠

篠原 真雄（男性・25）フリーター

三島 さつき（女性・50）女将

ファイル15・2（前書き）

昨日の続きから始まるため中途半端です。すいません。

ファイル15-2

三：発表会だなんて、身の程知らずだね。

扇：何やて、もっぺん言うてみ！

ナ：扇が立ち上がる。その時、グラスがこぼれる。

三：いいのかい？アタシにそんな口きいて。

扇：…！

進：まあまあ、落ち着けよ。

ナ：扇は気を静めて座った。ちょうど料理が出て来た。

小五郎：おっ、うまそうだな。

篠：ええ、こっちに出て来て、偶然入ったのがこの店だったんです。
今じゃ、おふくろの味ですよ。

小五郎：ほう。

進：こいつは料亭の板前になりたくて、東京に出て来たんだよな。

扇：夢破れて何とやらってやつやねん。

三：紹介してあげた魚市場は続いてる？

篠：はい。おかげさまで…。

小五郎：女将は面倒見がいいですな。

三：板前になるなら、魚に目利きが無いとね。篠原君。

篠：あ…。

ナ：一瞬、篠原の目の色が変わった。

篠：ええ、いい修行になってます。

小五郎：なるほど。それで魚市場の仕事を。

進：そういや、アンタのズボン、何で濡れてんだ？

ナ：小五郎のズボンが濡れているのに進が気付いた。

小五郎：ああ、これはさっき横町を歩いていたら…。

扇：偶然女将にバケツの水を吹っ掛けられた…。

小五郎：え、何で知ってるんすか？

進：またやったのか。

扇：ホンマ、見境ないなあ。競馬帰りで気分よおなつとる連中を呼び込む、いつもの手や。そんな事しとると、いつかバチ当たるで。

ナ：すると篠原が…。

篠：女将さんの悪口は止めて下さいよ！東京に来て働きの口が無く

て、途方に暮れていた僕を助けてくれた恩人なんです！

進：まあまあ、そうムキになるなよ。

小五郎：ぶふえつくし！なんか、さっきから寒気がしますな。

三：悪いねえ。板と塗炭^{とたん}の継ぎ接ぎ^はだから、この隙間（カウンター
の後ろの壁）から風が吹き込むんだよ。

扇：ウチも冷えて来たから、ちょっとお手洗いへ。ほらほら立った
立った、レデイのお通りやで。

進：狭い店だ。仕方ない。

ナ：全員が店の外へ出て行く。今回のタイトルからも分かるかもしれないが、この店はかなり狭さ。カウンターがいっぱいになれば
人一人通る余裕も無い。

進：重いみこしを担^{かつ}いだついでに、タバコでも買いに行つて来るか。

篠：あ、ATMが閉まる前にお金おろして来なくちゃ…。

小五郎：俺も一服するか。

ナ：そう言つて、篠原は店を出て左側。進は右側へ。小五郎は分かれ道で一服。

小五郎：タバコ、タバコ、あれ…？ここだったか？

ナ：小五郎がタバコを探していると、遅れて扇が店から出て来た。そしてそのまま進と同じ右側へ。

ナ：一方こちらはコナン達。居酒屋のある横町を歩いている。

蘭：お父さん、最近ここでよく飲んでるのよね。ゴホゴホ…。

凜：こんな所が…。ゴホゴホ…。

コ：ゴホゴホ…。「こんな煙の中でよく酒なんか…。」

ケ：「大阪よりヒドイで…。」

ナ：横町中にはいろんな店の煙が漂う。

コ：あ、あれおじさんじゃない？

蘭：あ、ホントだ。

ナ：コナン達が小五郎を見つけた。

進：こんな所で一服かい？

扇：あれ、みんなで何やってんの？

ナ：それぞれ戻って来た。進と篠原は左から。扇は右から。ちなみにコナン達は左側にいる。

小五郎：お、皆さんお戻りですな。

ナ：4人が店に戻ると…。

扇：な！

小五郎：え！？

篠：女将さん！

ナ：三島が倒れていた。血を出して…。

篠：女将さん、しっかりして下さい！

ナ：篠原が抱きかかえると、三島は腹に包丁を刺していた…。その時ちょうどコナンが駆け付ける。

コ：「何！？」

ファイル15-3（前書き）

活動報告の所に重大発表を書きました。この間みたいな事ではありません。（念のため。）また、明日は学校の行事によりパソコンを使えそうにないので休載します。

ファイル15-3

ナ：あの後、三島の遺体が救急車で運ばれた。小五郎は事件までの経緯を話す。

小五郎：…と言うのが事件の表しです。

高：胸への包丁の一突きが死因だそうです。包丁の柄には「さつき」と言う焼印がありました。

小五郎：女将が店で使っている包丁にはすべてその焼印が付いていたそうです。

高：店内には物色された形跡はありませんでした。物取りの犯行の線は薄いかと…。

目：うむ。それで、毛利君はなぜここに？

小五郎：あ、はい。私が大穴を当てたので、常連の皆さんに奢^{おご}っていたんです。

目：ずいぶんお楽しみの様だったな。

ナ：店のカウンターは酒や食器がたくさん。

小五郎：あ、それほどでも。

コ・蘭・凜・ケ：…。

小五郎：で、事件の時は私を含め4人全員店の外に出ていました。

目：なるほど、店の中には女将が一人でした。そしてこの曇ガラス（入口）では外から中の様子は見えないか…。

高：ええ。ですから、女将が一人でいるのを知っていたのは客だけと言う事ですね。

目：うむ。皆が外に出ていた5分の間に、客の誰かが女将を殺害したと言う事か。よし、客達の話聞いてみよう。

進・扇・篠：は？

扇：話を聞きたいってどゆ事？

高：現場の状況からあなた達3人のうちの誰かが犯行を行った可能性が高いんです。

扇：バ、バカ言わんといて…。

目：そこで事件が起きた5分間、皆さんがどこで何をしていたかを、教えて頂きたい。

小五郎：あ、そう言えばあの時…。

目：ん？

小五郎：皆が外に出た後、扇さんは店からなかなか出て来ませんでした。もしかしたら扇さんは女将と二人きりになるのを狙っていたんじゃない…。

扇：な、何でウチがそんな事を…。

進：お前まさか、教室が潰れそうになって女将に借金したんじゃないだろうな？

扇：な、何を…。

進：あの女将、貸す時は仏の顔だが、その後は鬼の様に厳しく取り立てるって噂だ。

扇：…。

小五郎：なるほど。

目：本当に女将から借金をしてたんですか？

扇：はい…。最近毎日金返せって催促さいそくされて、さっきも店を出ようとしたら今日こそ金返せって責められて…。

小五郎：そしてカツとなったあなたはカウンターにあった包丁で女将を…。

扇：ちやう！言いあいがらちアカンようになって出て来たんや！でも女将があないような事になって言い出せないようになっただけや！

コ：あれ？

目：ん？

コ：この人の袖、何か濡れてるよ。

扇：え、あ…。

ナ：扇の左手の袖が少し濡れている。

小五郎：そうか、あなた確か左利きですよ。ワインを飲むのも、扇子を使うのも、画びょうを刺すのも左手だった。

左の袖が濡れているのは、女将を刺した時に付いた血を、トイレで洗い流したからじゃないですか？

扇：トイレの水道が壊れよって、水が噴き出しただけや！

目：念の為、鑑識にルミノール反応が無いか調べさせる。

高：はい。すみません、こちらにお願いします。

ナ・高木刑事に連れられて、扇は調べられた。

ファイル15-4

小五郎：ところで中村さん。

進：な、何です？

小五郎：あなたはタバコを買うと言ってから横町を右に曲がって行った。ところが確か帰りは反対側から戻ってきましたよね。

ナ：小五郎はすぐその横町の地図で聞く。

小五郎：たばこの自販機はメイン通りの北側の裏なのにどうして反対側から来たんですか？

進：そ、それは自販機のタバコが売切れてたから、大通りのコンビニまで行って…。

高：あ、警部。

ナ：高木刑事が戻って来た。

高：女将の手帳を発見したのですが、中村さんの名前で毎月10万ずつ振り込まれています。

目：飲んだツケにしては大きすぎるな。これはどついうお金ですか？

進：あ、いやそれは…。実は女将に弱みを握られて…。

目：弱み？

進：会社から横領おつりした金を、競馬につき込んでいた事を、会社には
らずと言われて、女将に揺ゆすられてたんだ。でも、俺はやってない
！本当に大通りのコンビニに行ってたんだ！

コ：…。

高：ところで篠原さん。

篠：は、はい。

高：この手帳には、所々篠原さんの名前と「アジ」とか「イカ」と
か書かれているのですが、これは？

篠：僕は魚市場でバイトしているので、時々注文を受けていたんです。その記録じゃないですか？

目：店を出ていた5分間は何をしていましたか？

篠：あ、持ち合わせが無かったので、近くのATMに下ろしに行きました。明細もあります。これです。

ナ：目暮警部に渡す。

目：うむ。時刻も間違いないな。

小五郎：店を出た後、表通りのほうに歩いて行きました。ATMはメイン通りの南側ですから、こっそり店に戻るのとは不可能ですね。

目：うむ、ATMの明細に不審な点はないし、犯行は不可能のようだな。

ファイル15-4（後書き）

場所の説明部分を大幅に変更しています。

ファイル15・5

ナ：コナンは店にこっそり入る。凜も着いて来る。

凜：ちょっと、勝手に入っていいの？

コ：仕方ないだろ、とりあえず静かにしてくれ。

凜：うん…。

ナ：コナンはカウンターの中へ入る。

コ：「確か、おっちゃんがみんなに奢^{おご}ってたとか言ってたな。」

ナ：コナンはいろいろ調べていく。

コ：「スタンドに立っている包丁はすべて和包丁。」ん？

凜：どうしたの？

コ：あ、何かこぼれてて…。

凜：え？

ナ：カウンターにこぼれてる液体をなめてみる。

コ：「これは、ジュースだな。女将は下戸^{げこ}って話だったな。」あ…。

ナ：コナンはカウンターのグラスを見つけた。

コ：「ブランデーグラス…。まだ使っていないな…。」ん…。

ナ：今度は棚の上に目をやる。

コ：「ブランデーのボトルが…。」あ…。

ナ：回転する椅子を見つけた。

コ：…。

凜：あれ、風が吹いてる…？

コ：あ！「分かったぞ、この事件のトリックが！」さて戻るか。

凜：え、戻るの？

コ：ああ、もう分かったからな。

凜：すごい…。

ファイル15 - 6

ナ：コナンと凜が出て来た。

小五郎：ZZZ…。

コ：「おいおい、捜査中に居眠りかよ。んじゃ、今のうちに小型ス
ピーカーを…」

蘭：二人とも！

コ・凜：あ！

蘭：勝手に動き回っちゃダメじゃない。

コ：あ、はい…。

凜：ごめんなさい。

高：目暮警部、扇さんの服からルミノール反応は出ませんでした。
それから大通りのコンビニも確認しましたが、確かに中村さんが来

たと証言しました。

ナ：コナンは麻醉銃を撃とうとしたが…。

小五郎：ZZZ…。

コ：「今日は必要ねえか。」

ナ：寝てたため使わなかった。

目：それではみなさん、署の方でもっと詳しく話を…。

コ（小五郎の声）：警部、その必要はありませんよ。私がこの場で事件を解決して見せます。

目：え、毛利君。犯人が分かったのかね？

コ：まな板の上に残されていたブランデーのグラスが、私に犯人を教えてくれました。

ナ：その時…。

小五郎：ん……。ブランデー？私にも一杯下さい！警部殿！

ナ：小五郎が起きてしまった。

目：え？

コ：「ヤベ、急に起きやがって……。」

ピシュ

ナ：急いで麻酔針を発射。

小五郎：ふにゃ……。

目：大丈夫かね？

コ：私は大丈夫。それより、店の上のカウンターを見て下さい。

目：ん？

コ：扇さんはワイン、中村さんは日本酒、私はビール、篠原さんはサワーを飲んでいました。そして、カウンターには女将が飲んでいたジュースとまだ使っていないブランデーグラスがあります。

目：それがどうかしたのかね？

コ：そのグラス、一体誰のために出したんでしょうね。店を出る前にブランデーを注文した人はいませんでした。

目：確かに妙だな…。

コ：棚の一番上を見て下さい。

目：高：ん？

コ：棚の上のブランデーが少し動かされていますね。おそらく犯人は店を出た後、外から店に電話をかけたんです。

そして、店の棚の上にある、高級ブランデーを注文した。私がその酒を奢るとか偽って。

背の低い女将がブランデーを取るには、棚と壁の間に体を密着させて、背伸びをしなければならぬ。犯人はそれを狙って壁の隙間に包丁を刺し込み、殺害した。

目：み、店の外から刺しただって！？

コ：店の横には人一人が入れる軒下があります。そして、板と塗炭の継ぎ接ぎには、細い隙間があります。

犯人は軒下から電話をかけ、女将を壁際におびき寄せ、隙間から包丁を刺しこんで殺害したのです。包丁はあらかじめ店から盗み出しておいたのでしょうか。

扇：せやけど、ウチらが店に入った時、女将はカウンターの正面を向いて倒れとつたで。

篠：そうですよ、店の壁から刺されたのなら、そんなふうに倒れないんじゃない。

コ：女将の椅子は狭いカウンターで動けるように、回転する椅子でした。皮肉な事に女将が刺された時、その椅子が回転し、正面を向いたのです。

篠：でも、包丁には柄がありますから、壁の隙間からは入らないんじゃない…。

目：うーむ。高木君、どうだ？

ナ：実際に高木刑事がやって見る。

高：はい、柄がつかえてしまいますね。

コ：包丁に柄が付いてなかったとしたら？

目：何だって！？

コ：洋食に使う包丁は、柄をビスで留めていますが、和包丁は柄に刃を刺し込んだだけ。簡単に抜けるんですよ。

ナ：実際にやると、包丁が抜けた。

高：あ！警部、毛利さんの言う通りです！

目：と言う事は…。

コ：犯人は私達に遺体を発見させ、自分は心配するふりをしてカウンターに入った。そして、刺した包丁の刀身に柄を戻して、女将を抱き起して見せた。

扇：え！？

進：まさか…。

扇：ホンマに…？

コ：そう。刺し込み式の包丁でそんなトリックが出来たのは、最初に駆け付けた、篠原さん！あなたしかいません！

篠：でも、僕はＡＴＭに行つてて…。

目：そうだ、彼にはアリバイがある。

コ：いいえ。店の裏から犯行を行うのなら、ＡＴＭは意外に近いんですよ。アリバイは成立しません。

進：料亭を目指していた篠原君なら…。

扇：和包丁の柄が抜ける事もよう知ってたやろうしね…。

篠：僕がやったという確かな証拠があるんですか？

コ：あなたが見せた明細が入った封筒、汚れが付いていますね。

篠：え？

ナ：明細に茶色の汚れが付いていた。

コ：それ、鉄さびですね。犯行時、おそらくあなたは柄のない包丁の刀身を、ハンカチで包んで握っていた。

そのため、塗炭の鉄さびがハンカチに付いてしまった。それに気づかすあなたはハンカチを封筒と同じポケットに入れてしまい、鉄さびが付着したんです。

塗炭と封筒の鉄さびを調べれば、間違いなく一致するでしょう。

篠：う…。

扇：けど、何でや？

進：女将は恩人じゃなかったのか？

篠：違う！あの女将が親切面して、バイトを紹介したのは、僕に市場から売り物を盗ませるためだったんだ！

扇：え！？

進：何だって！？

篠：最初は売れ残りを要求する程度だった。けど、だんだんエスカレートして、最近ではウニとかイクラとか、高級食材をしつこく！

もう限界だった！バイトをやめるって、あの女に言いに行ったら…。

・・・

三：やめたら市場に今までの事、全部話すよ。そうなりやアンタは窃盗で刑務所行きだ。

篠：だってあれは女将さんの指示で…。

三：あら？私に指示されたって証拠がどこにあるのさ。捕まるのはアンタだけ。まあどうせ、板前になんかなりやしないから、それもありかもね。

．．．．．

篠：板前になる夢はどうしても捨てられなかった、だから…。

ナ：しかしコナンは…。

コ：しかしあなたは板前の命でいる包丁を、殺人の道具に使った。

篠：！

コ：そんなあなたには板前になる資格は無いんじゃないですか？

篠…うあああ…。

ファイル15・6（後書き）

最初からこうすればよかったのですが、今回からコナンが変声機を使う時は

コ（ ）（ ）：といたします。

最初のみ

ファイル15 ラスト+重大発表（前書き）

謎の人物達の登場は無しの予定でしたが、少し変更します。そして、今回重大発表が…。

ファイル15 ラスト+重大発表

エンディング 「Your Best Friend」

エピソード

小五郎：あゝ。あれ？

ナ：小五郎が目覚めます。すると、馬券が落ちた。

蘭：そう言えば、お父さん、大穴開けたとか言っていなかった？

コ：あれ、これみんな百円馬券だね。

蘭：ム…。

小五郎：大穴開けても、百円馬券じゃ大した儲けじゃないのに、みえ張って財布に大穴開けちゃった。

ナ：小五郎逃亡。

蘭：え！？

小五郎：許してゝ。

蘭：許しません！待てゝ！

コ：「上手く逃げられるかな？」

凜：ハハハ…。

ナ：その頃別の場所、誰も知らない所…。

謎：さて、本格的に準備を始めなくてはな。

？：…そうですか。まず、何から？

謎：…これだ。

ナ：謎の人物の移す画面に何かが映った。

？：これは何ですか？

謎：これはとある場所にある、様々な世界のブログだ。ここにちょっとハッキングさせてもらう。

？：何と、いきなり執念深いですね…。

謎：まあいい、早速始めるか…。

ナ：一体何が起こったのか、それはまだ分からない…。

ファイル15 完

作：さて、今回でファイル15はおしまいです。そして、ついに新作を発表する事になりました！

名付けて、「名探偵コナン・ブログが語る過去と未来」です！

ケ：こりや何や？

作：謎の人物達がハッキングしたブログ、それが語るこれからの事態、そしてこれまでの出来事を伝えるこの小説の番外編です。

ケ：チョイ待ち、そりやどない意味や！？

作：ここで説明するより見た方がいいですよ。見ておいた方がこれからの事が分かるかもしれないしね…。じゃあ番外編共々、名探偵コナンをよろしく願います！

ケ：何やねん！

ファイル15 ラスト+重大発表（後書き）

明日より、掲載を開始したいと思います。お楽しみに！
なお今回の作品はアニメオリジナルストーリー・634話「犯行現場は激セマ店」でした。

ファイル16・1（前書き）

今回のファイルはちょっといつもと違います。そしてあのキャラも再登場！

ファイル16-1

オープニング「Misty Mystery」

コ：ZZZ…。

凜：ええっと、これだっけ…。

ナ：凜が珍しくコナンより早起きだ。

ケ：明日は雨やな。

凜：ケロちゃん！

コ：ん…。

凜：あ！

コ：ZZZZ…。

凜…ふう…。

ケ…さくら、そりゃ…。

凜…今日はちょっと、ね…。

ナ…凜が持っていたのはあのコナンの水晶だった。

凜…これを新一君の額につけて…。

パ
ア
ア

ロ…スースー…。

凜…本当になった…。

ナ…コナンがロイになった。寝息も女の感じだ。

ケ…何する気や？

凜：えへへ。

ナ：ちよつと後。

ロ：ふああ……。ん……。わああああ！

凜：あ！

ロ：ちよつと、凜！

凜：ごめんね。

ロ：ごめんねじゃないわよ！なんでこんな事を！

凜：今日は休みだし、二人でどこか行こうよ！

ロ：え？

凜：でも、コナン君のままじゃなかなか楽しめないから、ロイちゃん
の格好で行けば楽しめるかなって。

口：あ…。

ナ：そんな言葉に思わずびっくりする、ロイだった。この時、蘭は部活、小五郎は浮気調査を泊りがけでやっていて、他に誰もいなかったことが救いだっただ。

ただ、このお出かけがただで済むとは思えない…。

ファイル16-2

ナ：電車の中にて。

ロ：はあ…。

凜：あれ、どうしたの？

ロ：今日のはんびりしたかったなあって…。

凜：え…。

ロ：あ、でも、別にこれが嫌って訳じゃ無いから…。

凜：そう…。

ロ：ホッ…。

ケ：っしかしさくら、なんでロイを誘ってどこかへ出かけるんや？

凜：ほら、最近事件ばかりだったじゃない。たまには事件から離れてゆつくりしたいなあつて。

口：あ…。

ナ：確かにここ最近凜の周りでは事件だらけ。その多くが殺人事件。ロイもといコナンにとってはこれはもはやこれは当たり前になってしまったが、幼い少女には痛かったのだ。

凜：やっぱり駄目だったかな？

口：…いや。

凜：え？

口：そう言うのが凜らしいよ。

凜：え？

口：だって私にもわかるよ、さくらが元は元気だったって事が。カードに関する事件ではいろいろ頑張ってたじゃん。

凜：ロイちゃん…。

ケ：「なかなかいい雰囲気やないかい。」

ロ：あれ、そう言えばこの電車どこ行くの？

凜：行ってみてから。

ロ：「じらすのね。」

ファイル16・2（後書き）

ご報告が遅くなりましたがこの小説の番外編、「名探偵コナン・ブ
ログがあ語る過去と未来」を始めました。こちらもよろしくお願
いします！

ファイル16-3

ナ：たどり着いたのは、米花デパートだった。

口：ここかあ…。

凜：やっぱり、いきなりどこか行こうって思ってもなかなかいい場所が浮かばなくて…。

口：別に気にしないよ。

凜：そうだよね。楽しめればいいよね！

口：よしじゃあ行こう！

ナ：でもわずか数分後…。

口：…。

凜：ねえ。

口：？

凜：飽きたりしない？

口：いや。

ケ：「入って早々推理小説やと…？」

ナ：ロイはいきなり本屋で推理小説を呼んでいる。

凜：読んでないで、ここ行こうよ。

口：えっ！？きゃっ！

ナ：やっぱり楽しみたい、そんな気持ちの凜はロイを無理やり連れて…。

ロ：いや、これは…。

凜：似合ってると思うけどな…。

ケ：「さくらが服選んどる…。」

ロ：やっぱり戻っていい？

凜：ダメだよ！せっかく来たんだもん！

ロ：「勘弁して〜。」

ナ：ロイは心の気持ちだけ言えなかった。いくら体や口調が女になっても心は女になれなかった。

凜：これにしよう！

ロ：／／／。

ケ：「顔赤いで…。」

ナ：ロイは凜が選んだ服を着た。心の中は恥ずかしさでいっぱいだった。

でも…。

ロ：「やっぱり恥ずかしい…。でも、私の事考えたんだよね…。」
ありがとう…。

凜：えへへ…。

ファイル16-3（後書き）

米花デパート…名探偵コナンの原作に出てきたデパート。

28巻File11、29巻File2、DVD・PART9-1
に登場。

番外編もよろしく願います。

ファイル16-4

ナ：今度はレストランにて。

凜：コーヒーなんだ…。

口：え、いけないかな？

凜：いや、そうじゃないけど。やっぱりちゃんと注文しようよ。

口：うん…。

凜：私はショートケーキにするけど…。

口：…。

凜：？

口：「どつする？ここはやっぱり凜の事を思って女の子が食べるものを注文する？でもなあ…。」

凜：あのさ…。

口：！？

凜：無理しなくていいよ。

口：え？

凜：これは楽しむためにあるんだよ。たとえロイちゃんになっても、コナン君の時のようにしていた方が楽しいでしょ。

口：…。

ナ：今のロイの頭の中には「まさかそんな言葉が来るなんて…。」
と言っのが届いている。

凜：だから、ね？

口：うん…。

ナ：…んで…。

凜：え、そうなの！？

ロ：せっかく来たんだもん、たまにはこんなものもいいなって！

ケ：ワイも…。

ロ：ダメ。

ケ：…！？

ナ：ロイが頼んだのはまさかのパフェ。少年探偵団達となら気軽に食べられていたが、一人で食べるのは恥ずかしかったようだ。でも、女なら問題無いと言う気持ちがあったのだろう。

その頃別の場所で…。

謎：クッククック…。
お楽しみのところ悪いな…。

ファイル16-4（後書き）

まさかの展開！（いや、予想出来た？）

ファイル16-5

ナ：その後二人は…。

ロ：たまにはこういうのも悪くなかったね。

凜：うん！

ナ：ふと、ロイはこんな事を思う。

ロ：「凜…。やっぱり、辛いのかな。さくらカードを生み出したり、小さくされちゃったり、いろんな事件につき合わされたり、だからここで私と楽しみたかった。そう。事件から離れて…。

だって、そうじゃない？凜だけじゃない。あなたの親友もやられて
いるし、私もこんな状態（簡単に戻れるけど）。カード達も犠牲に
されちゃったし…。」

ナ：そんな事を思っていたロイ。その時だった！

謎：クツクツクツ…。あいにく悪いが…。

闇のシルクハット！

凜：！？気配！

口：え。

ケ：こんな時にか！？なんちゅう奴や！

凜：…。

客：うわーっ！

凜：口・ケ：！

ナ：客の一人が驚いた。その先の店では…。

客：火事だー！

客：逃げろー！

客：助けてくれー！

館内アナウンス：5階フロアで火災が発生しました。5階フロアで火災が発生しました。煙を吸わないようにして、急いで避難して下さい。

繰り返します。5階フロアで火災が発生しました…

凜：これっでもしかして！

ケ：「火」^{ファイアリー}のカードや！

口：とにかく何とかしないと！

凜：うん！星の力を秘めし鍵よ、真の力を我の前に示せ。契約の元、さくらが命じる。封印^{リリース}解除！

口：「…。凜、辛いかな…？」

ファイル16・5（後書き）

痛い展開になってしまいました…。さて、どうなる！？

ファイル16-6

ナ：「火」^{ファイアー}は周りに炎をまき散らしている。客達はただ避難するだけ。

凜：何とかしないと…。

ロ：一刻も早く…。

ナ：まず火は凜達の周りを炎で囲んだ。

凜：まずは…。「翔」^{フライ}、「盾」^{シールド}！

ナ：凜は炎の中から出る。ロイは盾で守られる。

凜：そのまま、「浮」^{フロート}！

ナ：うまい具合にロイを盾の中に入れたままそつと動く。

凜：これで大丈夫。次は…。

ケ：さくら！あの方法でまた捕まえるで！

凜：うん！せっかくの楽しみを台無しにされたんだもん！謎の人物は絶対に許さない！

ナ：使ったカードは…。

凜：「ウォーター水」、「ウィンディ風」！

ナ：水と風は火を包み込む。↑以前にやった方法。

謎：そうはいくか、ハッ！

ケ：…！

凜：あ！

ナ：何と言う事だろう、火は水と風を振りほどいた！さらに2枚のカードを攻撃して、以前とは逆の立場だ！

凜：そんな！

ケ：アカン！やっぱり謎の人物に操られとるけん、簡単にはいけへん！

ナ：その頃凜達をそつと見ていたロイは…。

ロ：「あれは、火で、凜が使ったのは水と風。二つの能力を重ね合わせれば出来るはずが謎の人物のせいで出来ない。」

どうしよう？」

ナ：ロイは黙って考え込む。するとロイの前の何かが目に入る。

ロ：あ。「もしかしたら…。」

ナ：ロイは出て来た。

凜：ロイちゃん！？

ロ：凜、もう一回今の方法出来る？

凜…え、でも、また失敗して…。

口…いいから、もう一回やって見て！

凜…う、うん！

ファイル16・7（前書き）

お知らせ・先程書いた番外編でも言いましたが、明日からもうすぐ
期末テストと言う事で、いったん休止いたします。次回は12月5
日から6日頃を予定しています。

あと今回と次で急ぎ足で完結させます。ごめんなさい。

ファイル16-7

凜：じゃあ、行くよ！

ナ：凜はもう一回、ウィンデザーティ風と水を使った。そして、ファイアリー火を包み込む。

だが、やはり火は振りほどこうとする。

凜：「一体何を考えって…。」あっ！

ロ：準備はこれで…。

ナ：ロイが何かを持って来た。

ケ：何や！消火器やないか！

凜：それじゃ勝てないと思うけど…。

ロ：いいからいいから。とにかくもうちょっと頑張って！

凜：う、うん！

ナ：とにかくさっきの様にはいかせないと、凜は必死に頑張る。口
イが何をしようとしているのか、それも気にしながら。

謎：ずいぶん悪あがきだな…。ところでロイは…。！

ナ：謎の人物は何か気付く。そして…。

ロ：出来た！凜、そのまま火を抑えといて！

凜：うん、でも何を…。

ケ：なんもさつきと変わってへんで。

ロ：それが違うのよ。じゃあ…。

ナ：ロイはキック力増強シューズを使った。

ロ：それっ！

凜：ほえ！？

ナ：消火器はいろんな所にぶつかっている。しかし、ただぶつかっている訳では無い。

ケ：！印が付いとる！

ナ：ロイが蹴った所には印が付いていた。消火器はその印にちゃんと付いていく。

さらによく見ると、消火器の威力がどんどん増している。

凜：こっちに近づいてくる！

ロ：凜…。よけて…。

凜：あ、うん！「あれ、今、ロイちゃんの声、弱々しかった様な…」

ナ：凜は消火器をよけた。そして…。

凜：あ！

ガン！

ケ：火にぶつかったで！

ナ：火はその衝撃で倒れ込む。さらに…。

凜：あ、消火器から水が！

ナ：消火器の水は火を襲う。ぶつかった衝撃と二度も風と水にやられ、かなり弱っていた。その為、消火器でも十分効果があった。

謎：チツ…。もう火は戻れ！

ナ：謎の人物がそんな掛け声をあげていたとは知らず、火はカードに戻っていった。

凜：やった！ロイちゃん、ってあ！

ガシャン！

凜：ほえ？

ケ：「隠れるで…。」

ナ：消防隊員が駆け付けた。

消防隊員A：あ、子供が二人いるぞ！

消防隊員B：本当だ！大丈夫かい？

凜：はい、でも…。

消防隊員A：ん…？

エンディング「Your Best Friend」

ファイル16 ラスト（前書き）

間違えて番外編の方に一回書いてしまいました。すいませんでした！

ファイル16 ラスト

謎：所詮、こんな物だったか…。

？：と申しますと？

謎：火は四大元素のカードなんだ。ファイアーさくらカードの中でもかなり強い。今回さくらが使った、ウインデッドオーティ風や水も同じ仲間だ…。

？：はあ…。

謎：しかし、さすがに2枚同時じゃ、私の力でパワーアップさせても、勝てないか。まあいい。こんなの序の口だ。

？：もしかして、あのブログの事ですか？

謎：そうだ。しばらくはあっちに手をやるか。まだやる事もあるしな…。

？：かしこまりました。

ナ：その頃、凜達は…。

口：イタタ…。

凜：気をつけてね。足つばを刺激して足を痛めちゃうなんて…。

口：コナンの時は大丈夫だったから油断してた…。

ケ：まさか、女体化したことで足ツボの位置が変わってたとはのう…。

口：はあ…。

凜：やっぱりなかなか休めないね…。

ロ：あれ、蘭？

凜：ホントだ。

ロ：見つかったたらヤバいからそろそろコナンに戻るよ。

凜：うん。

ナ：と言う訳で、ロイは急いでコナンに戻り、蘭に話しかけた。

コ：蘭姉ちゃん！

蘭：あ、コナン君、凜ちゃん。

コ：どうしたの、部活の帰りに。

蘭：夕飯の買い物よ。それに福引。

凜：福引？

蘭：ほら、あそこに福引があるでしょ。

ナ：んで…。

凜：すごい…。

コ：また当てちゃった…。

蘭：やっぱり私、すごいわね。

ファイル16 完

ファイル16 ラスト（後書き）

だいぶ後になります、次回はあの話です。そして、みなさん、お騒がせしてしまいました！とりあえず訂正します…。

ファイル17-1（前書き）

久々に復活です！なお、しばらくアニメオリジナルストーリーが続くため、一部伝えにくい所が出ると思います。ご了承ください。

ファイル17-1

里山 月子（以後・このファイル中のみ・里）…太陽は偉大。体いっぱいにそのエナジーを取り込みましょう。

蘭・園子…ぐぐぐ…。

出川 アツ子（以後・このファイル中のみ・出）…うぐぐ…。うわっ！

里：そんなに固くならず、心も体も解放してあげましょう。ねえ、コナン君。

コ：あ、はい…。

凜：「無理…。」

コ：「なんで俺や凜までヨガダイエット…？」

オープニング「Misty Mystery」

ナ：説明すると、ここはヨガダイエツト合宿所『チャンダー』である。

園子：さすが蘭よね。有名人御用達のヨガスタジオの招待券を当てちやうなんて。

前回当てたもの。

蘭：えへへ…。

コ：「だからって、俺達まで連れて来る事はねえだろ。」

凜：……。
↑早くもダウン。

園子：よし！一泊二日でナイスバディになってやる！

里：あまり急に無理をしちゃいけませんよ。体を壊しては元もこもありませんからね。

園子：はい、へへへ…。

ナ：園子はその後、里子の傍にいる、犬をかわいがった。名前はクッキーだ。

本来なら凜も可愛がりそうだが、今は気絶中。

蘭：それにしても、素敵なヨガスタジオですね。あの、「チャンドニ」ってどういう意味なんですか？

里：インドの言葉で「月の光」と言う言葉なんですよ。

ケ：「月^{ユヘ}が頭^{カミ}に過^スるで。」

注・無関係です。

蘭：月子さんの名前と同じですね。

里：ええ。自然のエネルギーを取り込み、心身ともに健康にと、以前同じようにヨガ合宿所をやっていた両親につけてもらいました。

そのコンセプトが皆さんのご支援をいただき、ここまで。本当に皆さんに感謝しています。

飯盛 薫（いもり かおる）（以後・このファイル中のみ・薫）：あら、うちは料理も評判ですからね。低カロリーだけど、豊富なメニュー。

野菜はすべてオーガニックの自家栽培。何より味がいいですから。

ナ：しかし…。

出：あらそうだったかしら？シェフと同じで見栄張ったまずい料理だったけど？

薫：な、何を！

ファイル17-1（後書き）

事件関係者解説1

里山 月子（女性・34）合宿所オーナー兼インストラクター

クッキー（・・・）合宿所のアイドル犬

出川 アツ子（女性・26）ダイエット合宿参加者

飯盛 薫（女性・29）シェフ

ファイル17-2（前書き）

今回の話、険悪な雰囲気になりかねませんが我慢して下さい。

ファイル17-2

ナ：ふと、出川が薫の運んでいたお茶を飲むが…。

出：アチツ！何よこれ、舌が火傷したじゃない！こんな事して、また以前のレストランみたいにクビになりたいの？

園子：ク、クビ？

薫：ハーブティは日本茶と違って、お湯で入れるものですから。

出：だったら先に言いなさいよ。私ここでいっぱい酷い目にあっただってブログで書き込みしてやるわ。

そんな事になったらこの評判、ガタ落ちよね。

薫：それは…。

出：フン！

猪俣 保子（以後・このファイル中のみ・保）：アツ子さん、何も

そこまでしなくても…。

出：従業員の娘が私に口出しする気？

保：…。

出：そうだ、アンタ土下座しなさいよ。そしたら、許してあげてもいいわよ。

ナ：と里山に言う。

薫：な、何を！

ナ：しかし…。

里：誠に申し訳ございませんでした。

出：里以外…！

ナ：素直に土下座した。

出：ハハハハハ！言っておくけど、これはクレームじゃなくて正当な意見よ。

ナ：気が晴れたのか、出川はベランダへ。

里：どんな事があっても、お客様が心地よく過ごせるようにする事を考えましょう。

園：あ、もしかして出川コンテントの社長の娘？手の付けられないクレマーって聞いた事があるわ。

ピリリリリ…。

出：もしもし、ちゃんと終わった？何ですって！？

裁判に負けた！？何やってんの！

この私の裁判に勝てなくてどうするのよ！え、この件はもう降りた
い？

いいわ、アンタこれから普通に弁護士出来ると思わないでね。覚え

てらっしやい！フン！

ナ：部屋の中へ戻ってくる。

クッキー：ワンワン！

出：このバカ犬、金輪際こんりんざい私に近づけないで！

ナ：イラついたアツ子は自分の部屋に戻った。

ファイル17-2（後書き）

事件関係者解説2

猪俣 保子（女性・26）出川の友人。

ファイル17-3

コ：アツ子さん、裁判で訴えられてるの？

保：ええ、実は他にもたくさん…。

里：きつと、内心はともつらいのでしょう。今はそつとしてあげましょう。

保：はい…。

ナ：数時間後。キッチンにて。

園子：うわーっ、美味しそう！

蘭：ホント！

薫：さあ、わがチャンダ二名物のビュッフェです。好きな物をどうぞ。

蘭・園子：はい。

里：ただし、各自決められた摂取カロリーは守って下さいね。あと、お食事は自分の部屋でお願いします。

他の方のお食事と比べて、不満でストレスを溜めると、心にも体にも悪いですから。

ナ：すると…。

出：このラップ切れてたわよ！

里：あっ！

ナ：出川が戻って来た。イラついていたため空のラップ箱を投げつけた。

出：すぐに新しいのと取り換えなさい！

里：申し訳ありません。

園子：相変わらず、感じ悪いわね。

蘭：無理に見栄を張ってるのかもしれないよ。

凜：えっと、あの人は…。↑やつと復活。

コ：まあいろいろあってな。後で話す。

園子：まあいいけどね。さてと、私は600キロカロリーまでだから、「月下美人の浅漬け」か…。

あ、これいい匂い。

ナ：隣の「根菜のハーブ煮」を見た。

園子：これにしよう。

蘭：私もそれにしよう。

出…。

ナ：出川も同じのを手に取るが、蘭のに目をやり…。

蘭：あ、ちょっと…！

ナ：自分のと取り換えた。

出：こっちの方が量が多いから私がもらっわ。

薫：どれも量は同じですよ。

出：だったら取り替えたって問題ないでしょ。

薫：…。

里：お待たせしました。

ナ：ラップのラベルをはがして出川に渡した。

出：私のカロリーだと一品くらいしか食べられないじゃない！

里：でもせっかくダイエットでいらしたんですから。あら、雲が晴れて月が。

月は浄化と言って強いパワーを持っていると言われてるんですよ。美容にもいいですし、是非今ヨガを試してみませんか？

出：私は嫌よ。冷めた物なんか食べたくないわ。

里：まあ、そう言わずに。お食事は冷めても部屋でレンジで温められますし、それにやったら、ご褒美にこの苺を食べてもいいですよ。

出：それならやってもいいけど…。

里：それではみなさん、お食事を部屋に置いたら、すぐに外に来てくださいね。

ケ：さくら、やって苺ゲットや。

凜：えっ…。「またやらなきゃいけないの…。」

ファイル17-4

ナ：コナン達が靴を履いていると…。

蘭：あれ、お出かけですか？

薫：ええ。明日の野菜を取りにちよつと畑へ。

ナ：で、ヨガダイエットでは。

里：さあ、月の光を浴びて、みなさん清々しい気持ちになりましよう。

出：ぐっ…。あっ！

ナ：こけた。

保：アツ子さん。

出：…こんなの出来る訳無いじゃない！あーやめたやめた！

ナ：出川は戻って行った。それをすぐに追った。

出川の部屋

保：アツ子さん、アツ子さん。

出：何ようるさいわね、みんなして。

チーン↑電子レンジの音

出：これから食事なのよ、邪魔しないでちょうだい。あ、そうだ。

これ汗かいたから、洗濯しといてね。

保：わっ！

ナ：入れ物ごと投げられた。

蘭：保子さん、大丈夫ですか？

保：いいんです、私の事は…。

ナ：一人ランドリーへ向かって行っただ。他は下へ降りた。

薫：あれ、皆さん、どうされたんですか？

ナ：薫が戻って来た。

里：いや、大したことでは。さあ、保子さんも呼んでヨガの続きをしましょう。

コ：「何だあれ…。」

ナ：薫の服の方に黄色いしみを見つけた。

蘭：保子さん…。

ナ：ランドリーにいた保子だったが、アツ子の服を踏みつけていたのだ。

蘭・園子：ありがとうございます。

蘭：アツ子さんも保子さんも結局来なかったね。

凜：〜〜〜

ケ：「やれやれや…。」

コ：「お前がそうしたんだろ。」

蘭：あ、保子さん。

里：どうかされましたか？

保：今、アツ子さんの部屋へ様子を見に行っただんですが、鍵もかか
ったままで、返事も無いんです。

里：まあ、それは心配ね。ちょっと様子を見て来ますから、皆さん
は食堂でお茶でもどうぞ。

蘭・園子：はい。

ナ：里山はクッキーを連れてアツ子の部屋へ。スペアキーを持って。

里：きゃあああ！

ナ：里山の悲鳴を聞きコナン達も向う。

クッキー：ワンワン！

ナ：やけにクッキーが暴れて部屋を出て行った。コナン達はすれ違った。

コ：「これは…！」

保：いやあああ！

薫：どうしたの、！

ナ：そこには出川が倒れ込んでいたのだ…。

ファイル17-5（前書き）

昨日は予告も無しに掲載を休んでしまいました！特に深い理由はありません…。今日はちゃんと書きます。

あと一つ相談があります。

ケルベロスの大阪弁が変と言うコメントがいくつかあります。自分ではどう改善すればいいかわかりません。アドバースを誰でもいいのでお願いします…。

ファイル17-5

ナ：警察が到着。

千葉：被害者は出川アツ子さん、26歳。死因はこの煮物に入っていた青酸系の毒物です。

テーブルの上の小瓶も同じ毒物だそうです。

目：死亡推定時刻は？

千葉：午後6時30分から7時30分、出川さんがヨガから帰って発見されるまでの30分の間です。

保：アツ子さん、ううっ…。

ナ：保子は泣いている。

目：遺体発見時、ドアは内側から鍵がかかっていたんですね。

里：はい。

コ：間違いないよ。

凜：うん。

千葉：部屋の鍵はポケットの内側に入っていました。合鍵は暗証番号式の箱の中にあり、里山さんが鍵を取り出してここに。

里：ええ。

目：自殺か…。

保：アツ子さん、裁判に負けた事がきつとショックだったんです。だからこんな…。

目：ん、裁判とはなんですか？

薫：名うてのクレーマーだったのよ、彼女。

目：クレーマー？

園子：それを逆に訴えられて、いくつもの訴訟そしやうを抱えていたんです。

保：昼間、弁護士さんから電話がかかって来て、裁判に負けたみたいで…。

里：昼間はずっと部屋にこもって、きつと落ち込んでいらしたんじゃないかと…。

目：うむ、裁判に負けた苦で自殺と言う事が…。

コ：あれれ？この苺、練乳がかかってるよ。

薫：本当だ、勝手に持ち込んだのね。

コ：せっかくのデザート食べ忘れちゃうなんて、ちょっと変じゃない？

千葉：コナン君、自殺を前に目の前にした人は冷静じゃないからね、そう言う事もあるんだよ。

ケ：「ほんま、もったいないで…。」↑（コラ）

保：アツ子さん、大勢の人から訴えられて、恨まれて、それを苦に
して…。あつ！

ナ：保子が何かを思し出した。

ファイル17-5（後書き）

今回もケルベロスが変と感じた人はコメントを送って下さい。改善
しなくてはいいけませんので…。すみません。

ファイル17-6

保：そう言えば、薫さん、あなたも確かアツ子さんのクレームのせいでレストランをクビにさせられたって…。

薫…！

目：飯盛さん、それは本当ですか？

薫：そうだけど…。だからって私は毒なんか入れてないわよ！第一、食事はセルフサービスだし、数種類ある料理の中から、アイツがどれを取るかなんて分かる訳無いじゃないの！

園子：確かに。それにあの人、蘭の小鉢を横取りしたんのよね。

目：では、出川さんが食事を部屋に置いてからは何を？

薫：10分ほど歩いて畑へ。明日の朝使う野菜を取りに行ってたわ。

その後はずっと明日の料理の仕込みをしてたわよ。

蘭：間違いありません。外からずっとキッチンで仕事をしているのが見えました。

薫：ほら見なさい、私じゃないわ。

千葉：畑へ行つたと見せかけて、実はこっそり戻って、毒を盛つたとも…。確かあなたも、保管庫から鍵を取り出せましたよね。

薫：何を！

保：薫さん、あなたまさか…。

薫：あなたこそ友達ぶってるけど、本当はアイツの事恨んでたんじゃないの？

保：えっ！？

薫：私達みたのよ、あなたがアイツのウェアをランドリー室で踏みつけているところ。

保：！

目：それは本当かね？

蘭・園子：ええ…。

保：私だって、皆さんとヨガをしてたじゃないですか！中断した後はずっとランドリー室に居ましたし…。

薫：でも皆さんがランドリー室に戻った後、あなたはこっそりアイツの部屋に行く事は出来たわよね。そこで毒を…。

保：私はやってません！

目：ところで里山さん、あなたは？

里：私は皆さんとヨガを。

園子：ずっと一緒でした。

目：ウム…。

ファイル17-6（後書き）

大阪弁のアドバイス、まだまだお待ちしてます。よろしく願います。

このままだとケルベロスだけでなく、平次達をこれから登場させる事も出来ませんので…。

ファイル17-7

クッキー：ワンワンワン！

コ：？

凜：ほえ？

ナ：事件が始まってからクッキーがやけに暴れている。

里：ごめんなさい、すぐ捕まえます。コラ、クッキー待ちなさい！

ナ：途中棚を押し倒した。そして、廊下の先でやっと捕まえた。

里：よしよし、おとなしくしててね…。

園子：よっぽど怖かったのね。

蘭：うん。あ、これ片付けますね。

コ：「片づける…？あっ！」

ナ：コナンは部屋の中へ。すると、ゴミ箱の中を探った。

コ：「無い…。ここにあるべきアレが…！」

クッキー：ワンワン！

里：はいはい、おとなしくしてね…。

コ：「そうか、分かったぞ、この事件の真相が！」

目：それじゃあ、皆さん署の方で詳しい話を…。

蘭・園子：はい。

ナ：コナンはドアの裏に隠れて園子に向かって麻醉銃を撃った。

園子：ふにゃ…。

蘭：園子！まさか…。

コ（園子の声）：あゝあ、まどろっこしくて眠くなっちゃったわよ。

目：な、何を…。

コ：睡眠不足は美容の敵なんだから、この場で私が解決しちゃうわ。

目：何だって！

凜：「男の子が美容を気にするの？」↑あくまで誤魔化す為と気付いてない。

コ：まず薫さん、あなたは気付いてないようだけど、その肩の黄色い汚れ…。

薫：え？

ナ：やっと気づいた。

コ：それって「月下美人」の花粉よね。月下美人は夜につぼみが開

き満開になり、一晩でその短い命を終えてしまう花。

そしてその花弁は食材にもなる。今夜のメニューには「月下美人の浅漬け」があったでしょ。

あなたは確かに月下美人の花を求め、畑に行っていたのね。出て行く時には無かった黄色い粉が戻って行く時に服に付いていたのをコナン君が確かに見ていたそうよ。

コ（コナンの声）：うん、僕覚えてるよ。

薫：ふう…。

コ（再び園子の声）：そして保子さん。

保：…！

コ：あなたも犯人じゃない。仮に保子さんがアツ子さんの部屋に行き、毒を入れたとしても外から鍵をかけるのは不可能よね。

だって鍵は保管庫とアツ子さんのポケットの中なんだから。

目：だとすると、結局自殺だったと言っ事か…。

里：亡くなった方はもうそつとしてあげませんか。ほら、月がきれいですよ。

まるで死者をともらつように…。

コ：いいえ。

里：？

コ：月は死者をともらつ為でなく、真実を明らかにするためにあるんです。

月子さん、あなたがアツ子さんを殺害した犯人だと言っ真実をね！

他
：

ファイル17 - 8

里：園子さん、何を…。

コ（引き続き園子の声）：月子さん、あなたがわざわざ母で釣ってまでアツ子さんを月夜のヨガに連れだしたのは、食事を一度部屋に置かせる必要だったから。

里：食事を部屋に置かせても、私には毒を入れる時間なんてありませんよ…。

コ：そんなの関係ないわ。だって毒はアツ子さんのある行動で自然と食事に混入されたんだから。

目：…どういう事かね？

コ：蘭、思い出してみて。私達が心配して彼女の部屋に行った時、彼女が何をしていたかを。

蘭：確か、電子レンジの「チン」って音がしたから、多分食事を温めていたと思うけど。

コ：そう、だからあの時彼女は小鉢をラップで覆ったはずなのよ。
でもおかしいのよね、使用済みのラップがどこにも捨てられてない
のよ。

千葉：確かにありませんね、でもそれが一体…？

コ：皆さんも経験があるでしょ。ラップをかけてチンすると、蒸気
がたっぷり滴しずくとなって付き、料理の中に滴したたり落ちる。

もしそのラップに毒が塗られていたとしたら…？

目：そ、そうか！

コ：月子さん、あなたは予めある程度あらかじめの長さのラップに毒を塗って
おき、それを乾かしてまた元のように巻き戻した。

後はアツ子さんがどんな料理を取ろうが、レンジでチンする状況を
作れば毒殺できる。

里：面白い推理ですが、私、皆さんの前で新品のラップを渡しまし
たよね。どうやってラップに毒を？

コ：それもあなたの計画なのよ。

里：！

コ：私達の前で新品のラップを交換したように見せつけたかったから。

里：私は封を切ってお渡ししたんですよ、何の細工も出来ません！

コ：ラップの箱なんて、横の組み立てを剥がせば、封を切らずに簡単に芯を出せるわ。

千葉：あ。

目：なるほど…。

コ：どう？月夜のヨガも、ラップの交換も綿密に練られたあなたの計画だったのよ。

里：私がやったと言う証拠はあるの？第一、そんなラップ、どこにも無いじゃない！

コ：そりゃそうよ、あなたがある所に隠しちゃったんだから。

千葉：え？

目：一体どこに？

ナ：ここから最後の追い詰めが始まる。

コ：月子さん、あなたは何故、金輪際近づけないでと言われたクッキーを連れて、この部屋に来たの？

里：そ、それは…。

ケ：「あせつとる…。」

コ：それは、毒が付いた使用済みラップを回収し、クッキーの服のポケットに隠すため。千葉刑事、クッキーの服のポケットを確認して。

千葉：ああ…。

ナ：そして調べると…。

千葉：あ、ありました！

里：…。

ナ：もう諦めがついたようだ。

コ：あなたはアツ子さんの様子を見ると偽って、この部屋へ来ると、素早く毒の小瓶の置き、使用済みラップをクッキーの服のポケットの中に入れ、隠した。

でも、嗅覚の鋭い犬には、服の中に入っても毒の臭いには耐えがたい。興奮したクッキーが逃げ回ってしまい、あなたはラップを処分するチャンスを失ってしまった。

ナ：クッキーは毒の臭いから解放されて、落ち着いた。そして…。

里：そうです、私が犯人です…。

蘭：月子さん、どうして…。

里：3年前、両親がやっていた合宿所は、あの女のクレームでつぶされたのよ。おかげで多額の借金ができ、両親は自殺しました…。

薫：そんな…。

里：両親が亡くなってからの3年間、私は血の滲む^{にじ}様な苦勞をして、このチャンダニを築き上げた。1週間前、あの女から予約の電話が入ったわ。

アイツは、私の事を思い出しもなかった…。そして言ったのよ！

．．．．．

出：有名人の客が増えてるって噂だけど、この私を満足させられなければ潰しちゃうからね。フッフッフ…。

．．．．．

里：許せなかった！あんな女に、このチャンダニは好きにさせない！

だから塞いでやったの…。クレームしか生まないあの口を、永遠に…。

エンディング 「Your Best Friend」

ファイル17-8（後書き）

今日は余裕があるから、もう一本書きます。次の方は結構重大かも
しれません。

ファイル17 ラスト

エピソード

ナ：数日後。

園子：おいしー！さすが蘭、今度はスイーツ食べ放題を当てちゃうなんて！

蘭：よく運動して、食べる事も楽しむ。両方大切よね！

園子：そうよね！

コ：「でっかいリバウンドしても知らねえぞ…。」

ケ：「食うでー！」

凜：「はあ…。」

ナ：いつもならここで終わりだが…。今回は違う。

謎のリポーター：イヒヒヒヒ、早くもまたお会いしましたね。（
謎のリポーターです…。

コナン君達は呑気^{のんき}にケーキなんか食べて楽しそうですね、もうすぐ
何かが動きそうな予感がするの…。

謎：…。

？：×××様、何をしていますか？

謎：証拠処分だ。

？：証拠処分？

謎のリポーター：おっとそうでした、今回ワタクシは三たびここに

来ているんです…。しかし証拠とは、何の証拠でしょうか？

謎：最近証拠を出してもその後が大変だ。その人達がみな殺されている。

？…えっ？

謎：たとえばこの間、居酒屋の女将を仕留めようと様々な証拠を集めたが、殺人事件が起きてしまった。あの女将は相当恨みを持つ人が多かったようだ。

？…はあ…。

謎：数日前もだ。クレマーを裁判で負かしたがその数時間後に殺されてしまった。奴が小さくなる前はうまくいていたのにな…。

？…小さくなる前？何の事でしょうか…。

謎：以前にとある女優が芸能界を永久追放させたことがあっただろう。あの女優と関わったのが工藤新一…。

？…それが何か…？

謎：お前に入ってなかったか。江戸川コナンと工藤新一は同一人物だ。

？：な、何と…！

謎のリポーター：どうやら、とんでもない情報をたくさん掴んでしまったようです…。さて今回はここらへんでお暇いとましようか、まだあそこの事件も動きそうですし、それではまた、謎のリポーターでした…。

ファイル17 完

ファイル17 ラスト（後書き）

この小説の番外編「名探偵コナン・ブログが語る過去と未来」に
つい最近登場しました。こっちも大事なのでぜひ見ておいて下さい。
11と18と19は見ておいて下さい。

とある女優が永久追放されたと言う話はまたいずれお話します。

工藤 有希子ではありません。

あ、ついに次回はあのコラボ事件です！

なお今回のストーリーはアニメオリジナルストーリー・635話「
ダイエットにご用心」でした。

ファイル18-1（前書き）

今日からあの話題のコラボ作品、スタート！でも、ちょっと一つ問題がありますので、後書きまでチェックお願いします。

ファイル18-1

小五郎：ええ、はい。それはもう…。

ナ：ある日の探偵事務所、小五郎は誰かと電話中。

コ・凜：？

小五郎：あ、はい。はい、なるほど、分かりました。喜んで出演させていただきます。

コ：ねえ、蘭姉ちゃん、出演って？

蘭：それがね、「世界一受けたい授業」に講師として出演してくれって…。

凜：え…。

コ：へえ、すごいねえ。「マジかよ、「世界一受けたい授業」って言ったら、日売テレビの看板番組じゃないか…。」

小五郎：んでその、出演料の程はいかほど…。え、ええ〜っ!？

蘭・コ・凜：？

小五郎：いや、その金額ではちょっと…。

コ：「え、断る気か？」

ナ：しかし。

小五郎：え!？ゲストパネラーに沖野ヨーコちゃんが出る!？

やる、やります、やらせて下さい!え、ギャラ？

そんなもん、いりませんよ、ハハハハハ!

蘭：お父さん…。

コ：「相手の方が一枚上手だったな…。」

凜：「すごい事になってきた…。」

オープニング「Misty Mystery」

ファイル18-1（後書き）

今回あの話ですが、原作名に入れるべきか悩んでいます。

ネタバレを防ぐため書かないでおくか、出しているからきちんと書くべきか、コメントお願いします。

ファイル18-2

日売テレビ

小五郎：うゝむ、やっぱり派手だったかな…。ヨーコちゃんはいつものネクタイの方が好きだったかも…。

コ：「どっちも変わんねえじゃねーか。」

？A：おい、何やつとるんだ！

コ：ん？

ナ：ちょっと遠くの方で誰かが話してる。

？A：ぐずぐずするな！早く来い！

？B：はい、すみません、先生…。

コ：あれ、演歌の大御所、「君島きみじま 伸郎のぶろう」だよな。（以後・このファイル中のみ・君島）

蘭：ホントだ、何かおっかなくて厳しそうな人ね。

凜：ほえ〜。

小五郎：君島 伸郎は他人だけでなく、自分にも厳しい事で有名なんだ。だから、未だに演歌界のトップに君臨していられるんだよ。

蘭：へえ〜。

コ：「随分肩持つじゃねえか、おっちゃん…。」

ナ：この事に関してはいずれ分かる。コナン達は中へ。

上諏訪 ^{かみすわ} 幹彦 ^{みきひこ}（以後・このファイル中のみ・上諏訪）：いやあ、毛利さん、お久し振りです。

小五郎：上諏訪さん、広島以来ですな。怪我の方はもういいんですか？（後書きで解説）

上諏訪：ええ、もうすっかり。今日はよろしくお願いします。毛利

さん。

小五郎：はい。

凜：以前に会った事あるの？

コ：まあな。

ナ：エレベーターでの会話。

上諏訪：すでにスタッフの方から連絡が行ってるとは思いますが、毛利さんには身近な犯罪から身を守る方法を、レクチャーしていただきたいと。

小五郎：ええ、この毛利小五郎にドンとお任せ下さい！

ナ：エレベーターが到着。

スタッフ：毛利小五郎さんですね。今日はよろしくお願いします。

小五郎：こちらこそ。

スタッフ↓橋本^{はしもと} 善成^{よしなり}（以後・このファイル中のみ・橋本）：僕、
担当ADの橋本です。

ファイル18-2（後書き）

事件関係者解説1

君島 伸郎（男性・67） 演歌の大御所

上諏訪 幹彦（男性・52） 日売テレビプロデューサー

アニメオリジナルストーリー・594・595話「広島宮島七不思議ツアー」で登場しました。実はその時起きた事件の被害者の一人だったんです。何とか無事でした。

橋本 善成（男性・22） 番組AD

ファイル18-3

橋本：こちらが控室です。どうぞ。

ナ：控室の中は他の人々がいた。（当たり前だが）

橋本：紹介します、1時限目の講師の毛利小五郎さんです。そして、こちらが2時限目の講師の山崎^{やまざき}哲史^{てっし}さんです。

小五郎：毛利小五郎です。

山崎 哲史（以後・このファイル中のみ・山崎）：山崎です、よろしく。

ナ：山崎が名刺を渡す。そこにはこんな事が。

小五郎：ポン菓子機……。へえ、ポン菓子なんてまだあるんですか。

山崎：ええ、オヤジが残した会社を継いだんですよ。でも、今の子供達にも人気なんですよ。

後で君達にも見せてあげるね。

ナ：コナンと凜にそう言った。

橋本：そしてこちらが、3時限目の講師の本間健太郎ほんまけんたろうさんです。

小五郎：初めまして、毛利小五郎です。

本間健太郎（以後・このファイル中のみ・本間）：古美術の鑑定をしている本間です。あいにく名刺を持たないもので申し訳無い。

小五郎：あの、沖野ヨーコちゃんの姿がまだ見えないが…。

コ：え？

橋本：ああ、ゲストパネラーの皆さんの控室は下のフロアになりますので。

小五郎：そうなのか！？はあ…。

コ：「同じ控室な訳無いだろ。」

凜：「そこまで気になるの？」 ↑ あくまでヨーコ好きを知らないだけ。

橋本：それでは、リハーサルの間になったら呼びますので、それまでお弁当を召し上がって下さい。

ナ：橋本は控室を出て行った。

小五郎：そうか、ヨーコちゃんは下のフロアか…。

ナ：すると小五郎はお弁当も手に取った。

小五郎：俺、ちょっと挨拶に行ってくるぞ。

蘭：え、お弁当を持って！？

コ：「あ…。」

ナ：一同はちょっとだけビックリした。

ファイル18-3（後書き）

事件関係者解説2

山崎 哲史（男性・32） ポン菓子機会社社長

本間健太郎（男性・70） 古美術鑑定士

ファイル18 - 4

ナ：下の階に到着。

小五郎：ヨーコちゃんの控室はと…。

蘭：ちよつとお父さん、何で挨拶するのに弁当持っていくのよ。

小五郎：そりゃあお前、ヨーコちゃんと一緒に食べるからに決まってるだろ。あんなおっさん達と食べたってうまくはねえよ。

蘭：そんな事だろうと思った。

コ：「まあ、俺達もつられて弁当持参だけだな。」

ナ：その言葉の通りコナン達も弁当を持ってきていた。そして、フロントで聞く事に。

小五郎：あの、お聞きしたいのですが、沖野ヨーコちゃんの控室はどちらに…。

？C：おや、コナン君じゃないか。

コ：あ、たきかわ滝川先生。

小五郎：なんだ、知ってる人か？

コ：うん。阿笠博士の知り合いの大学教授。

？C↓滝川 洋二ようじ（以後・このファイル中のみ・滝川）：私はこれから打ち合わせだね。コナン君はどうしてここに？

コ：毛利のおじさんが今日収録の「世界一受けたい授業」に出るんで、その付き添いなんだ。

滝川：そうですか。

社員：あの、沖野ヨーコさんなら、まだ入ってませんよ。

小五郎：え、そうなの？

滝川：それじゃあ、頑張ってくださいね。

小五郎：ヨーコちゃんまだ来てないのか…。

蘭：ていつかその前にまず、堺校長さかいに挨拶あいさつしないでいいの？

小五郎：あ、そうだな…。ほんじゃあ、ちよっくら行って来るか。

コ：「って、弁当持ってたか？」

凜：ずっといたのにセリフが無かった…。

作：スマン。浮かばなかった。

ファイル18-4（後書き）

事件関係者解説3 一部年齢が不明な人がいます。今回はこれから数名あります。

滝川 洋二（男性・－） 大学教授

あとこんな所で凜のセリフ無しですいません。

ファイル18-5（前書き）

いよいよあの人の部分です。でも、まだ事件発生には時間がかかりそうです。

ファイル18・5

ナ：とある楽屋にて。

君島：これなんですけどね。

堺さかい 正章まさあき（以後・このファイル中のみ・堺）：ほお、これはなかなかの物ですな。

君島：素晴らしいでしょう。

堺：うむ。

君島：この壺はね中国の清しんの時代に作られた物なんですよ。

堺：清の時代の。

君島：そうです。芸術に熱心だった清朝六代皇帝の時代に作られた壺でしてね…。

トントン

君島：？

堺：はい、どうぞ。

小五郎：あ、どうも。毛利小五郎です。堺校長に御挨拶に。

君島：悪いが後にしてくれないか。今、大事な話をしているところなんだ。

コ：「君島 伸郎も今日の収録のゲストパネラーだったのか。」

小五郎：それは失礼しました。実はさっきも君島さんを目撃して噂してた所なんですよ。

君島：どうせいい噂じゃないんだろ。

小五郎：とんでもない、実は私^{わたくし}、小学生の時初めて買ったレコードが、君島さんのあの名曲「男は度胸 ドンと来い」でして！

君島：ほほう、あの曲。君はなかなか見どころがあるねえ。

コ：「おっちゃん、君島伸郎のファンだったのか。」

凜：「へえ〜。」

堺：あ、君島さん、私そろそろ打ち合わせがありますので。

君島：あ、そうですか。

ナ：すると君島は。

君島：君、壺は好きかね？

小五郎：は？

堺：それではみなさんまた後程。のちほど

小五郎：ええ。

堺：あの人話長いから、覚悟してね。

コ：あ、はい…。

ナ：こっそり伝えた。

凜：「厄介になりそうな予感…。（ある意味で）」

堺：ではでは。

君島：さあ、ついてきたまえ。

小五郎：？

コ：あ…。

ファイル18-5（後書き）

事件関係者解説4

堺 正章（男性・こ）番組校長担当 世界一受けたい授業ではおなじみの人です。と言つ事は…。

ファイル18 - 6

ナ：君島の楽屋にて。もうここでお弁当を食べる事にした。

小五郎：いやあ、あの曲は実にいい！男の心意気を感じますなあ。

君島：うんうん、そうだろう。ハハハハハ！

コ：「なんだかんだで結構意気投合してるじゃねえか。」

蘭：あ、私お手伝いします。

ナ：蘭がお茶を注いでいる女性に話しかけた。しかし…。

君島：しのぶ！お客様に気を使わせるな！とっとと茶を入れろ！

沖^{おき}しのぶ（以後・このファイル中のみ・しのぶ）：申し訳ありません、先生…。

蘭：あ…。うめんなさい…。

凜：「まさかそうなるなんて…。」

小五郎：うむ、それで、その壺ですが、一体どれくらいの価値があるんですか？

君島：ああ、それを今日の授業で鑑定してもらったんですがね。

小五郎：本間先生と言うと…。あ、あの気難しそうな鑑定士の。

君島：本間先生は確かに気難しそうな人ですが、古刀、古美術の鑑定に関しては確かな免をうった方ですよ。

ほら、この前のあの怪盗キッドの事件に関わってた、華村とか言うインチキ鑑定士がいたでしょう。あんなのとは月とすっぽんですな。
↑（ファイル8の事件後、逮捕された。）

凜：納得…。

コ：「ホントに？」

君島：実はこの時代の陶磁器とうじきは愛好家の中では特に人気がありました

てね。ま、総額では1億から1億6000万つてとこじゃないですか？

小五郎：い、1億！？

コ・凜：え！？

蘭：そんなに！？

ナ：その価格に驚くしかないコナン達。

小五郎：はあ、こんな壺、いや、この壺が1億！

コ：「そういえば最近、イギリスのあるオークションでこれと同じ時代の清朝の壺が57億円で落札されたって話をニュースでやってたな。」

こりゃあ怪盗キッドも驚くすげえお宝だぜ。ま、最もアイツは壺になんか興味は持たないけどな。」

凜：「スゴイ…。ケロちゃん連れて来るべきだったかな？」

ナ：ケルベロスは実は置いていかれた。そんな彼は事情を知らずこんな所で…。

知世：「なんで家に預けられたんだ…。」
「↑キャラ崩壊状態。」

ケ：よっしゃ！ハイスコア更新や！

ナ：ゲームしてた。（笑）

ファイル18・6（後書き）

事件関係者解説5

沖しのぶ（女性・25） 君島の弟子

ファイル18・7

ナ：スタジオにて。

蘭：ここで世界一受けたい授業を収録してるんだ…。

凜：うわぁ…。

蘭：テレビと同じ。

小五郎：当たり前だろ。って言うか意外と狭いんだな。

コ：テレビだと実際より広く見えるらしいよ。

凜：へえ…。

蘭：あ、そうだ、お父さん、これ今日の台本だって。

小五郎：いらねえよ、んな物。

蘭：知らないって…。

小五郎：お、あれがポン菓子機か…。

ナ：近くで山崎がポン菓子機をメンテナンスしていた。

蘭：えっと2時限目の授業は、「古き良きポン菓子機体験　米や麦、トウモロコシがポンと言う間にお菓子になった」だって…。

小五郎：ほう…。

蘭：あの、この機械でどうやってお菓子を作るんですか？

山崎：それは後のお楽しみ、きっと驚くよ。

コ：「これがポン菓子機か。正式名称は「穀類膨張機」。

回転式の圧力釜に生米などの穀物を入れ、急減圧で駄菓子にする機械。俺も実物を見るのは初めてだ。」

君島：これはこれは本間先生。今日はよろしく願いしますよ。

ナ：近くで君島と本間が話している。

蘭：3時限目の授業は「真贋しんがんを見極める、贋作がんさくの歴史と現代のレプリカ技術」

橋本：実際に偽物と本物の骨董品こっとうを用意して、本間先生にその違いをレクチャーしてもらったよ。あそこに並べてある奴は全部本間先生に用意してもらった偽物なんだ。

ナ：と蘭に説明した。

蘭：へえ〜。

橋本：本物は君島さんが持って来たアレ。

君島：これなんですがね。どうです、なかなかの物でしょう。

ナ：壺を本間に渡す。

本間：これは、ちょっと失礼…。

ナ：本間は壺の底を少し指ではじいて音を調べた。すると…。

本間：…！見事だ…。一体これをどこで…？

君島：おやおや本間先生、目の色が変わっていますよ。ハハハ。

？C：すみません、本間先生、鑑定は本番でお願いします。

本間：ウム…。

？C：では偽物はこの三つを使わせていただきます。

本間：分かりました。

ナ：のこりの偽物を自分の大きなケースに戻した。

コ：「そう言う事が、それで君島さんはわざわざ自慢の壺をテレビ局に持ってきてたんだ。」

ファイル18-7（後書き）

？Cはいずれこの後の事件関係者ですのでいずれ分かります。

ファイル18-8（前書き）

終業式が終わったからかなり早めの書き込みです。（高校生だから）

あ、今回ついにあの二人とうじょうです。

ファイル18 - 8

橋本：堺校長と上田教頭、有田学級委員長が入れました。

堺：どうもどうも堺です。改めてよろしくお願いします。

上田 晋也（以後・このファイル中のみ・上田）：教頭の上田です。
よろしくお願いします。

有田 哲平（以後・このファイル中のみ・有田）：有田学級委員長
です。よろしくお願いします！

小五郎：あ、こちらこそよろしくお願いします。
↑若干緊張気味。

山崎：よろしくお願いします。

？C↓土屋 大輔（以後・このファイル中のみ・土屋）：それじゃ
あもろもろよろしければ、リハーサルを行いたいと思います。

まずは一時限目、毛利小五郎さんから。

小五郎：はあ…。

？D：おはようございます。

小五郎：おっ！

ナ：そこにやって来たのは沖野おきのヨーコだった。（以後・ヨーコ）

小五郎：ヨーコちゃん！

山崎：本物の沖野ヨーコちゃんだ…。

土屋：あれ、ヨーコちゃんは二時限目のリハからで大丈夫だよ？

ヨーコ：はい、でも控室で台本を見たら、一時限目の講師が毛利さんだと知って…。

小五郎：と、と、と言う事は…！この私に会いにわざわざ！？

ヨーコ：あ、いえ、御挨拶をと…。

ナ：気分が急上昇している。（苦笑）

小五郎：さあ始めましょうリハーサル！まずは何からやりましょうか？

土屋：じゃあまず…。護身術のコーナーから始めましょうか。

小五郎：ガッテン承知！

蘭：お父さん張り切ってるね。

コ：「リハーサルで息切れしなければいいが…。」

凜：「本当にすごい…。」 ↑ガチで興味津々。

ファイル18-8（後書き）

事件関係者解説6

上田 晋也（男性・－）世界一受けたい授業・教頭

有田 哲平（男性・－）世界一受けたい授業・学級委員長

土屋 大輔（男性・45）ディレクター

沖野ヨーコはレギュラーみたいなものなので略。

ファイル18・9（前書き）

今回の部分はかなり苦勞してると思います。はい。

それと今回はかなり嫌な展開になりますので覚悟して読んで下さい。

ファイル18-9

ナ：前回の会話の所から。

ヨーコ：コナン君達も来てたのね。

コ：うん。

蘭：ちょっと見学に。

凜：「すごい、本物だ…。」

ヨーコ：急いで走って来たら、汗かいちゃった。

カシャ

ヨーコ：！

ナ：そこにいたのは…。

蘭：ちよつとすみませんけど！

小五郎・土屋：ん？

蘭：無断で撮影するなんて卑怯じゃないですか！

山崎：あ、僕は嫌、ただ…。

ナ：山崎が自分の携帯でヨーコを盗撮していたのだ。当然の事だが、いけない事である。

小五郎：おい！お前、今ヨーコちゃんを撮つたろ！

蘭：お、お父さん…。

山崎：す、すみません、僕ファンな者でつい…。

小五郎：ファンならなおさら、マナーは守れ！

山崎：あっ！

ナ：その時だった。そこにいた君島が山崎の携帯をへし折った！

ベキツ！！

君島：いい年して、アイドルを盗撮するとはけしからん！恥を知れ！

山崎：だからって、ぶっ壊す事は無いだろ…。やってられるか、僕は帰る！

ナ：と言い出し、スタジオを出て行こうとした。

ヨーコ：ちょっと、待って下さい！

ナ：途中ヨーコとぶつかり、ハンカチが落ちる。

上諏訪：まあまあ、山崎さん落ち着いて。ヨーコちゃんも大丈夫だから、向こうで待ってて。

ヨーコ：はい…。

上諏訪：毛利さんもりハーサルを続けて下さい。

小五郎：あ、はい。

上諏訪：君島先生もよろしくお願いしますよ。

君島：…フン！

ナ：何も言わずに（多分分かってはいる）立ち去る。隣にいたしのぶが簡単に謝っておいた。

そして山崎に…。

君島：代わりの携帯は俺が買ってやる。これに懲りて、もう他人の写真を無断で取るような事をしない事だな。

しのぶ：本当にすみません。

ナ：しのぶが山崎に代わりに謝っておくが…。

君島：馬鹿者！謝る事など無い！

ナ：こんな状況だ。

山崎：クソツ…。

ナ：かなり根に持っていた。ちなみにその頃。

橋本：君島さんの壺と贋作が3点、えっと他に必要な物は…。

有田：ねえ、すごいお宝の壺があるんだって？ちょっと見してよ。

橋本：ダメですよ！

有田：あ、これ？はー、いいねコレ！ちょっとだけ…。

橋本：ダメですよ、素手で触っちゃ！

有田：いいじゃん、いいじゃん！

ナ：と二人が騒いでいた。

ファイル18-9（後書き）

読者の皆さんは盗撮や携帯破損、貴重品を勝手に触る行為はしないようにしましょう。

ちなみに上諏訪は最初からスタジオにいました。あと、最後の部分は一応必要です。

ファイル18 - 10 (前書き)

今年中に何とか終わらせてみます。(今回のファイルを)

いつの間にか話かなり多くなっています。(事件発生までに)

あと、妹がまた小説を始めたみたいですのでよろしくお願いします。

ファイル18-10

土屋：それじゃあ、2時限目の授業のリハーサルを始めます。では、山崎さんお願いします。

山崎：はい。

ナ：山崎がポン菓子機を作動させた。（説明が難しいため、内容は略）↑ごめんなさい。

一方、ちょっと離れたところでは。

上諏訪：全く、君島先生には参ったよ。何とか、山崎先生の機嫌は治ったが…。

上田：危うく、収録できなかったかもしれないね。まあ、勝手に写真を撮ったあの人も悪いんですけどね…。

山崎：じゃあ、いきますよ。

君島：おや、本間先生、どちらへ。

本間：興味ないのでね。

ナ：どこかへ行ってしまった。

山崎：とか言って、本当は怖いんじゃないの？

蘭：え、怖いって？

凜：？

ナ：分かっている二人。

山崎：では、沖野君、このハンマーで…。

ヨココ：はい。

山崎：ここ（レバー）を思いっきり叩いて下さい。

ナ：すると、そこにいた人達はみんな耳を塞いだ。

蘭：え、一体何！？

凜：えええ？？？

小五郎：まあ、黙って見てろって。

コ：二人とも耳塞いでいた方がいいと思うよ。

蘭：だから何なのよ！

凜：「もう分かんないよ……」。

ヨーコ：じゃあ、いきます！

ナ：ヨーコが思い切って、ハンマーでレバーを叩いた！

ガン！

ナ：なんと、すごい音だった！そして、煙が立ち込める。その後、お菓子の出来上がりだ。

ただ…。

蘭…び、びつくりした…。

凜…。
↑注・放心状態。

小五郎…とまあ、こんなもんだ！

ナ…二人は耳を塞ぎ忘れて、騒音に耐えられなかった。

蘭…って言うか、コナン君は知ってたの！？

コ…うん。前にテレビで見た事あったから。

ファイル18-10（後書き）

結論は言われた事は念の為やっておけ！ですね。

ファイル18 - 11

しのぶ：すごい音でしたね。

蘭：びっくりしました。

しのぶ：私も。

ナ：しのぶが現れた。

蘭：あの、控室では余計なことと言ってすいませんでした。私のせいで君島さんに怒られちゃいましたね。

しのぶ：いいんです、気にしないで下さい。

君島：だから何度も言わせるな！あ、ああ…。

しのぶ：！

君島：だからそれは心配いらんと言ってるだろ！

ナ：君島は誰かと電話をしていたようだ。

しのぶ：とても厳しい先生ですけど、私、君島先生をととても尊敬してるんです。

ナ：しのぶはどこかへ行った。

ヨーコ：彼女、今悩んでるのよね。

蘭：え？

ヨーコ：ほら、沖野と沖で名前似てるから、なんか互いに親近感が沸いちゃって…。時々現場とかで話すんだけど…。

コ：ねえ、沖しのぶさんって、君島さんのお弟子さんなの？

ヨーコ：ええ、そうよ。沖しのぶって名前も先生がつけたんだって。

コ：そっか、何か演歌歌手みたいな名前だったね…。

ヨーク：でもね、デビューする為に人一倍頑張ってるんだけど、なかなか眼が出なくて、この間も才能が無いからって故郷に帰ろうかなってこぼしていたのよ。

蘭：そうなんですか…。

凜：「ほえ、やっぱり芸能界って厳しいんだ…。」

土屋：上諏訪さん！ちょっと問題が…。

上諏訪：今度は何だ。

ナ：土屋がこっそり話すと…。

上諏訪：何！？君島さんの壺が無くなった！？

蘭：え？

小五郎：何！？

凜：えええ！？

コ：「清朝の壺が無くなったって…！」

ナ：この事態でスタジオは騒ぎ始めた。

君島：なんだ、どうした？

橋本：1時限目のリハーサルの時までは確かにここにあっただんです。
ですよね、有田さん。

有田：え、ああ…。

上田：なんでお前が知ってたんだよ。

有田：あ、いや、うん…。

土屋：一体どういう事なんだ…。

君島：誰かが私の壺を盗んだんだ…。

小五郎：いや、そう判断するのはまだ…。

君島：誰だ！私の壺を盗んだのは！

ナ：君島は小五郎の言ってる事を聞かない。さらには…。

君島：堺校長、まさかあなたが！

堺：な、なんで私が！？

君島：あなた、私が壺を見せた時、すごく興味を示していたじゃないか！

しのぶ：先生、落ち着いて下さい！

ナ：堺を疑い始めた。

コ：「仮に誰かが盗んだとして、リハーサルの間、壺を隠せる程の大きさの荷物をスタジオから運び出した者はいなかったはずだ。

と言う事は、犯人はこのスタジオの中にいる…。そして、消えた清

朝の壺もまた、このスタジオの中にあるはずだ…。」

ファイル18-11（後書き）

前編部分やっと終了です。頑張って今年中に間に合わせます。

ファイル18 - 12 (前書き)

アニメ後編部分スタートです。

そして、年末年始に番外編（ブログ編とは違う）を書こうかなと思います。

こちらも今後に関わったりそうでなかったり…。

とにかく楽しみに！

今回のファイルが終了次第始めます。

あ、今回のファイルも最後まで見ておいて下さい！

魔法は無いかもしれないけど話はちょっと動きます。

ファイル18 - 12

堺：いいですか、君島さん。私はリハーサルが始まってから一步もスタジオから出てないんですよ！

土屋：いや、堺校長だけじゃない。リハーサルの間、壺が隠せる大きさの荷物をスタジオから運び出した人なんていなかったはずだ。

上諏訪：とにかく、もう一度スタジオの中を念入りに探してみよう。

ナ：と言う訳で、もう一度スタジオの中を念入りに探す事にした。

凜：え〜っと、壺、壺…。

スッ…。

凜：？

ナ：凜は今、一瞬、何かが通ったような感じがした。しかし…。

凜：「スタジオの誰も気づいていない。気のせいかな…？」

ナ：スルーしてしまった。

？D：ホッ…。

ナ：そしてしばらくして…。

土屋：やっぱりどこにもありませんね。

上諏訪：文字通り、消えたって訳か…。

君島：消えた！？魔法の壺じゃあるまいし、勝手に消える訳無いだろ！あれは時価1億円以上の清朝の壺だぞ、その価値に目が眩んだ誰かが盗んで、どこかに隠したに違いない！

ナ：相変わらずこんな状態だ。

上諏訪：まあまあ、まだそう決まった訳では…。

ファイル18-12（後書き）

いきなり急展開な部分がありました。（凜のやりとり）
実は？Dはすでに出ている人物かもしれないんです。
あ、今回の事件とは関係ありません。

ファイル18 - 13

コ：「突然物が消える…。そう言えば先週滝川先生の研究室で面白い実験をしてたな。（おそらく番組の名前）

米を入れた植木鉢の中の造花が一瞬で消えるんだ。実は植木鉢の底にはホースが刺し込まれていて、空気を噴き出すと、米粒がフワツと舞い上がり、花を支える力が瞬間的に無くなって、造花が米の中に沈めこむ。

それで消えたように見えただけど、この場合には当てはまらないな…。」

ナ：壺の入った箱はそんな構造にはなっていなかった。

コ：「となると、やはりこの中の誰かが…。」

ナ：すると…。

上諏訪：そうだ、お願いします毛利さん！

小五郎：え？

上諏訪：ここはひとつ、名探偵毛利小五郎の名推理で壺を探し出してもらえませんか。是非また、お力をお貸しください！

小五郎：あ、いや、そう言われましても…。

ヨココ：大丈夫、毛利さんならきっと壺を見つけられますよ！

小五郎：も、もちろんですとも！分かりました、この毛利小五郎が必ず君島さんの壺を探し出して見せましょう！お任せください！

君島：あ、ああ…。

蘭：お父さん、あんな大見^{おおみえ}得切って大丈夫かな…？

凜：「心配が増してきたよ…。」

コ：「ま、やるしかないか。」

小五郎：えー、ADの橋本さんの証言によれば、1時限目のリハールが終わった時には、確かに壺はあったということです。

橋本：はい、小道具のチェックをしてましたから。

有田：あ、僕もその時、壺を見ました。

小五郎：となると、壺が無くなったとすれば、それは2時限目のリハーサル中の事。我々がポン菓子機に注意を奪われていたその隙を狙って、君島さんの壺を盗み、そして素早くこのスタジオの中に隠した。

上諏訪：しかし、あれだけ探したのに壺は見つからなかったんですよ。

小五郎：いえ、まだ調べていない所があります。

上諏訪：え？

小五郎：山崎さん、一つお尋ねしますが。

山崎：え、何か？

小五郎：あのポン菓子機のケースですが、あの中を確認したのはあなたでしたよね。

山崎：ええ。

小五郎：あの中には、本当に君島さんの壺は入ってなかったんですか？

山崎：ちょ、ちょっと、僕を疑ってるんですか！？

凜：「あれ、なんか顔色が変わった…？」

小五郎：山崎さん、あなたには動機がある。私の1時限目のリハール中、あなたがヨーコちゃんを無断で撮影した時…。

ヨーコちゃんを無断で撮影したことに怒った君島さんはあなたの携帯を真つ二つに折った。その事を根に持ったあなたは、仕返しのもりで君島さんの壺を盗んだんじゃないんですか？

山崎：ば、馬鹿馬鹿しい！

小五郎：だったら、ケースの中を見せてもらいましょうか？

山崎：な、僕はポン菓子機のテストの間、ずっとセットの中にいたんですよ。その僕にいつ壺を隠せるっていうんですか！

小五郎：それこそが盲点なんです。

山崎：え！？

小五郎：あの時、山崎さんからずっと目を離さなかった人はいなかったはず。なぜハンマー叩きを自分でやらずにヨーコちゃんにやらせたのか、その瞬間、みなさんの注意はずっとポン菓子機に向いていました。

ですから、その時山崎さんを見ていた人はいなかったはずです。

山崎：そ、そんなのは言いがかりだ！

ヨーコ：あの…。

小五郎・山崎：？

ヨーコ：私がハンマー叩きをやったのは、台本にそう書いてあったからです。

小五郎：え！？

コ：「おいおい、頼むぜおっちゃん…。だから台本くらい読んでろっつーの。だが…。」

ナ：コナンも実は同意見だった。ハンマー叩きを除いて…。

ファイル18-13（後書き）

最初の米と造花の実験は「世界一受けたい授業」で本当に出た実験でした。

番組同士が共演する事はよくありましたが、アニメは初でした。この実験は実際にアニメに登場した実験です。

あと、小五郎の推理は意外と当たってたりするかも…？

「ご相談（前書き）」

大事なお話があります。

「相談」

作者の寿司デリバリーです。

活動報告の中にも書いていたのですが、本日書き込まれた感想に「パクリじゃないか」と言うコメントが来てしまいました。

なかには小説が初めてだから楽しみにしている人もいたのですが、テレビと同じでがっかりしてる人もいたんです。

しかし、どうしたらいいのが自分では分かりません。皆さんはどう思いますか。

コメントをお願いします。皆さんのご意見で今後を検討したいと思います。

正直このままではまずいと思います。最悪、やめる事にもなってしまう。

喜んでもる人、がっかりな人、そんな対立はこっちとしてもいけない事と思っています。

お答えをお願いします。

結論

作者の寿司デリバリーです。

昨日、「パクリじゃないか」というご意見が来た事でご相談したところ、いろんな人の意見が届きました。

みなさんは二次創作だから、パクリじゃないと判断をしました。

確かにオリジナルじゃないがつまらないという人もいたみたいですが、中にはそれでも続きが気になる、小説が初見だ、などの意見もありました。

だから、この先もこの小説とこの小説の番外編は最終回までちゃんと続けさせていただきます。

ただ、今後ネタは考えておいた方がいいと思いますのでそこは考慮していこうと思います。

ちなみに最後をどうするかは決めています。

この度は皆さんにご迷惑をおかけしました。^{たび}

ファイル18 - 14 (前書き)

パクリ問題も沈みましたので再開します。とりあえず現在はファイル18を最後までお楽しみください。

あと、番外編「名探偵コナン・ブログが語る過去と未来」で違う所の話が進んでいます。今回と若干、ホントに若干だけリンクしていますので出来ればご覧ください。

と言ってもどこがリンクしてるか分からないかもしれませんが…。

ファイル18 - 14

蘭：お父さんはヨーコさんを無断で撮影した事で、山崎さんに悪印象を持っているからそう思うだけじゃないの？

小五郎：馬鹿野郎、俺はそこまで小さい男じゃねえよ！あの男は絶対何かを隠してる、そいつだけは間違いないえ。

コ：「さすがにおっちゃんも気づいてたか。」

君島：何をしてるんだ、とにかくあのケースを調べればわかるんじゃないか！

上諏訪：山崎さん、申し訳ないが、念の為にケースの中身を見せてくれませんか。

山崎：それは、でも…。

ナ：山崎は拒否するが、^{みな}皆の視線は山崎に向けられている。

山崎：…分かりました…。

凜：「開けるんだね。あれ…？」

？D…。

凜：「やっぱり何か感じるような…。」

ナ：また何か感じたようだが、何かは分からなかった。そしてついにケースを開ける事にした。

だが…。

ヨーコ：それ、私の…。

蘭・小五郎・凜：え！？

ナ：入っていたのは壺ではなく、ヨーコが落としたハンカチだった。携帯を壊された時にヨーコとぶつかっていた。その時に落とした物だ。

上諏訪：山崎さん、どういう事が説明してくれますか？

山崎：す、すみません！ほんの出来心だったんです！確かに僕は毛利さんの言う通り、携帯を壊されて頭に来てました。

そしたら、ヨーコちゃんが使ってるハンカチが椅子の上に落ちたのに気づき、ヨーコちゃんがハンカチを使ってる写真と一緒にネットオークションにでも出せば、ファンに高額で売れると思って…。

小五郎：てめえ、ふざけやがって！

ナ：マジで殴りかかろうとする。

蘭：お父さん、落ち着いて！

土屋：だが、肝心の携帯画像は、君島さんに携帯ごと壊されてダメになったんじゃない…。

コ：きっと、マイクロSDに保存出来る様に設定してあったんだよ。それなら携帯は壊れても、画像は無事だもんね。

山崎：すみません…。

上諏訪：これも問題だが、とりあえず今は君島さんの壺だ。

土屋：一体どこへ行ったんだ…。

コ：あれ、本間先生、どこ行くの？

ナ：本間がカバンを連れて（キャスター式）スタジオを出て行くこう
としていた。

ファイル18-14（後書き）

出来心って怖いです。

ファイル18 - 15

上諏訪：どうしました、本間先生。

本間：どうしたもこうしたも、こつ事件が立て続けに起こったら、もう今日の収録は中止でしょう。

上諏訪：いや、まだそう決まった訳では…。

本間：私は忙しい、これで帰らせてもらうよ。

小五郎：すみません、本間先生。その前に大変申し訳ありませんが、その大きなバッグの中身を見せてもらえないでしょうか。

君島：本間先生、あなたが犯人か！？どうなんだ、本間先生！

ナ：その頃別の場所でこんなやり取りが…。

？D：ハア…、調べに来たら事件に遭遇なんて聞いてないよ…。でも、ここが江戸川コナンの世界なのは間違いない。

とにかくもう少し見て行かないと…。

ガタッ

ナ：？Dは近くにあった箱を落としてしまった。

スタッフ：ん、何か今、音がしたな…。

？D：「ヤバッ！ここは透明になって切り抜けよう！」

スタッフ：ああこれか、箱が落ちたのか…。戻しておくか、でも何で落ちたんだ？

ナ：スタッフは戻って行つた。

？
D
…
ホ
ッ
…
。

ファイル18-15（後書き）

短いからもう一つ書きます。

ファイル18-16（前書き）

前回は短いと感じたため、もう一つ書きます。

ファイル18 - 16

君島：本間先生、あなたはあの壺をかなり気に入っていた。それに、ポン菓子機の時も、一人でセットから出て行ったじゃないか。

本間：それで私が犯人だと、そう言いたいのかね？

小五郎：私はそのカバンなら、あの壺を隠すことが出来ると、そう思うだけです。

本間：なるほど…。

コ…。

凜：「さっきから、誰かいるような…。」

ナ：カバンの中を開けてみたが…。

本間：これで満足かな。

君島：無い、私の壺は無い！

ナ：中身は番組で使わない事になった贋作だけだった。それどころか、中は物を分けられるようになっていて、壺が入られる構造じゃなかった。

小五郎：疑ってどうもすみませんでした。

本間：いや、確かにこんなに大きなカバンを持ってスタジオを出て行けば、疑われて当然。気にせんでもらいたい。ではこれで…。

上諏訪：待って下さい、本間先生。

本間：まだ何か？

上諏訪：収録はまだ中止と決まった訳ではありません。2時限目の山崎さんの授業はともかく、3時限目の本間先生の授業は君島さんの壺が見つかれば、予定通り収録するつもりです。

ですから、まだお帰りにはならないでいただけますか。

本間：あの壺が見つかった所で、収録できるかどうか…。

コ・凜：…？

上諏訪：はい？

本間：あ、いや、何でもありません…。

コ：「壺が見つかったても収録できない、どういう事だ？この先生、まだ何か知ってるのか？」

土屋：そう言っても上諏訪さん、もう時間をかなり押してますよ。

上諏訪：ウム…。

ナ：すると…。

君島：いい加減にしてくれ！おい、犯人はこの中にいるんだろ、だつたら今すぐ名乗り出て、私の壺を返してくれ！

上田：落ち着いて下さいよ、君島さん。山崎さんと本間さん以外に、君島さんの壺を隠せそうな人はこのスタジオの中にはいませんよ。

君島：うつつ、じゃあどこにあるんだ！

コ：「確かに、壺を隠せそうな程の大きさの物をスタジオから運び出した者はいない。かといって、スタジオの中を探しても見つからなかった。

だが、もちろん、後肩もなく消える事は無い。絶対何かを見落としてるはずだ。何かを…。」

上諏訪：仕方ない。今日の収録は中止にしよう。

土屋：はい。すみません、今日の収録は中止とします。美術スタッフはセットをばらしてください。

凜：そんな…。

コ：「セットをばらす…。」

?D：「ヤバイの…？」↑まだ見てる。

土屋：橋本、カッター貸してくれ。

橋本：あ、はい。

ナ：橋本がポーチからカッターを取り出した。それを見たコナンは…。

コ：「そうか！そう言う事だったんだ！」

ナ：コナンは近くに隠れる。偶然にも？Dの近くに。

？D：「あ、見つかりそう…。」

ナ：？Dは移動しようとしたが…。

ツルッ

？D：「あっ…！」

ガン！

?D:~~~~

ナ:近くの機材に頭をぶつけてしまった。

コ:「ん、何かいたような...?」

ナ:コナンは気配は感じたが姿までは見つけれなかった。そして...。

蘭:お父さん、そろそろ眠くなったりしない?

小五郎:は?まだ壺は見つかっていないんだ。眠くなってるヒマは、
なっ!

ナ:コナンが麻醉銃を発射。

小五郎:あつたりなかったり...。藤原鎌足...。
↑?

コ(小五郎の声):ちょっと待って下さい。先に片づけるのはセツ
トじゃない。この事件の方です。

? D : 「ま、麻醉銃…? ガクッ…。」

ナ : ? D は氣を失った。

? E : 「×××××!」

ファイル18-16（後書き）

この後、こことリンクする部分を番外編「名探偵コナン・ブログが語る過去と未来」に書きます。やっぱりコナンは出ないけど…。

ファイル18-17（前書き）

たった数ヶ月で200部になってしまいました。いいのか悪いのか
分かりません。

ファイル18 - 17

堺：では、犯人が分かったんですか。

コ（小五郎の声）：ええ、そして壺のありかも。

君島：本当か！

堺：ほう、では、眠りの小五郎の名推理、とくと拝見させて頂きましようか。

コ：壺はまだ、犯人が持っています。

他：えっ！？

君島：犯人がまだ持つてる！？

蘭：持っているって、ここに居る全員が手ぶらなのよ、お父さん…。

コ：よく見る、蘭。この中にウエストバック（ポーチ）を着けているものが二人いる。

蘭：え？

ナ：ウエストバッグを着けているのは橋本と…、しのぶだ。

コ：さつきスタジオのセットをばらすと行った時、A Dの橋本さんのウエストバッグの中身は確認しました。

橋本：ええ、いくらでも見て下さい。こんな物しか入ってませんよ。

ナ：中身はペンやテープなどの道具だけだった。つまり…。

コ：つまり、残るは沖しのぶさん、あなただ。

君島：ちょっと待ってくれ、一体何を言ってるんだ！あの清朝の壺がこんな小さなウエストバッグの中に入る訳無いだろ！

コ：ええ、もちろん。ですが、壺を粉々に碎けば、十分に可能です。

君島：な、何だって！？あの壺を…、碎いた！？1億円の清朝の壺を！？

ナ：その言葉に皆が騒ぎ出す。

しのぶ：…。

蘭：しのぶさん…。

橋本：でも、そしたら壺の割れる音で、すぐみんなに気付かれちゃうんじゃないですか？

コ：それが気付かれなかったんです。皆さん、2時限目の授業のリハーサルを思い出してください。

みんながポン菓子機のテストに注目している時、しのぶさんはこっそりセツト裏に回り、破片が飛び散らない様に、用意しておいた袋の中に壺を入れた。

そして、ヨーコちゃんがハンマーでポン菓子機を叩いたそのタイミングで、壺を袋の上からたたき割った。

そして、粉々になった壺の入った袋をウエストバッグの中に入れ、何事も無かったかのように、姿を見せたのです。

橋本：そうか、ポン菓子機の激しい音で、壺を割る音をかき消したのか。

君島：本当なのか…？

ナ：しのぶは、ウエストバッグの中の袋を取り出した。そして中身は…。

例の壺が粉々になっていた物だった…。

ファイル18 - 17 (後書き)

ウエストバックを持つてる人が全く分からなかったことをお詫びします。

アニメオリジナルストーリーは難しかったかもしれませんが。今更ですが…。

ファイナル 18 - 18

君島：な、なぜそんな事を…。何故だ！

しのぶ：…。

君島：答えろ！

有田：それですよ、それ。

君島：え！？

有田：そうやっていつも怒鳴^{どな}られてばかりいるから、きつと先生の事、憎^{にく}かったんじゃないですか？

君島：そうなのか？

しのぶ：…。

橋本：いや、でも、いくら憎^{にく}かったからって…。

土屋：1億円の壺を割るなんて、とても正気には思えない。

山崎：ったくどんだ嫌われてたって話だよ、ハハハハハ！

凜：「え…。」 ↑ いろいろ思ってるが説明できない。

君島：グッ…。

コ（小五郎の声）：ところで、本間先生にお聞きしたい事があるのですが。

本間：ん？

コ：それは、壺の鑑定結果です。

しのぶ：…！

ナ：その言葉にしのぶが焦りを見せた。

本間：それを今ここで？

コ：はい。

本間：彼女はそれを望んでいないようだが？

コ：ええ、でもこのままではしのぶさんが悪者になってしまつ。

凜：「このままでは…？」

本間：それも彼女の意志なのでは？

コ：分かっています。ですが、真実は常にひとつ！例えそれがしのぶさんの望まない結果としても。

本間：…よろしい。君島さんの清朝の壺は…。

見事な力の贗作だ。^{がんさく}

君島：ば、馬鹿な、そんな馬鹿な！

しのぶ：…。

堺：あの壺が贗作…。

蘭：そんな…。

上諏訪：まさか…。

凜：え？↑意味を分かっていない。後で驚く事になるけど…。

君島：それじゃああの時は…。

・・・

君島：これなんですがね、どうです。なかなかの物でしょう。

本間：ちよつと失礼…。

ナ：ここで一度壺を叩いていた。そして…。

本間：これは…、見事だ…。

君島：あれは見事な贋作と言う意味…。

本間：そう言う事だ。

しのぶ：うつうつ…。

ナ：泣き始めた。

コ：やはり、贋作だと見抜いていたんですね。

本間：収録で贋作と言えば、君島さんに恥をかかせることになる。
だからと言って、鑑定結果に嘘はつけない。

そこで困った私は、収録前に黙って帰ろうとしたが、恐らく彼女も同じ気持ちだったのでは…。

コ：しのぶさん、あなたは君島さんがあの壺をかなり気に入っていたので、なかなかその事を話せずにいた。とそこで今回の出演の話。

番組内で鑑定されてしまったら、贋作という事がばれてしまう。今まで自分が言い出せなかったばかりにテレビで、世話になっていた師匠に恥をかかせることになる。

そう考えたしのぶさんは壺が盗まれた事にして、収録を中止したんですね。

しのぶ：はい…。その通りです…。

君島：しのぶ、いつから知っていたんだ？あの壺が贋作だと。

しのぶ：1年前、先生の奥様が亡くなる前、私を枕元に呼んで、「あの壺は贋作だけど、先生にとってはかけがえのない宝だから、絶対に先生に知られないようにしてほしい」と…。

でも、約束を果たせようだったからには、もう君島さんの元にはいられません。これを機に、歌手になる夢は潔く諦め、故郷に帰り

ます。今までありがとうございました。

ナ：しかし…。

君島：しのぶ、俺にこれ以上恥をかかせるな。確かに俺は壺を見る目は盆暗ぼんくらだった。

でもな、歌手を見る目は曇ってるつもりは無い！今さっき、連絡を受けたばかりだったが、お前のデビューが決まった！

しのぶ：え！？

君島：プロデューサーがなかなか煮え切らないから、バシッと一括してやった。

蘭：あ！

・・・・・・・・

君島：何度も言わせるな、だからそれは心配いらんと言ってるだろ！

俺の言ってる事が信用できんのか、沖しのぶは本物だ！この俺が保証する！

・・・・・・・・・・

ナ：スタジオでの電話はこれだったのだ。

君島：それでも故郷に帰るつもりか？

しのぶ：ありがとうございます、ありがとうございます！

ナ：しのぶは涙ながらに感謝していた。

ヨーコ：おめでとう、しのぶさん！

蘭：おめでとつございます！

凜：いい話。。

小五郎：ん、あ？↑目を覚ました。

エンディング
「Your Best Friend」

ファイナル18 - 18 (後書き)

贋作・・・偽物の事。

展開がいき過ぎだけどOKって事で！

ファイル18 ラスト（前書き）

年末年始でいろいろある為なので短い間ですが、予約掲載にします。

ファイル18 ラスト

エピソード

ナ：今回の事件は警察沙汰けいさつざたにならなかった。そして、ロビーにて。

小五郎：ふあゝあ…。また事件を解決したいみたいだが、駄目だ、何にも覚えていねえ。

ヨーコ：毛利さん！

小五郎：！

ナ：ヨーコが走ってやって来た。

ヨーコ：言い忘れてました、そのネクタイ…。

小五郎：おっ、やっぱり気付いてくれましたか！ヨーコちゃんに気に入ってもらえるようと…。

ヨーコ：お弁当のシミが付いてますよ。

小五郎：え、えーーーーっつ！

ヨーコ：お疲れ様でした！

ナ：ヨーコは帰って行った。

小五郎：しみじみショック…。

コ：「ネクタイなのに、締まらねえな…。あ、そういえば…」

凜：「いっぱいいろんな事があってヘトヘト…。でも…」

コ・凜：「あれは一体…。」

ナ：一方そのあれ（？5）とは…。

？D↓番外編での？5：うん…。ハッ！しまった…。

橋本：えっと、これはここで…。ん？

？5：…！

ナ：スタジオはまだセットの片づけ中だった。その時偶然にも、橋本が？5を見つけた。

橋本：君、一体どこから…。

？5：あ、ごめんなさい！

橋本：あ、ちよつと！

スタッフ：いたぞ、さっきの子供！

？5：あ…。

スタッフ：今度は逃がさないぞ！

？5：うわあああ…。

ナ：？5はスタッフにまた追いかけられる羽目になった。

橋本：何だったんだ…？

ナ：さらに別の場所、て言うか探偵事務所。

ケ：いや、楽しかったぞ。しかし、さくらはどこ行つとたんやるか？

ナ：ケルベロスが帰宅していた。

ケ：しっかし…。最近、おかしい事、全く起きひんの…。もしかしたら…。

ナ：さらに別の場所。

知世：全く、最近こんな状態なのにな…。↑まだキャラ崩壊状態。

最近はさくらにも会えなくて以前のようなこと出来なくて退屈で仕方ない。

ん、最近と言えば、謎の人物が何もしてこなくなってる…。何故だ？

ナ：さらに別の場所。

鏡^{ミラー}：「最近、何も起きなくなりました。何やら嫌な予感がするのは気のせいでしょうか…？」

ナ：さらに別の場所。

謎のリポーター：イヒヒヒヒ、多分今年最後の謎のリポーターです…。最後は手短に…。

謎：失敗したか。

？…あの子はドジですからね。

謎：それはお前もじゃないか？

？…。

謎：まあいい、そろそろ本格的に『アレ』の始動の準備だ。

？：かしこまりました。しかし、最近はコナンの世界に手を出して
ませんか何故です？

謎：ここまで来ていたら、もういいだろう。最後に手を出してやる
だけさ。それにまだやる事もあるしな…。

謎のリポーター：おやおや、かなり動き出しそうですね…。イヒヒ
ヒヒ…。

謎：さあ、いよいよ大詰めだ…。クッククツ…。

ナ：さらに別の場所。

？4：あの子はまだ修業が必要ですネ。

？7：そうですね。

？4：そうだ、あなた…。

？7：はい？

ナ：それぞれの場所で、今最大の事態が起きようとしている…。

ファイル18 完

ファイル18 ラスト（後書き）

今回のストーリーはアニメオリジナルストーリー・636・637
話「世界一受けたい授業事件（前後編）」でした。

コラボの筈が最後にとんでもない展開に持ち込まれました。

それではよいお年を。

お正月特別編1（前書き）

明けましておめでとうございます。

今年もテレビネタ、オリジナルネタで面白く盛り上げていきますのでよろしく願います。

今年一発目はお正月番外編です！コナン達のつぶやき、謎の人物達の意味不な行動の進展、×一族の謎、いろいろありますよ！

まずはコナン達が去年を振り返り、今年は何が起きそうか、考えてみます！今日から3日間、振り返って、それから別の話の予定です。

お正月特別編 1

コ：この小説も新年を迎えたな。

凜：うん。

コ：何か前書きが気になるけど、作者から刺し止めが来てて何も言えない。

凜：それもそうなんだけどね。

コ：去年はいろいろあったな。

凜：うん。

コ：たとえば…。

・
・
・
・
・
・
・
・
・
・

歩：ええっ！？13年前のビデオレターの返事を探してた！？ホ、ホントに！？

千葉：ああ、俺、放送委員会です…。お昼休みに学校のニュースやリクエストを放送してただけど、試しに委員たちで録画したミニドラマを流したんだ。そしたら大うけです…。今度は実写で特撮ドラマを撮って、学芸会で流そうってダメモトで提供したんだよ。

~~~~~

コ：あ、一発的中！これだな、千葉刑事の特撮ビデオ。

~~~~~

コ：おそらくメッセージはここを開けると露出するテープに…。

歩：あれ、何も書いてないよ？

凜：どっいつ事？

コ：え…。マジ…。

~~~~~

凜：風よ、戒めの鎖となれ。 「<sup>ウィンディ</sup>風」！

・  
・  
・  
・  
・  
・  
・

コ：「初恋のビデオレター事件」だな。（ファイル6の事件）

凜：ビデオレター探し、大変だったなあ。

コ：途中、カードの妨害もあったしな。

凜：あの後、千葉刑事、本当にフラれちゃったのかな？

コ：それは分かんねえな。

ナ：コナン達は知らないが、三池動き出すのではないだろうか。（  
今のところ、原作では進展はない）

コ：他には…。

・・・・・・・・・・

蘭・園子：ええーっ！？

蘭：このお化け屋敷に入って、ゾンビの出来前を確認してくれ？

~~~~~

凜：やっぱり怖い…。

ケ：さくらー！

~~~~~

コ：「ま、学祭のお化け屋敷にしては出来はいいな。悪趣味だけど…。」

~~~~~

コ：彼女の口からアーモンド臭がする。青酸系の毒物を飲んだかも

しないよ。

園子：え？

蘭：毒？

凜：それってどういう事？

貴市（ファイル7登場キャラ）：アーモンドの臭い？ホントかよ？

コ：素人が嗅ぐな！アーモンド臭は飲んだ毒物が胃酸とかと化合して発酵した青酸ガスの臭い、ヘタに吸い込むと死んじゃうぞ！

コ以外全員：あ…。

ナ：その言葉に誰もが啞然とした。それにコナンは…。

コ：って刑事ドラマでやってたよ…。ア、アーモンド臭って言うても僕達が良く食べる、甘くて香ばしいナッツの臭いじゃなく収穫前の実や葉の甘酸っぱい臭いだってね…。

蘭：そ、そうなの…。

園子：でも、今の感じだと…、安菜さん（ファイル7登場キャラ）、自殺…？

凜：えええええっ！？

．．．．．

凜：殺人事件とか新一君の推理にびっくりしちゃった…。お化け屋敷も怖かった…。

コ：「あの事件、トラウマになってるか？」

凜：あの後も、たくさん殺人事件が起きちゃったし…。

コ：多分これからもあるな。

凜：ハア…。

お正月特別編1（後書き）

~~~~~は場面飛ばしです。

明日に続きます。

## お正月特別編2（前書き）

しばらく「名探偵コナン・ブログが語る過去と未来」は休載します。  
楽しみにしてた人はごめんなさい。（いるかどうかも分かんないけど）

## お正月特別編2

凜：他には、怪盗キッドの話が…。

コ：ああ、あのキザなコソドロか。

．．．．．

中：ん、か、怪盗キッド！

ナ：そのシルクハットから怪盗キッドが出現した。

客：うわー！（テンション最高潮）

蘭：ガンベルトのケースの上に立ってる！

園子：キッド様、素適〜！

~~~~~

キ：そう、洗濯…。洗濯するためにはまず、雨が必要。それでは、
今から、この空間に…。

ナ：キッドが取り出したのはカードだった。

キ：雨を降らせて御覧に入れましょう。

中：雨だと？

~~~~~

中：「このガンベルトは真っ赤な偽物、何故なら…。」

コ：「何故なら、盗まれることを想定して大量に作ったものだから。  
」、なんでしょ。」

男（怪盗キッド）：え？

凜：ええっ！？

知：何だと…。

~~~~~

コ：そっだよな、龍馬気取りの怪盗さんよう。

凜：知・小狼・ケ：！？

男：フッ…。

………

凜：新一君が、キッドと話していたからびっくりしちゃった。
（フ
ァイル8）

コ：まあ、何度もアイツとはあってるからな。

凜：今度また会えるかな？

コ：多分な。まあ、その時は受けて立つただけだ。

凜：やっぱりやるんだ。あとは…。

．．．．．

小狼：おい。

コ：なに？

小狼：お前、工藤新一だろ。

コ：え！？

．．．．．

コ：「プロモビデオ撮影事件」の時か。（ファイル9）

凜：小狼君に正体見破られて、ハラハラしたね。

コ：ああ、無理もねえよ。アイツがそれを知ろうとしていたからな。

凜：今後、もしかして、また正体見破ろうとする人出てこないよね？

コ：それは無いと思うが…。

作：それはどうかな…？

お正月特別編2（後書き）

僕の最後の発言の意味はいずれ…。

お正月番外編3

凜：あと、あの事件は忘れちゃいけないよね。新一君が女の子に…。

コ：ああ、あれはかなり痛かったぜ。

・・・

歩：え！？

光：どういう事ですか！？

元：誰だこいつ！？

凜：コナン君のような、でもコナン君じゃないような…。「あ！何か感じる…！」

哀：何が起きているのかしら…。

ケ：「気付いとるか？さくら。こいつ、謎の人物に操られとるで…。おそらく工藤や…。」

~~~~~

ロ：ハッ！それっ！ヤア！

凜：すごい！

ケ：あの闘<sup>ファイト</sup>と互角、いや、それ以上や！力<sup>パワー</sup>でもないのに、押してき  
とる！

.....

コ：あの事件は衝撃的だった。（ファイル12、13）まあ、アレ  
以来、なかなか女にならないけどな。

凜：まあ、この間の買い物の時くらいだね。（ファイル16）

コ：これからは、あるかな...？んな、訳無いよな...。

凜：そう言えば、謎の人物がなかなか動かないけど、何してるのか  
な...？

コ…また、嫌な予感がするようない。

謎…正解だ…。

### お正月番外編3（後書き）

謎の人物に関してはネタが尽きた訳じゃ無いですよ！

明日は、そんな謎の人物達の会話です。いつもなら番外編の方に書きますが、今回はこっちに書きます。

## 謎の人物達の会話（前書き）

いつもは番外編で書いてますが、今回はこっちにしました。  
ぶっちゃけ、今回は凄い展開です。

## 謎の人物達の会話

謎のリポーター：イヒヒヒヒ、あけましておめでとうございます、謎のリポーターですよ。今回はまたまたあの場所へお邪魔しますよ……。作者の話によると、謎の人物達が何かの会議をしているそうです……。

謎：えー、これより「×××××計画」会議を始める。

謎のリポーター以外：はい。

謎：まずは今回の中心となる世界を発表してくれ。

[illegible]

謎：その通りだ。

謎のリポーター：何やら、世界がなんちゃらと言ってますが、良く聞き取れません。なにせ、盗聴器で無理に聞いてますからね…。

謎次。

？8：はい、今回の5つの世界以外にも様々な世界が×××ですが、今回はほとんど、関わらないと思われます。

謎：ああ、そうだろうな。次。

？9：はい。えー、今回の計画に当たって、今現在、5つの世界（ここまで話した世界）を調査中。特に、「××××××××」と「××××××」の世界はすでに××××××いる様です。

謎：ああ、それは分かっている。次。

？10：はい。これは以前こちらで、試験的に行ったものが××××ものかと思われます。

謎：おそらくそうだろう。次。

？11：はい、今回の計画の目的地はズバリ「××××××××」にしよ  
うと思います。

謎：あの場所か…。理由は？

？11：みなさんもお存知かもしれませんが、もうすぐ「×××××」が完成して、観光客が減る可能性が高いと思い、こっそり狙うチャンスが多いかと。

謎：なるほど、それを採用しよう。

？11：ありがとうございます。

？12：はい。

謎：なんだ、×××××。

？12：今回のこの計画、何が楽しいのですか？私にはとても退屈になりそうです…。

謎：×××××、「××××××××」だ。

？：え？

謎：いいから、「××××××××」だ！

? : あ、はい！

? 1 2 : え…。ぎゃーーーーーっ！

謎のリポーター : おやおや、急にお仕置が始まりましたよ。ワタクシ、今まで見て来たお仕置きの中でも一番恐怖です…。

謎 : もういい、今日の会議はここまでだ。解散！

? 1 2 : 。。。。

? 1 1 : 大丈夫か？

謎のリポーター : どうやら、終わったみたいです。ワタクシもこれで退散いたします…。それではまた、謎のリポーターでした…。

## 謎の人物達の会話（後書き）

今回一斉にキャラが増えました。

そして、「世界」、一体何を言ってるか分かりますか？分かった人はネタバレになるならメッセージ送信からでもいいので送ってみて下さい。（要求ではないので送らない人は送らなくていいです。）

## さらに別の場所での会話（前書き）

お正月番外編はこれで終わりです。なお、番外編の書き込みを明日から再開します。

## さらに別の場所での会話

×××：みなさん、あけましておめでとございますー！リポーターの×××です！

え、減給は大丈夫かって？だ、大丈夫ですよ…。

えー、今日は作者の指示の元、とある場所の会議をこっそり調べてこい、との事です！

ナ：念の為言っておくが、前回の謎の人物達の会議とは、別の会議である。

？4：これより、「×の一族打倒」会議を行います！

×××以外一同：はい！

？4：まずは、×××××、お願いします。

？5：はい。今回の会議の目的は「×の一族が様々な世界に×××××、×××しているためにそれを阻止するための物である。」です。

? 4 : 次は、×××××。

? 1 3 : え、やるのか？

? 4 : お願いします。

? 1 4 : ちょっと、しつかりやってくれないと困るよ。

? 1 3 : チツ、しゃーねえなあ。「×の一族の行動はその世界の人々に××をかけたりにしているものである。」

? 4 : ありがとうございます。

? 1 3 : ハア…。

? 4 : 次は×××××、×××××。

? 1 5 : はい。しかし、まれに×の一族は、その世界で××をしている人達を××、および××しているものも見られています。

? 16 : しかし、その方法は手荒で場合によっては××××、××、  
××などをしているのが現状です。

? 4 : ありがとうございます。×、お願いします。

? 7 : はい。現在、すでに異変が起きている「××××××」の世界に調査に行く準備を整えています。今回の目的はどんな異変が起きているか、その標的<sup>ターゲット</sup>になっているのは誰かを調べるのが目的です。

? 4 : いつでも行けますか？

? 7 : 出来ます。

? 4 : 分かりました。こちらの方針がまとまり次第、向かわせます。

? 7 : 分かりました。

? 5 : 「×ちゃん、ガンバ！」

? 4 : これにて今日の会議は終了します。各自、解散！

×  
×  
×  
・  
ど  
う  
や  
ら  
終  
わ  
っ  
た  
み  
た  
い  
で  
す  
ね。  
こ  
れ  
で  
私  
も  
帰  
り  
ま  
す  
！

## さらに別の場所での会話（後書き）

最後にご相談です。この小説ではあと1ファイルだけ、テレビのストーリーで書きたい物があるのですが、やっていいでしょうか。これから本格的にどうしようか決めたい為、ご意見お願いします。

## ファイル19 プロローグ（前書き）

テレビネタをしても大丈夫と言うコメントが来たため、書き込みます。この小説では最後のテレビの事件の予定です。

今回はちよつと形式を変えてみます。かなり短めです。

## ファイル19 プロローグ

? 4 : 準備はいいですか？

? 7 : はい、大丈夫です。

? 5 : 頑張つてね…。

? 7 : ×××××、ありがとう。

? 5 : その名前で呼ばれると、ちょっと…。

? 7 : そうかな？私はこっちが好きだけどなあ。

? 5 : / / /。

? 4 : まあ、いいでしょう。とにかく彼がどういう人か見て来ないと。×の一族が狙った理由を一刻も早く発見するためする為に…。

? 7 : はい！

? 17 : あの、私は？

? 4 : あ、×××××…。

? 1 : …。

? 4 : 連れて行ってください。ただし、必要なとき以外は××××の  
中で休んで下さい。

? 17 : ありがとうございます！

? 7 : それじゃあ、行こう。

? 17 : OK！

? 4 : お願いしますね。

ナ : そう言って、? 4・? 17はどこかへ向かった。

## ファイル19 プロローグ（後書き）

また新キャラ増えました。ほとんど正体明かしてない…。

## ファイル19 プロローグ2

? :そろそろですね。

謎 : ああ、この間の会議はもはや最終段階。頃合いを見図ればいつでも計画は出来るぞ。

? : そう言えば、×の一族がどうやら「×××××××」の世界に向かったらしいですよ。

謎 : そうか。しかし、それが何だ？

? : それがつて、気に留めたりはしないんですか!?

謎 : 問題ない。何故なら、あの世界に行ったからつて、この計画に支障が出来る訳じゃ無い。

? : それはそうですけど…。

謎 : そうだ、これを見て見る。

？：おや？また犯罪を見てたんですか？

謎：ああ、そうだ。しかしここはな…。

？：あ、そう言う事ですか…。

謎：××、×××××、いるか？

？11・？12：お呼びでしょうか？

謎：二人でこいつらを…。

ナ：何やら、また怪しい雰囲気だ…。

## ファイル19 プロローグ2（後書き）

今回ほぼ、関係ないかもしれません。明日は更新できるか分かりません。その時はごめんなさい。

## フィアル19-1（前書き）

やっと本編です。事件はテレビと同じですが、昨日までの部分と繋がっています。

なお、この小説では最後のテレビの事件の予定です。

「8枚のスケッチ 記憶の旅」は小説に書くには難しい部分や出来ない部分がある為、残念ながら掲載は中止します。楽しみにしてた人はごめんなさい。

それでは本編をお楽しみください。

## ファイナル19-1

オープニング 「Miss Mystery」 Song by B  
REA K E R Z

ナ：コナン達はどこかへ食事に出かけていた。そして、その帰りに  
て。

小五郎：意外とうまかったな、あの店。

蘭：うん。それでランチがああの値段なんて、お得だね。

コ：うん。

凜：ホントに。「本当はケロちゃんにも買ったかったけど、さすが  
にみんなの前じゃ食べさせてあげられないし、お土産も買えなかつ  
た…。（不振がられるため）ごめんね、ケロちゃん…。」

ナ：事務所にて。

ケ：ワイをまた置いて…。（怒）

ナ：もう一回コナン達の場面。横断歩道の辺りで、おばさんと女の子が歩いていた。

ブロロロロ…。

ナ：その時だった、車が通りかかった車が突然、スピードを上げ始めた！

コ：危ない！

おばさん・女の子…！

ナ：二人は間一髪で車をよけたが、車は引き返してきた！

凜：ほえ〜！

コ：「この…。」

ナ：コナンはどこでもボール射出ベルトから、ボールを出し、キック力増強シューズで蹴った。そして、ボールは車の運転席のガラスを割った。

女の子：！

ナ：車は慌ててその場を離れた。前のガラスを壊されたため、かなりふらつきながら。結局、犯人は逃がしてしまった。

蘭：だ、大丈夫ですか！？

おばさん：はい、ありがとうございます…。

## フィアル19-1（後書き）

イメージオープニング 変えました。

どの辺りが昨日までと関係あるかはいずれ教えます。かなり先になります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9394v/>

---

名探偵コナン 非科学的ファイル・星の力

2012年1月8日19時52分発行